

WFC 任天堂公式ガイドブック

20th Anniversary

ファイアー エムブレム 大全



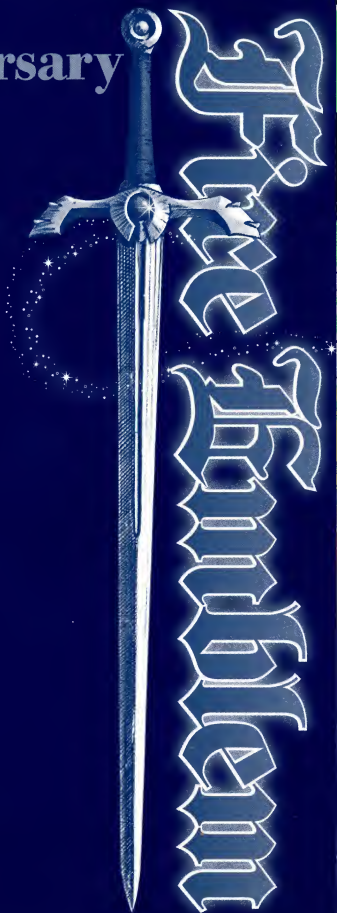
Nintendo

小学館

WC 任天堂公式ガイドブック

20th Anniversary

ファイアー エムブレム 大全



Nintendo

小学館

任天堂公式ガイドブック

20th Anniversary

ファイアー
エムブレム
大全



Many thanks to 20 years



山上 仁志
Yumegumi Hiroshi

『烈火の剣』以降、すべてのシリーズのプロデューサーをしています。

この当時はGBAで制作していましたが、FC時代から『ファイアーエムブレム』はTVゲームユーザーとして大好きだったので、私には「いつかもう一度TVで遊びたい!」という思いがありました。そして、私がプロデューサーになる以上、この夢を実現したいと強く考えていました。どうすればもう一度TVゲームとして作ることができるかを考え、その結果、まず海外に進出し、このゲームのファンを増やすという決断をしました。初めて成広さんにこの話をしたとき、「本気ですか!」と言われたことを今でも思い出します。

『烈火の剣』で北米、欧州進出を成功させ、そして『蒼炎の軌跡』で私の念願であったTVに復帰させることができました。これも、このシリーズを愛してくださる世界中のファンの皆様のおかげだと痛感しています。今後もより魅力的な『ファイアーエムブレム』を作っていきたいと考えていますので、皆様どうぞ応援をよろしくお願いします。

Profile

任天堂株式会社 企画開発本部 企画開発部 第2プロダクショングループ グループマネージャー / 『烈火の剣』以降の『ファイアーエムブレム』シリーズのプロデューサーを担当。そのほかにも、『ヨッシーのクッキー』『パネルでポン』『舞と闘』『伝説のスタフィー』など、多数のシリーズを手がけている。



成広 通
Naruhiko Toru

もう20年経ったんですね。これも今まで多くのファンの皆様に支えられてこそこの記念すべき出来事だと思います。ゲームを作り始めた当時はまだゲーム業界というものすらなかった時代で、作り手も遊び手も一緒で、熱意と意欲を持った人たちが自然と集まって、楽しみながら、自分たちが遊びたいものをただひたすら作っていました。そんな中で、シミュレーションにもRPGのような物語を乗けるともっと面白くなるのでは?、という思いから『ファイアーエムブレム(以下[FE])』が生まれたんです。

僕が[FE]シリーズで、いちばん思い入れ深いのは『聖戦の系譜』。恋愛システムを新しく取り入れたことで、いわゆるカップリングというか、「一緒に戦わせたい!」というような遊び方も出てきて、今まで以上に一手一手が意味を成し、プレイヤーの胸の動かし方にバリエーションが生まれました。

それに、エンディングも複数用意して本当に大変でした。どれだけの人に全部見ていただけたのかな? (笑) また、[FE]といえどキャラクターですね。ほかのキャラクターでいちばん好きなのはトラバント。トラバントって[FE]を象徴していると思うんです。あのとき描かれていた人間模様の中で、ひと際存在感がありましたね。それから個人的には、ステラやホメロスも好きです。

先日知人に「[FE]って、遊んだ人に対してごほうびがやってくるまでが長いゲームだよ」と言われたんです。確かに、遊びとしてはシンプルなのだけど、はじめに覚えてもらうことが多いので…。ここは永遠の課題なのですが、でも、覚えたことによって得られる深い喜びは伝えたいですし、クリアしたときのごほうびはもっと大切にしていきたいです。そして、「戦い」と「絆」をテーマにしているけど、勧善懲悪じゃないところにリアリティーがあるのが、このゲームの味だと思っています。たかがゲームだけど、何かプレイヤーの心に伝えられるものがあればいいなと思っています。

[FE]には、物語的なものはあるけど、ほくたちはただ器というか、きっかり作っているにすぎなくて、皆さんがプレイすることでそれぞれの人の心に違う思い出や歴史を刻みながら、クリアしてもらってやっと完成するゲーム。だから遊んでくれている人はじっくりと自分の[FE]を遊んでくれている…。本当に感謝しています。

これからもっともっと楽しんでもらえるための器を作っていきますので、楽しみにお待ちいただけたらと思います!

Profile

株式会社インテリジェントシステムズ 総合開発部 プロデューサー/制作やプロデューサーに携わったおもなソフトとして、『ファミコンウォーズ』シリーズ、『ファイアーエムブレム』シリーズ等がある。

Message & Illustration

北 千里	4
金田榮路	5
こがわみさき	6
おがきちか	7
山田孝太郎	8

Fire Emblem History 9

World Guide 17

アカネイア・バレンシア大陸編	17
ユグドラル大陸編	71
エレブ大陸編	109
マギ・ヴァル大陸編	159
テリウス大陸編	179

Gallery & Interview 217

ファイアーエムブレム	
トレーディングカードゲームイラストコレクション	218
『アカネイア戦記』イラストギャラリー	230
『新・紋章の謎』キャラクターイラスト集	234
スペシャルインタビュー 辻横由佳	238
ブックガイド	239

Column

肖像変遷記	68
赤緑の系譜	70
トライアングルアタック!の系譜	108
もうひとつのエレブサーガ	157
勇者の戦い『スマブラ』出張編	158
『蒼炎の軌跡』ムービー用設定イラスト	216

※「ワールドガイド」では、キャラクターの各イラストがどの作品登場時のものかを判別するため、イラストの出典作品を略称で明記しています。略称の見方は以下のとおりです。

【暗黒電】	暗黒電と光の剣	【紋章】	紋章の謎
【新暗黒】	新・暗黒電と光の剣	【聖戦】	聖戦の系譜
【トラキア】	トラキア776	【封印】	封印の剣
【烈火】	烈火の剣	【蒼炎】	蒼炎の軌跡
【魂】	魂の女神	【戦記】	アカネイア戦記
【TCG】	トレーディングカードゲーム		
【公式サイト】	トラキア776・旧公式サイト		

祝20周年

20年ですよ20年!
FEと同じ年に生まれた人も
成人してるんですよ!
これからもFEシリーズの
更なる発展を期待しております!!

SenriKira



北千里 (エンジンズ)

格闘アクションゲーム「サムライスピリッツ」シリーズや「SNKvs.CAPCOM」のキャラクターデザイン、イラストレーションを手がける。クリエイターチーム「エンジンズ」に所属し「ファイアーエムブレム 蒼炎の軌跡」/「桃の女神」のイラストレーションを手がける。

CONGRATULATIONS

20TH



eiji
koneda
2010

青春のゲームです！

金田榮路 (かねだえいじ)

フリーイラストレーター。挿画、ゲーム、アニメなど幅広いジャンルで活動中。代表作はTVアニメ『蒼穹のアクエリオン』キャラクター原案など。

20周年 おめでとう ございます!!

ゆるゆるさかには重たく
戦闘アーマーに感嘆した
外はセリカ

新作も楽しみに
しています!

紋章と聖戦は
本当にたくさん
遊びました!

戦争ランク上位が
いつも同じお気に入りの人に
なっていた蒼空〜暁
物語と帝国風がとてろ好きでした
キリキ

↑
そして女子キリの
ひとり……

こがわみさき

漫画家。代表作に『陽だまりのビニユ』（スクウェア・エニックス）。2010年以降は『電撃大王 GENESIS』（アスキー・メディアワークス）にて「空声」を発表するなど各所で活躍中。

Asuki
Kogawa 2010



今までに経験した中で
最も聖戦に集中時間は
たっぷりです。
FEは一緒に大人になりました。

ここからの新しい
FEにも期待が
あります。

おがさちか

一迅社「コミックZERO-SUM」で「Landreall
(ランドリオール)」太田出版「エロティクス・エ
フ」で「侍はんばいや」を連載中。

ファイアーエムブレム20周年
おめでとうございます！

僕はエシブ大陸を舞台とした
『覇者の剣』という漫画を
担当させていた できました。
京都での白熱したミーティングが
なつかしい…(笑)
制作の方々とファンとが大切に、熱く
愛情をもって今も育て続けている
本当に素晴らしい作品だなと思います。
自分自身漫画描きとしても
成長させていただき、感謝しております。

手強いシミュレーションの新作、
楽しみにしています！



山田孝太郎

1980年長野県生まれ。月刊少年ジャンプで漫画家デビュー。同誌で「ファイアーエムブレム 覇者の剣」を連載（2001年11月～2005年7月）。緻密な筆致で描かれるキャラクターと、迫力溢れる戦闘シーンで人気を集める。現在は、月刊コミックアライブにて『聖剣の刀鎧』を連載中。



Fire Emblem History

ファイアーエムブレム ヒストリー

FIRE EMBLEM HISTORY

数々の名作を生んできた『ファイアーエムブレム』シリーズ。

その20年に渡る軌跡を任天堂のゲーム史とともに振り返ってみよう。

- 1980年 → 『ゲーム&ウォッチ』発売。
- 1983年 → 『ファミリーコンピュータ』発売。
- 1986年 → 『ファミリーコンピュータディスクシステム』発売。
- 1989年 → 『ゲームボーイ』発売。
- 1990年 → 『ファイアーエムブレム 暗黒竜と光の剣』発売。
→ 『スーパーファミコン』発売。
- 1992年 → 『ファイアーエムブレム 外伝』発売。
- 1994年 → 『ファイアーエムブレム 紋章の謎』発売。
- 1995年 → 『バーチャルボーイ』発売。
→ 『スーパーファミコン周辺機器「サテラビュー」』発売。
- 1996年 → 『ファイアーエムブレム 聖戦の系譜』発売。
→ 『NINTENDO64』発売。
→ 『ゲームボーイポケット』発売。
- 1997年 → 『書き換えサービス「ニンテンドーパワー」開始。』
→ 『ファイアーエムブレム BS アカネイア戦記編 配信開始。』
- 1998年 → 『ゲームボーイライト』『ゲームボーイカラー』発売。
- 1999年 → 『NINTENDO64』周辺機器『64DD』発売。
→ 『ファイアーエムブレム トラキア776』
書き換え開始。
- 2000年 → 『ファイアーエムブレム トラキア776』発売。
- 2001年 → 『ゲームボーイアドバンス』発売。
→ 『ニンテンドーゲームキューブ』発売。
→ 『大乱闘スマッシュブラザーズDX』にマルスとロイが参戦。
- 2002年 → 『ファイアーエムブレム 封印の剣』発売。
- 2003年 → 『ゲームボーイアドバンスSP』発売。
→ 『ファイアーエムブレム 烈火の剣』発売。
- 2004年 → 『ファイアーエムブレム 聖魔の光石』発売。
→ 『ニンテンドーDS』発売。
- 2005年 → 『ファイアーエムブレム 蒼炎の軌跡』発売。
→ 『ゲームボーイミクロ』発売。
- 2006年 → 『ニンテンドーDS Lite』発売。
→ 『Wii』発売。
- 2007年 → 『ファイアーエムブレム 暁の女神』発売。
- 2008年 → 『大乱闘スマッシュブラザーズX』にマルスとアイクが参戦。
→ 『ファイアーエムブレム 新・暗黒竜と光の剣』発売。
→ 『ニンテンドーDSi』発売。
- 2009年 → 『ニンテンドーDSi LL』発売。
- 2010年 → 『ファイアーエムブレム 新・紋章の謎
〜光と影の英雄〜』発売。





発売日: 1990年4月20日
ファミリーコンピュータ

記念すべきシリーズ第1作!

アリエアの王子マルスと、暗黒竜メデウスの戦いを描いたシリーズ第1作。SLG(シミュレーションゲーム)の戦略性に、RPGの壮大なストーリーを追加。さらに、それまでのSLGでは単なる「駒」にすぎなかったユニットにキャラクター性を持たせ、「シミュレーションRPG」という新ジャンルを確立した。

シリーズの基礎は、この第1作ではほぼ完成しており、「死んだキャラクターは基本的に生き返らない」というおなじみのシステムも、本作から採用されている。



④タリス城陥落の報せが届き、マルスが率兵。すべてはここから始まった。



⑤ユニット同士の会話やレベルアップなど、RPG要素が多く盛りこまれた。



発売日: 1992年3月14日
ファミリーコンピュータ

新システムが多数盛りこまれた意欲作

2人の主人公、アルムとセリカと、邪神ドーマを崇めるリゲル帝国との戦いを描いた、シリーズ第2作。前作『暗黒竜と光の剣』の世界観を踏襲しているが、舞台は異なり、前作のアカネイア大陸から遠く離れた、バレンシア大陸が戦いの舞台となっている。

本作は「外伝」の名にふさわしく、武器から「耐久力」がなくなったり、上級職から下級職へのクラスチェンジが可能(一部のクラスのみ)になったりと、システム面でもさまざまな試みがなされている。また、ステージ間には全体マップが表示され、2人の主人公の進軍ルートを選択できるようになった。これらの要素によって自由度が大幅に上昇し、RPG色がゆかり濃くなっている。

2人の主人公の物語が複雑に絡みつつクライマックスへと向かう展開は、「シリーズ随一」との声もある。



⑥アルムとセリカ、2人の主人公による重層的な物語が展開する。



⑦クラスチェンジで複数の職業に分岐する「利人」が、戦術の幅を広げた。

FIREEMBLEM ファイアーエムブレム 紋章の謎

発売日:1994年1月21日
スーパーファミコン

名作を不動のものにした代表作!

シリーズ初の二部構成となり、第1部に『暗黒竜と光の剣』のリニューアル版、第2部にその後のマルスたちの戦いの描かれた新作を収録している。これにより、旧作からのファンだけでなく、新たなユーザーをも獲得し、『ファイアーエムブレム』シリーズの人気を決定づけた。システム面では、行動終了後のユニットを再行動可能にする「踊り子」や、支援効果システムが初登場した。



◎暗黒戦争、英雄戦争という2つの戦争を描いた本格戦記物語が展開。とくに、第2部では「暗黒竜と光の剣」では語られなかったアカネア大陸の歴史の真実が、次々と明らかになる。



ファイアーエムブレム 聖魔の系譜

発売日:1996年5月14日
スーパーファミコン

親子二代に渡る壮大なストーリー

前半はシアルフィ家の公子シグルド、後半はその息子セリスを中心に、親子二代の壮大なストーリーが展開する。システム面では、キャラクター同士が竜に落ち、結婚して子どもを産むという「恋愛システム」が搭載され、人気を博した。また、「スキルシステム」の導入により、キャラクターの個性がより明確になった。シリーズおなじみの武器の「3すくみ」関係も、本作が初登場。



◎「愛」のゲームであるので、夫婦や恋人、あるいは聖戦士の血を引く兄妹といった関係にある2人が隣接していると、攻撃時に必殺の一撃（通称「ラブアタック」）が繰り出されることもある。





発売日：1999年9月1日
スーパーファミコン

シリーズ屈指の難易度を誇る外伝

前作「聖戦の系譜」の外伝的作品で、トラキア解放のために立ち上がった、レンスターの王子リーフにスポットを当てている。当初は、ゲーム書き換えサービス『ニンテンドーパワー』用ソフトとして登場するが、後にパッケージ版ソフトとしても発売された。

システム面では、「捕らえる」「かつく」などの新コマンドが登場。新コマンドの登場により、戦略の幅が大きく広がった。ちなみに、本作は「シリーズ屈指の難易度」と評されており、その難易度の高さは、いまなおファンの間で伝説となっている。



④ 捕らえた敵ユニットの持ち物をもらえることもある。このシステムも、非常に重要な戦略のひとつだった。



⑤ 本作には「聖戦の系譜」と関係の深い人物が数多く登場する。たとえば、第1章から登場する彼女も……。



発売日：2002年3月29日
ゲームボーイアドバンス

初の携帯ゲーム機対応作品！

舞台は、かつて人と竜とが覇権を争ったエレブ大陸。突如、東の大国ベルンが各地への侵略を開始。大陸南方の小勢力、フェレ家の嫡男ロイは、ベルンの侵略を阻止するために、仲間とともに立ち上がる。

シンプルなシステムと抜群の操作性で、携帯ゲーム機の魅力である「手軽なプレイ」を実現した作品。また、キャラクター同士が会話することで信頼関係が築かれる「支援会話」システムを採用。支援会話ではキャラクターの意外な一面も見られ、ファンにも好評を博した。



⑥ フェレ侯エリウツッドが病に冒されているために、息子のロイが、父のかわりにフェレ軍を率いることになる。



⑦ 支援会話をし、各キャラクターのバックボーンがわかるようになり、そのおかげで、どのキャラクターもより個性豊かなものとなった。



発売日: 2003年4月25日
ゲームボーイアドバンス

前作の20年前を描いたGBA第2弾

『封印の剣』の続編で、物語の舞台は前作と同じエブレ大陸。主人公は、遊牧民の少女リンとフェレ領公子エリウッド、そしてその親友であるヘクトル。ちなみに、エリウッドは、前作の主人公ロイの父親である。

物語は「リン編」「エリウッド編」「ヘクトル編」の三部構成となっており、序章にあたる「リン編」は全編チュートリアルとなっている。「エリウッド編」「ヘクトル編」にはそれぞれヒロイン候補が数人おり、主人公が特定の相手と支援Aになると、エンディングが変化する。また、「軍師システム」という独自のシステムが採用されており、プレイヤーの分身を、主人公たちの軍師としてゲーム中に登場させることが可能になった。



④ 物語は、リンが軍師を紹介する場面から始まる。以降、軍師はリンやエリウッドの旗に同行することとなる。



④ 前作では病に冒されていたエリウッド。本作では、仲間とともに各地を旅する元気な姿を見ることができる。



発売日: 2004年10月7日
ゲームボーイアドバンス

GBA第3作は2人の主人公が登場!

GBA第3弾。舞台はマギ・ヴァル大陸。帝国の侵略を受けたルネス王国の2人の兄妹、王子エフラムと王女エイリークの戦いが始まる。ちなみに、『封印の剣』および『聖魔の光石』にストーリーのつながりはない。

本作では、物語の途中に分岐点を用意されており、そこでエフラムとエイリークのどちらを選ぶかで、その後のストーリー展開やバトルマップが変化する。さらに、上位へのクラスチェンジ後の兵種を2種類から選べる「分岐クラスチェンジ」や、何度でも挑戦可能なバトルマップ「EXマップ」なども導入。GBA版前2作にはなかった「スキルシステム」も、本作では復活した。また、チュートリアルモードも充実しており、シリーズの初心者でも遊びやすい作りとなっている。



④ それぞれ別行動をとっていたエフラムとエイリークだが、物語が進展にさしかかるころには合流を果たす。



④ クラスチェンジが2回可能な「見習いクラス」が登場。彼らは、部隊の主力となる強力ユニットだ。



発売日:2005年4月20日
ニンテンドーゲームキューブ

シリーズ初の3Dグラフィック!

女神に祝福されし大地テリウスを舞台に、若き鎧兵のアイクが、亡国の姫を助けて王国再興のために立ち上がる。久々の据え置き型ゲーム機用タイトルで、多くの面で進化を遂げている。シリーズ初となる3Dマップに加え、ムービーによる演出を採用。もちろん、バトルの演出も大幅にパワーアップした。

演出面のほか、システム面の進化も顕著。進化を遂げた「スキルシステム」をはじめ、ラグズと呼ばれる特殊ユニットによる「化身」、武器練成も可能な「拠点」など、新要素も追加された。難易度も「ノーマル」「ハード」「マニアック」の3種類があり、中でも「マニアック」は、「トラキア776」に匹敵する手強さとなっている。



③3Dになったバトルマップ。マップのバリエーションも増えている。



④キャラのパラメータに、調子の良し悪しを示す「バイオリズム」が登場。



発売日:2007年2月22日
Wii

「蒼炎の軌跡」の3年後を描いた続編

前作「蒼炎の軌跡」から3年後の世界が舞台。先の戦争で敗北し、帝国の支配下に置かれることとなったデイン王国。帝国の王政から人々を救うために、ミカヤは戦いにその身を投じる。

アイクをはじめ、「蒼炎の軌跡」で活躍したキャラクターも数多く登場する。全四部構成となっており、第1部から3部までは、それぞれ異なる人物の視点で物語が進められる。システム面に関しては、基本的には前作を踏襲しているが、プラットフォームがニンテンドーゲームキューブからWiiに移ったことで、ムービーなどの演出面は大幅にパワーアップしている。また、「蒼炎の軌跡」のクリアデータを引き継いでプレイすると、特別なイベントが発生するという特典もあった。



①第1部の主人公であるミカヤ。ちなみに、アイクは第3部の主人公。



②演出、グラフィックともにパワーアップしたムービーシーン。

ファイアーエムブレム 新・暗黒竜と光の剣

発売日：2008年8月7日
ニンテンドーDS

シリーズの原点がDSで蘇る！

シリーズの原点ともいえる「暗黒竜と光の剣」に新たなエピソードを加えてリニューアルされたのが、本作「新・暗黒竜と光の剣」。冒頭に、マルスのアリエティア脱出までを描いた「序章」を追加。さらに、ホルスやエッツェルなど、新キャラクターのサイドストーリーが追加されている。

リニューアルにあたり、「暗黒竜と光の剣」にはなかった「武器の3すくみ」や「支援関係」を採用。さらに、新要素として、仲間の兵種をパターンの中から自由に選べる「兵種変更」も加わった。また、何度でも再開可能な途中セーブ、「ポイントセーブシステム」が採用され、シリーズ初心者でも遊びやすい作りとなっている。



① ポイントセーブシステムの導入により、MAP途中でのやり直しが可能に。



② 序章の追加や新キャラクターの登場など、ファンにも新たな発見がある。

BS ファイアーエムブレム アカネイア戦記編

発売日：1997年9月29日配信開始
スーパーファミコン(サテラビュー)

アカネイア陥落が描かれた幻の作品

『サテラビュー』用に配信されたシミュレーションRPG。全4話で構成され、「暗黒竜と光の剣」の直前のアカネイア大陸を舞台に、アカネイア王国の首都バレス陥落から、ユーナの脱出までを描いている。他のスーパーファミコン作品と違い、イベントシーンではキャラクターたちの声も収録されていた。ちなみに、キャラクターの声は、井上和彦氏をはじめとする声優陣が担当。

これまではファンの間で「幻の作品」とされてきた本作だが、「新・紋章の謎」に収録され、「新・アカネイア戦記」として復活を果たす。



サテラビューとは？

1995年に発売された、スーパーファミコン用の衛星放送アダプタ。このアダプタを接続することで、衛星データ放送によるゲームデータ配信を受信することができた。ゲームのデータ放送は2000年に終了している。





World Guide

アカネイア・バレンシア大陸編

収録作品



アカネイア大陸



AKANEIA SAGA

英雄アンリが
暗黒竜メディウスを倒して100年後……
突如としてメディウスは復活した。
是の司祭ガーネフと手を組んだメディウスは、
ドルーア帝国を再興。
それまで平和だったアカネイア大陸を制圧する。

アンリの血を引くアリティアの王子マルスは、
父母を失い、辺境の島国タリスへと逃げのびていた。
しかし、タリスにもドルーアの魔の手が迫るに至り、
マルスはわずかな兵とともに反ドルーアの戦いに
身を投じるのである……。

後に暗黒戦争と呼ばれたこの戦いは、
マルスの活躍によって終わりを告げた。
メディウスは討たれ、ドルーア帝国も崩壊。
人々は荒れ果てた祖国の再建に力を尽くし始めた。

それから1年。
シーダ姫との婚約を間近に控えたマルスのもとに、
アカネイアの皇帝となったハーディンから
書簡が届く。
「グルニアの反乱軍を討伐せよ」。
その1通の書簡が、
後に英雄戦争と呼ばれる戦いの幕開けとなる……。



◆アカネイア暦年表

伝説・神話の時代

解放戦争

- 前4000年頃 ・竜族、アカネイア大陸に文明を築く。
 前1000年頃 ・竜族に退化の兆候。竜石に力を封じること、獣化を抑制する。
 前740年頃 ・地竜族により、人類が滅亡の危機にさらされる。
 ・神竜王ナーガ、竜の祭壇に地竜族を封印。メディウスに竜の祭壇の守りを命じる。
 前500年頃 ・神竜王ナーガ、封印の盾と神剣ファルシオンを残して没する。
- 元年 ・アドラ1世、アカネイア聖王国を建国。
 493年 ・メディウス率いるドルーア帝国、アカネイア聖王国を襲撃。ドルーアはアカネイア聖王国を滅ぼし、竜人支配が始まる。
 ・アカネイアの王女アルテミスが、地方都市アリティアへ落ちのびていたことが判明。アルテミスを拿徴に、解放軍が組織される。
 498年 ・解放軍のリーダー・カルタス伯爵、アルテミス王女よりファイアーエムブレムを託される。
 ・アリティアのアンリ、冒険行の末に神剣ファルシオンを入手。これをもってメディウスを倒す。
 ・アカネイア聖王国復興。カルタス伯爵、アルテミス王女と結婚し、アカネイアの王となる。
 499年 ・カルタスの弟マロン伯により、オレルアン建国。
 500年 ・アリティア建国。初代国王にはアンリが迎え入れられる。
 501年 ・オードウィンにより、グルニア建国。
 503年 ・マケドニア建国。初代国王にはアイオテが迎え入れられる。
 537年 ・アンリ死去。相続争いの結果、グラがアリティアから分離独立。
 550年 ・大賢者ガトー、カダインに魔道学院を開く。
 579年 ・タリス建国。七王国の成立。

暗黒戦争

- 597年 ・復活したメディウス、再びドルーア帝国にマムクートを集める。
 598年 ・グルニア、マケドニア、ドルーアに号する。ドルーア帝国再興。
 600年 ・ドルーア帝国、アカネイア聖王国への侵攻開始。暗黒戦争の勃発。
 602年 ・ドルーア帝国軍、アカネイアの王都パレスを包囲。パレスへの救援に向かったアリティア王ユニーリアス、グラ王ジオルの裏切りによって敗死。
 ・アリティアにグラ軍が侵攻。アリティアのマルス王子、タリスへ落ちのびる。
 ・アカネイアの王都パレス陥落。
 604年 ・アカネイアの王女ニーナ、カミユの手引きにより、オレルアンへ落ちのびる。
 ・ニーナ王女、オレルアンにてドルーア打倒の機を窺はす。マルス王子、タリスにて挙兵。
 ・マルス王子、オレルアンにてニーナ王女に拝顔。ファイアーエムブレムを託される。
 ・マルス率いる同盟軍、アカネイアの王都パレスを解放。
 ・同盟軍がグラを制圧。マルス、父の敵であるジオルを討つ。
 ・同盟軍、アリティアを解放。グルニア、マケドニアを制圧。
 ・マルス、ガーネフを打倒し、神剣ファルシオンを取り戻す。
 605年 ・マルス、神剣ファルシオンを手にメディウスを討つ。メディウスを失い、ドルーア帝国は瓦解。暗黒戦争が終結する。

神聖帝国成立

- 606年 ・オレルアンの王弟ハーディン、ニーナ王女と結婚し、アカネイアの王となる。
 ・ハーディン、アカネイアの国号を「アカネイア神聖帝国」に改め、自らを皇帝と称するようになる。

動乱・バレンシア

- 606年 ・ベガサス三姉妹、バレンシア大陸に渡り、ソフィア・リゲルの2王国による動乱に巻きこまれる。

英雄戦争

- 607年 ・マルス、ハーディンの命によって、グルニアの反乱討伐へ出征。
 ・マルス、グルニアの王子ユベロ、王女ユミナを庇護。
 ・アカネイア神聖帝国軍、アリティアを制圧。
 ・マルス率いる同盟軍、ラング將軍を討ち、グルニアを解放。
 ・カシミア大橋にて、マルスの同盟軍とハーディンのアカネイア軍が激突。マルス、カダインへと逃れる。
 ・マルス、「アンリの道」をたどる。
 ・マルス、アリティアへ進軍し、アカネイア軍より祖国を奪還する。
 ・マルス、グラへ進軍し制圧。
 608年 ・マルス、アドリア峠にて、オレルアンの精鋭・狼騎士団と激突。これを撃退。
 ・マルス、帝都パレスにて、ハーディンと決戦。闇のオーブよりハーディンを解放する。
 ・ハーディンの持っていた闇のオーブを得たことで、封印の盾が完成。
 ・マルス率いる同盟軍、竜の祭壇にてガーネフを撃破。
 ・マルス、竜の祭壇の最奥にて、暗黒竜と化したメディウスと決戦。神剣ファルシオンと、完成した封印の盾を手に、これを撃破する。
 609年 ・マルス、七王国の統治を委ねられる。アカネイア連合王国の成立。

神話・伝説の時代

太古の昔 神話の時代

アカネイア大陸に竜族が現れたのは、数千年前とも数万年前ともいわれる。竜族は高度な文明を誇っていたが、それが突如崩壊の危機を迎える。出生率が低下し、理性を失って獣化するものが現れたのだ。竜族は、自らの獣性を「竜石」に封じ、人間化することで獣化を避けようとした。こうして人間化した竜族が「マムクート」である。マムクートが各地で隠棲し始めると、大陸には人間が台頭。しかし、獣化した地竜族が暴走したことにより、人類は滅亡の危機に瀕するのだった。



神竜族と地竜族

もっとも力を持つ竜族は神竜族であるが、地竜族はそれに次ぐ力を有していた。地竜族はプライドが高く、マムクートとなることを拒否。その多くが獣化して人類の脅威となった。

解放戦争

メディウスの侵攻と英雄アンリ

神竜族の王ナーガは人間を哀れみ、地竜族との戦いを始める。多大な犠牲を払いつつ、神竜族は、地竜族を竜の祭壇の奥深くに封印する。しかし、平穏を手にした人間は、やがて力をつけて、マムクートをさげすみ、虫けらのように扱うことになる。

裏切りに激怒したメディウスは、ドルーアの地にマムクートの帝国を建て、人間への侵攻を開始。人間たちの中心国家であったアカネイアを、瞬く間に滅亡させた。

人間たちの希望は、アカネイア王家唯一の生き残りのアルテミス王女。アリティアに逃れていた彼女を象徴として解放軍を組織し、人間はドルーア帝国への抵抗を開始。指揮官のカルタス伯爵には、アルテミス王女から王家の代行者の証「炎の紋章」が託された。

メディウスが最前線に現れたことで解放軍は窮地に陥るが、そこに英雄アンリが登場。アルテミスを愛していたアンリは、過酷な旅の末に神剣「ファルシオン」を手し、この神剣でメディウスを討ち果たす。



守護神ナーガの伝説

神竜王ナーガは、「守護神ナーガ」として伝説に。地竜族の封印を維持する「封印の盾」、竜殺しの神剣「ファルシオン」を残すと、5千年に及ぶ生涯を閉じたのだ。

地竜族唯一のマムクート

メディウスは、部族の方針に反して唯一のマムクートとなった地竜族。神竜王ナーガの命で地竜族の封印の監視をするなど、元来秩序を守る立場だったが……。



英雄アンリの伝説

過酷な旅を経て、水竜神殿で神剣「ファルシオン」を手に入れたアンリ。この剣を手に入れたアンリは、7日7晩も続いた死闘の末にメディウスを討ち果たす。



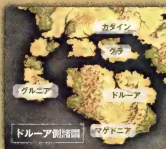
七王国の成立と暗黒戦争

七王国の成立とドルーア帝国の復活

アフリにメディアウスが討たれた後、大陸では新たな国が續々と誕生する。アカネイア暦498年、アルテミスと婚姻したカルタス伯爵が王となり、アカネイア聖王国を再興。以後5年の間に、オレラン、アリティア、グルニア、マケドニアが次々と建国されるのである。さらに、537年にグラ、579年に

タリスが建国され、七王国成立の運びとなった。

597年にメディアウスが復活すると、かねてからアカネイアに反発を抱いていたマケドニア、グルニアがこれに連合、598年にドルーア帝国が再興される。さらに、グラも密かに内応を約束。これにより、七王国は2つの勢力に分かれて争うこととなる。



アカネイア聖王国敗亡

アカネイア暦600年、ついにドルーア帝国はアカネイア聖王国への侵攻を開始する。アカネイアは敗退を続け、ついに602年、王都であるパレスを包囲されてしまう。アリティアのコーネリアス王が救援に向かうが、途上のメニディ川にて、グルニアのカミュ将軍と対峙。同盟国であるグラ軍の突然の裏切りもあり、アリティア軍は壊滅してしまう。

まもなく首都のパレスも陥落。王族はことごとく処刑されるが、ただひとりニーナ姫だけは、カミュ将軍が助けたことで命を救われる。

604年、カミュは、なぜかニーナをオレランへと逃がす。そして、カミュはその罪を問われ、前線からはずされることになるのだった。



ニーナとカミュ
悲劇の出会い

ニーナとカミュは宿敵同士。しかし、カミュはニーナを守り続け、やがて2人の間には愛情が芽生える。しかし、その想いは後の戦いの遠因に……。

アリティアの滅亡とマルスの雌伏

メニディ川の戦いにおいてアリティア軍は壊滅。コーネリアス王は討ち死にし、神剣「ファルシオン」も行方不明となる。アリティア領にグラ軍が侵入した状況下、アリティアの王女エリスは、弟のマルスに逃げのびるように命じる。姉エリスと母リザは敵軍の手に落ちるが、マルスはなんとかタリス王国へと脱出。

辺境の小国で、マルスは3年ほど雌伏の時期を過ごすことになる。



タリスへの脱出時、マルスは、誰も守れなかった無力さを痛感する。

マルス脱出の影に…

機嫌がなくて、マルスの脱出は叶わなかった。脱出の時間をせやために、エリスはあえてアリティア城に残留。追っ手を引きつける囃しを、戦場に送った騎士もいた。



暗黒戦争

アカネイアの象徴・ファイアーエムブレムの下に

オレルアンに落ちのびたニーナはアカネイア解放の機を飛越すが、彼女を戴いたオレルアン軍は、ミネルバ率いるマケドニア軍の前に敗北してしまう。しかし、アカネイア暦605年、海賊が侵入したことをきっかけにマルスがタリス島にて決起。ガルダの海賊を討伐すると、そのままニーナとの合流を図る。

オレルアン城を奪還したマルスに、ニーナは、アカネイア王家の紋「炎の紋章」を授与し、ドルーア打倒と大陸解放を託す。これによって同盟軍の指揮官と認められたマルスは、王都バレスを奪還。そして、大陸全土を解放すべく各地へ軍を進めた。



マルスの進軍ルート(暗黒戦争)



① 東方の辺境タリス王国にて決起したマルスは、オレルアンにてニーナと合流。そこで授与された炎の紋章の下、同盟軍を率いてバレスを奪還し、さらに各地を転戦する。そして、ドルーア帝国との最終決戦に臨むのだった。

③ タリスで決起したマルス率いるアリティア騎士団は、サムスーフ山脈を越えてニーナと合流。以後同盟軍の中核となり、大陸各地を転戦することになる。



④ オレルアン城にて、炎の紋章を託されるマルス。ニーナを守って戦っていたオレルアン王弟ハーディンも、マルスの指揮下に入るのだった。

祖国解放と列強国との決戦

バレス奪還後も、マルス率いる同盟軍は着々と戦果をあげる。父の敵であるグラを倒したマルスは、続いて祖国アリティアを解放。大陸一の精鋭騎士団を擁するグルニア、強靱な竜騎士で襲いくるマケドニアをも撃破する。だが、その激闘は悲しみの連鎖でもあった。

アリティア解放で、マルスは母がすでに殺されていたことを知る。グルニアとの決戦では、ニーナが最愛のカミュを喪う。そして、マケドニアのミシエイル王を討ったのは、実妹であるミネルバであった。



④ 母が殺された悲しみをこらえ、マルスはアリティア解放の歡喜に沸く民に応える。



グルニア

大陸最強といわれたグルニア黒騎士団も、同盟軍にはかなわない。マルスやニーナはカミュに投降を呼びかけるが、カミュは騎士として祖国に殉じることを選んだ。



マケドニア

大陸の覇者たらんとして、ドルーアすら利用しようとしていたミシエイル。その野望に終符を打ったのは、かつて彼を敬愛してやまなかった妹のミネルバであった。

暗黒戦争

神剣ファルシオンの奪還と地竜王メディウスとの死闘

神剣「ファルシオン」を持つ魔王ガーネフは、「マフー」という暗黒魔法に守られていた。同盟軍は、マルスが大賢者ガトーより託された光魔法「スターライト」でマフーを破り、ファルシオンを手に入れる。

竜殺しの神剣を手に、マルスはメディウスとの最終決戦に臨む。ドルーア帝国と同盟軍との激しい戦いの中、マルスは地竜王メディウスと対峙。長きに渡る死闘の末、マルスはいかにメディウスを討ち果たす。



④ マルスに破れて地に倒れるメディウス。しかし、地竜王は滅びたわけではなく……。



③ ファルシオンを手に、メディウスすら従えようとしたガーネフ。だがその野望は、光と星のオーブから作られた魔法「スターライト」の前に潰れ去った。



⑤ 竜殺しの神剣ファルシオンを奪還し、地竜王メディウスとの決戦に臨むマルス。ドルーア帝国の最奥で、アンリの伝説が再現されようとしていた。

神聖帝国成立

束の間の平穏と新たな戦乱への序曲

暗黒戦争は終息するが、戦乱の傷跡が深く刻まれていた。一躍英雄となったマルスやミネルバは祖国へと戻って復興に尽力。強力な指導者を必要とするアカネシアでは、ニーナの伴侶に復興を任せることとなる。

その候補にはマルスとハーディンがあがったが、ニーナは、マルスとクリス王女シーダが恋仲であることを配慮し、ハーディンを迎える。

アカネシア王国第24代国王となったハーディンは、強引ともいえる指導力で隣国に国力を回復「神聖帝国」を興すと宣言し、その初代皇帝となる。神聖帝国は日に日に周辺国への影響力を強めるが、その支配による軋みが新たな戦火を生んだ。



⑥ アカネシア暦606年、国民の祝福と期待の中、ハーディンとニーナは結婚する。

神聖帝国成立後の統治者配置



ニーナとハーディン

① 皇帝となったハーディンは、グラ、グルニアの支配を画策。グラはシーマ王女を配置して間接統治。ロレンスが先王の遺児を立てて治めていたグルニアでは、ロレンスを追放し、その後ラングを派遣して暴発を持った。

ニーナがオレルアンに落ちのびて以来、ハーディンは、彼女を守って暗黒戦争を戦いぬいた。密かにニーナを慕う彼は、その伴侶として迎えられて数喜するが……。

英雄戦争

グルニア・マケドニアの反乱と戦乱の予兆

アカネイア暦607年、アカネイア統治下のグルニアで反乱が勃発。皇帝ハーデインの要請でグルニアへ向かったマルスが目にしたのは、横暴きわまりない司令官ラングと、占領軍に虐げられたグルニアの民だった。しかも、反乱軍リーダーのロレンスは、略略戦争をともに戦ったマルスの盟友。ロレンスから、マルスはハーデインの愛心を聞かされることになる。そのハーデインの命で、休む間もなくマケドニアの反乱鎮圧へと向かうことになるマルス。マルスの胸中には、ハーデインを信じたい思いと、アカネイアの尊厳への疑念が渦巻いていた。



③ロレンスはマルスに、グルニア先王の遺児ユベロ、ユミナの保護を頼んで自爆。しかし、ユベロ、ユミナはラングに連行されてしまう。

消えたミネルバ

マケドニアでは、改革を進めるミネルバ王女に反対勢力が反旗を翻す。囚われたミネルバは、死んだはずの兄ミシェールに連れ去られる。



オグマの逃走行

ロレンスからユベロ、ユミナの庇護を託されたオグマは、単身ラングから2人を奪還。幼い王子と王女を抱え、過っ手から逃げ続ける。



アリティア失陥

マケドニアの反乱を鎮圧したマルスがラングが命じたのは、グルニア王家のユベロ王子、ユミナ王女を捕らえること。だが、2人のことをロレンスから頼まれていたマルスは、これを拒否。逆に2人を保護しようとして、オグマとの合流を図る。

しかし、これはハーデインの思惑とおりであった。マルスの行動を「アカネイアへの反逆」と断じたハーデインは、アカネイア、グラ、オレルアン^{オレルアン}の軍を率いてアリティアを急襲、これを陥落させたのだ。

報せによれば、ハーデインは闇のオーブに守られており、破るには光のオーブが必要という。光のオーブを得るために、大賢者ガトーのいる氷竜神殿へ向かうマルス。不毛な大砂漠、灼熱の火山、峻険な山地を越えた先に広がる水原——氷竜神殿へと至るその過酷な道は、かつてアンリがファルシオンを求めてたどったことから「アンリの道」と呼ばれていた。

マルスの進軍ルート(英雄戦争Ⅰ)



④アリティアを出発したマルスはグルニア、マケドニアと戦戦。アカネイア軍との衝突を避けてカディンに入ると、そこから氷竜神殿を目指す。

⑤あまりに早すぎるアリティア侵襲。前々から進軍準備がされていたことは明白だ。

炎の紋章に隠された秘密

氷竜神殿にたどり着いたマルスは、「炎の紋章」の秘密をガトーから聞かされる。炎の紋章こそ、地竜族の封印維持の要となる「封印の盾」だったのだ。しかし、かつてラマラン^{ラマラン}神殿から盗まれたこの盾は、聖玉をくりぬかれて力を失っている。地竜族の封印を守るためには、失われた聖玉を5つすべて集め、紋章の盾を完成させる必要があった。



⑥紋章の盾の完成を願い、聖玉でもある光と闇のオーブ2つをマルスに託すガトー。ハーデインを守る闇のオーブも、聖玉のひとつらしい。

大賢者ガトーの大ワープでアリティアへと跳んだマルスと同盟軍は、まずアカネイア占領下にあるアリティアを解放。続いてグラからアカネイア軍を駆逐すると、グラのシーマ王女は、国と民の将来をマルスに託し、自身も同盟軍へ加わる。その後、同盟軍はアカネイア軍との正面衝突を避けるべく、中央山脈の山中を進軍。アドリア峠にてオレルアン軍の奇襲を受けるが、オレルアン王の説得により攻撃は中断。オレルアン軍は撤退した。

そして、アカネイア暦608年、ついに同盟軍は王都バレスに到着。マルスとハーディンという暗黒戦争における英雄同士の間で、終幕が訪れようとしていた。

マルスの進軍ルート(英雄戦争2)



●マルス率いる同盟軍は、アリティア、グラを解放したのち、アカネイアへ。その後、地魔族封印のために魔の祭壇へ向かうことになる。

闇のオーブには、野心や欲望を増幅させる効果がある。ハーディンはニーナの心が自分にないと知って嫉妬、それゆえ闇のオーブに心をとりわれ、非道な「暗黒皇帝」と化したのだ。もはや、ハーディンを討つしか彼を救済する手段はない――。

そして、ハーディンは敗れ、マルスの手には闇のオーブが残される。こうして最後の聖王がそらい、「封印の盾」が完成する。



紋章の盾の完成

闇のオーブを入手したことで、光、星、大地、命、闇という5つの聖王が、およそ600年ぶりにすべてそろった。これによって「封印の盾」が完成する。



英雄戦争と並行して、高位のシスターが行方不明になるという事件が頻発する。レナ、マリア、エリス、ニーナの4名はガーネフにさらわれ、メディウス復活のための生贄とされていたのだ。魔の祭壇の奥で、マルスたちはシスターたちと再会する。

生贄となることで心が壊れた彼女らは、メディウスを守るかのようにふるまい、マルスたちの前に立ちふさがる。しかし、彼女たちを愛する者の言葉がその心を蘇らせ、メディウスへの道が開かれる。再びファルシオンを手にしたマルスによって、暗黒竜は討たれるのであった。



暗黒竜と化したメディウス

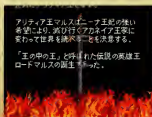
メディウスは、変体することにより、地魔よりも強大な暗黒竜と化していた。恐ろしい魔には、封印の盾の効果は及ばない。



ガーネフの狙い

ハーディンに闇のオーブを渡し、暗黒竜にシスターを捧げるガーネフ。死から蘇った「魔王」は、世界の破壊をもくろんでいた。

たびかされる戦争の魔は深く、七王国は一体となつての復興を求めた。そして、その盟主にマルスを望んだのである。アカネイア暦609年、正式に第5代アリティア王となり、シーダを妻に迎えたマルスは、アカネイア連合王国の盟主にも就任。このアカネイア連合王国の成立により、ようやく大陸に平和な時代が訪れることとなった。



アリティア王マルスとニーナ王妃の強い希望により、再び行方不明のアカネイア王女に変わって世界を救済することを決意する。『王の中の王』と呼ばれた伝説の英雄王、ロードマルスの誕生であった。

●後世、マルスは「王の中の王」、「英雄王ロードマルス」などと呼ばれることになる。

アリティア王国

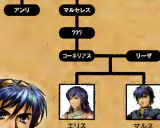
英雄の血が息づく国

もともとは辺境の一都市。伝統的にアカネイア王国への忠誠が厚く、解放戦争では最後までアルテミス王女を守りきった。解放戦争終結後、アンリを初代国王に迎えて建国。アンリが生涯妻帯しなかったため、王位と神剣ファルシオンは、弟マルセスに受け継がれた。アンリを規範とする王室は、以後も英雄の気風を継承し、やがて希代の英雄王マルスを生むこととなる。

アンリ

神剣ファルシオンを手にメディウスを討った解放戦争最大の英雄。アルテミス王女を愛していたが結ばれることは叶わず、生涯独身を貫いた。

アリティア王国家系図



マルス▶

メディウスを討った光の王子

マルセスの曾孫にあたるアリティアの王子。暗黒戦争でアリティアが攻められると、辺境の島国タリスへと落ちのびる。以後、祖国奪還のために離脱を続け、ガルダの海賊のタリス侵入をきっかけに決起。アカネイア解放の機を飛ばしていたニーナ王女の下に馳せ参じ、世界を救う者に与えられる勇者の証「炎の紋章」を託される。同盟軍の指揮官となると、次々とドルーア帝国諸国を撃破。ついには、ガーネフから奪還した神剣「ファルシオン」を手に、メディウスを討ち果たした。

マルスのもっとも秀でた資質は、「人を動かす力」であったという。立場や国の異なる英雄たちも、彼の下では団結。敵を味方することさえあった。そうして、マルスは、数々の苦境を仲間と乗り越えるのである。常に単独で戦い、孤独の影がつきまとうアンリを「個の英雄」と呼ぶなら、マルスは「群の英雄」であるといえる。

【新暗黒】



【暗黒竜】



③④ ニーナから炎の紋章を託されて同盟軍の指揮官となったマルスは、激戦の末みごとにメディウスを討ち果たした。



【暗黒竜】





【紋章】

【TCG】

【暗黒竜】

大陸を救った英雄として

暗黒戦争終結後、マルスはシーダを婚約者として迎え、祖国アリティアの復興にあたる。しかし、皇帝となったハーディンと対立し、英雄戦争が勃発することとなる。英雄戦争において、マルスはハーディンを闇のオーブから救済し、さらに復活したメディウスを討つことで再び大陸の救世主となる。

そして、相次ぐ戦乱に疲弊した国々の求めに応じ、戦後アカネア連合王国の盟主となるのだった。



●英雄戦争終結後、タリスのシーダ王女と結婚。2人で大陸の復興に尽力する。

【TCG】

エリス

自己犠牲も厭わない強き姉

アリティアの王女でマルスの姉。暗黒戦争では、マルスの逃げる時間をかせぐために、落城寸前のアリティア城に残留。英雄戦争でアカネア軍の奇襲を受けた際も、自らを顧みずにシーダを逃がすことを優先する。誰かを助けるために自分を犠牲にする強さを持っていたが、その性格が災いし、ガーネフに2度も捕らわれることになってしまう。

弟マルスの親友であるマリクとは、幼いころからのつきあい。静かに愛を育んでいたようで、英雄戦争終結後に結ばれる。



●マリクとのつきあいは古く、体の弱かった幼き日の彼を、エリスが看病したこともあった。

モロドフ

マリクを教え導く相談役

アリティア王国の貴族（伯爵）。暗黒戦争では、エリスの命に従い、マルスをタリスへ落ちのびさせた。以後は、おもに政策面でマルスを支え、相談役として若き主君を導く。暗黒戦争終結後に病となると、モロドフは、後事をジェイガンに託して歴史の表舞台から消えるのだった。



【暗黒竜】

カイン▶

死地より還りし赤き騎士

マルスとともにタリスへと落ちのび、暗黒戦争と英雄戦争をともに戦いぬいたアリティアの騎士。メニディ川の戦いで壊滅したアリティア軍の数少ない生き残りであるほか、英雄戦争時にアリティアが失陥した際も、敵の包囲を突破するなど、数々の死線からも常に生還を果たした。英雄戦争の終結後は、アリティア王国騎士団の隊長に就任。ジェイガンの没後は、マルスがもっとも信頼する部下となる。かけだしのころは、“猛牛”と呼ばれていた。



● マルスにコーネリアス王の最期のお言葉を伝えるのもカイン。主君を救えなかった無力さを悔む。

【紋章】



【紋章】



アベル▶

緑の騎士の愛は誰のもとへ？

カインと並び、マルスの下で暗黒戦争を戦った騎士。“黒豹”の異名もある。暗黒戦争後は、軍を退いて店を開く。以後もマルスへの忠誠は揺るがないが、英雄戦争では、恋人のエストを人質にとられ、やむなくアリティア軍に旗を向けたこともある。

英雄戦争終結後、エストはアベルのもとを去るが、それは、エストが、姉バオラの想いに気づいたからかもしれない。アベルは、バオラからも想いを寄せられていたのだ。アベルはエストを追うのだが……。



王子…許して下さい…
俺はエストを…
失いたくない…

● エストを人質にとられ、屈服を強いられたアベルは、愛と忠誠の間で思い悩むことに……。

【暗黒竜】

【紋章】



【暗黒竜】

◀ ジェイガン

若き君主を支える宿将

マルスの守役。アリティア落城の際には、マルスを守りつつ無事にタリスまで落ちのびさせた。暗黒戦争では騎士団の隊長として自ら戦場に立つが、終戦後は現役を引退。英雄戦争には、軍師として従軍することとなる。以後もマルスのよき相談役となり、生涯を通じて若い君主を支え続けた。



◎ 現役を退いても貴様は衰えず。マルスに無礼を働いた敵将を一人で退けることも。

ゴードン

弓騎士として追い求める頂

アリティア脱出時からマルスに従う弓兵。暗黒戦争終結後にジョルジュに弟子入りし、弓の腕を磨く。英雄戦争のころにはアリティアの弓兵といわれたが、終戦後、ゴードンはなぜかアリティアを去る。そして、ジョルジュの背を追うかのように、アカネイア自由騎士団に参加するのだった。



④ 英雄戦争でジョルジュと対峙したゴードンは、同盟軍に加わるよう師を説得する。

【紋章】



【暗黒竜】

【紋章】

ドーガ

マルスを守る厚き盾

アリティアの重騎士。マルスがアリティアから脱出する際、タリスへ落ちのびるための船を手配した。以後、暗黒戦争と英雄戦争を戦いぬき、マルスの盾となり続ける。マルスの信任も厚かったようで、マルスがアカネイアの統一王となると、ドーガはグルニアの守備を任される。



【暗黒竜】

マリク▶

祖国、友、そして愛しき人のために

アリティア貴族で、マルスやエリスとは幼なじみ。マルスの力となり、エリスを守るためにカダインへ留学して魔道士を志す。マルスの挙兵を知ると、志願して同盟軍に従軍。また、エリスとは相思相愛の仲であり、英雄戦争において互いの感情を知った2人は、戦争終結後に結ばれることとなる。カダイン留学中は、ウェンデルに師事。上位魔法「エクスカリバー」を与えられたり、カダインの統治を託されたりと、ウェンデルの信任は厚かったが、これがエルレーンの嫉妬をかう結果となる。



マリク……？
「ふふー マリク！
助けてー カーネフがー
ごいー お願い 助けて！」



エリス様 もうばくは
一点とおおはを 隠れさせん
たえとこのようたことが
あるともー いいですね



●メディウスに
捧げられて心の
壊れたエリスに、
これまで秘めて
きた感情をぶつ
けるマリク。そ
の深い想いがエ
リスを救う。

【新略黒】



【紋章】

【暗黒竜】

【新略黒】

◀フレイ

もうひとりのアリティア宮廷騎士

暗黒戦争の初期、コーネリアス王がアカネアへの援軍として出陣する際に、アリティア城の守備にあたった騎士。ジェイガンの指揮の下、アベル、カインといった同僚と協力しつつ、マルスのタリス亡命に尽力する。後の戦いには登場していないので、このマルスの脱出行において脱落したと思われる。

フレイは「新・略黒電と光の剣」のノーマルモードにのみ登場。ノーマルモードの序章ではマルスのアリティア脱出が描かれるが、1章へ進むにはキッドアクターを1人犠牲にする必要がある。そして、「草から始まるハードモード」にはフレイの姿はない……犠牲となったのは、フレイであったのだろう。



「おれは
これぞ真の騎士だ」と。

ノルン▶

祖国の危機に弓を手にした少女

アリティアの窮状を知り、志願兵となった少女。ドーガとともに、マルスの指揮下に入る。暗黒戦争終結後は村に戻り、ひとりの女性として幸せに過ごしたという。

【新略黒】



ノルンは「新・略黒電と光の剣」のノーマルモード序章で、自軍の犠牲が2名以上いる場面のみ登場。ドーガやゴートンと互いに支援関係にあり、ロマンが生まれていたかもしれない。

アラン▶

聖騎士を襲った悲劇

アリティア出身の聖騎士。暗黒戦争終結後、ジェイガンに請われてアリティア騎士団の隊長となる。英雄戦争勃発のきっかけとなったグルニア遠征においても、若きアリティア騎士たちの束ね役として従軍する。ただし、そのころから体調がおもしくなかつたようで、英雄戦争を戦いぬいた後に、病に倒れて没してしまふ。



◎病に冒されていることを、アランも自覚していたのだろう。騎士として戦いの中で死ぬことを、アランは望んでいたようだ。

【紋章】



【暗黒竜】

アランが仲間になるアリティアの村は、隣村との仲が悪い。そのため、アランを仲間にした場合は、隣村のサムソン（→P.48）を仲間にすることができない。

【紋章】

ロディ

次代を担う気鋭の宮廷騎士

暗黒戦争終結後にアリティア軍に加入。当初は未熟だったが、英雄戦争を戦いぬくことで成長し、後に大陸有数の聖騎士となる。セルとは恋仲だったという。

【紋章】



ライアン

兄ゴードンの背を追って

ゴードンの実弟。兄に憧れてアリティア騎士団に入る。英雄戦争後に兄はアカネアへと去るが、ライアンはアリティアに残り、テンブルナイツに加わった。

セル▶

若きアリティア騎士団の紅一点

アリティアでは珍しい女性騎士。英雄戦争から従軍を始め、生涯アリティア王家に忠誠を誓ったという。戦災者の世話をするなど、慈悲深い女性だったようだ。

【紋章】



【紋章】

ルーク▶

軽快なる遊び人騎士

もとは気ままな遊び人。ロディとは、騎士としても、セルに想いを寄せる男としてもライバル関係。英雄戦争終結後に騎士団から退き、遊び人に戻ったという。

アカネイア聖王国

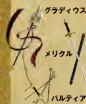
炎の紋章に秘められた歴史

大陸最古の王国にして、七王国の盟主。世界を救う主体であることを自認し、王家にかかわって世界を救う者に炎の紋章「ファイアーエムブレム」を託す。しかし、炎の紋章には、なぜか悲劇がつきまとう。解放戦争の折、アルテミスは炎の紋章をカルタス伯爵に託し、後に彼と結婚するが、彼女が本当に愛していたのはアニーであった。暗黒戦争期のニーナも、愛するカミュを失う。炎の紋章で王家が蘇るとき、代償として最愛の者を失う——人は、それをアルテミスの宿命と呼んだ。

「盗賊」アドラの大陸制覇

ラーマン海賊から封印の盾と三種の神器を奪った盗賊アドラは、封印の盾から盟主をくぐりぬいて売却。その金で兵を雇い、自らは三種の神器を手にして大陸制覇に乗り出す。そして、11年後、アドラが奪った盾こそがアカネイア。彼は、盾に幸運をもたらした封印の盾を、王家の紋章「ファイアーエムブレム」としたのだった。

三種の神器



アルテミス

解放戦争期のアカネイア王女。解放戦争後、貴族の要求に従いカルタス伯爵と結婚。一児をもうけた後に死去。

カルタス伯爵

アカネイア貴族。炎の紋章を託され、解放軍の指揮官となる。戦後アルテミスと結婚し、アカネイア王となる。

ニーナ

アルテミスの宿命に翻弄されし王女

アカネイア王女で、王家唯一の生き残り。暗黒戦争の王都パレス陥落時に捕虜となり、グルニアのカミュに保護された。カミュは父の敵であったが、身を挺して自分を守った彼を、やがてニーナは愛するようになる。その後、ドルーア帝国へ移送されそうになるが、カミュの手引きで脱出。オレルアンへのハーディンを探り、そこにマルスが馳せ参じると、彼に覇者の証である炎の紋章「ファイアーエムブレム」を託した。

しかし、これにより、ニーナは「アルテミスの宿命」にとらわれてしまったのかもしれない。暗黒戦争において、ニーナは愛するカミュを失ってしまう。その後、ニーナは、祖国復興のためにハーディンを夫として迎えるが、カミュへの想いを捨てきれず。それが英雄戦争勃発の遠因となってしまう。英雄戦争終結後、ニーナはマルスに後事を託すと姿を消すのだった。

【新暗黒】



秘に、もう一度力を貸してください。

【紋章】

①カミュとマルスの衝突を止められず、ニーナは最愛の人を失う。彼女も、アルテミスの宿命から逃れることはできなかった。

【暗黒竜】



リンダ

ミロア大司祭の忘れ形見

大司祭ミロアの娘。父の死後、上級魔法の「オーラ」を受け継ぐ。暗黒戦争期、父の敵のガーネフから逃れようと男装して身を隠すが、ノルダの奴隷商に捕らえられる。そこをマルスに救出され、同盟軍に加わった。

暗黒戦争終結後は、アカネアの宮廷女官となる。英雄戦争では、ニーナの命で炎の紋章をマルスに届ける。戦争後はバレスの魔法学院で働き、そこで好きな人ができたという。



● リンダが好きな相手は不明。マリクとは仲がよかったが、マリクにはエリスがいるし……。

ミロア

アカネアを守護していた大司祭。大賢者ガトーの弟子で、オーラの魔法書とカダインの統治を委ねられた。それを兄弟弟子のガーネフに妬まれ、暗黒戦争で殺されることになる。



【暗黒竜】

【TCG】

ジョルジュ

ニーナに忠誠を誓う大陸一の弓騎士

弓にかけては大陸一といわれるアカネア騎士。暗黒戦争のバレス陥落の折にドルーア軍の捕虜となるも、隙をみて脱出。ニーナ王女がいるマルスの軍に加わる。暗黒戦争後は弓騎士団の隊長に就任。英雄戦争ではハーディンよりニーナの意思を尊重し、マルスとともに戦う。英雄戦争終結後にアカネア自由騎士団を結成し、ニーナの去ったアカネアを守り続けた。



● アストリアは、ともにニーナへの忠誠深い盟友。後に自由騎士団でも協力しあう。



【新暗黒】



【暗黒竜】

ボア

国とニーナのはざまで……

アカネア司祭。暗黒戦争終結後、ニーナに、アカネア復興のためにマルスがハーディンと婚姻するよう要求。これが英雄戦争勃発のきっかけを作ってしまったことを後悔する。囚われたニーナを救おうとするが、ハーディンに害されてそのまま命を落とす。

メディア

祖国に身を捧げた女聖騎士

アカネイア最高司令オーエン伯爵の娘であり、勇敢な女聖騎士。バレス陥落の折、父がカミに殺され、自らも囚われの身となる。バレスが解放された後は、同盟軍の一員として転戦。暗黒戦争終結後、ニーナに誘われてアカネイア騎士団の隊長となる。英雄戦争では、ハーディン皇帝の横暴を見かねてバレスで反乱を起こすが、鎮圧されてしまう。



④ アストリアとは、誰かが認める恋人同士。英雄戦争終結後に結ばれることとなる。

【TCG】

【戦記】

【暗黒竜】

【TCG】

【暗黒竜】

アストリア

誇り高きアカネイアの勇者

アカネイアの傭兵隊を束ねる勇者。暗黒戦争では恋人のメディアを人質にとられ、やむなくグルニアに従ったこともある。アカネイアという国への忠誠は厚く、英雄戦争では、ハーディンのやり方に疑問を抱きつつも、祖国のためにマルスに剣を向ける。英雄戦争終結後はメディアと結婚し、夫婦でアカネイア自由騎士団に加わった。



うらやまめ！
わがメルクスードの
威力を見せてやる！！

④ 英雄戦争では、アカネイアの三種の神器である、メルクスードを下関されている。ニーナからの依頼も厚かったようだ。

トムス

【暗黒竜】

暗黒戦争期、バレス陥落まで抵抗し続けた騎士のひとり。暗黒戦争終結後に一時は将軍となるが、ハーディンと対立して軍を退く。

捕囚となるまで抵抗し続けた騎士



ミシェラン

アカネイアの重騎士でトムスの相手。バレスで最後まで抵抗し続けた。暗黒戦争終結後、トムスが軍を退くと自らも軍を辞した。



トーマス

暗黒戦争時、バレスで戦った弓兵。トムス、ミシェラン、メディア、ボアとともに囚われの身となり、暗黒戦争終結後に姿を消す。

【新暗黒】

◀ホルス

裏切り者の汚名を受けて

アカネイアの領主。暗黒戦争では、領民たちを守るために裏切り者の汚名をあまじく受け、ドルーア帝国に屈した。領内のグルニア勢力を同盟軍に駆逐されると、ホルスは直ちに降伏。死んで詫言ようとするが、ニーナはそれを許さず、暗黒戦争を戦いぬくことで罪を償うこととなる。



① 安易に死ぬより、生きて汚名をそぐべき。ニーナの執得にホルスは応じた。

【TCG】

◀ラング

戦争の火種となった強欲将軍

アカネイアの貴族。暗黒戦争では、ドルーア帝国と通じて私腹を肥やす。ハーディン皇帝の即位後はグルニアで民を苦しめ、反乱に対しては弾圧して占領軍司令官となる。この悪辣なラングにマルスが反発したことが、英雄戦争勃発の原因となった。後に、義憤に駆られたマルスに討たれる。

アカネイア神聖帝国の将軍たち

将軍配置図



ラングとトラースはグルニアを、エイベルとウィローはアリティアをそれぞれ占領。ネーリングは首都バレスの守護にあたった。

【紋章】

トラース



グルニアに派遣されたアカネイアの将軍。グルニア占領軍の副司令官で、ラングの臣僚である「悪の魔」オルヘルン侯を守護する。兵料がジョーターという将軍は、アカネイアではおめでたい。

【紋章】

エイベル



アリティア占領軍として派遣された。アカネイア神聖帝国の将軍。アリティア城の守護にあたる。モストを人質にとることで、アベルとアリティア軍を戦わせると、いざ勝負を挑む。

【紋章】

ウィロー



アリティア占領軍の司令官を兼ねたアカネイアの将軍。アリティア城内の守護にあたる。マルスの弟のエリアスを捕らえ、カーネアに引き渡した。おそろくこのウィローと申される。

【紋章】

ネーリング



アカネイアの首領である。バレスの守護を任された将軍。城外の守護を任されるだけあって、皇命にマディオンへの退治は尊からたように、その影に隠れ「皇帝陛下万歳」と叫んだ。

オレルアン王国

アカネイアへの忠誠厚い草原の王国

もともとは「草原の民」と呼ばれる剛悍な騎馬民族の住む地域だったが、アカネイア暦499年、アカネイア王となったカルタスが軍を進めて平定。カルタスの弟のマローン伯を初代国王として、オレルアン王国が建国された。王同士が兄弟だったこともあり、アカネイア聖王国とは建国当初から緊密な関係を維持。暗黒戦争においても、アカネイアから逃れてきたニーナ王女を庇護している。以前は、アカネイアから来た貴族層が草原の民を奴隷のように扱ったが、オレルアン王弟ハーディンが、こうした境遇から草原の民を解放。草原の民はハーディンに感謝し、熱狂的な忠誠を捧げた。



オレルアン王 【新暗黒】

ハーディンの兄。体が強く子もないので、弟を頼みとして軍の権限を委ねる。英雄戦争においてはアカネイアに協力していたが、後に中立に転じた。

ハーディン

“草原の狼”と呼ばれし英雄

オレルアンの王弟。草原の民を奴隷の立場から解放したことから、“草原の狼”と呼んで敬われた。暗黒戦争ではニーナを庇護。不屈の騎士であり、マケドニアの侵攻によってオレルアンの国土の大半を奪われても、抵抗を続けた。マルスがオレルアンに参じると、指揮権の分裂を恐れて自らマルスの指揮下に。その後、マルスを支え続け、暗黒戦争を戦いぬく。暗黒戦争終結後にニーナの伴役に迎えられ、第24代アカネイア王となる。ニーナを深く愛する彼は、おおいに喜んだという。



●マルスの将としての器に、いち早く気づくハーディン。自身がマルスの下につくことで、同盟軍の分裂を回避する。

【TCG】

【暗黒竜】



【TCG】

“暗黒皇帝”が抱えた苦悩と心の闇

アカネイア王として大陸再建に邁進するハーディンだったが、まもなくニーナの心がないことに気づいて深く苦しむようになる。その心の隙につけこんだのがガーネフ。ガーネフから闇のオーブを見せられたハーディンは、その心をオーブに支配されて残酷な野心家へと変貌。アカネイアを“神聖帝国”とすると自ら皇帝となり、周辺諸国への支配を強めていく。

心ある将はハーディンの下を去り、あるいは追放された。逆らった者を次々と処刑するハーディンは、いつしか“暗黒皇帝”と呼ばれるようになる。

闇のオーブに囚われたハーディンは、死によってようやく解放される。自分を止めてくれたマルスに感謝しつつ、死に臨むハーディン。その最期にハーディンが遺したものは、ニーナへの愛の言葉だったという。

ハーディンに忠誠を捧げた “狼”たち

【暗黒竜】



ウルフ▶

ハーディンへの忠誠深い
草原の民の騎馬弓兵。暗黒
戦争ではハーディンととも
に同盟軍に加わる。暗黒戦
争終結後、オレルアの精
鋭部隊、狼騎士団の団長と
なる。ハーディンを信じて
疑わず、英雄戦争ではマル
スに奇襲を仕掛けた。

【TCG】



【TCG】



▲ ザガロ

ウルフと同じオレルアの騎馬
弓兵。狼騎士団の副長として、英
雄戦争ではマルスに敵対する。

【TCG】



▲ ブラック

オレルアの騎士。草原の民を
解放したハーディンに心酔してお
り、常にその命に従う。

ロシェ▶

マルスを信じ続けたオレルアの騎士

オレルアの騎士。ウルフ、ザガロ、ブラックと
は血よりも濃い絆で結ばれている。暗黒戦争終結
後に一時軍を離れるが、後に聖騎士として復帰。
その間、アリアシアに滞在することもあった。ハ
ーディンを尊敬するとともにマルスも信じており、
英雄戦争では両軍の対立に悩むことになる。



【暗黒竜】



【TCG】



アドリア大陸の戦い

アカネイア暦608年。マルス率いる同盟軍は、アカ
ネイア軍との衝突を避けるべく中央山脈の山中を進み、
アカネイアの王都ハレスを目指した。だが、その山中の
アドリア大陸で、ハレスへの進軍を阻止していたオレ
ルアの狼騎士団と遭遇。同盟軍は、激戦ののち、
横断に奇襲を受けてしまう。暗黒戦争における盟友同士
の戦いは、双方に深刻な犠牲を強いるかと思われた。し
かし、そこにオレルア王が現れ、狼騎士団を説得。ハ
ーディンかむしろ正統ではないと信じた王は、半ばに近
づき宣言し、オレルア軍を撤退させるのだった。



左の陣地に不利な状況で、同盟軍はオ
レルア軍の奇襲を受けてことになる。

マケドニア王国

脅威に抗う天空の騎士たち

マケドニアは、ドルーア帝国が人間の奴隷を使って開拓させた地であった。しかし、英雄アイオテが奴隷たちを率いてドルーアへの抵抗活動を開始。解放戦争でドルーアが滅亡すると、解放奴隷たちはアイオテを国王に迎え、アカネイア暦503年にマケドニアを建国する。ドルーアと国境を接する国だけに、軍の精強さは大陸でも一二を争うほど。野生の飛竜や天馬たちを飼いならして乗騎とする竜騎士や天馬騎士ら、天賜ける騎士たちが軍の主力を担う。アカネイアの貴族たちが解放奴隷たちの国であるマケドニアを見下しがちであったので、国内にはアカネイアへの反発がくすぶっている。



英雄 アイオテと 2つの秘宝

マケドニア解放の立役者であるアイオテは、自ら竜にまたがりドルーアと戦い続けた建国の英雄。竜騎士の弱点である矢を防ぐ「アイオテの盾」は、彼の愛用品だったという。ほかに、「オートクレール」という三種の神器に匹敵する斧も伝わっている。

ミシェイル

野心ゆえに道を誤った「アイオテの再来」

暗黒戦争期のマケドニア王。ミネルバ、マリアの兄。王子のころから「アイオテの再来」と呼ばれ、国民の期待を集めた。メディウスが復活すると、ドルーア帝国と結んでアカネイア聖王国を滅ぼすことを父王に進言。それを退けられると、父王を殺害して自ら王となる。本心では、アカネイアを滅ぼした後、グルニアのカミュと結んでメディウスを打倒するつもりであったが、妹のミネルバの離反、マルスの同盟軍の勝利によって構想が瓦解。やがて、マケドニア本土の戦いで、ミネルバの手にかかった。

しかし、ミネルバはとどめを刺さず、マリアの献身によって命を救われた彼は己の野心を捨てて。英雄戦争期にミネルバがリュウキに捕らえられると、その居城に乗りこんで彼女を救出。マリアがガーネフに連れ去られると、ガーネフの拠点である「スターライト」を手に入れ、マルスに託した。命を捨てたミシェイルは、その命をただ妹たちのために費やし、その生涯を閉じた。

ミシェイル麾下の将軍たち



ベンソン

【新暗黒】

暗黒戦争期、オレラン地方へ進軍する将軍。マテスを配下に加えていた。



ムラク

【新暗黒】

オレラン城の城外に軍を展開。ハーディンを通い詰め、ニーナを捕らえようとする。



マリオネス

【新暗黒】

オレラン城を制圧していた守将。激闘も考慮に入れ、盗賊たちに宝物を集めさせた。



オーダイン

【新暗黒】

マケドニアの国境にある森の砦を守る聖騎士。勇猛な竜騎士たちを次々と投入する。



【新暗黒】

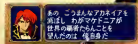
【TCG】



【暗黒版】



④ 旧知のファトーは、野心ゆえに道を誤ったミシェイルの将軍を憎んだ。



⑤ ガーネフに連れられていたのではという疑問を、ミシェイルは否定する。



ミネルバ▶

祖国を憂う「赤い竜騎士」

「赤い竜騎士」と呼ばれるマケドニアの王女。暗黒戦争においてはマケドニアがドルーア帝国につくことに反対するが、妹マリアを人質にとられたために、白騎士団を率いてオレレアンに侵攻する。マルスによってマリアが救出されると、同盟軍に加入。マケドニアを正すべく、かつて敬愛していた兄ミシエルにも槍を向ける。暗黒戦争終結後、マケドニアの統治者として改革を進めるが、旧勢力にクーデターを起こされて囚われの身に。そこをミシエルに救出され、再びマルスの同盟軍に身を投じた。英雄戦争終結後はマケドニアをマルスに託し、修道院で孤児の世話をして暮らしたという。

【紋章】

【暗黒竜】

【新暗黒】



【TCG】



【暗黒竜】

◀ マリア

兄姉を想うマケドニア王女

マケドニアの王女で、ミシエル、ミネルバの妹。暗黒戦争ではマケドニアからグルニアへの人質となるが、マルスによって救出されて同盟軍に加わる。

兄、姉への想いは深く、ミネルバの手にかかってミシエルが瀕死となると、寝ずに看病して命を救う。英雄戦争ではメディウスへの生贄となってマリアの心は壊れるが、姉ミネルバの声によって自らの意思を取り戻した。戦後は、姉とともに修道院で過ごしたという。



④ 性格は天真爛漫。初対面のマルスに「おそばにいてください」とお願いして、ミネルバをあきさせたこともある。

⑤ ミシエルを救おうと、寝食を忘れて看病するマリア。彼女の一途な折りがミシエルを救うことになる。

【紋章】



カチュア▶

誰にも言えない想いを秘めて

白騎士団に所属する天馬騎士三姉妹の次女。暗黒戦争では、ミネルバのあとを追って同盟軍に加入。次第に指揮官であるマルスに惹かれるが、すでにマルスにはシーダという恋人がいたために、その想いを表に出すことはなかった。英雄戦争でマケドニアに反乱が起こると、助けを求めてマルスの下へ。マケドニア平定後も、同盟軍の一員として戦った。

【TCG】



【暗黒竜】

【暗黒竜】

【TCG】

パオラ▶

ミネルバの信頼厚い三姉妹の長女

ミネルバに忠誠を誓う天馬騎士三姉妹の長女。ミネルバの信頼が厚く、白騎士団天馬騎士の隊長格を務める。暗黒戦争では、妹のカチュアとともに同盟軍に加入。アリティアのアベルに密かに惹かれるが、妹のエストがアベルと恋仲になったために想いを隠した。暗黒戦争、英雄戦争とともに、マルスの同盟軍に協力。戦後は、マケドニアの復興に尽力した。

【暗黒竜】

◀ エスト

天真爛漫な 天馬騎士の恋

白騎士団に所属する、天馬騎士三姉妹の三女。性格は天真爛漫でマイペース。暗黒戦争従軍中にアリティアのアベルに夢中になり、戦後彼とともに暮らし始めた。しかし、英雄戦争では自身が人質となったために、アベルが同盟軍と戦うことになる。

姉パオラの秘めた想いに気づいたのか、英雄戦争後にはアベルの前から姿を消す。

【TCG】

バレンシア大陸にも……

この天馬騎士三姉妹は、暗黒戦争と英雄戦争の戦間期にバレンシア大陸に渡る。エストが海賊に捕まってしまうので、パオラとカチュアが救出に向かったのだ。三姉妹は、エスト救出に力を貸してくれたザリガに感謝し、今度下でバレンシア動乱を戦うことにしたのである。



【戦記】

【紋章】

◀ レナ

恋を知ったマケドニアの聖女

マケドニア出身のシスター。マチスの妹。貴族の生まれで、ミシエイルからの求婚を断ったという過去を持つ。暗黒戦争期に大陸東方で貧しい人々の治療をするが、サムシアンという凶賊に捕らえられてしまう。そこからジュリアンとともに脱走し、同盟軍に加わる。ジュリアンとはやがて恋仲となり、英雄戦争終了後とともに暮らし始める。



●英雄戦争期、メ
ディウスへの生贄
としてガーネフに
捕らえられたレナ
を救うのは、やは
りジュリアン。そ
んな彼に、レナが
大胆に告白を。

【暗黒竜】

【TCG】

◀ マチス

ちょっと頼りないレナの兄

マケドニアの貴族。レナの兄。流されやすい性格のようで、暗黒戦争ではむりやり軍に入れられてオレルアンへ派遣されるが、レナの説得であつさり同盟軍に加入。英雄戦争ではリュッケの反乱に巻きこまれるが、そこではレナの恋人ジュリアンに叱責され、やはり同盟軍に鞍がえした。

【暗黒竜】

【TCG】

ウォレン ▶

反乱から離脱した
マケドニアのハンター

マケドニアの獵師。弓の腕をかわれてリュッケの反乱に加わるが、旧知のカチュアに脱得されて同盟軍に助力。英雄戦争終結後は、またもとの獵師暮らしに戻った。

ミネルバに反旗を
翻した将軍たち

【TCG】



【紋章】

リュッケ

ハーディンにそのおかげで、英雄戦争期にマケドニアで反乱を起こす。追放されていた将軍たちを集め、ミネルバを捕らえることに成功した。



【紋章】

ルーメル

英雄戦争において、リュッケとともに、マケドニアで反乱を起こした電騎士。ウォレンを配下として加え、国境の森を守っていた。

グルニア王国

三英雄のひとりが建てた騎士の国

アカネア暦501年、解放戦争における三英雄のひとりオードウィンが辺境の部族を新り従えて建国。尚武の気風をよとする軍事大国で、大陸一の精鋭である黒騎士団と、木馬隊と恐れられる戦車部隊を擁する。暗黒戦争では、ドルーア帝国に加担してアリティア、アカネアを制圧するが、マルス率いる同盟軍に敗れることになる。戦後、アカネアから派遣されたラング将軍の任政に苦しみ、607年に反乱を起こした。

オードウィン

アンリ、カルタス伯爵に並ぶ、解放戦争三英雄のひとり。騎士としてドルーア帝国との戦いで奮戦。解放戦争後、グルニア地方の守備隊長となると、近隣の部族を従えてグルニアを建国。アカネア聖王國からの独立を果たす。

ルイ

暗黒戦争期のグルニア王。ユベロ、ユミナの父。勇猛なグルニアの風風にそぐわず気弱な性格で、メディウスが復活すると直ちにドルーアに与した。マルスの決起後、グルニアの敗戦が相次ぐと肉に倒れ、そのまま死去する。

ユベロ

気弱で争い嫌いのグルニア王子

グルニア王子で、ユミナとは双子。暗黒戦争期にガーネフを恐れ父王ルイにより、ユミナとともにカダインの人質となる。

そこで保護を受けたウェンデルの教えもあって、争い嫌いの心優しい少年に育つ。戦後、ロレンスに引き取られてグルニアに帰還。英雄戦争ではラングに捕らえられるものの、オグマによって救出される。英雄戦争後は、マルスの後見の下に勉学に励んだ。



④ 師のウェンデルに似て争い嫌い。気弱だが、ユミナを気遣う優しい面も。

[TCG]

ユミナ

気丈で負けん気の強いグルニア王女

ユベロとは双子のグルニア王女。ユベロとともにカダインの人質となる。気が強く、一度言い出したらきかない性格。グルニアでは、自分たちを保護してくれたロレンスから慕われようとしなかった。

英雄戦争でラングに捕らえられるが、オグマに救出されると、ユベロと一緒にマルスの軍へ加入。戦争終結後は、パレスに新設された魔法学院に留学し、シスターの道を選んだ。



④ 気が強いとはいえまだ幼く、ときには強さものぞかせる。

ロレンス

“祖国”に殉じた忠義の将

グルニアの重鎮。暗黒戦争ではグルニアの民を守るために、あえて同盟軍に降る。戦後、ユベロとユミナをカダインから迎えグルニアの自治を行うが、ハーティンと対立し追放される。ラングによる任政が始まると、民のために決起。反乱が失敗に終わると、マルスに後事を託して自爆する。最後まで民に殉じ、その生涯を閉じた。



④ 若いころにタリスに赴き、タリスの統一に協力したこともある。それゆえ、シードとは旧知の仲であった。

[TCG]



カミュ▶

グルニア最強の
黒騎士

黒騎士団を率い、「ブラックナイトカミュ」と恐れられたグルニアの騎士。暗黒戦争で、コーネリアス王率いるアリティア軍、オーエン伯爵率いるアカネイア軍を撃破。アカネイアの王都バレスの占領後、王族の処刑に携わる。だが、ニーナだけは殺せず、彼女を守り続け、それによってドルニア帝国の咎めを受けた。

戦況が悪化すると戦線に復帰。グルニア本土での戦いでは、ニーナから同盟軍への協力を求められるも、それを拒んで国に拘じた。



① ニーナへの想いをふりきるカミュ。敗戦後は行方不明に。



【戦記】

【新暗黒】

【TCG】

▶シリウス

仮面に
想いを隠して

ユベロとユミナを連れて逃げるオグマに出会い、助力を申し出た仮面の騎士。そのままマルス率いる同盟軍に加わり、英連戦争終結に尽力。

彼は素性を語らないが、ユベロたちを知っていることから、グルニアゆかりの者であることは確か。また、メディアウスに捧げられたニーナの心呼び戻し、彼女から「カミュ」と呼ばれたことから、シリウス＝カミュの可能性は高い。ただし、本人はそれを否定。戦後、何も語らずアカネイアから姿を消す。



② ニーナに残した「すまぬ」の言葉の意味するところは……。

暗黒戦争期のグルニア将軍たち

各将軍は【新暗黒】の人物。

ハーマイン



レナカンダを治める。ミネルバを呼称して敬愛するが、彼女が叛逆してしまう。

カナリス



中央の海沿い都市ワレに二に人々を治める。戦時、ブルーレンヌに戦いを挑む。

ジョーコフ



北東部のディール城にマリアを擁護する。戦時、ワレに戦いを挑む。

ボーピン



アカネイアの王都バレスを占領して統治した。暗黒戦争で「ホルグ」の手に落ちる。

デジャニラ



アカネイア東部のホリスの領地に駐屯。ホルグが襲撃を受けるように監視していた。

ギガッシュ



グルニア東部の戦時「大馬場」を率いる。自らも戦車を用いて戦った。

ホルザード



アリティア東部の戦時「大馬場」を率いる。自らも戦車を用いて戦った。

ダクテル



アリティアの北、マクロニウス城の守衛。同盟軍と戦うようエンツェルに命じられる。

将軍配置図



大抵の広い範囲をグルニアの将軍たちが占領。いかにアカネイア軍が精強であったものの、証明といえるかもしれない。

スターロン



黒騎士団の指揮官のひとり。グルニアを守るべく、カジミア南側に同盟軍を退撃。

ラリッサ



グルニアの戦時兵の一部を率いる騎士。村人を救うようとしてユミナに手助けされる。

【暗黒竜】



【TCG】



【暗黒竜】



【TCG】

▲ ロジャー

愛(?)に導かれた重騎士

グルニアの重騎士。暗黒戦争にて、グルニア軍がワーレンに立ち寄った同盟軍を攻撃した際、シーダから説得を受けて同盟軍に加わる。すでに両親は亡くなっていたが、それでも終戦後はグルニアに戻り、戦火で焼けた故郷の復興に尽くした。



● シーダから「あなたは愛を信じますか?」と問いかけたら、ロジャーでなくとも驚くだろう……。

【TCG】



◀ ジェイク

女好きのグルニア戦車兵

グルニアの戦車兵。暗黒戦争ではバリス城外の守備にあたる。ノルダの娘アンナとは意人同士。女の子にあまいうしく、敵兵であるにもかかわらずシーダのことを心配する。そのシーダから説得されて同盟軍に加わる。あまり戦いが好きではないので、暗黒戦争終了後は軍を退き、焼け野原となった町の復興にあたった。



● 本来は人好きのする心の優しい青年であり、グルニアの侵攻には心を痛めていたようだ。

ジェイクの恋人は有名?

アンナ



赤毛のオニ・チーローに縁に指を当てられ、いきなり特徴的なアンナ家は、彼女が他のシリーズにも登場。彼女と縁、深かり所や縁の因などをあえるはず。

【新暗黒】

◀ ユミル

村人を守った勇猛な戦士

暗黒戦争期、グルニアの残党から村人たちを守った戦士。グルニアの残党を追い払ったマルスに協力申し出て、暗黒戦争を戦った。

◀ マリーシア

ちょっとおませなグルニアの少女

グルニア出身のシスターで、レナの姉に当たる少女。英雄戦争にてグルニアの反乱鎮圧にマルスがやってくると、アカネイア兵から身を守るために同盟軍に加わる。密かにマルスを慕うが、シーダの献身には納得ないと思っ身を引きいたようである。



● 祖母がマルスに向かって「望むなら嫁に」と言ったときは、まんざらでもないような様子を見せていた。

タリス王国

マルスを守った辺境の新興国

アカネイア暦579年に建てられたばかりの新興国。騎士団すら持たない小国であるが、辺境にあったこともあり、ドルーア帝国の脅威を免れていた。暗黒戦争では、アリティアから脱出したマルスたちをかくまい、後の決起まで援助を惜しまない。結果として、暗黒戦争の終結に大きく貢献することとなった。



シーダ

マルスの支えとなった優しき女王

タリスの王女。亡命してきたマルスを兄と慕って育つが、やがてその感情が愛情に変化。マルスのほうも同様だったらしく、暗黒戦争終結後に婚約し、英雄戦争終結後に結婚することとなる。

タリス島にてマルスがドルーア打倒の兵をあげると、シーダもそれに従軍。暗黒戦争、英雄戦争という2つの戦争においてマルスのそばで戦い、彼の心の支えとなった。マルスの身を常に、そして深く案じており、「もしマルスの命を召すのであれば、替わりに自分の命を」と神に祈るほどであったという。



●ガルドの海賊にタリス城が落とされ、マルスに救援を求めたシーダ。これが、マルス決起のきっかけとなる。

人を惹きつける天性の才

マケドニアの民以外では珍しい天馬騎士のシーダは、同盟軍にとって戦力としても貴重だが、それ以上に人を惹きつけて心を動かす力で、大きく同盟軍に貢献する。彼女の説得によって敵軍から同盟軍へ身を投じた者の中には、大蛇屈指の剣士であるナバルなどもおり、こうした英雄たちの力が同盟軍をいっそう強くしたのだ。

また、シーダを守るために奮戦し、あるいは彼女の戦う姿に勇気づけられる者も多かった。マルスにとっただけではなく、同盟軍全体にとっても、シーダは勝利の女神のような役割を果たしていた。



●ロレンスもシーダに心動かされた者のひとり。彼によれば、シーダは幼いころから人を動かす魅力を持っていたという。

【校章】

【暗黒竜】

【新暗黒】

【TCG】



【新暗黒】



【紋章】

▲タリス王

懐深きタリスの統一王

辺境の島国タリスの初代国王。シーダの父。もとはタリス島の一部族の長だったが、若き日のロレンスの協力を得てタリス島の統一をなしとげる。このロレンスを始め、タリス王は諸外国に多くの友を持ち、国を越えた交流関係を結んだという。暗黒戦争においてマルスたちがタリスを頼ったのも、その人柄を見こんでのことだ。

事実、タリス王はマルスたちを迎え入れ、東の誓を与えるなどして援助を惜しまない。マルスがタリス島で挙兵して大陸へ渡ろうとしたとき、タリス王は「人々と共に戦うことの大切さ」を説く。その教えは、「群の英雄」マルスの誕生に役どころになった。



④部族統一をなしとげた英雄の教えは、しっかりとマルスに受け継がれた。



【暗黒竜】



▼オグマ

情義に厚い傭兵隊長

タリス王、シーダの父娘から受けた恩に報いるべく剣を捧げる。剣闘士出身の傭兵隊長。暗黒戦争では、部下の三戰士とともにマルスに協力。終戦後にタリス島に戻るが、タリス王の要請でグルニアへ渡ると、ロレンスに力を貸す。ロレンスからユベロ、ユミナのことを託されたこともあり、2人がラングに捕らえられると単身で救出に向かう。幼い2人の保護を求めてマルスの同盟軍に合流し、そのまま英雄戦争を戦いぬいた。終戦後はタリス島には戻らず、人々の前から姿を消した。



【新暗黒】

【紋章】



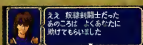
③従軍するシーダの身を守るオグマ。彼女を守ること、彼が暗黒戦争を戦いぬいた理由のひとつだろう。

④ロレンスに協力してグルニアの反乱に参加。その死を知ると、戦友の無念を少しでも晴らそうと、ユベロ・ユミナを救出。

オグマがタリスに思節を誓う理由

ノルダの最強剣闘士だったオグマは仲間たちと並んで生きて、自らの犠牲にして勝敗を成功させる。見せしめに殺されたオグマは幽霊となるが、そんな彼を救ったのが幼き日のシーダ。又とともにアカネイアに、来ていた彼女は、戦場もの場面に過りかると、涙ながらにオグマをかばう。

タリス王のとりなしで命を救われたオグマは、それ以降タリスに剣を捧げる。英雄戦争終結後にオグマが誓うのは、シーダがマルスと結ばれたことで、自らの役割を終えたと感じたからだろうか。



②サムトーはオグマの剣闘士時代の仲間。③幼き日のシーダに、その身を犠牲にしてオグマをかばったのだ。



オグマ配下の三戦士

【暗黒竜】



バーツ▶

タリスの戦士でオグマの部下。暗黒戦争では、オグマとともにマルスの軍に加わる。終戦後はアカネアの兵となるも、後に脱走。タリスには戻らず、一戦では海賊になったとも。



【TCG】

サジ



【新暗黒】

暗黒戦争期、オグマとともにマルスに軍に加わったタリスの戦士のひとり。戦争が終わるとタリスに戻り、きこりとして静かな生涯を送る。



【新暗黒】

マジ

タリス島の戦士。バーツやサジと同様、オグマの配下で、暗黒戦争ではマルスに従軍する。戦後はサジと一緒にタリスに戻り、きこりとして暮らした。

【TCG】



【暗黒竜】



●マルスの決起直後から暗黒戦争終結までの間、治療の杖で貢献し続けた。

▲リフ

辺境の村の僧

タリスの村に隠棲していた僧侶。マルスの決起後、ほとんどして軍に志願。暗黒戦争終了後はアリティアに修道院を開き、子どもたちの世話を捧げた。

【TCG】



【暗黒竜】

◀カシム

出稼ぎハンターは母思い？

タリス出身の猟師。本人が言うには「母の薬代のため」に各地で雇われ弓兵となって金を稼ぐ。暗黒戦争ではシーダから、英雄戦争ではマルスから薬代をもらうと、感激して軍に志願。英雄戦争後にはかなりの貯金ができたとあり、本当に母の薬代のために働いていたのかは不明。とはいえ、弓の腕は確かであり、従軍後は戦力としてしっかり貢献した。



●全せびりに必死なのは、例の母のためなのか、それとも……。

グラ王国

“兄弟”を裏切った王国

もとはアリティアの一部だったが、アンリの死後の後継者争いの結果、アカネイア暦537年に分離独立。以後、グラとアリティアとは“兄弟国”として同盟関係を結ぶ。しかし、暗黒戦争のメニディ川戦いではグラが突然裏切り、アリティア軍を壊滅させた。

【TCG】



ジオル▶

同盟国の背後から襲った不実の王

暗黒戦争期のグラの国王。ドルーア帝国が復活すると密かに内通。ガーネフの甘言に乗り、メニディ川の戦いで同盟国であるアリティアを裏切る。マルスにとっては父コーネリアスの敵であり、後にそのマルス率いる同盟軍によって討たれることとなる。



◎同盟軍侵入の報を受け、浮き足立つジオル。彼は、ファルシオンを求めるガーネフに利用されたのだ。



【TCG】

▲シーマ

国民の希望を背負ったグラの王女

ジオルの第二夫人の娘。皇帝ハーディンに讀まれてグラの王位に就くと、国民からの期待と希望を一身に集める。しかし、英雄戦争において、自分とグラはハーディンに利用されていたのだと痛感。さらに、マルスの高潔な行動に心打たれて同盟軍に協力した。



◎自分を支えてくれたサムソンとは恋仲に。英雄戦争後は王位を捨て、彼とバレスで暮らし始める。

【TCG】



【暗黒竜】

◀サムソン

シーマの傍らに立つ アリティア出身の勇者

アリティア出身の勇者。暗黒戦争終結後、グラの王位に就いたシーマに雇われる。ハーディンに利用されたことで敗戦を重ねたグラは、サムソンへの報酬にもこと欠くが、それでも彼はシーマの傍らに離れず、やがてシーマの告白を受けて生涯彼女を支えた。

アランドール3位とサムソンは、どちらか一方しか仲間になれない。サムソンが、こうしてグラにいるということはい……

ドルーア帝国

mamkutoたちの国

mamkutoを迫害する人間に怒ったメディウスが、mamkutoを集めてアカネア暦490年に建国。人間たちの盟主国であるアカネアを、二度も滅亡に追いこんだ。良くも悪くもメディウスが中心の国であり、メディウスが討たれると国ごと滅亡する。

メディウス▶

【TCG】

人間の増長に怒った地竜族の王

地竜族の王族。神竜王ナーガの命で地竜族の封印を監視するが、力をつけた人間が増長し、mamkutoを迫害し始めたことに激怒。ドルーア帝国を興し、mamkutoによる世界支配を企てる。アカネア暦498年にアフリに討たれるが、597年に復活。605年にマルスによって討たれると、ついに608年に暗黒竜として復活を果たす。これを倒したのは、「封印の盾」と神剣「ファルシオン」を手にしたマルスだった。

【暗黒竜】



【紋章】



ドルーア帝国のmamkutoたち

【TCG】



モーゼス▶

暗黒戦争時にアフリティアを支配し、罪なき人々を虐殺した魔竜族のmamkuto。メディウス第一のしもべといわれる。マルスの母リーザを殺し、姉エリスをガーネフに引き渡した。



【新暗黒】



【新暗黒】

ジョーゼン

火竜族のmamkuto。アカネアの王都パレスの城外に陣取っていた。手あたり次第に近づく同盟軍兵士を襲い、恐怖をもたらした。



【新暗黒】

ゼムセル

ドルーアの地にて、メディウス層城の城門を守っていた魔竜族のmamkuto。大地を犯した人間を深く憎み、同盟軍を襲った。



竜族

ドルーアに与さない竜たち

竜の力を竜石に封じ、マムクートとなることで竜族は獣化を免れた。その後人間によるマムクート迫害に対抗すべくドルーア帝国が興されるが、すべての竜族がそれに加わったわけではない。辺境でひっそりと暮らす者、人間を陰ながら導く者、ドルーアとは別の形で人間を支配する者などもいた。

神竜王ナーガと ファルシオン

ナーガは、野生化した竜族から人間を守るべく戦った神竜族の王。激戦の末に地竜族を封印したナーガは、さらに自らの牙から神剣「ファルシオン」を鍛える。そして、人間を守るようにとガトーに命じ、息を引き取るのだった。



【TCG】



【紋章】

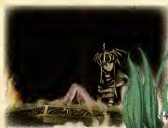


【新暗黒】

▲チキ

神竜族の王族最後の生き残り

ナーガの娘にあたる神竜族の王女。『封印の盾』が失われたことで獣化する恐れがあり、ナーガの命によって氷竜神殿で眠りにつかされていたが、チキの孤独を哀れんだバヌトゥによって人間世界へ連れ出される。暗黒戦争と英雄戦争の双方でマルスに協力。英雄戦争中に封印の盾が再び完成したので、獣化の運命から逃れられた。戦後は、パレスで仲間と囲まれて幸せに暮らしたという。



▶ナギ

異世界で眠り続ける 謎の神竜族

異世界で眠りにつく神竜族。生まれや経歴はいささか不明。神竜族の王族であるのは確かで、もう1本の神剣「ファルシオン」を持っていた。



【新暗黒】



●人間世界に出て10年ほどで、ガーネフに捕えられて術で操られる。その術がバヌトゥに解かれると、同盟軍に加わってメディウス討伐に協力した。



●獣化する運命を避けるために眠りにつかされていたが、孤独は耐えがたいものだった。封印の盾を完成させることで、マルスはチキを孤独から救おうとする。

ガトー▶

【TCG】

人間に魔道を伝えた白き大賢者

神竜族の生き残り。「人間を守るように」という神竜王ナーガの遺言を、忠実に守り続ける。竜石を捨てたので神竜になることはできないが、魔道の力に憑依している。この魔道の力を数百年前から人間に伝え、「白の賢者」と呼ばれるようになる。アカネイア暦550年には、カダインに魔道学院を設立。本格的に魔道を人間たちに伝授し始め、ミロア、ガーネブラを直弟子とする。そのほか、ウェンデルやエリスも教えを得た者たちだ。

世界の維持に心を砕き、メディウスが人間支配をもくろむと、アンリやマルスといった英雄たちを援助することでその野望を阻止。また、竜族の封印が力を失いつつあることを悟ると、マルスを導いて「封印の皿」を完成させ、これによって封印の力を蘇らせようとした。



【新暗黒】

【TCG】

バヌトゥ▶

ぬくもりを教えた チキの“おじいちゃん”

ガトーに従う火竜族のマムウート。氷竜神殿でチキのめんどろをみていたが、孤独に苦しむチキを哀れに思い、人間の村で過ごさせる。マルスの同盟軍には、ガーネブラに連れ去られたチキを探すために加わることになる。



【新暗黒】

④ チキも救うためにも「封印の皿」を完成させてほしいと、ガトーはマルスに頼む。



【新暗黒】

チェイニー▶

自由気ままな能力者

竜石を捨てた神竜族。神竜にはなれないが、他人に安身する能力を持つ。人間の増長にあきれ、人間支配に乗り出したメディウスの心情にも理解を示す。しかし、マルスのことは気に入っており、暗黒戦争と英雄戦争の双方で力を貸す。チキは妹のような存在で、たびたび彼女をからかう。

【TCG】



ペラティの支配者マヌー

アカネイア大陸東方の辺境には、ペラティ王国という島国がある。他国との交流を持たないこの国は火竜族のマムウート、マヌーが支配していた。ペラティは、同じマムウートであるドルーア帝国とも同盟関係を持たなかったが、フルニア軍に迫られた同盟軍が侵入してくると、問答無用でマルスたちに襲いかかった。



④ マヌーはペラティを「神聖なる土地」と呼び、侵入者を退治しようとした。



【新暗黒】

マヌーは、火竜族のマムウート、赤くペラティを支配していた。

カダイン

砂漠に建てられた魔道の学府

アカネイア暦550年、ガトーが砂漠に設立した魔道学院。魔道士や修道士たちの修行の場として発展する。しかし、人間が魔道を戦争や商売に利用し始めると、失望したガトーはこの地を去る。有力者の去ったカダインは、ガーネフの支配するところとなり、暗黒戦争ではドルーア帝国に与することとなる。



【紋章】

【新暗黒】



【暗黒竜】



◀ ガーネフ

世界支配をもくろんだ「魔王」

もとは才能ある魔道士だったが、師のガトーが「オーラ」をミロアに託したことに嫉妬。ガトーから「闇のオーブ」を盗み、黒魔術に手をそめる。

やがて世界支配をもくろむようになり、メディウスと手を組むが、神剣「ファルシオン」と神竜族チキを手駒とし、世界征服後は、メディウスも滅ぼすつもりであった。ガーネフの「マフー」は相手の攻撃を封じる無敵の黒魔術だが、「スターライト」に破られるという弱点を同盟軍につかれて敗北。英雄戦争では、メディウスを再び復活させるべく、各地でシスターをさらって生贄とした。



【TCG】



【暗黒竜】

【TCG】



◀ エルレーン

マリクを妬んだ若き魔道師

ウェンデルの弟子。英雄戦争時は、マリクとともにカダインを治めるよう命じられる。「エクスカリバー」を受け継いだマリクに嫉妬し、襲いかかった。



⑥ ウェンデルの説諭により改心。以後は嫉妬心を捨てて同盟軍に協力する。

▲ ウェンデル

争いを好まぬ篤実な司祭

マリク、エルレーンの師。暗黒戦争ではガーネフの支配を嫌ってカダインから脱出し、マルスの同盟軍に加わる。ユベロ、ユミナを保護するなど篤実な性格で、争いを嫌う。暗黒戦争後は高司祭としてカダインを治めるが、ガトーの命によって星のかけらの探索行に向かうことになる。

流れ者／その他の辺境

ジュリアン

守るべき宝を見つけた盗賊

もとは盗賊で、凶賊サムシアンの一員。囚われの身だったレナとともに脱出し、保護を求めて同盟軍に加わる。暗黒戦争終後は足を洗い、意中となったレナと孤児院で働く。英雄戦争時にレナがガーネフにさらわれると、彼女を救うべく再びマルスの下へ。無事レナを救い出し、戦後は一緒に暮らし始めた。



① レナとともにサムシアンから逃げるジュリアン。大切な人との出会いが彼を変えた。



【暗黒竜】

【紋章】

【暗黒竜】



ダロス

海賊から足を洗って

もとはガルダの海賊の一味だが、海賊稼業に嫌気がさしてマルスの同盟軍に投降。暗黒戦争後、船乗りとして気ままな生活を送る。

【TCG】



【暗黒竜】

リカード

懲りないジュリアンの弟分

ジュリアンの弟分の盗賊。アカネイアを中心に活動するが、へまをしてグルニアの占領軍に捕まる。そこを救われて、同盟軍に加わった。足を洗った兄貴分と違い、英雄戦争後も懲りずに盗賊稼業についているという。

アカネイアの賊たち

ラーマンの盗賊



ダール

ラーマン神殿を司る盗賊の首領。ナパールを雇っているが、裏切られる。

【紋章】

マケドニアバイキング



ガイル

バイキングの黒。マケドニア・グルニア付近の間の海を盗るし回っていた。

【紋章】

海賊

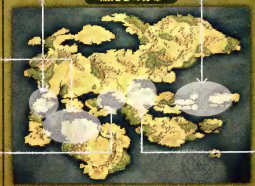


バフス

オレルアン付近を巡らしていた海賊の首。村から子どもたちをさらった。

【暗黒竜】

賊たちの分布



ガルダの海賊



ガザック

ガルダの海賊。タリスを輸入し、城を制圧する。マルスに討たれている。

【新地図】



ゴメス

ガルダの海賊の首。大陸東方を巡ら回り、一時はガルダを支配していた。

【新地図】

サムシアン



ハイマン

「サムシアン」の首領。サムシアン」と呼ばれた海賊の首領。

【新地図】

【戦記】



【紋章】



▲ ナバルル

大陸に名の知れた紅の剣士

「紅の剣士」として知られる大陸屈指の凄腕剣士。若い主をあまり選ばないのか、暗黒戦争期にはサムシアンに、英雄戦争期にはラーマンの盗賊に雇われていた。とはいえ、好んで凶賊に手を貸すわけでもないようで、暗黒戦争では、シーダの説得を受けて同盟軍に加入。この戦いを通してマルスを認めたのか、英雄戦争でフィーナに助けを求められると、彼女を伴って自ら同盟軍へ加わっている。宮仕えには興味がなく、戦いが終わると、常にどの国に仕えることもなく風のように姿を消す。



③フィーナを伴い、アリティア軍と合流を図るナバルル。フィーナのおしゃべりに、クールなナバルルも顔色が狂い気味か。

【TCG】



【紋章】



▲ フィーナ

風を追う踊り子

ワレン出身の踊り子。旅の一座からはぐれたところをラーマンの盗賊に捕まりそうになり、ナバルルに助けを求める。ナバルルとともに同盟軍に加わると、その踊りで多くの兵を力づけたという。英雄戦争終結後、ナバルルのあとを追うかのように風のように姿を消す。

【暗黒竜】



【TCG】



【新暗黒】

◀ サムトー

剣闘士上がりの傭兵はナバルルの偽物!?

英雄戦争において、「ナバルル」を騙ってラングに雇われていた剣士。外見がナバルルと似ているので人違いされることが多く、聞き直して「ナバルル」を名乗るようになったらしい。もとはノルダの奴隷剣闘士で、自分たちを脱走させてくれたオグマは命の恩人。オグマに恩返しをすべく、同盟軍に加わった。

ワーレンを守る傭兵コンビ

港湾都市
ワーレン

大陸東部に位置する貿易港で知られる独立都市。ドルーア帝国に対して多額の税金を支払うことによって自治を保つ。いっぽう、アカネイア諸国とも友好関係を保ち続けたこの都市は、暗黒戦争期では数少ない中立地帯であった。

シーザ

ワーレンの町を守っている傭兵。ワーレンで同盟軍がグルニア軍に包囲されたとき、助力を申し出る。暗黒戦争後は、どこかの町を守っているとも、一軍の将になったともいわれる。



【暗黒竜】

【TCG】



【TCG】



【暗黒竜】

ラディ

ワーレンを守る傭兵。相棒のシーザとともに、グルニア軍の包囲網を同盟軍が突破できるよう協力する。相手は不明だが、暗黒戦争のさなか恋に落ち、戦後は剣を捨てたという。



【暗黒竜】



【新暗黒】



【新暗黒】



アテナ

恩義に報いる異国の剣士

暗黒戦争時、オレルアン近郊の村で同盟軍に加わった女剣士。漂流して衰弱したところを村人に助けられ、その恩に報いようと海賊と戦った。異なる大陸から流れ着いたのか、片言の言葉で話す。

【新暗黒】



▲ベック

辺境出身の戦車兵

大陸東部の辺境ディール出身の戦車兵。暗黒戦争期、メニディにてグルニアの木馬隊に苦しみ同盟軍に加勢する。戦後は辺境を巡り、ドルーアの残党掃討にあたった。

◀エッツェル

妻を奪った戦争を終わらせるために

旅の闇魔道士。メニディ川の戦いに巻きこまれ、妻アーシェラを失う。妻の指輪を盾にグルニア軍への協力を強要されるが、グルニア軍をマルスが討つと、戦争を終わらせるため同盟軍に志願した。

バレンシア大陸



BARENSIA SAGA

バレンシア大陸には2人の神が存在していた。
 ひとりには優しさと美しさ、
 そして自然との調和を司る煉神、大地母神ミラ。
 もうひとりには力と欲望。
 そして自然の征服を司る兄神、邪神ドーマ。
 永きに渡って対立してきた兄妹は、
 やがて盟約を結び、バレンシア大陸を2つに分かつ。
 北の地を治めるのはドーマ。
 その地には、リゲル帝国が建てられた。
 南の地を治めるのはミラ。
 その地にはやがてソフィア王国が生まれた。

時が流れ、人々はやがて神を忘れ、
 リゲル帝国の人々は、
 たくましがゆえに優しさを失い、
 ソフィア王国の人々は、豊かながゆえに墜落した。

そして、戦乱の世が訪れる。
 凶作にあえぐリゲル帝国は、
 皇帝ルドルフの下、ソフィア王国へ侵攻。
 ソフィア王国を牛耳っていた宰相ドゼーは、
 戦いもせずに降伏した。
 大陸は戦火と虐政に覆われ、
 人々は救世主の出現を願った――。

やがて、2つの希望の灯が大陸に燈る。
 解放軍に身を投じたアルムと、
 ソフィア王家の王女セリカ。
 ほんの小さな2つの灯火は、やがて大陸の闇を
 払わんほどに輝きを増してゆくことになる――。

伝説の時代

◆アカネイア暦年表

7

- ・兄妹神ドーマとミラ、バレンシア大陸の統治をめぐる対立。
- ・ドーマとミラの間に盟約成立。大陸北部をドーマ、大陸南部をミラが治めることに。
- ・大陸北部にリゲル帝国、大陸南部にソフィア王国がそれぞれ興る。

590年頃

- ・アムル、セリカ生まれる。
- ・人間の墜落により、大地母神ミラの力が衰退。大地から恵みが減りはじめ。
- ・リゲル帝国、3年連続の凶作にみまわれる。
- ・リゲル帝国のルドルフ帝、ソフィア王国に援助を請う。しかし、ソフィア王リマ4世はこれを拒否。
- ・ルドルフ、わが子アルムをマイセンに託す。
- ・ソフィア王国の宰相ドゼー、王子、王女の暗殺を開始。セリカはマイセンに救出される。
- ・アルムとセリカ、マイセンの庇護の下、ラムの村にて育つ。
- ・セリカ、ノーヴァ修道院へ入る。

604年

- ・ミラ、ファルシオンによって封印される。ソフィア王国領でも凶作始まる。
- ・リゲル帝国、ソフィア王国へ侵攻。ソフィア王国を支配していたドゼーは、リマ4世を弑逆し、直ちにリゲル帝国に降伏。帝国のソフィア支配に手を貸し、自らの地位を守る。

606年

- ・アルム、解放軍に参加。リダーとして迎えられ、ドゼーの支配への反抗開始。
- ・セリカ、ミラ神殿へ向かうべくノーヴァから旅立つ。
- ・解放軍、ソフィア城を奪還。ドゼー、リゲル帝国に援軍を求める。
- ・解放軍、ドゼーを撃破。ソフィア王国北部のリゲル帝国軍を撃退。ソフィア王国解放に成功。
- ・セリカ、大陸東部の盗賊勢力を駆逐。
- ・ミラが封印されたこと知ったセリカ、封印を解くためリゲル帝国領ドーマの塔を目指す。
- ・セリカ、ドーマ教団の最高司祭ジェダに囚われる。
- ・解放軍、リゲル帝国に進軍。ルドルフ1世を撃破する。
- ・アルムがルドルフ1世の息子と判明。帝国民は「ルドルフ2世」としてアルムを熱狂的に迎える。
- ・アルム、セリカを救出。邪神ドーマを討つ。
- ・アルム、バレンシア統一王に即位。セリカを王妃として迎える。

ドーマとミラの対決と2つの国の勃興

神話・伝説の時代

兄妹神であるドーマとミラは、バレンシア大陸の統治を巡って対立する。優しさと美しさを司る妹神ミラは、生き物が自由に遊び戯れる楽園を夢見た。だが、力と欲望を司る兄神ドーマはそれを墜落と見なし、力こそがすべてという弱肉強食の世界を求めたのである。互いに相いれぬ神々は永きにわたって争い、そして、ひとつの盟約をかわす。バレンシア大陸を南北に分ち、ドーマは北を、ミラは南をそれぞれ治めることとしたのである。

そして、バレンシア大陸には2つの国が生まれた。北には騎士の国のリゲル帝国。彼らはその強さで、大陸を外敵から守る。南には文化の国のソフィア王国。実り豊かなその大地は、人々に日々の糧を与え



た。異なるがゆえに均衡を保つ両国。しかし、時の流れが、そんな両国の在りようにひずみを生じさせる。そして、大陸北部に凶作が訪れたとき、そのひずみは戦火となって大陸を覆うこととなる。

大陸を襲った凶作と皇帝ルドルフの決意

バレンシア動乱

ソフィアの民が自然との共存を忘れたことにより、ミラの力は衰退の一途をたどる。ミラの力は、バレンシアの実りの力。その衰退は、リゲル帝国の3年連続の凶作という形で現れた。

リゲル帝国の皇帝ルドルフ1世は、困窮する国を憂い、南のソフィア王国を訪れて援助を求めた。ミラの支配地であるソフィアには、まだ実りの力が残っていたのだ。ところが、時のソフィア王リマ4世は、宰相ドゼーの甘言に乗り、余裕があるにもかかわらず援助を拒絶してしまう。失望したルドルフ皇帝は、ソフィアへの侵攻を決意。そして、ソフィアの騎士マイセンに我が子を託し、リゲル帝国へと戻るのだった。



【ルドルフ】

【マイセン】

ルドルフと
マイセンの
密約

侵略者となった自分は、いずれ勇者に討たれる。ルドルフは我が子とその勇者になることを望み、アルムをマイセンに託した。

バレンシア動乱

リゲル帝国の侵攻と動乱の始まり

ソフィア王国でクーデターをもくろむ宰相ドゼーは、手始めに王子王女の暗殺を開始。マイセンがその罪を問うも、逆にドゼーによって宮廷から追い出される。生き残った王家の子息は、マイセンが密かに救った幼い女王セリカのみだった。それからおよそ10年、リゲル帝国軍がソフィア王国へと侵攻する。本来なら、神々の盟約によってリゲルとソフィアは戦えないはず。しかし、

皇帝ルドルフはドーマから与えられたファルシオンでミラ神を封印し、盟約を無効にしたのだ。この脅威に、ドゼーは国王リマ4世を弑逆し、戦いもせずに降伏。ソフィアを守るところかりゲルの手先となり、率先してソフィアの民を虐げた。

さらに、大地母神ミラの力が弱えて、ソフィアからも実りが消える。凶作と戦場の中で辛苦にあえぐ人々は、救世主の出現を祈るのだった。

解放軍から生まれた希望の光

ラムの村で育ったアルムは、ドゼーとリゲル帝国の圧政からソフィアを救うべく、解放軍に加わる。解放軍のリーダーのクレベは、マイセンの孫だというアルムに指揮権を譲渡。解放軍を率いることになったアルムは、ドゼーを、そしてリゲル帝国軍をソフィアから駆逐する。

さらにリゲル帝国領へ進軍し、皇帝ルドルフを討つアルム。最期のときを迎えたルドルフは、自分とアルムが親子だと明かすと、アルムに邪神ドーマを滅ぼすよう言い遺す。

アルムの進軍ルート



解放軍と合流したアルムはまずソフィア城を解放。大陸西部を転戦し、リゲル帝国まで攻め上る。そして、ルドルフの遺言に従ってドーマ討伐へ。

大地母神ミラの復活のために

凶作が頻くのは、ミラ神になにか異変が起きたからではないか。そう考えたセリカは、ソフィア王国の北東にあるミラ神殿へと旅立つ。大陸東部に跋扈する賊を討ちながら北上したセリカは、ミラ神殿に到達。そこで彼女は、ルドルフがミラを封印したこと、そしてドーマの塔に至ればミラを復活できるかもしれないことを知る。ドーマのしもべたちと戦いつつ、ドーマの塔を目指すセリカ。しかし、彼女は、ドーマ教団の祭師長ジェダに囚われてしまう。

セリカの進軍ルート



ノーヴァ修道院を出たセリカは、海賊や盗賊を討ちながら大陸東部を北上。ミラが封印されたと知り、その封印を解くためにドーマの塔へ向かう。

邪神ドーマの討伐とバレンシア統一王国の誕生

凶われのセリカを救って邪神ドーマを討つべく、アルムはリゲル城の地下通路を通してドーマの塔へ急ぐ。窮地に陥ったセリカと合流すると、アルムは塔の地下で見つけた「ファルシオン」を手にとり、ドーマに戦いを挑む。死闘の末、ついにドーマに打ち勝つアルム。しかし、封印されゆくドーマがアルムに残したのは、意外な言葉であった——「我ら兄妹の意思を受け継ぎ、この地を治めよ」。

これまでバレンシアの神々は、人間に深くかわりすぎた。ドーマが力を与えたリゲルの民は優しさを忘れ、ミラが恵みを与えたソフィアの

民は働くことを止めた。神の過剰な干渉が、人の歩みを重めていたのだ。ファルシオンによってミラもドーマも眠りにつくことになるが、そもそもこのファルシオンをルドルフに与えたのはドーマ自身である。人間たちを解き放つために、神は自分から眠りにつこうとしたのかもしれない。

リゲル帝国の皇子アルムと、ソフィア王国の女王セリカの結婚により、バレンシア大陸は統一されることとなる。統一国家バレンシア王国の誕生。それは、人々が神の手から自立し、自分たちの足で未来へと歩み始めたことの象徴となった。

解放軍

圧政に立ち上がった義勇の軍勢

ソフィア宰相ドゼーやリゲル帝国による王政から民衆を解放するために立ち上がった抵抗勢力。当初はクレベをリーダーとしていたが、後にアルムを指揮官に迎え、ソフィア、リゲルの両軍勢と戦う。アルムがリレンシアを統一した後は、統一王国の騎士団に解放軍の多くの者が参加することになる。



アルム▶

混迷するバレンシアに生まれた
希望の光



リゲル帝国皇帝ルドルフ1世の実の息子。本名をアルバイ
ン・アム・ルドルフといい、右腕に十字のあざがある。物
心つかないうちにマイセンに託され、孫としてラムの村で育
つ。ソフィア王女の王女であるセシラには、幼いころの一時期、
ラムの村で一緒に暮らしていた。マイセンの魔力を仰ぎに
ガラムの村に現れると、自ら志願して解放軍に加入。解放
軍リーダーのレベッカから解放軍の指揮を任せ、ソフィア、
リゲルの両国を相手に戦い始める。ルドルフの血を引き、
マイセンに敵対するアルバイは、指揮官として才能を開花さ
せ、王政から民衆を救い、神聖ドマを封印した英雄となる。

動乱終結後はセリカと結婚。バレンシア王国の初代国王となり、大陸を統一する。後世の人々は、彼を千年王朝の基礎を築いた「聖王アルム」世として讃えたという。



⑤ マイセンにかわって解放軍に加わることを決めたアルム。小さなラムの村から旅立った少年は、やがてバレンシアを導く希望の光となる。

マイセン▶

後事を託された
ソフィアの將軍

かつては英雄として知られたソフィア王国の騎士。その高貴な家系を見こまれ、リゲル帝国のエルルフ1世からアルムを託かる。また、ソフィアの王女セリカを宰相ドゼーの暗殺の手から救出。リゲル、ソフィアの継承者争い方ととも保護することとなる。アルムとエルルフの相愛を避けようとする解放軍への協力と断るが、アルムが解放軍に捕縛したため、子ガ父を討つという悲劇となる。その後は解放軍に参加し、バレンシア王国成立後は宰相となってアルムを輔佐した。



④ アルムが解放軍に加わることに反対するマイセン。父と子の相克を避けたかったのだが……。

●バレンシア大陸のキャラクターイラストは、すべて「ファイアーエムブレム 外伝」のものです





●マイセンのかわりに、自分たちを率いてほしいとアルムに頼むクレーベ。以後は、アルム指揮下の一騎士としてバレンシアの動乱を戦い抜いた。



▲ クレーベ

アルムに解放軍を託した
元リーダー



ドゼーの圧政からソフィア王国を救うべく立ち上がった解放軍のリーダー。クレアの兄で、マチルダとは恋人同士。マイセンに新たな王になってもらおうと考えたが、マイセンはそれを固辞。そこで、孫であるアルムに代役を期待し、解放軍の指揮を委ねる。バレンシア王国成立後は、騎士団を任されることになる。

クレーベの信任厚き部下

フォルス

クレーベに従って戦っていた解放軍の兵士。クレーベの方針に従い、アルムの指揮下に入る。動乱終結後は、バレンシア王国の騎士団に参加し、バレンシアの復興に尽力した。



パイソン

解放軍の弓兵。解放軍のアジトでは見張り役を務める。アルムに従って各地を転戦するが、動乱終結後はバレンシア王国の騎士団には加わらず、自警団を結成して村人を守ったという。



◀ マチルダ

囚われた
解放軍の女騎士

解放軍に所属する聖騎士。クレーベとは恋人。ドゼーの捕虜となり、見せしめに処刑されそうになるが、アルム率いる解放軍によって救出される。その実力は“伝説の女騎士”と呼ばれるほどであるが、戦争終結後は軍から退くことになる。やがてクレーベと結婚し、騎士ではなく妻として暮らし始める。



◀ ルカ

アルムの解放軍参加の
きっかけとなった兵士

解放軍の兵士。マイセンに解放軍への協力を求めるために、ラムの村を訪れる。これをきっかけとして、アルムは解放軍に志願。ルカはそれを喜び、アルムを解放軍のアジトまで案内する。解放軍の指揮権がアルムに移ったあとも、その下で数々の戦いに参加。バレンシア王国成立後は、王国騎士団の一員となった。



▲ クレア

クレーベの妹は
解放軍のアイドル？

解放軍の一員でクレーベの妹。バレンシア大陸では珍しい天馬騎士。ドゼーの配下に囚われていたところをアルムに救われ、以後、彼の下で戦うことになる。密かにアルムに惹かれるが、アルムの幼なじみのグレイ、ロビンから猛烈な恋の攻撃を受けることになる。動乱終結後、しつこきに負けてグレイと結ばれた。

◀シルク

解放軍を支える
ミラ神のシスター

大地母神ミラを信奉するシスター。盗賊たちに囚われていたところをアルムたちに救われ、以後行動をともにするようになる。動乱終結後は、傷ついた人を助けるためにリゲル帝国で活動した。



④ アルムに助けられ、シルクは盗賊のアジトから脱出。その後解放軍に入る。

ラムの村で育った
アルムの幼なじみ
グレイ

ラムの村の村人。幼なじみのアルムたちとともに解放軍に志願する。ロビンとのクレア争奪戦に勝ち、みごとに彼女と結ばれる。



ロビン

幼なじみと一緒に解放軍に加入したラムの村の村人。グレイとはクレアを争う悪敵ともなる。動乱終結後はバレンシア騎士団に参加。



クリフ

アルムらと幼なじみの村人。皆が解放軍に加入すると聞き、自分も志願した。動乱終結後、アルムに別れを告げて姿を消す。



リ्यूート▼

妹を救うために
闘う魔道士

妖術師タタラに操られた妹デューテを救うために、解放軍に助けを求めた旅の魔道士。アルムたちの協力を得てタタラを倒し、妹の洗脳を解くことに成功する。その後、妹とともに解放軍の一員として戦い、リゲル帝国軍の撃破に貢献。ただし、本人は自分の魔力はまだ未熟と考えており、バレンシア大陸の統一を見届けると、修行のために他の大陸へと旅立った。



⑤ 森の村でアルムと出会ったリ्यूートは、妹を助けようと願う。



◀デューテ

妖術師に操られた
リ्यूートの妹

リ्यूートの妹。優れた魔術の才ゆえに妖術師タタラに目をつけられ、操られることになる。解放軍がタタラを討ったことによって呪縛から解き放たれると、兄とともに解放軍の一員として活動。破壊の魔力を振るう自分が好きではなかったらしく、動乱終結後は魔力を封印し、普通の女性として生活する道を選んだ。

⑥ タタラの呪縛で意思を奪われていたデューテは、死と破壊をふりまく魔女化した。



ノーヴァ修道院

ミラの声聞くために

バレンシア大陸の南東に浮かぶ小島に、ノーヴァ修道院はある。ソフィアから実りが消えて3年、ミラの救いを静かに伝えるこの修道院にも、難民が助けを求めて訪れるようになっていた。ミラ神になにか異変が起こったのでは……。それを確かめるために、セリカは修道院の仲間たちとミラ神殿へ旅立った。



セリカ▶

ミラが治める大地の 正当な後継者

ソフィア王家唯一の生き残り。本名はアンターゼ。ドセーが王家の子息を暗殺し始めたとき、マイセンに救われ、数年ほどラムの村でアルムと暮らした。その後、ラムの村にも暗殺の手が伸びる危険があることから、セリカだけノーヴァ修道院に預けられる。この修道院でミラの救いを修め、神官戦士となる。

ソフィアに凶作が続くと、セリカはその原因を探ろうとミラ神殿へ向かう。修道院の仲間たちと盗賊団討伐を行いつつ、大陸東部を北上。神殿に到着した彼女はミラが封印されたと知ると、その封印を解くべくドーマの塔を目指した。ドーマ教の祭祀長ジュダによって囚われの身となるが、窮地をアルムに救い出され、共闘してドーマを討ち果たした。

後にセリカはアルムと結ばれ、統一されたバレンシア王国の初代王妃となる。その優しさと聡明さでアルムを支えたセリカは、「ミラの生まれ変わり」ともいわれ、バレンシアの民から敬愛されたという。



●大地母神ミラに何が起きたのか？ その真相を知るために、セリカは修道院から旅立つ。

セリカとともに旅だった ミラの信徒たち

メイ

セリカとともに修道院で学んだ女魔道士。ボーイとはいけん力仲間。バレンシア大陸統一後は修道院へ戻り、ボーイと一緒に働いている。



ジュニー

ミラ教のシスター。セリカとともにノーヴァ修道院から旅立つ。動乱終結後は、誰もがまさかと思う相手と恋に落ち、結ばれたらしい。



ボーイ

ノーヴァ修道院で学んだ魔道士。セリカとともに旅立った一行の中では唯一の男性。メイとはことあるごとにけんかしているが、それが好意の裏返しであることにお互い気づいていない。

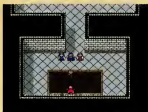


ノーマ

セリカを教え育てた
ミラ教の大神司

ミラ教の大神司。ラムの村が危険だと考えたマイセンからセリカを託され、彼女をノーヴァ修道院で神官騎士として育てる。そのため、セリカがソフィア王家の生き残りであることを知っている数少ない人物である。

セリカの旅立ちを見送りはしたものの、心配になって後に会流。ドーマとの決戦にも参加する。バレンシアの統一後は、ミラとドーマの2つの教団を統合。その最高司祭となつて、信徒を教え導いた。



●セリカを始め、メイ、ジェニー、ボーイは、全員ノーマの教え子だ。



バルボ

海賊退治に
闘志を燃やす好漢

家族を海賊に殺され、その敵を討とうと海賊の首領ダッハのアジトに乗りこんだ重装兵。レオ、カマイを引き連れているものの、それでも多勢に無勢で窮地に陥っていた。そこをセリカら修道院の一行に救われ、彼女と行動をともにするようになる。性格は豪放磊落。賊を憎み、その後も盗賊王ギース討伐などでも活躍。バレンシア王国が統一されると、アルムに騎われて王国騎士団の若者を鍛え上げる指南役に就いた。



バルボの手下たち

レオ



バルボを「兄貴」と呼んで従う弓兵。バルボとともにダッハ討伐に向かい、セリカたちと出会う。統一後のバレンシア王国では騎士団に参加する。

カマイ



バルボに置かれ、海賊退治に同行した傭兵。セリカ一行では、セーバー、ジェシーら同業と意気投合。動乱終結後、ジェシーの王国樹立に協力する。

セーバー

セリカが港で出会った
用心棒

ノーヴァの港でセリカに雇われた用心棒。セリカの旅立ちの早い内から修道院一行を守った。動乱終結後はジェシーに協力し、ともに砂漠の王国を建てた。美しい妻を迎えたというが相手は不明。修道院のあの娘か。



アトラス

盗賊王ギースを憎む
山の村人

ソフィア王国北部の山の村に住む村人。弟や妹をさらったギースを憎んでおり、ギース討伐に向かうというセリカ一行に加わる。

動乱終結後、弟たちを無事に見つけ出すと村へ戻り、きこりとして静かに暮らす。



ジェシー

ギース打倒に協力する
砂漠の傭兵

ギースを討ちに向かうセリカ一行に加わった傭兵。動乱終結に力を貸した後、無法地帯と化していた砂漠へ向かって新王国樹立に力を尽くす。後に砂漠の国の王となった彼は「砂漠の傭兵王」と呼ばれたという。



ソフィア王国

豊かさゆえに墮落した国

大地母神ミラの加護の下に興った国。大地の実りに恵まれるが、その豊かさに慣れた人々はやがて感謝の心や自律心を失い、怠惰で放埒になる。国王リマ4世などは、隣国の窮状を知っても、手をさしのべるどころか嘲笑う始末。彼の傲慢な態度が、バレンシア動乱を引き起こすことになる。



◀ドゼー

主君を暗殺した佞臣

ソフィア王国の宰相。暗君リマ4世を傀儡同然に操り、王国の実権を握る。反逆を企み、その手始めとして王族の子息の暗殺を開始。それをマイセンに咎められるが、リマ4世をそのかして、逆にマイセンを追放することに成功する。ソフィア王国がリゲル帝国の侵襲を受けると、これを好機と見てリマ4世を弑す。直ちにリゲル帝国に降伏し、その手先としてソフィアに圧政を敷いた。後に解放軍によって討たれる。

ソフィア王国の將軍

スレイダー



ソフィア王国の騎衛士。ドゼーの親衛隊の隊長。漢語として知られ、ドゼーに反発する者に恐れられていた。ソフィア城を守護していたが、アルム率いる解放軍によって討たれる。

リゲル帝国

剽悍なる騎士の国

力と欲望を司る邪神ドーマの加護の下に興った国。厳しい規律の下、精強な軍を擁する。大地母神ミラの加護がソフィアに比べて薄いので、ミラの力が衰えたことによって凶作にみまわれることになる。そして、帝国が実りを求めてソフィア王国に侵襲したことにより、バレンシア動乱が勃発する。



◀ルドルフ

英邁な皇帝が
侵略者となった理由

ソフィア王国に侵襲し、バレンシア動乱を引き起こした皇帝。困窮にあえぐ自国民のためにソフィア王国へ援助を求めるが、リマ4世に拒否される。大陸そのものが衰亡しかねないと危ぶんだルドルフは、自分を捨て石とすることを決意。まず自身が力を持って大陸全土を制圧。その後、しかるべき英雄に侵略者である自分が討たれることで、大陸を1つにまとめようとしたのだ。できれば、大陸を統一する英雄が我が子であってほしいと考えたルドルフは、息子アルムをソフィアの騎衛士マイセンに託す。後にルドルフを討ち、大陸の救世主となった解放軍のリーダーは、ルドルフの望んだとおり息子のアルムであった。



④ 解放軍のリーダーとなったアルムと対峙したとき、ルドルフは反撃することなくアルムの攻撃を受け続けた。英雄となった我が子の成長を身をもって受けることは、善法を決断した彼にとって喜びですらあったかもしれない。



マッセナ

リゲル帝国の総指揮官。ルドルフからすべての事情を聞かされており、ルドルフ敗北後の帝国軍をまとめ、アルムに引き継がせる役を担った。



ジーク

記憶をなくした
最強騎士

リゲル騎士団の将軍。重傷の状態で海岸に流れ着いたところを発見され、ティータの看病で命を取りとめる。過去の記憶を失っていたが、そんな自分に名前を与えてくれたルドルフの人格にうたれて忠誠を誓う。リゲル帝国によるソフィア侵攻には反対していたが、意人となったティータを人質にとられてやむなく従軍。ティータが解放されたと知ると、民を苦しめていたジェロームを討ち、アルムに協力して解放軍の一員となる。



◎「十字のあざを持つ者あらば、その者にすべてを捧げよ」というルドルフの言葉を思い出し、ジークは解放軍に加入。十字のあざを持つ我が子アルフのために、ルドルフがそうジークに伝えていたのだろう。



ティータ

ジークを想う
リゲルの聖女

癒しの力を使うリゲル帝国の聖女。海岸に倒れていたジークを見つけて看病。やがて、ジークと恋に落ちる。戦争に反対だったジークに対する人質として妖術師のヌイバリに捕らえられるが、解放軍によって救出される。以後は解放軍の一員として従軍し、バレンシアの戦乱を止めるために尽力する。ジークを深く愛しているが、それゆえに、いつか彼が記憶を取り戻したら自分のものを去るのではないかと、不安に思っている。



◎ジークを裏切らせないための人質として囚われていたティータ。彼女が救出されたと聞いたジークは、非道な行いを繰り返していた将軍ジェロームへと軍を向けるのだった。

ジークの正体は?

記憶を失っているというジーク。その前は、アカネイア大陸のブルニアの将軍カミュにうけつた。将軍戦争に敗れたカミュ将軍は戦死したという話だったが、死体は見つかっていなかった。もし彼が、バレンシアに流れ着いたのだとしたら……
バレンシア動乱を戦いぬいたジークは、戦いの中で記憶を取り戻したという。彼がカミュであり、過去から逃げずに向き合おうとするなら、なんらかの形で一度アカネイアに戻るかもしれない。



リゲル帝国の将軍

ローソン

ドゼーの援軍要請に応え、ソフィアの森に進駐した聖騎士。解放軍と最初に衝突したリゲル帝国の将軍となる。



ガゼル

ソフィアの森の北、国境の水門へと至る路上で解放軍と交戦。騎馬弓兵であり、配下にも弓兵が多かった。



シーザス

リゲル鎮の国境の森林地帯で、解放軍を迎撃。バレンシア独自の兵科である黄金騎士(上級聖騎士)だった。



ジェローム

自国内の村からも略奪するような強欲な将。その非道さに反発したジークに、攻められることとなる。



マグナム

リゲル城の南にある大滝で解放軍を迎え撃った将軍。魔女のヘステと連携して攻め、解放軍を苦しめた。



ミュラー

リゲル城の目前、難攻不落の要塞を守っていた騎馬弓兵。精鋭部隊を率い、解放軍をくい止めようと奮戦。



ギースの盗賊団

砂漠に拠って立つ盗賊たちの“王国”

バレンシア動乱期、ソフィア王国東部の海と砂漠には、海賊や盗賊たちが跋扈していた。この賊たちを統括するのが、盗賊王ギースである。ほとんどが不毛の砂漠とはいえ、影響下に置かれた土地は広大。ソフィア王国からの干渉もなく、その支配地はまさにギースが治める“王国”といえた。動乱終結後も、これらの地域はバレンシア王国に組みこまれず、ジェシーによって新王国が築かれる。

ギース

砂漠の盗賊王

バレンシア動乱期、ソフィア王国東部を支配していた盗賊・海賊たちの“王”。絶大な勢力を誇るが、セリカー一行によってギースが討たれると、彼の王国は崩壊するのだった。



ディーン

ギース配下の凄腕傭兵

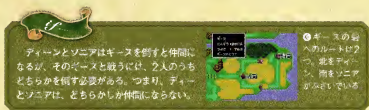
ギースに雇われていた凄腕の傭兵。悪行ばかりを重ねるギースに愛想をつかしていたが、ソニアと互いを牽制し合っていたため、裏切ることができなかった。ギースが討たれると、セリカへの協力を出る。バレンシア動乱が治まると、新たな戦いの場を求め、南の大陸へ渡ったという。



ソニア

父の魔の手から逃れて

ジュダの娘。マール、ヘステの妹。ジュダによって魔女の身に墮とされそうになったため逃げ出し、砂漠に身を寄せる。ギースに雇われていたが、従うのは本意ではなかったように、ギースが討たれるとセリカー一行に加入。後にジュダや魔女となった姉たちと戦うことになる。



ディーンとソニアはギースを倒すと仲間になるが、そのギースと戦うには、2人のうちどちらかを倒す必要がある。つまり、ディーンとソニアは、どちらかしか仲間にならない。



①ギースの倒へのルートは2つ。北をディーン、南をソニアがふたつでいる。

ギース配下の賊徒

ダッハ

バレンシア大陸南東部を荒らし回っていた、海賊たちの首領。バルボの家族を殺した賊でもある。アカネイア大陸の東トを捕らえ、ギースに渡したのは、このダッハの配下の海賊の仕業と考えられる。



ガッハ

ソフィアの港のすぐ北の海岸を支配していた盗賊。アカネイアからやってきたパオラ、カチュアを捕らえようとしていた。ミラ神殿を目指すセリカー一行によって討たれる。



ブライ

「暗黒の剣」という魔剣を操る傭兵剣士。ミラ神殿へ至る道の途中にある谷で、部下の傭兵たちを率い、道行く人を襲っていた。通りかかったセリカー一行に襲いかかり、返り討ちに遭うことになる。



ウォルフ

ソフィア王国東部に広がる砂漠の、中央に位置する砦を守るギース配下の狙撃弓兵。大量の弓兵を率い、砂漠で移動に困った者を狙撃しようとする。ギース討伐に向かうセリカたちには討たれる。



ドーマのしもべたち

邪神ドーマに従いし者たち

邪神ドーマを信奉する者たちのすべてが、邪悪というわけではない。とはいえ、破壊の魔法や邪悪な術を使う者が多いのもまた事実。とくにジュダが総長になってからは妖術師、術師、魔女たちが教団内で力を増し、おなじドーマの信徒を捕らえることさえあった。ドーマのしもべには個性豊かな者もいるが、これは名状しがたい姿をしたドーマ(右の写真がドーマの真の姿)の力を、色濃く享受した証なのかもしれない。



◀ ジュダ

ドーマ復活を画策する魔王

ドーマ第一のしもべを自負する、ドーマ教団の総長。実の娘であるマーラ、ヘステを魔女としてドーマに捧げるなど、陰湿な性格をしている。ドーマ教の大賢者ハルクを追い落とし、教団を掌握すると、ドーマの完全復活と、そのドーマによるバレンシア支配を画策。人の苦しみこそがドーマにとって最上の食である信じ、教団の妖術師たちを各地に派遣して、死と苦しみをもたらす。セリカ一行を捕らえてなぶり殺そうとするが、アルム率いる解放軍が救出。合流したアルム、セリカたちによって討ち滅ぼされる。

父の手により魔に堕ちた姉妹

マーラ

ジュダの娘。ソニアの姉。父の手により魔に堕とされ、破壊衝動にとらわれた魔女と化す。殺すことでしか、彼女を救済する術はない。



マーラと同じく、魔女に堕とされたジュダの娘でソニアの姉。一度解放軍に討たれるが、ジュダの術でマーラとともに復活。再度解放軍を襲う。



ヘステ



◀ ハルク

セリカに手を貸した大賢者

ドーマ教の大賢者。ジュダと対立するが闘争に敗れ、賢者の里へ逃れて隠棲を始める。ドーマの信徒の中では珍しく破壊を好まず、賢者の里が平穏なもの、彼が里を守っているからこそであった。

セリカが賢者の里を訪ねると、「ミラを封じたファルシオンは、現在ドーマの塔に納められている」と教えてくれる。さらにセリカの願いを聞き入れ、遠く離れたアルムにドーマの加護を与える。バレンシア動乱終結後、ドーマ教はミラと統合されるが、その最高司祭の座はノーマに譲ったようだ。

バレンシアの妖術師たち



タタラ

ソフィア・リゲル間の国境にある水門を守っていた妖術師。デューテを洗脳して魔女とし、解放軍を襲った。



ミカエラ

ミラ神殿を掌握していた、ドーマ教の妖術師。魔物ガーゴイルを召喚すると、セリカ一行の襲撃を指示した。



ガルシア

死人の沼を支配していた妖術師。ミカエラと同様にガーゴイルを呼び出し、セリカの行く手を阻んだ。



ドルク

死人の沼の西方の壺を与えられた妖術師。ジュダから侵入者を殺すよう命じられる。強力な魔物である蛇竜を召喚する。



ジャミル

ドーマの塔への道をふさぐドーマの門を守っていた妖術師。その呪力は強大で、大地をも揺るがした。



スイババ

恐山を支配し、その頂上に館を構える伝説の妖術師。ジークの裏切りを助くために、データを捕らえていた。



ガネフ

ドーマの塔の地下、ドーマが復活した祭壇でアルムやセリカを待ちかまえた妖術師。スイババに匹敵する呪力を秘める。

肖像変遷記

アカネイア・サーガは、複数のタイトルでリメイクされた唯一の作品。
タイトルごとにさまざまなタッチで描かれた、キャラクター肖像の変遷を追ってみよう。

マルス成長の軌跡

同一タイトル内でも肖像に成長のあとが見られる、主人公のマルス。【新暗黒】序章の表情は、なんと最初々しい。



ヒロインの特権!

【紋章】の第1部と第2部とで、バリエーション違いの肖像を披露。これも、ヒロイン(候補)ならではの特権か。



マルスにとってもっとも大事なヒロインのシーダ。【紋章】の第1部に比べ、マルスと婚約したあとの第2部は、少しおとなっぽいかも。

【紋章】の肖像は、下部分に注目。多少手のしぐさに変化が。ちなみに、【暗黒竜】では、ミネルバが敵のときに別の肖像が見られる。

成長著しいのがこのナキ。【紋章】の第1部と第2部とで、随分ちにかなりの成長のあとが。やはり、子どもは成長が早いということか。

変装姿もかわいい?

ガーネフから逃げるために、男装していたというリンダ。しかし、その変装姿でも十分かわいいような……。



イメチェン男子

男性でも、【紋章】の第1部と第2部とで変化した者はいる。成長というより、変貌に近い人物もいるが……。



こちらは、まっとうに成長した印象のマリック。守りたい人がある少年は、すぐに大人の男の仲間入りをすることなのかもしれない。

【紋章】の第2部で、かなり変貌した人。闇のオーブに囚われたせいとはいえ、わずか2年の間に、ずいぶん様変わりしてしまっただ。

変遷の基本形はこちら

タイトルごとに新たに描き起こされた、肖像変遷の基本形がこちら。全体的なイメージは、やはり統一されている。



脱・そっくりさん!

【暗黒竜】のときはちょっと似ていた人物も、【紋章】からはめだたく差別化。ずいぶん印象が変わった人も……。



敵だってイメチェン!

味方だけでなく、当然敵にも肖像の変化あり。宿敵のメディウスは、どのタイトルでもさすがの貴族。ハイマンは、作品を重ねるごとになぜかどんどん薄着に……。



バレンシアへ行ってきました

バレンシア大陸にまで足を伸ばしたのが、この天馬騎士3姉妹。4タイトルすべてに登場する「プレイヤーキャラクター」は、彼女たちだけだ。



同一人物……?

作中で明言はされないが、おそらく同一人物だろうというこの人の変遷。実は、他人の空似だったり……。



復活の5人!

【紋章】では出番なしの5名が【新暗黒】で復活。
※【暗黒竜】のベックとジェイクは後日談時の肖像。



赤緑の系譜

シリーズのファンにはおなじみの、「イメージカラーが赤と緑のライバル騎士2人」。
こうして比べてみると、それぞれ似ているようで、実はいろいろ違った特徴があるもの……。

暗黒竜と光の剣、紋章の謎、新・暗黒竜と光の剣

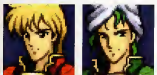
カイン／アベル



“元祖赤緑”といえるのが、このカインとアベル。どちらもアリティア騎士団所属のソシアルナイトで、性格はきまじめ。対照的なのはその生涯で、カインは王家一筋のストイックな生涯を送るが、アベルは騎士団をやめて恋人と店を開いたら実は三角関係だったという、なかなか波乱含みのラブロマンス状態。男としては、どちらももうやましいかも……。

聖戦の系譜

ノイッシュ／アレク



両者ともに主人公の騎士団所属の騎士。赤(ノイッシュ)が力と守備力に秀で、緑(アレク)が素早さと技に秀でている。この2点に加え、赤は女性に縁遠く(カップリングを強化する支援会話なし)、緑は女性に恵まれる(シルヴィアとの支援会話あり)という点も継承された。ただ、その違いを明確にするために、アレクがやや軽薄な性格となったが……。

封印の剣

アレン／ランス



代々フェレ家に仕える騎士一族の出身であり、必要以上に熱くなりがちなアレン。それに対して、他家から転じてきたランスは、いつもクールな理論派。「封印の剣」の“赤緑騎士”は、どちらもフェレ騎士団に所属する騎士でありながら、性格や境遇は正反対。とはいえ、両者ともエリウッドやロイへの忠誠心は厚かった。

烈火の剣

ケント／セイン



2人もキアラ騎士団に属するソシアルナイト。無類の好きであるセインが、手あたり次第に女性に声をかけ、壁物のケントがそれを諷める。この一連の流れは、リンの旅ではもはや日常の光景に。いっぽう、主家筋のリンに想いを寄せるケントが、セインに恋の相談する場面もあり、色恋沙汰に関しては持ちつ持たれつ2人であった。

聖魔の光石

フォルデ／カイル



いつも自由気ままなフォルデと、まじめ一辺倒のカイルは、ともにルネス騎士団所属の騎士。カイルはフォルデをライバル視しており、フォルデのだらけきった姿を見るたびに大声をあげる。というのも、カイルはかつて武道大会でフォルデに敗れたことがあり、確固たる実力を持ちながらふらふらとしているフォルデに、がまんならなかったのだろう。

蒼炎の軌跡、暁の女神

ケビン／オスカー



もとは王宮騎士団の同僚のケビンとオスカー。入隊2年目の馬術勝負でオスカーに敗れたケビンは、打倒オスカーを誓う。そして、すべてを忘れて訓練に没頭する。そう、彼はすべてを忘れた。肝心のライバルのことさえも。そんなケビンが、オスカーの姿が騎士団にいないことに気づくのは、オスカーが団を降参して半年後のことだった……。



World Guide

ユグドラル大陸編

収録作品



ユグドラル大陸



JUGDORAL SAGA

記憶の彼方の時代
 魔王の闇が世を満ちし
 世界は悪夢の中にあった
 果てもない嘆きの日々
 むなしく見上げる天は暗い
 十二の神、天より来たり
 邪悪な闇に立ち向かい
 光を呼び、魔を焼きつくし
 失われし希望が
 再びこの世に蘇った
 そして今、
 無数の昼と夜がめぐり
 すべては伝説の中へ

◆グラン歴史年表	古代国家	001年	・ユグドラ大陸の中央、ユン河の西にグラン王国が成立。
		230年	・グラン王国が共和制に移行する(共和国グラン立国)。
		310年	・共和国グランが領土を拡大、盛栄の時代を迎える。
		440年	・大司教ガレのもとに暗黒神ロプトが降臨、「ロプト教団」が始動する。
	暗黒教団時代	447年	・ロプト教団の戦士によって共和国グランが滅亡する(十二魔将の乱)。
		448年	・カレ大司教が帝位につく(ロプト帝国の成立)。
		449年	・反乱分子を処分、10万以上の犠牲者を出す(大粛清)。
		452年	・暗黒神への生贄として多数の子どもが火に投じられる(ミレトスの嘆き)。
		453年	・推定犠牲者が数万人にも及んだ大虐殺が行われる(エッダの虐殺)。
		535年	・皇族の「聖戦士」マイラが反乱を起こす。
		611年	・大陸の各地で自由解放軍が興る。
		632年	・解放軍の戦士12人が人の姿に身をやつした神から奇跡を授かり、「十二聖戦士」が誕生する(ダナ塔の奇跡)。
国家連立時代	聖戦士	633年	・十二聖戦士の力を借り、ロプト帝国に反旗を翻した「聖戦」が始まる。
		648年	・ロプト帝国皇帝のガレ十七世が討たれる(ロプト帝国滅亡)。
		649年	・十二聖戦士によってグランベル七公国とその周辺五王国が建国される。
ユグドラル動乱期(ロプト教団暗躍期)		757年	・イザーク王国のリボ一族がダーナを掠奪し、住民を虐殺。ダーナと友好関係にあったグランベル王国がイザークに向けて出兵する。
			・グランベルとの和平に向かったイザーク王が暗殺され、後継のマリク王も戦死を遂げる。
			・ヴェルダン王国がグランベル王国に侵攻開始、ユングヴィ城を制圧。それを受けてグランベルから出立したシアルフィ家のシグルド公子軍はユングヴィ城を奪還後、ユングヴィ公女エーディンを救出するため、ヴェルダン王国内へ進軍、ヴェルダン軍を撃破(ヴェルダンがグランベル統治地)。
		758年	・アグスティ王家のイムカ王が暗殺され、長子シャガールが王位に即位。シャガール王はヴェルダン領を統治するシグルド軍に対して挙兵する(アグストリアの動乱、～759)。
			・シグルド軍がアグストリア諸公連合軍を撃破、加えてハイライン・アンフォニー・マッキリーを制圧し、アグストリア領内で1年間の駐留に入る。
			・グランベル王国 Kult 王子、暗殺される。
			・シャガールが再度挙兵するもシグルド軍により壊滅(アグストリアをグランベルが占領下)。
			・グランベル軍がイザークを占領下に。
		760年	・シレジアで内乱勃発。
			・トラキア王国軍が遠征中のレンスター王国軍を奇襲、全滅させる(イードの虐殺)。
統一帝国王立期			・シグルド軍がグランベル軍を撃破しつつ、グランベル王国内バーハラに進軍。しかし、ヴェルトマー軍によってシグルド軍は壊滅する(バーハラの悲劇)。これにより「バーハラの戦い」終結。
		761年	・グランベル王国がシレジアを占領下に。
			・トラキア軍がレンスターを制圧。
光の解放戦争			・グランベル軍がマンスター地方に進軍、メルゲンでトラキア軍と戦闘に入る。トラキアはマンスター地方を和睦の条件としてグランベル帝国に譲渡(グランベル帝国成立)。
			・王女ディアドラと結婚したヴェルトマー家当主アルヴィス卿がグランベル帝国初代皇帝の座に。
		776年	・帝国による子ども狩りが始まる。
		777年	・マンスター地方でリーフが挙兵(トラキア解放戦争、～777)。
			・セリスがイザークで挙兵(ユグドラル解放戦争、～778)、後にリーフ軍と合流。
			・シアルフィにてアルヴィス皇帝が落命。
		778年	・バーハラ、解放軍によって陥落する(グランベル帝国滅亡)。
		780年	・リーフが新トラキア王国の王位に就く。
			・セリスが新生グランベル王国の国王に就く。

ユグドラル大陸に於て存在した大國グラン。だが、その歴史は、ロプト教団によって突如閉じられてしまう。もともとは小さな原始宗教教団にすぎなかったロプト教団だが、司教ガレが暗黒神から強大な力を授かり、教団の者も「魔力」を使用するようになると、彼らは世界を席捲。グランを滅亡させ、ロプト帝国を誕生させることとなる。

以降、ロプト帝国による民への弾圧はとどまることを知らず、膨大な数の人々がその犠牲となっていく。だが、ガレの血を引くマイラが反乱を起こすと、それに呼応して各地で解放軍が決起。それでも帝国の力には及ばなかったが、ある日、若き12人の戦士がダーナ岩で神と遭遇、不思議な力を授かる。

神の正体は竜族で、ガレが暗黒竜ロプトウスの血を飲んだように、12人も竜族の血を受け、ロプトに対抗する力を得る。こうして誕生した“十二聖戦士”は、帝国を次第に追いこみ、15年にも及ぶ戦いの末、大陸に自由と平和を取り戻すことに成功する。



【神々の系図】

十二聖戦士が授かった「聖遺物」を記す神々の系図。右上から時計回りに、神剣バラムシク、天槍グングニル、聖弓イテバル、聖杖バルキリー、雷魔法トルハンマー、炎魔法フアラフレイン、魔剣ミストルティン、地槍ゲイホルグ、聖斧スワンチカ、光魔法ナーガ、風魔法フォルセティ、聖剣ティルフィン。聖遺物を握る者の体には「聖痕」が現れる。

十二聖戦士たちはそれぞれが立国し、互いに力を合わせて大陸を統治し始める。久しくなかった平穏の時代を享受する人々……。だが、忌まわしき歴史を持つロプト教徒やその子孫たちは人々から迫害を受け、一帯砂漠の地下に身を隠していた。

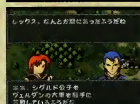
そしてグラン暦760年、イザーク国のリボ一族がグランベル王国の友好都市ダーナを蹂躞する。これを発端に、大陸は再び戦渦に巻きこまれる……。

グランベル王国は、クルト王子自ら軍を率い、イザーク遠征を決めるが、時を同じくしてヴェルダン王国の侵攻を受ける。そこで討伐の命を受けたのが、グランベル王国に属するシアルフィ公家のシグルド公子。そこに、同じグランベルの公子アゼルやレックス、親友キュアンが囑けつける。だが、このとき彼らは、大陸を縦走り、長く辛い戦いの旅を余儀なくされるとは、想像もしていなかった……。

シグルド軍の進軍ルート



④ グランベル王国では、病に冒される父王に代わってクルト王子が政務をとりしきっていた。王子が信頼し、遠征に同行させたバイロン卿は、シグルドの父親。



④ 教団に駆けつけたアゼルとレックス。アゼルは、近衛騎士団長アルヴィス卿の弟。レックスは、バイロン卿を政敵と見なすランゴバルト卿の息子である。



④ 士官学校時代からの親友キュアンは、レンスター王国の王子。その妻は、シグルドの妹エスリンである。

国家連立時代→ユグドラル動乱期(ロプト教団暗躍期)

国家のために戦った代償に得たのは裏切り者の汚名

シグルドたちはヴェルダン、続いて侵襲してきたアグストリア諸公連合を撃破。だが、キュアンとともにシグルドの士官学校時代からの親友であったエルトシャンを、アグストリア王シャガールに処刑されて失う。さらに、シグルドに追い討ちをかけるように、自軍に謀反の疑いがかけられているとの報が届く。イザーク遠征中にクルト王子が暗殺され、その直後にパイロン卿が姿を消したためだった。

故国に剣を向けられぬシグルド軍は、シレジア王妃ラーナの誘いに乗り、追っ手を逃れるために、シレジアに姿を隠すことにする。1年の間、身を潜めていたシグルドたちだが、マイオス公がシグルドの首をグランベルに差し出そうと動き出した。さらに、ダッカー公も、その機に乗じてシレジアの主権を奪わんと兵をあげる。ラーナの恩に報いるために、内乱を鎮圧するシグルド。しかし、グランベルから、ドズル家、ユングヴィ家^{ユングヴィ家}がシグルド軍討伐のために進軍を開始。シレジアを戦場にしないために、シグルド軍は祖国グランベルでの戦闘を覚悟する。

そのころ、レンスターの王子キュアン死亡の報せがシグルドのもとに入る。シグルド軍と合流すべくイード砂漠を北上する際、かねてから北トラキア地方進出を狙っていた、トラキア王国トラバント王の急襲を受けての悲劇だった。



① 穏やかな気候、肥沃な大地に恵まれたマンスター地方でも、とくに緑豊かな田園風景が広がるレンスター。



② レンスターとは対照的に、国土の多くはやせ、ユグドラルの天井^{天井}と呼ばれる高い山脈に囲まれるトラキア。



③ 親友のために先を急ぐキュアン。だが、足場の悪いイード砂漠でトラキア軍の急襲を受けて全滅する(イードの遺骸)。

黒い野望の打破は次世代に託される……

長い戦いを続ける中で、シグルドたちは、大陸を巻きこむ戦乱の背後に暗黒教団がいることに気づき始める。戦争の発端となったリボー一族の暴挙、リボー族長の首を持って講和を提案したイザーク王マナナンの暗殺、イザーク討伐へと立ち上がったクルト王子の暗殺、同盟国であるはずのヴェルダンおよびアグストリアのグランベル侵攻。これらはすべて、大司教マンフロイとロプト教団の策略によるものだった。マンフロイの目的は暗黒魔の復活にあったが、気づかずに彼の謀略に乗ったのが、ヴェルトマー家の若き当主アルヴィス卿である。

アルヴィスは、ドズル家のランゴバルト、フリージ家のレプトールまでも使い捨ての駒とし、シグルドを消し去ろうとする。やがてアルヴィスからシグルドのもとに、謀反の疑いが囁かれ、帰国を待つ旨を知らせる使いが届く。だが、それは罠で、懐かしき王都バーハラに足を踏み入れたシグルドは、暗黒教団の魔法によって全軍滅滅の憂き目に遭う。

差別のない世を目指し、ユグドラル大陸に統一国家建設の計画を描くアルヴィスは、バーハラ王家の血を引くディアドラと結ばれ、グランベルの実権を手中に取る。そして、生まれた2人の子ども。だが、それこそがマンフロイの狙いであった……。



④ 激戦をくりぬいた勇士が、暗黒教団のメティオ、アルヴィスのファラフレインによって沈む(バーハラの悲劇)。



シヤナン

“バーハラの悲劇”時は幼く、まだあどけない顔をしていたシヤナン。バーハラの悲劇を逃れてイザークに潜伏するが、成長するとイザーク王家の血を存分に発現し、解放活動で活躍する。



アルヴィス

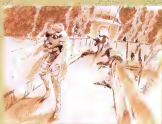
グランベル王国近衛騎士団長だったアルヴィス。シグルドを裏切り者に仕立て上げ、王の信頼を勝ちとると、グランベル帝室初代皇帝の座にまで上りつめる(写真は皇室時代のもの)。

統一帝国压制期〜光の解放戦争

先に立ったのはレンスターの槍

シレジア、北トラキアを制し、同盟国のトラキア王国を除き、大陸全域を支配したグランベル帝国。大陸に平和な日々が到来するかに思われたが、やがて各地で「子ども狩り」が始まる。かつてロプト帝国も行ったこの行為は、人々に恐怖を植えつけ、帝国（教団）の支配を強固にするためのものだった。子どもを争わせ、生き残った者だけを帝国民とするというユリウス皇子の蛮行も、それに一役かった。

だが、帝国・暗黒教団の支配に嘆き苦しむ人々を救わんと、ひとりの青年が立ち上がる。トラキアの襲撃から逃れて生きのびた、王子リーフである。マンスター地方で反帝国軍活動を開始したリーフは、レジスタンスたちやレンスター王国の遺臣と合流。マンスター城に捕えられた子どもたちの解放、かつて過ごした自由都市タララの防衛、そして、ついに自身が生まれたレンスター城の奪還に成功する。



④ “イードの審判”で地権ガイボルグと王子キユアンを失ったレンスター王国は、トラキア軍の襲撃に耐えられなくなり陥落する。

トラキア解放軍の進軍ルート



..... 支線部分は分岐ルート



⑤ 若きレンスターの騎士フィンはトラキアの猛攻を逃れ、幼いリーフ、ナンナを連れて脱出。その後、3人はマンスター地方を転々とする。

あの日……



重傷を負ったフィンを馬の背に乗せて王子とナンナ様は村にやってきました。ナンナ様は、どうか父をお救いくださいと目にいっぱい涙をためて私にすがりました。



でもリーフ様は、私をにらみつけて「助けてくれたらこれをやる」と腰にあった剣を差し出されただけ……。聞けば母上の形見だという。

まだほんの少年なのに、よほどの苦勞をしてきたのだと畏いました。



統一帝国王制期、光の解放戦争

イザークの流星、そして光の公子

レンスター城に入城したリーフたちに、北トラキア王国を統治していたフリージ家が襲いかかる。圧倒的戦力の前に、落城の危機を迎えるリーフ。だが、そこに、セリス率いる反乱軍が現れる。

リーフたちに運れること数か月。イザーク王子シャナジヤ若き天才軍師オイブが組織し、イザークで解放活動を続けていた反乱軍を基盤に、セリスはティルナノグから解放戦争ののろしを上げた。まず、グランペル王国のドズル家によって暴虐の限りを尽くされ、旧国民が奴隷として虐げられていたイザークを解放に導くと、イード砂漠を越えて北トラキア半島に入った。その後も、メルゲンでフリージ家のイシュターを破り、アルスター城を解放する。

マンスターでリーフ軍と合流したセリス軍は、その勢いを持ってトラキア王国との全面対決に臨む。そこでリーフは、「イードの虐殺」で死亡したと思っていた姉アルテナとの再会を果たす。アルテナを育てたトラキア王トラバントの深謀がいかなるものだったのか、彼を討ち取った今となっては知るよしもない。ともあれ、こうしてセリスたちの活躍により、トラキア半島は帝国軍の支配から完全に解放された。

セリスたちは、次にミレトス地方へと軍を進める。かつて貿易で栄えた自由都市群は、今や暗黒教団の支配する死の街へと変わっていた。その死の街で、セリスはついに宿敵アルヴィスを打ち倒すのだった。

皇帝を倒したものの、今や帝国の実権を握るのは皇帝の息子ユリウスであり、彼はすでに暗黒竜ロプトゥスにその身を奪われていた。そして、暗黒竜を倒せるのは、十二聖戦士の戦いと同時刻に光神ナーガの力を継ぐ者、セリスやユリウスの妹であるユリアだけだった。ミレトスでマンフロイがユリアをさらったのは、ナーガの血族を取りこむためだったのだ。

エッダ、シアルフィを次々と制圧したセリス軍は、ヴェルトマーですべての黒幕であるマンフロイを討つ。記憶を取り戻し、光の聖書を手にしたユリアは、ナーガと化してロプトゥスと化したユリウスと衝突。この戦いにより、竜の血がもたらした禍根は絶たれることとなった。

私はセリス様を兄と称していますが、セリス様のお力になれるのならこれはどうれいしことはありません



ではこの剣に誓おう
敵首斬は生まれながらこそるがうが
百ぬとるは一編だ

おまえはなで無りながらそ敵首にひいて
アリオンと共にわしの手足として
働いてくれるものと期待しておた



⑨ 父親同士が親友で、従兄弟の関係にあるセリスとリーフ。マンスター戦で合流の際、互いを兄弟のように変え合い、世界を救うことを誓う。

⑩ トラバントがアルテナを自らの娘として育てたのは、グイボルグを手に入れるためか。あるいは、トラキア半島統一国家をなすための布石か。あるいは、その他の理由があったのだろうか……

ユグドラル解放軍の進軍ルート



「三つの光が一つになるとき
この世の闇は消え去る」と

⑪ かつてスレーフが抱えた予言。世界を救うとされた「三つの光」とは、「光の公子」と称されたセリスとリーフ、光魔法を継承したユリアのことだ。

彼は闇の中に閉じつゝおされたと哀れな人だ
手招く声であげて欲しい



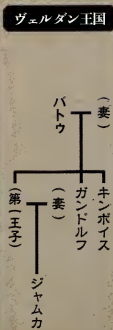
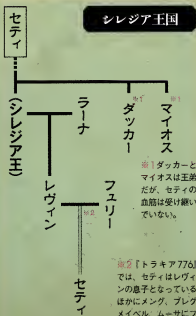
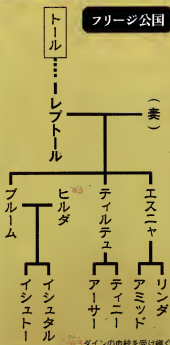
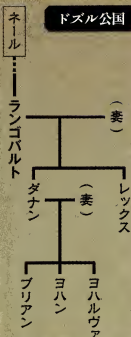
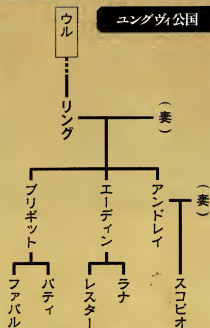
セリス様……
ありがとうございます

⑫ 高い志を持ちながら、マンフロイに利用されたまま死んでいったアルヴィス。彼の悲しみを感じつつも、セリスは、王としての道を歩み始める。

連綿と続いた闇の系譜に終止符を

ユグドラル大陸における 主要国の王公族血統図

各国王公家の系図を掲載した。太字は「バーハラの戦い」勃発時の当主。□で囲まれた名は、各家系の祖（「ダーナの容赦」で竜族から血を授かった聖戦士）。



グランベル王国

新時代の礎となりし大國

十二聖戦士の中から1人が王家、残る5人が輔佐する公爵家となる形で、グラン王国発祥の地に建国。そのため、もともとの国力で他国より優れ、周辺国と同盟を結ぶも大陸の覇者の位置にあった。グランベル帝国を経て、新生グランベル王国に移行する。

バーハラ王家

●祖/聖者ヘイム ●伝承武器/光魔法ナーガ

聖戦時、解放軍指導者だったヘイム司祭の血族。古代竜の王ナーガ(姿は幼き少女)から血を授かったために、ロプトウスの一族を唯一倒すことができる神聖魔法ナーガを継承する。

【聖戦】



アズムール

【聖戦】

“バーハラの戦い”勃発時のグランベル国王。老いた体のために隠居状態だった。クルトの死後、アルヴィスの遺言にだまされて国を譲られる。



クルト

【聖戦】

父王のかわりに政治をとりしきっていたが、イザーク遠征時、ランゴバルトに殺害される。シギエンとの間に不義の子、ディアドラをもうけていた。

ディアドラ

策謀に翻弄された聖女

クルト王子と、マイラの子孫であるシギエンの娘。暗黒竜の血を引くので、ヴェルダン領内の“積雪の森”に隠れ住んでいたが、シグルドと恋をしてセリスを産む。その後、マンフロイに記憶を奪われ、アルヴィスのもとへと連れさられる。

【公式サイト】



【トラキア】



リノアン

市民を守るヘイムの傍系

ヘイムの血筋でもある、タララ公爵家の娘。城塞都市タララの市長になると、帝国の子ども狩りに抵抗し続けた。リーフとは、彼がタララ公爵家にかくまわれたころの知り合い。トラキア王子アリオンの締約者だが、別に愛する人が……。

ユリア

世界を救う光神の化身

アルヴィスとディアドラの子。暗黒神を倒せるナーガの力を受け継ぐ。双子の兄ユリウスに狙われるが、ディアドラがバーハラの街に逃がし、そこをレヴィンに拾われる。その後、レヴィンとともに旅を続けた後に、セリスに預けられる。

シアルフィ公爵家

●祖/聖戦士バルド ●伝承武器/聖剣ティルフィング

“光の戦士”バルドの一族。シアルフィ領を治める。セリスが新生グランベル王国の王となったあとは、聖戦士バルドの血を弱く受け継ぐオイフェが、シアルフィ家を復興させた。



バイロン

【聖戦】

シグルドの父。ユングヴィ家リング國とともに種族派として知られる。クルト王子からの覚えもめでたかったが、イザーク遠征時に王子殺害の汚名をきせられる。

エスリン

兄を思い、夫を思い、戦場へ

シグルドの妹で、レンスター王家のキュアンに嫁ぐ。聖戦士バルドの血族らしく、杖と剣を操るトルバードルとして戦場を駆け回った。“イードの虐殺”の際、夫キュアンとともに砂漠に散るが、その血はアルテナとリーフに受け継がれた。

【聖戦】

【公式サイト】

【聖戦】



シグルド

悲しき聖戦士

シアルフィ家の公子で、“グランベルの聖戦士”の異名を持つ。父の死に際、[ティルフィング]を継承する。ヴェルダン領内を進軍中に出会ったディアドラと愛し合い、セリスを授かる。アルヴィスの策略によって、王家秘蔵を企む反逆者との烙印を押されたまま、“バーハラの悲劇”で仲間とともに命を落とす。

セリス

【聖戦】

闇なる世を光の中へ誘う公子

シグルドとディアドラの子で、聖戦士バルドの力を受け継ぐ。ユリウス・ユリアの異父兄にあたる。2歳のころ、シャナンとオイフェの手で“バーハラの悲劇”を逃れ、ティルナノグの孤児院で育つ。その後、19歳で反帝国軍を指揮し、“光の公子”として世界を解放に導く。唯一ヘイムの血を受け継ぐことから、新生グランベルの王に。



【聖戦】



◀ オイフェ

若くから戦場を
見つけた騎士

名軍師スール卿の孫で、若くして才覚を表した軍師。12歳から騎士見習いとしてシグルドのもとへ。「バーハラの悲劇」の前にシグルドから幼いセリスを託され、イザークへ逃れる。解放戦争ではパラディンとしても活躍した。

アーダン▶

固い、強い、おそい!

ノッシュやアレクと同様、シアルフィ聖騎士団グリーンリッターのひとり。そのわりにシグルドになれなれしい。大陸を巡る途中で能力を開花させられたり、貴重な武具まで手に入れたりするという恵まれた運の持ち主。



【聖戦】

ユングヴィ公爵家

● 祖 / 弓使いウル ● 伝承武器 / 聖弓イティバル

弓使いウルの血を引く一族。ウェルダン国境近くのユングヴィ領を治める。そのため、サンディマにそそのかされたバトゥ王がウェルダン軍を進撃させた際、制圧される憂き目に合う。

◀ ブリギッド

記憶を取り戻した聖戦士

リング卿の娘。幼いころ、義賊として名高い海賊の頭領に連れ去られた。戦場以前の記憶を失い、義父の跡を継いで海賊の頭目となる。だが、妹エーディン、「聖弓イティバル」との再会が、彼女に記憶と伝承者の力を蘇らせた。

【聖戦】



リング

【聖戦】

グランベル王国内では、パイロン卿とともにクルト王子を支えていたが、王家転覆によって権力を手に入れようとした息子アンドレイに殺害される。

アンドレイ

【聖戦】

ユングヴィ家の長男で、ブリギッドやエーディンの弟。美父殺害後は、ユングヴィ家当主としてバイグリッターを指揮するも、シグルド軍に討たれる。

スコピオ

【聖戦】

アンドレイの息子。フリージ軍と協力してセリス軍を撃破しようとするが、返り討ちに合う。父と同様、伝承武器を扱う力は受け継いでいない。

ファバル

【聖戦】

孤児院で育った聖弓の継承者

育った孤児院を助けるために、傭兵となつて金を稼ぐ。ブルームに雇われていたが、妹と再会し解放軍へ。ブリギッドの息子。

パティ

【聖戦】

孤児院を助けるため盗賊に

ファバルの妹で盗賊。イード砂漠の宝物殿から「神剣バルムンク」を盗み出すが、そこでシャナンと出会って解放軍へ。



【聖戦】



ノイッシュ▲

騎士道精神に満ちた好青年

アレクやアーダンと同様、シグルド率いるグリーンリッターのひとり。親友のアレクとは双頭の存在とされる。ただ、能力や性格は正反対。力に優れて打たれ強く、無口でさまじめ。

【聖戦】

アレク▶

剣技も口も軽めの騎士

グリーンリッター所属の騎士で、ノイッシュとは親友。素早さを活かした連続技を得意とする。シグルド軍に入ったシルヴィアにすぐに声をかけるほど、性格は軽め(シルヴィアによると「まともな男」らしいが……)。



エーディン▶

戦場に咲いた優しき公女

突然の侵略を受け、ヴェルダン軍のガンドルフに拉致される。だが、ジャムカの助けで逃げ出してシグルド軍に加わる。バーハラでの決戦前に、自身の子であるレスターやラナ、他の戦士の子どもと一緒にティルナノグの修道院に逃れ、そこで子どもたちを育てた。

【聖戦】



【聖戦】

レスター

【聖戦】

解放軍創立時から参加する弓騎士

エーディンの息子でラナの兄。セリスたちとともにティルナノグの孤児院で育つ。後にシャナグが始めたイザークの解放活動に参加する。

ラナ

【聖戦】

母とよく似た優しいシスター

以前から知るセリスを助けようと、解放軍に参加。母エーディンと似て穏やかな少女で、記憶を失ったユリアに声をかける優しさを持つ。

ミデュール▲

主君を救われた恩義を返さん!

ユングヴィ家に仕えるアーチナイト。ユングヴィ城とエーディンを救ってくれた恩に報いようと、シグルド軍と行動をともにする。エーディンに忠誠心以上の感情を抱く。

ヴェルトマー公爵家

●祖/魔法戦士ファラ ●伝承武器/炎魔法ファラフレイルム

火竜サラマンドラの血を継承し、近衛騎士団を務める一族。だが、アルヴィスの父がロフトウスの血族シグンをもてつた日より、ヴェルトマーおよびグランベルは崩壊の一端を辿る。



どんなことよりイシュタル
魔術にまかれないな至成があるんだ
一緒に見て行こうよ



...ユリウス君...

ユリウス

【聖戦】

●残虐な行いを繰り返す
ユリウスだが、イシュタル
の前では優しい顔を見せる。

アルヴィスとディアドラの息子。2人がシグンから受け継いだ暗黒竜の血が、色濃く混ざった身として生まれる。マンフロイから「暗黒の霊」を渡されるため、暗黒竜としての力が発現。母ディアドラを殺害し、帝国の実質的支配者となった。



コーエン

【トラキア】

ヴェルトマー家に仕える伯爵でアイダーの父。ファラの魔術を受け継いだサイアスを、成長するまで辺境の教会にかくまい、マンフロイたちの手から守り続けた。



アイダー

【聖戦】

“ヴェルトマーの魔女”の異名を持つ、アルヴィスの腹心。彼の命令でレプトール軍にメティオを降ろせた。マンフロイから息子サイアスを守り、殺害されてしまう。



【聖戦】

アルヴィス

グランベル帝国初代皇帝。もとは王国近衛軍指揮官。父ヴィクトルが妻の不義により自殺したので、若くして当主となる。己にも暗黒神の血が流れるためか、差別のない世界の実現を目指す。だが、息子ユリウスに実権を奪われ、皇帝としては名ばかりに。



【聖戦】

ランゴバルト

レプトールと結託して反王子勢力を形成。アルヴィス卿に煽動され、イザーク遠征時にクルト王子を殺害、バイロン卿を襲撃する。その後、リュベック城でシグルド軍の攻撃を受けて戦死。

ドズル公爵家

●祖/斧戦士ネール ●伝承武器/聖斧スワンチカ

グランベル王国中心部に位置するドズル地域を治める。グランベル帝国成立後、イザーク地方の統治を任せられた。公子ブリアンの戦死により、伝承武器の継承者が失われている。



ダナン

【聖戦】

ランゴバルト家の第一子。イザーク王に任命されると旧イザーク民を奴隷身分に落とし、リボアの王宮で贅の限りを尽くす。セリス率いる解放軍に討たれて死亡。



ブリアン

【聖戦】

ダナンの長男でヨハンやヨルヴァの兄。「スワンチカ」の継承者でもある。クラオリッターを率いて、親子三代の恨みを晴らすとセリス軍に挑む。

【トラキア】



サイアス

炎の魔道士の落とし胤

ファラの聖痕を持つ宮廷司祭で、天才軍師として名高い。リーフに請われてトラキア解放軍に参加。帝国崩壊後は、ヴェルトマー家の再建に尽力し、聖王セリスに仕えた。

アゼル

巨大な存在の兄の陰で

父のヴィクトルとシギンの下女だった母を、幼いときに亡くした彼にとって、アルヴィスは父親以上の存在。だが、尊敬と同時に恐れも抱いていた。争いを嫌うが、密かに想うエーディンの危機を知り、親友レックスを連れてエーディン奪還戦に参加する。

【聖戦】



騎士団の名称から見える各家の特徴

グランベル王国の主公爵家は、エッダ家以外、直属の近衛騎士団（リッター）を抱えているが、各団の名前には家系を象徴する色名を表す名がつけられている。たとえば、バーハラ王家ならば「ヴァイス（白）」を冠し、「ヴァイスリッター」と呼ばれる。なお、他の騎士団については右のとおり。

公爵家	名称（色）
ヴェルトマー	ロート（赤）
ドスル	グラオ（灰色）
フリージ	ゲルブ（青）
シアルフィ	グリュン（緑）
ユングヴィー	バイゲ（黄褐色）

ヨハン

【聖戦】



愛はときに人を狂わせる

ダナンの二男で、イザーク城主に任命される。解放軍に所属する女性に好意を抱き、自作のポエムを捧げるも袖にされてばかり。その後、彼女を追って解放軍へ。

ヨハルヴァ

【聖戦】



実直な弁戦士

ダナンの三男でソファラ城主。兄と同じ女性に惚れているためか、仲はよくない。粗野だが、女や子どもには手を出さない。ロプト教や父を見限って解放軍に入る。

レックス

クールなエリート

ドズル家の次男。親友アゼルとともに、ユングヴィ公女奪還戦からシングルド軍に参加する。常に冷静で、激昂した面などは見せず、父ランゴバルトが倒されたときも、内心思うところはあったろうが顔には出さなかった。勇士の中でもとくにエリートらしい人物。



【聖戦】

フリージ公爵家

●祖/魔法騎士トード ●伝承武器/雷魔法トルハンマー

ヴェルトマーやドズルとともに、王都バーハラを囲むフリージ地方。その要衝を守護する一族だ。直属の騎士団「ゲルブリッター」は、堅い装甲に身を固めた雷魔法士で構成される。

レプトール

【聖戦】

グランベル王国宰相。だが、王の信頼がバイロンやリングにあることを不満とし、アルヴィスの企みに乗る。王家転覆の暁には、アグストリア王となるはずだったが、アルヴィスに裏切られ、「バーハラの戦い」最終戦で死亡。



イシュタル

【聖戦】

「トルハンマー」の継承者で、グランベル帝国王家騎士団「ヴァイスリッター」を率いる。ユリウスとは愛し合う仲で、彼の狂気を憂う。帝国の蜜行に賛同せず、捕えられた子どもたちを逃がしていた。

●狂気にそまってい
くユリウスを、止めもでき
ない葛藤に苦しむ。

アーサー

【聖戦】

悲しい境遇も笑顔で語る魔法士



母と妹をブルームに連れ去られ、シレジアで育つ。妹が生きていると知って旅立つが、途中で出会ったベガサスナイトと意気投合し、解放軍入りする。

ティニー

【聖戦】

戦いに狩り出された薄幸の少女



母ティルテュの死がヒルダのいじめによるものとは知らずに育ち、ブルーム軍にマージとして参加していたが、兄アーサーと出会って解放軍へ。

ブルーム

【聖戦】



レプトールの息子。グランベル帝国領、北トラキア王国の王位に就く。小物で、残虐さでは妻ヒルダ、才能では子のイシュター・イシュタルに劣る。



ヒルダ

【聖戦】

ミレス地方のクロノス城を治める、ブルームの妻。ティルテュをいじめ殺し、子ども狩りを率先して行う残虐性の持ち主。ヴェルトマー家の生まれ。



イシュター

【聖戦】

フリージ家の長子に生まれるも聖痕を持たず、「トルハンマー」は扱えない。だが「親に似ず優れた」と評判のマージファイター。ライザは恋人。



ライザ

【聖戦】

イシュターがもっとも信頼する部下で彼の恋人。その能力は軍内で高く評価されていた。イシュター同様、メルゲン城でセリス軍を迎え撃って戦死。



【聖戦】

ティルテュ

明るさを取りあげられた少女

ブラギの塔に向かうクロード神父とともにフリージ家を出奔。そのまます解放軍へ。「バーハラの悲劇」を逃れ、息子アーサー、娘ティニーとシレジアに隠れ住むが、フリージ家に連れ戻されると、ヒルダによって非業の死を遂げる。



アミッド

【聖戦】

母と伯母の敵を討つために

母はティルテュの妹エスニヤ。伯父ブルーームに連れ去られた妹に再会するために、育ったシレジアを旅立つ。途中で出会った女の子に感化されて解放軍入り。



リンダ

【聖戦】

兄とジェイクを助けた娘

母ともどもシレジアからブルーーム家へ連れ去られる。フリージ軍として出陣したところをアミッドと再会。解放軍では、成長の早いサンダーマージとして活躍。



オーヴォ

【聖戦】

フリージ軍の將軍であるマージナイト。だが、指揮官の能力はヴァンパよりも劣る。得意魔法はエルサンダー。レンスター城攻防戦で戦場に散る。



ヴァンパ

【聖戦】

ブルーーム直属の魔法戦士。部下のフェトラヤエリウと組み、トライアングルアタックを放つ。ティニガ同じ軍にいたときは、ライバル視していた。

【トラキア】



▲ オルエン

兄の庇護を離れた魔道騎士

尊敬する兄ラインハルトのあとを追って帝国軍に入るが、子ども狩りを目的に自分にして自分の進む道を失う。その際、部下フレッドの誘いで解放軍に参加。その後戦場で対面した兄から、成長の証として聖なる剣を譲り受けた。「ダイムサンダ」はこの兄妹専用。

▲ ラインハルト

オルエンの尊敬する兄。指揮官としてはもちろん、戦士としても優れ、魔法「ダイムサンダ」とマスターソードで「聖戦士トードの再来」と称されるほどの戦いぶりを見せる。幼少時から仕えるイシュタルに忠誠を誓う。

【トラキア】



【トラキア】



フレッド ▶

オルエンを支える副官

オルエンの副官。ケンブフがオルエンを投獄したことに異議を唱え、ダンドラム要塞で退却の許されぬ戦いを強いられる。その際、リーフ王子と共同戦線を張って脱出。このときの縁で、後にオルエンを連れて解放軍の扉を叩く。終戦後は主務の娘と結婚。

【トラキア】

ケンパフ

有能かつ人望の厚いラインハルトを一方的に妬み、妹オルエンにいやがらせを繰り返した。フリージ王家の血筋であることをひけらかし、他人の命をつゆほども気にかけず、華劣な手段で立身出世を果たそうと画策する小人物。



数多くの領邦を率いるフリージ家

バーハラにほど近く、アグストリアとの国境にも面する領地に本城を構えるフリージ家。北トラキア王国の統治者にも任じられ、直属騎士団以外にも数多くの軍団を部下に持つ。確證されている軍団と軍団長は右のとおり。



グスタフ



バラード

軍団名	軍団長
第2軍団	グスタフ
第3軍団	ニカラフ
第4軍団	ウォルフ(のちにバラード)
第5軍団	パウルス
第7軍団	ブルック
第8軍団	バルダック
第10軍団	アマルダ
第12軍団	ケンパフ
第15軍団	イリオス
第16軍団	バルマン
第20軍団	リスト
第22軍団	ラルゴ
第26軍団	コーエン
第27軍団	ザウム
第30軍団	フラウス

エッダ公爵家

●祖/大司教ブラギ ●伝承武器/聖杖バルキリー

エッダ領を治め、代々聖職者の家系。祖はロプト教団マイラ派の教徒ブラギ。民の幸せを願ってロプト帝国に反乱したマイラと同様、ブラギも解放軍に身を投じて聖戦士となった。

【聖戦】



【聖戦】

クロード

悲劇の結末を知る司祭

エッダ家当主。伝承する「バルキリーの杖」で死者を1人生き返らすことが可能。祖のブラギが残した塔で神託を受け、クルト王子暗殺の真犯人に加え、戦いの行く末も知っていたらしい。幼いころにさらわれたままの妹がいる。

シルヴィア

気品あふれる踊り子

踊り子として旅する途中でレヴィンと出会い、彼につられてシグルド軍入り。彼女の踊りには、人を元気にする力があつた。「バーハラの悲劇」を逃れたはずだが、以降は消息不明に。ブラギの血を、弱くだが受け継いでいる。

アマルダ▶

正しき道を探す女騎士

フリージアの將軍。帝國軍に身を置きながら、子ども狩りから子どもたちを救い、山中の村ソルウッドに逃した。スルーフとはその村で知りあった仲。部下を思って軍を裏切れないが、スルーフの言葉でリーフ軍入りを決意する。



【トラキア】

イリオス

雑草魂に満ちた將軍

平民でありながらフリージアの將軍までのし上がったが、軍での扱いに不公平さを感じ、カリンの誘いによってリーフ軍へ。その際の条件は、レンスター復興後に自分を貴族にすること。カリンからはオルソンと呼ばれていた。



【トラキア】



コープル

將軍の愛を一身に受けて

シルヴィアの息子でリーンの弟。赤子的时候、ダーナでハンニバル將軍に拾われて彼の養子となる。トラバントに、ハンニバルをユグドラル解放軍討伐に向かわせるための人質にされるが、セリスたちに救出される。

【公式サイト】



リーン

【聖戦】

母を探すために賭ける少女

2歳のころ、母シルヴィアとおぼしき隣りにダーナの修道院に預けられる。ダーナ領主プラムセルに捕まるが、アレックスに助け出され、彼とともに解放軍へ。

アウグスト

世界の暗黒面を知る破戒僧

元ブラギの司祭。レヴィンからリーフを手助けするように命を受け、海賊島に潜伏しながらリフィス団を利用してリーフ探しを続けていた。リーフ軍に入ると、軍師であると同時に、王子に厳しい現実や時代の暗黒面を教える役割を担った。



【トラキア】

スルーフ▶

神託を授かった神父

ブラギの塔でクロード神父から神託を授かり、“光”を見届ける旅を続けていたが、“ツヴァイの光”を持つリーフと出会うと軍に合流した。アマルダのよき相談役となり、後にリーフ軍に誘い入れた。戦争後は、世界各地でエッダ教の布教活動続ける。



【トラキア】

イザーク王国

己の身と剣技だけで生きぬく遊牧民の国

聖戦士がこの地に王国を建てるまで、国らしい国は存在しなかった。イザーク王国誕生後もしばらくは部族の集合体でしかなかったが、賢王マナナンの威光によって国としての機能を果たし始める。だが、その矢先、ある事件によって国は崩壊する……。

イザーク王家

●祖/滅国オード ●伝承武器/神剣バルムンク

オードの血を引き、一族内に「流星剣」の使い手が現れる家系。イザークを治める王家だが、マナナン王時代に王が暗殺され、王子マリクルも戦死を遂げて、王家は滅亡に瀕してしまう。

スカサハ

【聖戦】

ふたふりの剣の片割れ



双子の妹ラクチェと並んで戦えば、互いの力を高め合って敵を次々となぎ倒す。ただ、普段の彼は兄らしく、勇ましい妹の抑え役を務めている。

ロドルバン

【聖戦】

努力を忘れない剣士



ラドネイの双子の兄で、セリスとは孤児院時代から知る仲。シャナンは、彼にとって父親のような存在であると同時に、憧れの対象でもある。

ディムナ

【聖戦】

妹の恋を見守る兄



解放軍には初期から参加。素早い攻撃を得意とする弓騎士。兄として、セリスに身分違いの恋心を抱くマナのことを心配している。



レイミア

【聖戦】

ソードマスターとしての腕は確かだが、金のためなら相手を問わず殺しを請けおう。そのため、「地獄のレイミア」の二つ名を持つ。

シャナン

【聖戦】

過去の借りを返すため剣を振る



少年期をシングル軍で過ごし、成長後はユグドル解放軍の前身を組織した。セリスとは兄弟のように思ふ仲。「神剣バルムンク」の継承者。

ラクチェ

【聖戦】

剣を振れば母とよりふたつ



母アイラに比肩する才能と血気盛んさを持つ女剣士。ティルナノグの孤児院でセリスとともに育ち、後に解放軍でおおいに活躍する。

ラドネイ

【聖戦】

男嫌いのフォーレスト



セリスや兄ロドルバンたちと、幼いころからともに育つ。帝国兵の横行を見てきたので極度の男性嫌い。だが、シャナン王子だけは特別らしい。

マナ

【聖戦】

身分違いの恋と知りつつも



ディムナの妹。身分違いと知りつつもセリスに思いを寄せ、彼を追って解放軍にまで参加する。本来は、子ども好きな優しい女の子。

▲アイラ

強さゆえに戦場に散った女剣士

マナナン王の娘で、流星剣を使う女剣士。グランベルとの戦いで死を覚悟した兄マリクルから、その子シャナンを託される。だが、そのシャナンをキンボイスに人質にとられ、ヴェルダンの傭兵としてシングルたちと戦うことに。

シングル軍によりシャナンが救出されると恩義を感じ、「バーバラの悲劇」までシングル軍と行動をともにした。

【聖戦】



ソファラ領主家

●組 / 不明 ●伝承武器 / なし

領地は周囲を山に囲まれており、ソファラ城も孤城の印象が強い。ソファラ城は、イザーク王国がグランベル帝国領となつて以降、ドズル家三男ヨハルヴァの居城となっていた。

◀ ホリン

大義を見つけた領主の息子

ソファラ領主の息子で、アイラとは幼少時に出会っていた。イザーク王国の崩壊により、闘技場剣士に身を落とす。その間、闘技場では無敗を誇った。金のために戦っていたが、シグルド軍勇士の戦いぶりに惹かれ、大義のために戦うことを決意する。
"月光剣"の使い手。

リボー一族

●組 / 不明 ●伝承武器 / なし

リボーの地と城を任されていたが、グラン暦757年、グランベル保護領ナダで暴虐を働いたために、族長がマナナン王によって斬首。その結果、一族は断絶してしまう。

【トラキア】



【トラキア】

マリータ▶

父の血をしっかりと受け継ぐ女剣士

ガルザスの娘でオードの血を引いている。奴隷市場で売られていたところをエーヴェルに救いだし、それからエーヴェルと本当の母娘のように育つ。レイドリックに捕らえられ、暗黒の剣に支配されたときは、エーヴェルとレイドリックの傭兵だったガルザスによって救い出された。もともと"月光剣"の使い手だが、ひょんなことから"流星剣"までも会得する。



▲ ガルザス

オードの聖痕を持つ傭兵

イザーク王家マリクルの姉を母に持ち、シャナンとは従兄弟。リボー一族が崩壊したあと、まだ小さかったマリータを連れて旅に出るが、目を離したすきに奴隷商人にさらわれ、離れ離れとなってしまった。すぐ胸の傭兵としてレイドリックに雇われていた折、牢獄にいたマリータを見つけて助け出す。自分が父親だとは告げなかったが、夢見て気づかれる。

トラキア王国

逆境をはねのけんと翼はためかせる竜騎士の国

トラキア半島の一国が分断されてきた国。だが、北と違い、南のトラキア王国は険しい山々が国土の多くを占め、民は常に貧困状態にあった。そのため、大陸全土を巻きこむ戦乱は、騎士団が傭兵稼業で外貨を稼ぎ、北トラキアに進攻する好機でもあった。

トラキア王家

● 竜騎士ダイン ● 伝承武器 / 王槍グングニル

聖騎士のひとり、竜騎士ダインの血筋。ダインは竜騎士ノヴァの兄でもある。トラバント国王は、傭兵稼業で金を稼ぐ現状を打破しようと、トラキア半島制圧の野望に燃えている。



アリオーン

【聖戦】

葛藤に揺れる竜騎士

半島統一のために自ら犠牲となった父トラバントの遺志を継ぐと、レンスター進攻を進めるが、アルテナとはさまで苦む。



ハンニバル

【聖戦】

トラキア軍を支える支柱

“トラキアの盾”と呼ばれる武人で、カバトギア城主。息子を入質にとられ、意に沿わぬ戦いを強いられる。後に息子と解放軍に参加。



【聖戦】

ディーン▶

【トラキア】

人知れず募らせた 思いの行方は?

自身の婚約者リノアの危機を知ったアリオーンが、運わせた竜騎士。その信頼に応じて騎士団を脱退し、リノアの賢護に全力を尽くす。リノアンにとって彼は、“竜騎士ダインの再来”のような存在だった。グレイドとは、タラでともに戦った同志。



【トラキア】



▲トラバント

トラキアの王。半島制圧を目標に掲げ、非道な手段をとることもいとわない。その一方で、イード砂漠で殺害したキュアンとエスリンの娘アルテナを保護し、育てあげた。最後は「グングニル」をアリオーンに託して戦死する。

◀エダ

使命に向かって一直線

ディーンの子。兄とともに、タラ傭兵団としてタラの防衛にたずさわる。竜騎士としては兄に及ばないが、リノアンに対してもアルテナに対しても、まっすぐに使命を果たそうとしている。ともに空を駆ける愛竜の名は、ケイトというらしい。

マンスター地方

独立小国家が並びたつ緑の大地

豊かな国土を分けあい、小国家や独立都市が林立する地方。100年前の確執に縛られ、盟約によって南トラキアとの交易を絶っていた。グランベル帝国によって地方全域が制圧されると、民は新トラキア王国誕生まで苦しい生活を送ることになる。

レンスター王家

●祖/槍騎士ノヴァ ●伝承武器/地盤ゲイボルグ

レンスター地方を治め、継承する槍騎士ノヴァの力でマンスター地方四小王国の盟主として君臨する。だが、トラキアによって落城すると、帝国領北トラキア王国に組みこまれた。

【聖戦】



・キュアン

彼もまた半島統一を夢見た男

「ゲイボルグ」の継承者。妻エスリンとともに、イードの砂漠でトラキア軍に討たれる。シグルド、エルトシャンとは士官学校時代からの親友。情厚き男だが、トラキア王国をさげすむところもあった。



【トラキア】

▲リーフ

半島全土の宿願を突らせた光

赤子のころに、フィンの尽力でトラキアのレンスター城襲撃を逃れる。その後、アルスター、ターラと逃亡の旅の果てに、フィアナ村に身を寄せる。やがて、フィアナ義勇軍を旗揚げし、各地で同志を募りつつ、北トラキア解放を実現。さらには、兄弟の誓いを立てた盟友セリスの力を借りて、トラキア半島統一国家を誕生させる。

アルテナ

【聖戦】

その身には南北の夢が……

両親の死後、トラバントに娘として育てられた。両親の死の真相を知らずに育ったが、真実を知ったあと父や兄への敬愛は消えない。「ゲイボルグ」の継承者。



地を駆ける鋭い槍の群れ

レンスター王家直属の騎士団「ランスリッター」。槍騎士の精鋭で構成され、その名を他国に轟かせていた。

だが、キュアンに率いられてシグルド軍の援軍として駆けつける途中、機動力を奪われるイード砂漠でトラキア軍の襲撃を受け、壊滅してしまう。



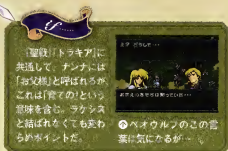
【トラキア】

【聖戦】

＜フィン＞

主君への忠誠を果たした騎士

キュアン^①の従者としてシグルド軍へ参加。主君とともに一旦帰国した後、キュアンはシグルド軍の援軍に向かい、彼はリーフを託されて国に残る。主君を失ったあとは、リーフ王子とナンナを敵から守って育て上げた。バーハラの戦い、トラキア・ユグドラル解放戦争の間方を経験。平和が訪れると、イード砂漠へと向かった。



【トラキア】

グレイド▶

ターラで辛抱を重ねた忠臣

傭兵団としてターラを守っていたレンスターの遺臣。フィンとは親友だが、アルスターで別れて以来、10年会っていなかった。フィンとかわした、グレイドが旗を、フィンが王子を守るという約束を果たし、ランスリッターを育てあげた。セルフィナの夫。

【トラキア】

【トラキア】

＜ドリラス＞

身をもって“戦”を教える

元レンスターの伯爵でセルフィナの父。山荘で未来の騎士たちを育てた。10年前のアルスター戦で右腕を失う。レンスターを制圧後、すぐさまアルスターを援護に行きたいリーフを押しとどめ、援軍を走らせる。ブルーム軍の猛攻によって命を落とした。

▲セルフィナ

若き騎士の母役として

ハンニバル將軍の山荘に潜伏していたレンスター騎士のひとり。若い騎士の母親がわりとして、終戦後も孤児を集めて育て、「トラキアの母」と呼ばれた。ラケシスの気持を知りながら冷たかったと、フィンを責めた。

【トラキア】



◀ゼーベシア

部下思いでは天下一品

レンスターの將軍だったが、レンスター滅亡後に帝國軍に下る。その理由は、戦場に取り残されたレンスターの民を守るため。その後、副官たちの家族が帝國に人質にとられ、彼自身も帝國にとどまらざるをえなかった。

カリオン▶

聖騎士の名を継ぐ若者

ハンニバルに仕えたが、父親はレンスターの聖騎士。山荘にリーフを案内したとき、セルフィナから戦死した父親の形見を受けとる。それは、幼いころに病で亡くなった彼の母が、セルフィナに預けていたエリートの剣だった。

【トラキア】



【トラキア】

ケイン▶

実務家として才能を発揮

アルバたちとともに山荘で騎士の鍛錬に励んだ若者。セルフィナに率いられ、山荘に襲いかかるトラキア軍を迎撃した。だが、終戦後は剣を置き、政策面から新生トラキア王国の復興に携わり、リーフや宰相から重用される。



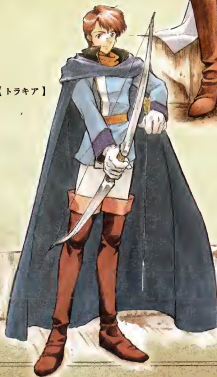
【トラキア】

▲アルバ

南トラキアで奮闘

ドリアスたちに育てられた、新ランスリッターのひとり。彼も両親を戦で失っている。新生トラキア王国では南方に赴任し、王姉アルテナの下で働いた。もとは戦地の人々も、彼の明るさに心を許したという。

【トラキア】



◀ロベルト

レンスター近衛軍の弓騎士

若い騎士が集まる、新ランスリッターの中でももっとも若い。両親を戦争で失ったこともあったが、セルフィナを母と慕う。終戦後は、希望する新生トラキア王国近衛軍へ配属された。だが、幼さと頼りなさは抜けきらなかったようだ。

コノート王家

●根／不明 ●伝説武器／なし

北トラキア地方に並ぶ四小王国のひとつだったが、グランベル帝国の進軍により滅亡し、帝国領に組みこまれる。解放軍がアルスターを制圧したとき、ブルーム王が逃れた城でもある。



アサエロ

【聖戦】

子どもに愛されるヒットマン

孤児たちの親がわりとなり、傭兵稼業で孤児院の運営を助ける。異名は“コノートのヒットマン”。聖戦士に見劣りする自身を悔しく思う。



デイズ

【聖戦】

影は薄いが大事な解放軍メンバー

アサエロの妹。コノートの孤児院で育ち、盗賊稼業で得た金品を仕送りしていた。解放軍に入ってから、台所事情を考えて盗み続けた。

マンスター王家

●根／不明 ●伝説武器／なし

北トラキア四小王国のひとつだが、グランベル帝国により滅亡。レイドリックがマンスター城主となると、城の地下牢に囚われた子どもが集められたので、反乱活動の中心ともなった。



【トラキア】

ダルシン▶

弟妹の恩義は斧で返す

もとはマンスター城地下牢の牢番。弟妹思いで、弟のユベルガリーフ軍によって子ども狩りから救われたと聞き、解放軍に参加する。人情家でもあり、終戦後はケルベス岩へ出向いて盗賊団を壊滅させた。

◀ブライトン

国亡きあとも騎士として

マギ国の中心となり、レジスタンス活動に身を費やす斧騎士。もとはマンスター王国の騎士だったらしい。終戦後はマンスターの復興に尽力するとともに、剣を教えながら妻と平和に過ごした。

レイドリック▶

元コノート王国の近衛将軍だが、帝国に内通してコノート滅亡に荷担。マンスター城主の座を手に入れる。その後も暗黒教団と組んで腐敗の限りをつくすが、暗黒教団の司祭ベルドによって利用する価値なしとみなされ、十二魔将のひとりにされてしまう。



【トラキア】



【トラキア】



【トラキア】

ヒックス▶

すべては愛息のために

マンスター城下に住む斧騎士。地下牢に捕えられた息子、マフィーを助けてくれたリーフ軍に加入。終戦後は騎士の身を捨て、故郷で家族と暮らす。ただし、斧を手放すことはなかったという。

アルスター王家

●組/不明

●伝承武器/なし

レンスター王国の危機も傍観。だが、リーフをかくまった咎で国王は失脚、帝国の支配を受ける。セリスに解放されるまで、数多くの命が失われた屈辱の激戦地。

【トラキア】



ミランダ

女王ながら自由奔放

アルスター女王。父王の失脚と同時にアルスター城で人質扱いに。後に暗黒の森の僧院に移送されるが、リーフ軍に救出されて仲間に加わる。新トラキア王国建国後、恋に落ちた騎士と行方をくらました。

【トラキア】



コノモール

命の重さを知る勇将

アルスターの伯爵。アルスター軍を他国に知れ渡る存在に育てた。ミランダ王女を人質にとられてやむなく帝国軍に荷担するが、部下の命を救うためにみごとに退却を演じた。王女の無事を知り、リーフ軍のレンスター城防衛に参加。

【トラキア】



【トラキア】



【トラキア】



アスベル

“風”の一員たる魔道士

自由都市フレスト出身の魔道士。ターラで北トラキア寄還を誓ったリーフを探し続ける。マンスターでセティと出会うで専用魔法「グラフカリバー」を救わり、リーフの側近として解放戦争を戦う。

マチュア

可憐に剣と斧を振るう

マギ団メンバーのひとり、セティに厚い信頼を寄せている。また、彼女自身もブライトンから厚い信頼を受けている。終戦後はマンスター再建に情熱を傾けつつ、かつての戦友と家族をもうけた。

ラーラ

踊りで人々を支える少女

幼いころに旅芸人一座へ売られるが、バーンに救い出される。その後マギ団でシーフとして働いていたが、バーンとの再会を機に踊り子に戻る。その踊りは、トラキア復興のシンボルとまで謳われた。

フィアナ村

【トラキア】

エーヴェル

戦士をいやす

フィアナ村の領主。十数年前、イスの海岸に倒れていたところを村人に助けられた。それ以前の記憶はない。リーフたちをかくまったり、奴隷市場で見つけたマリータを助け出して義理の娘にしたりと、めんどろ見がよく、村の若者も母のように慕っている。旗揚げ時からリーフの戦いを支えるが、ベルドによって石化され……。



④ フィンが見た、エーヴェルによく似た人とは。そして、彼女に記憶や監獄がないのは……。トラキア解放から7年後、そのとき真の終戦が訪れる。



【トラキア】



【トラキア】

ハルヴァン

オーシン

“母”の背中を見て育った戦士

フィアナ村の戦士。両親のいない彼や妹バトリシアは、エーヴェルに育てられたという気持ち強い。後に、領主としてフィアナ村を繁栄に導く。妹が村の裏山で精霊から入手した、勇者の斧を愛用した。

うなれ、必殺のブーヅ!

フィアナ村の戦士。血気盛んな性格をエーヴェルにたしなめられながら、解放戦線では専用斧のブーヅで帝国軍の戦士たちをなぎ倒した。口うるさい(と本人は感じている)父と2人暮らし。タニアとはいい仲である。

イス村

ロナン

母思いの心優しい狼師

イス村の狼師。弓の腕前には自信がある。村で海賊行爲を行っていたリフィス団に捕り、海賊島に渡るフィアナ義勇軍と行動をとにする。その後もトラキア解放軍の一員として働き、終戦後はイス村で狼師に戻った。



【トラキア】

海賊島

【トラキア】

リフィス▶

悪運だけは強い盗賊

イス村から掠奪を繰り返す海賊団の首領だが、本人は小物の盗賊。リーフ軍に捕縛されるが、サフィのとりなし（ターラと一緒に戦うと嘘をついていた）で軍預かりに。出身はダキアの村で、バーンは当時の顔見知りだが苦手らしい。



【トラキア】

◀シヴァ

謎多き漆黒の傭兵

サバン出身の傭兵。雇われていたリフィス団が壊滅したあと、ミーズ城近くで他の傭兵と寄り集まっていたところを、リーフ軍が通過。恩賞目的でリーフを狙うが、サフィにさとされて解放軍に参加することに。戦乱終結後、人知れず行方をくらましてしまう。



紫竜山

【トラキア】

タニア▶

男っぽい口調の裏には恋心

ダグダの娘。父について解放軍に入る。父に似ず可愛い顔立ちだが、父親譲りの豪放な性格の持ち主。密かに思いを寄せるオーシンとは、憎まれ口を叩き合っているが、戦場では互いを助けあうよき関係。



【トラキア】



【トラキア】



◀ダグダ

紫竜山を変える元山賊

エーヴェルとは旧知の仲で、彼女の器の大きさに惚れこんでいる。もとは山賊で、紫竜山の開墾に動んだが、部下のゴメスに反乱を起こされる。その危機を救ってくれたリーフの力になろうと、解放軍に参加する。

▲マーティ

根は純朴な山男

ダグダの部下。ゴメスがダグダに反旗を翻したとき、流されてゴメス側になってしまう。だが、顔見知りになり、思いなおしてダグダ側についた。解放軍として戦ったが、終戦後は再びダグダと紫竜山の開墾に精を出した。

ターラ公爵家

●祖／不明 ●継承資格／なし

聖者ヘイムの流れをくむ公爵家が治めていたが、リーフをかくまった皆で帝国に自治権を剥奪される。帝国領、前領主の娘リノアの擁立、トラキアの制圧と終戦まで戦に翻弄された。

サフィ

命を賭して救国を願う修道女

リノアに仕える修道女で、ターラ時代のリーフを知る。ターラが危機を迎えた際、支援する戦士を募ろうと命を落とす覚悟で各地を行脚。海賊島に捕らえられたところをリーフ軍に救出される。

【トラキア】

【トラキア】

【トラキア】

ティナ

シーフの杖振る天然少女

姉サフィを追って街を出るが、バーンたちに捕まって盗賊の手助けをさせられる。無邪気で周囲を振り回すが、シーフやアンロックの杖を操り、解放軍の大きな力となった。

【トラキア】

ホメロス

ナンナの涙に負けた吟遊詩人

女癖の悪い旅の吟遊詩人。フリージ軍の襲来を避けてターラを脱出しようとするが、ナンナから説教を受けてリーフ軍に。終戦後は実体験をもとにリーフたちの戦いを歌った。

シャナム

剣より口で生きぬく傭兵

イザーク出身。ターラでシャナムの名をかたっていた。その後ロプト教団に雇われるが、ホメロスを頼って解放軍に。偶然だが、マリータが流星剣を覚えるきっかけとなった。

斬新さはゲーム内だけではなかったトラキア776

「ファイアーエムブレム」シリーズに初回特典がついたのは、実は「トラキア」が初めて。しかも、予約購入者特典として「ブライト版」と「DXバック」の2種類が用意され、どちらもローソン（Loppi）でのみ予約可能という、はかに類を見ない商品展開だった。

ブライト版には、ゲームソフトのほか「コレクションカード」（9種）を取録。DXバックにはそれに加え、ビデオ（『The World of Fire Emblem』）・トラキア半島布製マップ（ピンマーカー付）・ぬいぐるみ（ベガサス・ドラゴン）が付属していた。



⑨DXバック版の購入特典。これだけのグッズを宝箱仕様の箱（中央、ぬいぐるみ下）に入れる謎りようだった。



【トラキア】

◀ラルフ

男気あふれる傭兵

流れ者だが胸のいい傭兵。彼が偶然立ち寄った村は、アマルダが帝国の魔手から助けた子どもが預けられていた村だった。世話になった礼にと襲撃してきた山賊を迎え撃ち、その後帝国の横暴に耐えかねてリブ軍に加入する。

【トラキア】

ダキアの森

▶パーン

最後の一线は守る盗賊

盗賊団「ダンディライオン」の首領。だが、貧しい者からの強奪や殺しなど、人道にもとる行為には手を出さない。ラーラやセイラムの悪人で、ラーラの言葉から解放軍に参加を決める。トルードを信頼している。

【トラキア】

トルード▶

"死神"と呼ばれた剣士

ダキアの森で「ダンディライオン」の用心棒をしていた剣士。長いつきあいのパーンの誘いに乗り、ふたつ返事で解放軍に加わる。剣の振前もさることながら、体格や体力面にも恵まれ、相手の攻撃を見切る目はなかなかのもの。

セイラム▶

教団に疑問を感じた元司祭

元ロプト教団司祭。教団を抜けようとして殺されかけたところを、パーンに助けられる。教団を倒すべきという志が同じと感じ、解放軍に参加。終戦後は、ロプト教団の内幕を記した手記を残す。

ファンへの感謝を受け難い「封印の剣」

「トラキア」発売から2年半後、シリーズ初のGBAタイトルとして登場した「封印」は、「トラキア」から「DXパックをローゼン(Loopp)でのみ予約販売」という伝統を受け継いだタイトルでもあった。

その特典内容は、卓上カレンダー・パンダナ・ストラップ・クリアファイル(3種)・カンパッジ(6種)など。カレンダーは、後年発売された「烈火の剣」と「蒼炎の結跡」でも、初回購入特典として配られた。また、両作にはプレミアムサウンドCDも付属。音楽ファンの多いFEらしい特典だった。



①このほか攻略本も特典としてつき、それが特製版パック(左上図・パンダナ様)に入られていた。



アグストリア諸公連合

大陸最強騎士団を擁しながら野望につぶされた国

ヘズル直系のアグスティ王家にノディオン、ハイライン、マッキリー、アンフォニーの四王家が従う連合国家。巡礼の地として有名な「ブラギの塔」のあるオーガヒルもある。グランベルに匹敵する軍力を備えつつあったが、ひとりの愚王のために崩壊した。

アグスティ王家

●祖/聖騎士ヘズル ●伝承武器/なし

アグスティならびに隣接するマディノ、シルベールを治める。聖騎士ヘズルの直系の王家であるが、いつのころからか、聖なる武器を伝承できる者は現れていない。

【聖戦】

ノディオン王家

●祖/聖騎士ヘズル ●伝承武器/覆刻ミストルティン

ノディオンを治め、傍系ではあるがヘズルの血を引く王家。伝承武器の「ミストルティン」は、ノディオン王エルトシャン、そして息子のアレスへと継承されている。

【聖戦】

アレス

【聖戦】

魔剣を携えた“黒騎士”

“黒騎士”として恐れられた傭兵。隊長で育ての親でもあるジャパローに愛想をつかして解放軍へ。シグルドを親の敵と恨んだが、ナンナから父が書いた手紙を渡されて……。

【聖戦】

ラケシス▶

ノディオンの可憐な“姫”

エルトシャンの異母妹だが、兄を理想の男性像と公言していた。“バーハラの戦い”後、ナンナを連れ、アレスを探しにレンスターを訪れる。しばらく過ごすと今度はナンナを残し、イザークヘドムッドを迎えに旅立つが、イー・ド砂漠で消息を絶つ。

◀シャガール

マンフロイにそそのかされ、大陸の皇帝となることを目指す。秘密な父王イムカを暗殺、和平を運営するエルトシャンを処刑し、国家滅亡の原因となった。

▲エルトシャン

国を憂えた獅子王

“獅子王”の通り名にふさわしく、騎士としてだけでなく指揮官としても優れた武人。大陸最強の騎士団クロスナイツを率いる。レンスター生まれの妻グラニエとの間にできた息子がアレス。ラケシスは異母妹。

デルムッド▶

戦場を駆けるカリスマ2世

ラケシスの息子。母親譲りのカリスマ性を持つ。オイフェと隣国の様子を調べに回るなど、セリスやスカサハたちよりひと足早く、解放軍活動を始め。生き別れていた妹ナンナと、リーフ軍で再会を果たす。

【公式サイト】



【公式サイト】

◀ナンナ

フィンに育てられた王女

母ラケシスが兄デルムッドを迎えにいったまま戻らなかったため、レンスターに残された彼女は、リーフとともにフィンを父、エーヴェルを母として育つ。トラキア、グランベルの解放戦線に参加後、祖国アグストリアの統一に力を注ぐ。

ベオウルフ▶

友人との約束は守る男

アンフォニー軍に雇われた傭兵。だが、マクベス王に嫌気がさし、10000ゴールドでシグルド軍に寝返った。エルトシャンとは旧知の仲で、ラケシスを気にかけるよう頼まれていたことから、彼女に戦い方を指南する。

【聖戦】



トリスタン

【聖戦】

体力自慢のフリーナイト

アグストリアの動乱で戦死した、クロスナイツのイーヴを父に持つ。イザークに誘われる途中に妹とはぐれた。その後、解放軍旗揚げ時のメンバーとなる。

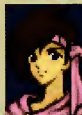


ジャンヌ

【聖戦】

生い立ちが強くさせた

トリスタンの妹。「バーハラの悲劇」を避けてイザークに向かう途中、兄とはぐれてしまう。彼女を拾った商人も帝国兵に殺され、7歳のときにフィンの下へ。



イーヴ

【聖戦】

弟エヴァ、アルヴァとともに、エルトシャンに信頼されたクロスナイツ。ラケシスをシグルド軍に引きあたと、アグストリアの動乱で戦死する。



【トラキア】



▲フェルグス

世話焼きな旅の傭兵

カリンにからむ帝国軍兵士を痛めつけて投獄される。そこで出会ったリーフの救出を手助けし、そのまま解放軍の仲間。「ベオウルフの隠し子」「コノート王家の落胤」という噂もあるが、真偽は不明。

シレジア王国

新時代の幕開けに大きく関与した風戦士の国

建国以来、天魔騎士団と風の魔道士の力で100年間の中立を守るが、グランベルの侵攻によってアルヴィス皇帝の直領とされる。再び自由と中立を手にするのは、トラキアやグランベルの解放軍の決起を受け、シレジアでも解放活動が始まった後となる。

シレジア王家

●祖/風使いセティ ●伝承武器/風魔法フォルセティ

長く平和を保っていたが、先王が病死したあとレヴィン王子が跡目争いを繰り出して出奔。これにより、王家内のあつさが激化する。その結果、セティが王位を継ぐまでは空位となる。

【聖戦】



▲レヴィン

世界に吹いた温かき“風”

アグストリアで出会ったシグルドと行動をともにする。若き魔族フォルセティに体の一部をあずけることで「バーハラの悲劇」後も命を保ち、光の公子たちの戦いを支援する。シレジアの次期国王だったがすでに人の中では生きられず、終戦後に再び旅に出る。

【トラキア】

ラーナ

【聖戦】



病死した先王の妃でレヴィンの母。腐敗の疑いがかったシグルドをセイレーン城にかくまう。成長した姿を見て、息子に「フォルセティ」を継承する。

ダッカー

【聖戦】



先王の弟でレヴィンの伯父。レヴィンの王位継承を不承とし、アルヴィス側との密約によってアンドレイ軍の支援を得て、シレジア城制圧を画策した。

マイオス

【聖戦】



先王兄弟の末弟。鋭利な目でシグルドの首を狙うが、返り討ちにあう。兄ダッカーと同様に、直系ながらセティの血を受け継いではいない。

メンゴ

【聖戦】



ヴァイスリッター所属のファルコンナイト。同じセティの血筋で、指揮能力以外はまったく同じ力を持つブレグ、メイベルの2人と強力な一撃を放つ。

ムーサー

【聖戦】



父筋を殺した反乱軍を率いる帝国軍兵士。セティの血筋を受け継ぐシレジアの騎士でもある。反乱軍を制圧するために、軍を率いてトラキアに進軍する。

◀セティ

その名に恥じぬ風の勇者

フリーの息子。母の病を治すために父を探し旅に出る。だが、立ち寄ったマンスターの状況を見逃がせず、マギ団を指揮。ブラギの剣を手に入れてリーフに託すなど、マンスター解放に協力後にセリス軍に入る。終戦後はシレジアに戻り、王位に就いた。



フィンとは逆に、「トラキア」でのセティの設定はレヴィンの子（＝フォルセティ継承者）で固定。「前」の存在はない。





フィー

【聖戦】

元氣さがとりえの天馬っ娘

セティの妹。兄がシレジアを飛び出したあとで母が亡くなったため、自身も旅へ。その途中で出会ったアーサーと解放軍に入る。愛馬の名はマーニャ。



マーニャ

【聖戦】

シレジア天馬騎士団長で四天馬騎士の長。フュリーの姉で、レヴィンが憧れた存在だった。シレジアでの内乱時、パメラ・アンドレイ軍によって戦死。



【聖戦】

【トラキア】



ミーシャ

子どもたちのために戦う將軍

飢えた子どもたちを救おうと傭兵になり、帝国軍で將軍の地位にいたが、子ども狩りの事実を知って解放軍へ。母はディートバ。終戦後、シレジア解放戦争での勲功から初代天馬騎士団長となる。

【トラキア】



カリン

目標は天馬騎士団

セティにフュリーの死を伝えるために国を出る。フェルグスとともに投獄されるが、その際リーフのマンンスター城脱出に大きく貢献する。愛馬の名はエルメス。少々お節介な性格で、帝国軍として戦うことに疑問を感じるミーシャやイリオスを軍に勧誘した。

フュリー

強くなった泣き虫

姉マーニャ同様、四天馬騎士のひとり。国を飛び出したレヴィンを連れ戻す流れでシグルド解放軍に参加、「泣き虫フュリー」から強く成長した。性格はまじめで、レヴィンにからかわれていた。



ディートバ

【聖戦】

シレジア四天馬騎士のひとりとして、マーニャ、パメラにつぐ実力を持つファルコンナイト。マイオスに仕えてシグルド軍を襲撃するも、撃退される。



ホーク

【聖戦】

優しく魔法の勇者

失踪した父を探してシレジアを旅立つ。だが、マンスター市民を見捨てられず、光魔法で反政府活動を行う。ルテキアの村人に、恋をすめられた経験あり。



フェミナ

【聖戦】

目標に突き進む天馬騎士

傭りの遅い兄を追って自身も旅へ。シグルドに憧れ、フュリーのような天馬騎士になるのが夢。ルテキアの村で、シャナンの偽者に言いよられるが……。

ヴェルダン王国

深き森に蛮族と精霊を宿す国

巨大湖と深い森が大部分を占める国土に、たびたび他国との国境を荒らす蛮族が住む。また、「精霊の森」にある村には、昔から不思議な力を持つ一族が隠れ住むという。バトゥ王や息子たちの死後、国土は荒れ果て、山賊が支配する国となっている。

ヴェルダン王家

●世／不明 ●伝承武器／なし

大陸にある国家では、唯一聖戦士の血族ではない王家。穏やかなバトゥ王が周辺国と同盟を結び、国として確立させるが、グランベル侵略とその失敗によって王家は崩壊する。



バトゥ

【聖戦】

ロプト教団司祭サンディマにだまされてグランベル侵略を開始し、王家の崩壊を招いた王。早世した長子の子ジャムカを、ガンドルフたちの策謀で迎え入れた。



ガンドルフ

【聖戦】

バトゥ王の次男。ヴェルダン軍を率いてユングヴィ城を制圧し、エーディンを奪回するべくマーフ城に連れ帰った。ミデールに原手を負けた相手。



キンボイス

【聖戦】

バトゥ王の三男でジェノアの領主。兄とグランベルに連撃する予定だったが、シグルド軍に撃破される。シャナンを人質にとり、アイラを戦場に送り出した。

【聖戦】

◀ジャムカ

誠実な弓戦士

バトゥ王の長子の子。ガンドルフたちの招募行為を嫌い、捕らえられていたエーディンを逃がした。進撃を止めるよう、シグルドとともにバトゥ王を説得しようとするが、すでにサンディマに殺害されたあどだった。

【聖戦】

◀デュー

侮れない盗賊戦士

盗みを働いてガンドルフに捕まるが、エーディンの脱いを聞いたジャムカに逃がしてもらった。解放軍では、武器や金品を調達しつつ、「太陽剣」の使い手としても活躍。

イード砂漠

灼熱の大地の下に暗黒の歴史を抱く

“バーハラの戦い”の発端となった砂漠の都市ダーナや、神剣バルムンクが収められていたイード神殿のある地。十二聖戦士が誕生したダーナ岩がある場所でもある。教団が復活してからは、暗黒魔道士が支配する“死の砂漠”と化している。

ブラムセル

【聖戦】



帝国軍領となったダーナの領主。ジャバロウ傭兵団を率い、セリス軍を退けた。リーンを手にかげようとしたために、アレスの怒りを買う。

シャルロー

【聖戦】

バサークの杖を使うエリート



ダーナの街でハンニバル将軍に拾われる。成長が早く、バサークの杖を使いこなすプリースト。かわいがってくれたアルテナを慕っていた。

レイリア

【聖戦】

市井に咲いたカリスマ



エリート気質の弟シャルローとともに、カリスマ気質の姉として解放軍で活躍した。ある村で知り合ったアナナから、バリアの剣を手に入れる。

ロプト教団

世界を恐怖に陥れた暗黒教団

世界を支配したロプト帝国が崩壊後、ロプト教団の残党・子孫は世界中で逃げられる生活を送る。そのため、イード砂漠の地下深くで数百年間も息を潜めていた。だが、司祭マンフロイの策略によって世界に戦乱の種は巻かれ、教団は再び動き始める。

ロプト一族

●祖/ガレ ●伝承武器/暗黒魔法ロプトウス

開祖はガレだが、その血族は滅び、生き残っているのは教団と袂を分かった聖騎士マイラの一族のみ。そのため、司祭マンフロイがロプト教団指導者として暗黒竜復活をもくろんだ。

【聖戦】

【トラキア】

マンフロイ

ロプト教団の大司祭。バトゥやアルヴィスをそそのかし、ユグドラ大陸に戦乱を起こすが、本来の目的は暗黒竜の復活とロプト教団の復興。ともにガレの血を受け継ぐディアドラとアルヴィスを結びつけ、ロプトウスの化身である子どもを作り出そうとした。

策略は成功し、アルヴィスの息子ユリウスは「暗黒の書」で覚醒、ロプトウスの化身に。だが、ディアドラがヘイム（神竜ナーガ）の血を引くユリアも産んだために、ユリウスは倒され、自身もセリス軍に討たれることとなった。



THE JUGDRAL CONTINENT

▲ サラ

暗闇から光のもとへ抜け出した少女

マンフロイの孫娘。母を幼くして亡くし、父は母を愛したことがマンフロイの怒りをもって殺された。そのため、マンフロイを嫌っている。マンフロイ一族専用の石化を解く「キアの杖」を使うことができ、エーヴェルを助けたいリーフの心の声を感じ、その前に現れる。戦後は、リーフの庇護下で穏やかに暮らした。

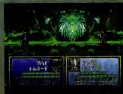
ベルド

【聖戦】

マンフロイの腹心でトラキア教区責任者。トラバントに情報を渡し、イード砂漠でキュアンを襲わせた密謀者。村々を焼いて子ども狩りを実行した。

十二魔将とベルクローゼン

マンフロイやベルドが死者から作り出し、セリスやリーフの前に送りこんできた魔道士。「十二魔将」とは、グラン共和国を滅亡させた伝説の将から名づけられた。ベルクローゼンとは、教団の闇魔道士や狂道士で組織した傭兵団を指す。



トライアングル アタック!の系譜

特定の味方ユニット3人で繰り出す「トライアングルアタック」。3人で敵を囲み、相手に強力な“必殺の一撃”を叩きこむ、文字どおりの“必殺技”だ。その歴代の使い手たちを紹介しよう。

【 File 01 】

暗黒竜、外伝、紋章、 新・暗黒竜

トライアングルアタックの代名詞的存在。『暗黒竜』から『紋章』まで3作連続で登場。唯一の使い手だったため、「この技はベガサス三姉妹のみ使用可」という印象をもたらした。



ハイル

カチュア

エスト

【 File 02 】

聖戦の系譜

革新的な「聖戦」で、ついに伝統をうち破る組み合わせが登場。魔道士3人(三姉妹かどうか不明)によるトライアングルアタックが誕生したのだ。しかも、彼女らは敵ユニット。いろいろな意味で驚かされる存在だった。



ワンバ

フェトラ

エイウ

【 File 03 】

聖戦の系譜

『聖戦』に登場する2組目の使い手で、やはり敵ユニット。だが、トライアングルアタックを使うこと以上に、ファルコンナイトにもかかわらず「みきり」スキルのせいで弓攻撃が効かないという点のほうが印象深かったかも。



メク

フレグ

メイベル

【 File 04 】

封印の剣

シリーズの伝統。ベガサス三姉妹によるトライアングルアタック。ただし、三姉妹の長姉ユーノは、イリアルルートに進まないと仲間になれないので、サカルートに進んだ場合は、トライアングルアタックを使えなかった。



ユーノ

ティト

シャニー

【 File 05 】

封印の剣

「ベガサスナイトとは対極に近いアーマナイトがトライアングルアタックを!?」ということで、プレイヤーに衝撃をもたらした3人組。ボールスとウェンディ(兄妹)にバース(同僚)という組み合わせも意表をついた。



ボールス

ウェンディ

バース

【 File 06 】

烈火の剣

ベガサス三姉妹によるトライアングルアタック。通称“イリア三翼の舞(ファリナ談)”。次女ファリナはヘクトル軍にしか登場しないので、トライアングルアタックも、ヘクトル軍限定となっている。



フィオーラ

ファリナ

フロリーナ

【 File 07 】

聖魔の光石

シレーネとヴァネッサの姉妹、そして王女ターナという、フレリア天馬騎士団員3名による組み合わせ。ただし、攻撃するユニット以外は、必ずベガサスナイトかファルコンナイトでなければならないという制約がある。



ターナ

シレーネ

ヴァネッサ

【 File 08 】

蒼炎の軌跡、暁の女神

4人のうち、任意の3人で繰り出せる。エリンシアだけ聖天馬騎士団でないの、一見共通点がなさそうだが、実は彼女の祖母も聖天馬騎士団の出身。もしかして祖母から技の出し方を教わっていたのか。



マーシャ

タニス

エリンシア

シグルーン

【 File 09 】

蒼炎の軌跡、暁の女神

ランスナイト、戦士、アーチャーという、ちょっと変わった組み合わせ。しかし、全員が弓を装備していないと発動しないので、実際に見る機会は少ない。手槍と手斧装備可なら、もった目の目を浴びたかも……。



オスカー

ボーレ

ヨファ



World Guide

エレブ大陸編

収録作品



エレブ大陸



EREB SAGA

かつて「人」と「竜」が共存する大陸があった。
彼らはともに英知をもち、住処を保つことなく
穏やかな生活を営んでいた。

しかし突然「人」の侵略によって、
そのバランスは破られる。
どちらともが大陸の覇権をかけ争い、
それは大自然の環をも
変化させるほどの大戦となった……。
のちに「人竜戦役」と呼ばれる戦いである。

その結果、敗れた「竜」は大陸から姿を消し、
「人」は戦いの痕手を乗り越えて、
大陸全土、そしてそれに連なる島々へ
着実にその勢力をのびていった……。

それから千年近い時が流れ――。

大陸エレブ――。
そこには天敵をもため「人」が広がり、
いくつもの文化を築きあげていた。

まず西に。大陸へはなやかに高度な文化を誇る
エトルリア王国。
東に、派手さはないが
堅実な文化と質実剛健の気風をよとする
ベルン王国。
この2つの王国が中心となり、
それに挟まれる形で小勢力が続く。

複数の領主たちが手を結び、二大王国に対抗する
リキア同盟。
民とともに荒地を切り開くイリア地方の諸騎士団。
広大な草原を馬で駆けめぐるサカ地方の諸部族。

それらの力のバランスにより、小さな争いこそあれ
全体としては安定を保ってきた……。

◆エレブ新暦年表

人竜戦役

約1000年前

- ・人と竜が大陸の覇権をかけて争う。
- ・神竜族、争いを避けるためナバタ砂漠に隠遁。氷竜ニニアンとニルスも竜の門を経て異大陸へ逃れる。
- ・竜族の長、戦艦竜を生み出すべく神竜イドゥンに魔竜に変える。
- ・人、「神将器」を作り、これを手にした八神将が竜殿へ侵入。
- ・自然の理が崩壊し「終末の冬」が到来。竜族は本来の姿を保てなくなり、竜石に力を閉じこめ人の幸になる。
- ・八神将、竜族の長を撃破。英雄ハルトムート、封印の剣とファイアーエムブレムを用いて魔竜イドゥンを封じる。

約500年前

- ・ハルトムート、封印の神眼を見守るべくベルン王国を興す。
- ・大賢者アトス、ナバタ砂漠にてネルガルと邂逅。
- ・アトス、神竜族とともにネルガルを襲撃。ネルガルはベルンに逃亡し潜伏。

キアラ内乱

963年

- ・キアラ侯ハウゼンの娘マデリンが、サカのロルカ族の青年ハサルのもとへ駆け落ちする。

979年

- ・タラビル山賊団の襲撃により、ロルカ族が壊滅。族長ハサルの娘リン(本名リンディス)だけが生き残る。
- ・サカの都市ブルガルにてキアラ侯公女リンが発見される。
- ・キアラ侯弟ラングレンと、公女リンとの間で次期侯爵の後継争いが勃発。
- ・リン、ラングレンを討ち、祖父キアラ侯ハウゼンと対面。キアラの内乱が終結。

史実に残らぬ戦い

980年

- ・暗殺者組織「黒い牙」にフェレ侯エルバートが拉致される。フェレ侯公子エリウッドとオスティア侯弟ヘクトルは、エルバートを探さべく旅立つ。
- ・エリウッド一行、ラウス侯ダーレンに会うべくラウスへ。ダーレンは逃走。ここでラウス侯がオスティアへの追兵を全て倒していたことが判明。
- ・ダーレンの奇襲によりキアラ城陥落。エリウッド一行、リンと合流し城を奪還。ダーレンはヴァーロー島へ逃走。
- ・エリウッド一行、竜の門にてダーレンを討つ。一行はエルバートと再会するが、エーギルを奪われエルバート死亡。
- ・エリウッド一行、ナバタ砂漠でアトスと出会い、ベルン王国の封印の神眼に向かうよう指示される。
- ・エリウッド一行、ベルンの山頂付近にて黒い牙からファイアーエムブレムを奪い返す。
- ・黒い牙がベルン王子ゼフィールの暗殺を試みるも、エリウッド一行に阻止される。
- ・エリウッド一行、封印の神眼にてブラミンドと出会う。ブラミンドによって、神将器の封印が解かれる。
- ・エリウッド、烈火の剣デュランダルを入手。ヘクトル、天雷の斧アルマーズを入手。
- ・オスティア侯ウーゼル、病没。
- ・竜の門にて、ネルガルと決戦。ネルガル撃破後、召喚された火の竜と決戦。神将器を用いて、これを撃破する。

981年

- ・エリウッドはフェレ侯爵に、ヘクトルはオスティア侯爵およびキアラ同盟盟主に即位。

996年

- ・ベルン王国王子ゼフィール、国王デズモンドを殺害し国王に即位。

ベルン動乱

999年

- ・ベルン王国、サカ地方およびイリア地方に侵襲。両地方はベルンの支配下となる。
- ・フェレ侯公子ロイ、リキア同盟軍に参加すべくフェレ軍を率いてオスティアへ進軍。
- ・ベルン王国王女ギネヴィア、ファイアーエムブレムを持ち出し、フェレ軍に投降。
- ・アラフェンにてベルン軍とリキア同盟軍本隊が激突。同盟軍本隊は壊滅し、リキア同盟盟主ヘクトルは死亡。
- ・ベルン軍の侵襲によりオスティア陥落の危機。エトルリア軍の助力により、これを退ける。以降、リキア同盟はエトルリア王国の保護下に置かれる。
- ・フェレ侯エリウッドがリキア同盟盟主代行となり、新生「リキア同盟軍」を結成。ロイ、同盟軍の将に任ぜられる。
- ・ロイ率いるリキア同盟軍、エトルリア王国からの出動要請により、盗賊討伐をすべく西方三島に進軍。
- ・リキア同盟軍、西方三島のエトルリア総督府を制圧し、圧政に苦しむ民衆を解放。
- ・エトルリア王国にて、宰相オーツと西方三島総督アルカルドによるクーデター勃発。国王モルドレッドは軟禁され、ギネヴィアもベルン軍に幽閉。だが、リキア同盟軍の活躍もあり、ギネヴィアは同盟軍に再合流。
- ・リキア同盟軍、エトルリア王国首都アクレイアへ侵襲。ナーシェンを撃破し王宮を制圧。国王モルドレッドを保護する。
- ・国王モルドレッド、リキア同盟と連合軍を結成。連合軍は「エトルリア軍」と命名され、ロイが司令官に任ぜられる。エトルリア軍は、クーデター派の残党掃討を行いつつ、ベルン王国への遠征を開始。
- ・ロイ率いるエトルリア軍、クーデター派を殲滅。
- ・エトルリア軍、封印の神眼付近でマードック率いるベルン軍と激突。これを撃破し、神眼にて封印の剣を入手する。
- ・エトルリア軍、ベルン王宮に侵襲。ベルン近衛兵と激突し、国王ゼフィールを撃破。
- ・ベルン王国、エトルリア王国に降伏を宣言。ブルーニャをはじめとするベルン軍残党のゲリラ的抵抗もあったが、ひとまず戦争は終結。
- ・ロイ、竜殿にてヤナンから人竜戦役の真実を聞かされる。その後、ヤナンと激突し、これを撃破。
- ・ロイ、竜殿の最深部に魔竜イドゥンと決戦。封印の剣を用いて、これを撃破する。
- ・エトルリア王国、ベルン王国を解体するものの直接統治を断念。ベルン王国を再建すべく、ギネヴィアが女王に即位。

人竜戦役

人と竜の戦い

エレブ大陸には、かつて人と竜が共存していた。彼らはそれぞれ穏やかな生活を送っていたが、約千年前に、突如人が竜への侵攻を始めた。後世に語り継がれる「人竜戦役」の始まりである。

強大な力を持つ竜は、次第に人の数に押され始める。そこで、個体数の差を補うために、戦闘竜を生み出すことのできる魔竜を生み出した。魔竜の存在を知った人は、竜に対抗するための武器「神符器」を作り出し、それを8人の英雄たち（後に「八神将」と呼ばれる）に持たせ、竜族の本拠地「竜殿」へと攻めこんでいく。

神符器を持つ魔力と、竜族の強大な力が竜殿に集中したとき、世界の秩序が崩れた。夏に雪が降り、昼が夜になるという異常気象、いわゆる「終末の冬」の到来である。自然の摂理が崩壊したことで大地や空の力は弱まり、竜は本来の姿を保つことができなくなった。そのため、自らの力を竜石に閉じこめ、人の姿をとるようになる。人間は、人と化した竜を集中的に狙い、ついには人が勝利を収めた。



八神将と神符器

ハルトムートたち八神将は、戦争終結後に神符器を封じる。竜を滅ぼし、自然の摂理を回復させる力を秘めた武器を、野放しにはできないと考えたのだ。

竜族とは？

エレブ大陸には神竜、火竜、氷竜、戦闘竜といいた、さまざまな竜族がいる。このうち、「人竜戦役」で人と敵対したのは、火竜と戦闘竜である。

竜族の中でもっとも強い力を持つ神竜は、戦いを避けるべくナバタの里に身を隠す。また、氷竜たちも神竜と同様に争いを嫌い、「竜の門」を使って異大陸へと避難する。このとき、竜と人の子であるコニアンとニルスも、氷竜と行動をともにした。



ベルン王国の建国

竜族の長が倒れると、魔竜イドゥンは、敵意にのみ反応する無残な生物になり果てる。それを見たハルトムートは、イドゥンを哀れに思い、命を奪うかわりに、剣と宝珠を使って封印を施すことにする。その剣が「封印の剣」であり、宝珠が「ファイアーエムブレム」である。

そして、ハルトムートは、イドゥンを封じた神殿の周辺に国を築き、剣と宝珠さらには神殿を代々王家が見守るものとする。こうして、かの地にベルン王国が誕生した。

大賢者
ネルガル

八神将のひとりアトスは、ナバタ砂漠でネルガルという魔竜道士と意気投合する。2人は、神竜と人が共存する理想郷「ナバタの里」を偶然発見し、そこにとどまり、さまざまな神竜の知識を得る。そんな中、生物の生きる力「エーギル」を奪う方法を習得したネルガルは、力に魅せられ、ついには人からエーギルを奪おうとする。だが、アトスと神竜の長は、力を合わせて彼の野望を阻止。その後、数百年間、ネルガルはベルンに潜伏することになる。



人の魂を超越した人

アトスとネルガルは、ともに強大な魔力と膨大な知識の持ち主。そのため、いつしか人の魂を超越し、異命の身となった。

キアラン内乱

キアランのお家騒動

リキア同盟の諸侯のひとり、キアラン侯ハウゼンには、マデリンという一人娘がいた。彼女がサカ部族ロルカの青年ハサルのもとに駆け落ちしてしまったために、次期侯爵はハウゼンの実弟ラングレンになると目されていた。

だが、エレブ新暦979年、マデリンから手紙をもらったハウゼンは、自分に孫がいることを知る。そして、主から孫娘を探すよう指示されたキアラン騎士テントとセインは、サカの都市ブルガで公女リン(本名リンディス)を発見する。山賊の襲撃によって一族や家族を亡くしたリンは、唯一の血縁である祖父のもとに向かうことを決意する。

リンを快く思わない侯弟ラングレンは、彼女に刺客を送り、ついには次期侯爵を巡る内乱が勃発。内戦は日に日に激化し、他領をも巻きこんでいくことになる。だが、リンが豊饒の末にラングレンを討ち取ったことで、内乱はようやく終結する。



⑤ リンは旅の途中で、頼りになる仲間をたくさん引き入れる。彼らが、ラングレンを打倒するための重要な戦力となった。



⑥ 苦戦の末にキアラン城にたどり着き、侯弟ラングレンと対峙するリン。いつもは優しい彼女も、敵には容赦がない。

運命の出会い

キアランに向かう途中、リンは2つの運命的な出会いを果たす。ひとつはニニアン姉弟との出会いである。リンたちは、姉弟が暗殺者集団「黒い牙」に追われていたところを救出する。もうひとつは、フェレ侯公子エリウッドとの出会い。エリウッドは、キアラン近隣城主との間で、キアランの内乱に介入しないという約定を取りかわすなど、リンの勝利に大きく貢献する。

キアランに到着したリンたちは、ニニアン姉弟、エリウッドといったんは別れる。だが、その翌年、ともにネルガルを倒す旅に出ることとなる。



⑦ 「黒い牙」にさらわれた弟ニニアンを助けるために、ニルスはリンたちに助けを求める。



⑧ エリウッドは氣を失ったニニアンを抱え、さっそうと現れる。まるで、「白馬に乗った王子様」のような登場シーンだ。

史実に残らぬ戦い

フェレ侯エルバートの失踪

エレブ新暦980年、ネルガルは、自らの力の源であるエーギルを集めるべく、フェレ侯エルバートを拉致する。さらには、ラウス侯ダーレンをそそのかしてオスティアへの造反を煽り、戦争を起こそうとする。だが、そのことを知らないフェレ侯公子エリウッドとオスティア侯弟ヘクトルは、わずかな手勢を率いてエルバートを探す旅に出る。

ラウスへ向かった一行は、ダーレンがオスティアへの造反を企んでいること、また黒い牙がかわわっていることを知る。キアランでリンを加えた一行はダーレンを追い、一路ヴァーロール島へ向かう。

竜の門にてダーレンを討ち、一行はついにエルバートとの再会を果たす。だが、そこにネルガルが現れ、火竜を召喚。ネルガルの真の狙いは、竜のエーギルを奪うことにあった。ニルスの活躍によって火竜は消滅するが、エルバートは、ネルガルにエーギルを奪われて帰らぬ人となる。



⑨ ヴァーロール島には、オスティアの密偵レイラの亡骸が放置されていた。ヘクトルたちは黒い牙への怒りに打ち震える。



⑩ ついにエルバートと再会したエリウッド。だが、エーギルを奪われたエルバートは、息子の腕の中で息を引き取る。

氷竜の姉弟と竜の門

ニニアンとニルスは、氷竜と人の間に生まれた。竜の血を引いているためか、身に降りかかる危険を察知したり、姉弟間で力の受け渡しをしたりと、人知を超えた力を備えている。

また、姉弟は、無数の竜が暮らす異大陸とエレブ大陸との接点である「竜の門」を開閉できる。そのために、竜のエーギルを寡わんとするネルガルに狙われる。



①力の受け渡しをする姉弟。ニニアンの方で開放された「竜の門」から、火竜が現れる。

ベルン王国と「黒い牙」

エリウッド一行は、今後の指針を探るべく「大賢者」アトスのもとに向かう。アトスは、ベルン王国の封印の神殿に向かうように指示。だが、ベルン王国は黒い牙の拠点であり、組織の手はベルン王家にまで伸びていた。

黒い牙は、王位継承に必要な宝珠「ファイアーエムブレム」を奪い、王子ゼフィールの暗殺を企てるが、エリウッドたちの活躍で失敗。そして、エリウッドたちは、その功績により、封印の神殿のありかを知ることになる。



国王と王子

国王デズモンドは、聡明な王子ゼフィールを妬んでいた。その嫉妬心が、黒い牙のベルン王家への介入を招くこととなる。



②エリウッドたちは、ナバタ砂漠で「大賢者」アトスと出会う。伝説の八神将を前にし、一行は驚愕する。



③ベルン王国では、黒い牙の指使い手である「四牙」たちが、エリウッド一行を待ちかまえていた。

神将器に秘められた力

封印の神殿に到着したエリウッド一行は、八神将「謎多き者」ブラミモンドと出会う。ブラミモンドの協力により、ネルガルに対抗しうる「神将器」を手にすることになる。

竜を倒すための武器として作られた神将器は、強大な力を秘めている。だが、竜を前にすると使用者の意図とは無関係に反応し、必要以上に戦闘に駆り立てられるなど、使用者が力に振り回されることもある。だからこそブラミモンドは、神将器に封印を施していたのだ。実際、エリウッドも、「烈火の剣」デュランダルは暴走により、氷竜の姿になったニニアンを殺めてしまった。



④氷竜の正体がニニアンだと知らなかったとはいえ、彼女を殺めたエリウッドは自責の念にかられる。

烈火の剣
デュランダル

①「勇者」ローランが使用していた大剣。彼の死後、オスティア近郊の崖と河原に封印されていた。ネルガルを倒すために、エリウッドが手にする。



天雷の斧
アルマーズ

②「狂戦士」デュルバンが使っていた斧。西方三島の洞窟にてヘクトルが入手する。使用者をいたずらに戦域に駆り立てる斧だ。

史実に残らぬ戦い

ネルガルとの激闘

ニニアンを亡くした悲しみから立ち上がったエリウッドとニルスは、仲間とともにネルガルのもとへ。アトスと共闘し、ついにネルガルを撃滅する。さらに、ネルガルが召喚した3体の火竜を、蘇生したニニアンと協力して滅滅。こうして、エリウッドたちの「史実に残らぬ戦い」は終結する。



⑤ プラミゼントと真の力を取り戻した神将軍により、ニニアンが蘇生。彼女は、水の魔法で2体の火竜を葬り去る。

④ ついに、ネルガルと決戦をつけることができた。アトスとネルガルとの激戦も、ここで終止符が打たれる。



物語は次世代へ…

エレブ新暦981年、エリウッドは父の跡を継いでフェレ侯爵に就任。同年、ヘクトルも前年に病没した兄ウーゼルの後継として、オステア侯爵およびリキア同盟主となる。その後、両者はロイ、リリーナという親子を授かる。

それから15年後の996年、ゼフィールがベルンの国王に即位。謀殺事件によると、その裏には、先王デズモンドによるゼフィール暗殺未遂事件があったという。エリウッドとヘクトルは、不穏動きを見せるベルン王国に一抹の不安を感じていた。



① 侯爵就任時のエリウッド(左)とヘクトル(右)。長い旅を経て、ひとまわり成長した2人の様子が見てとれる。

③ エレブ新暦996年、ロイとリリーナは互いの父に連れられ、初め対面する。

ベルン動乱

ベルン王国の侵攻

エレブ新暦999年、ベルン王国が突然各地に侵攻を開始する。サカ地方やイリア地方は瞬く間に制圧され、その魔手はリキア地方にも伸び始める。

リキア同盟は、盟主ヘクトルのもとに一致団結して戦うが、「ベルン三竜将」ブルーニヤ、ナーシェン率いる竜騎士団に大敗を喫する。これ以降、リキア同盟では、ラウス侯エリックのベルン内通、トリア侯オルンの暗殺、さらにオステアのクーデターなどの裏切りや離反が相次ぎ、そのうえ盟主ヘクトルの戦死もあり、同盟は事実上瓦解してしまう。

そんな中、オステアがナーシェン率いるベルン軍に包囲される。オステアが陥落されるかと思いきや、そこに西の大国エトルリア王国の救援が駆けつける。ベルンの横暴を阻止すべく、エトルリアがその重い責を上げ、「騎士軍将」パーシバルと「魔法軍

ベルン軍の進軍ルート



将”セシリアを派遣したのである。エトルリアの大軍の前に、ベルン軍は撤退を余儀なくされる。

オステア陥落という悲劇は免れたものの、その代償として、リキア同盟は、エトルリアの保護下に置かれることとなる。

リキア同盟軍主のヘクトルがまだ健在のころ、フェレ侯公子ロイは、病身のフェレ侯エリウッドの名代として、フェレ軍を率い、リキア同盟軍本隊に助勢すべく進軍していた。その途中、ベルンとフェレ領の国境付近で、ベルン王の妹ギネヴィアと出会う。ギネヴィアは、兄ゼフィールの尊厳を止めるべく、至「ファイアーエムブレム」を奪って国を出てきたのだ。同じ目的を持つロイとギネヴィアは、以降戦争終結のために行動をともにする。



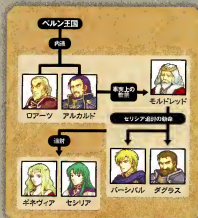
ロイと
ギネヴィア



2人は、後に戦争を終結させた英雄となる。この出会いがなければ、「ファイアーエムブレム」がロイの手に渡ることはなかった。

リキア同盟は、年若いリリーナにかわってフェレ侯エリウッドを盟主代行に任命し、体制の立て直しに着手。同時に軍も再編され、同盟軍の将にはロイが任じられた。こうしてできた新生リキア同盟軍は、エトルリア王国からの出動要請を受け、盗賊討伐のために西方三島に出征する。

その間、エトルリア本国では、ベルンと内通していた宰相ローアツと西方三島総督アルカルドによるクーデターが勃発。国王モルドレッドは軟禁され、ギネヴィアはベルン軍に幽閉される。だが、西方三島を平定したリキア同盟軍がクーデター派を攻撃し、ギネヴィアはロイたちと再合流を果たす。その後、エトルリアの王都アクレイアへと進軍したリキア同盟軍は、王都に居座るナーシェンを撃破して王宮を制圧。国王モルドレッドを保護した。



王子ミルディンとの出会い

ロイは、西方三島でレジスタンスの参謀エルフィンと出会う。彼の正体は、事故で亡くなったとされるエトルリアの王子ミルディン。ミルディンはロイと意気投合し、以降リキア同盟軍に同行することとなる。ミルディンは最後までロイに正体を明かさないうが、エトルリアのクーデター鎮圧の際には、彼の王子としての威光が絶大な効果を発揮した。



西方三島の
レジスタンス



ミルディンと従者ララムは、自分を認めてレジスタンスに加入。西方三島で戦いを続ける。エトルリアの鎮圧を目のあたりにして嘆く。

軟禁状態から救出されたエトルリア国王モルドレッドは、リキア同盟との連合軍を結成する。連合軍は正式に「エトルリア軍」に命名され、実績をかわれたロイが司令官に任せられる。

新生エトルリア軍は、戦争を終結させるべく本拠を入れ、ベルン王国への遠征を敢行。その途中、クーデター派の残党狩りを同時に行うこととなった。クーデター派の首謀者であるローアツやアルカルドは、志半ばにして辺境の地で命を落とすことになる。

エトルリア軍の進軍ルート



ベルン動乱

エトルリアとベルンの全面対決

クーデター派を殲滅したエトルリア軍は、破竹の勢いでベルンへ進軍する。“三竜将”筆頭のマードック率いる竜騎士団との激戦に勝利し、王宮に到達。ベルン国王ゼフィールは、己の野望を実現させるべくイドゥンを逃がし、ひとりで王座に残る。人に絶望したゼフィールと、人を信じるロイたちとの勝負は、後者に軍配が上がった。



ロイに自分の悪いの丈を語るゼフィール。だが、ロイは彼の意見に与せず、両者は衝突することになる。

神神器と「封印の剣」

ロイたちは、大陸を転戦しつつ、各地に散らばる伝説の神神器を集めてきた。ゼフィールの「エッケザックス」を含む、8つの神神器を集めた彼らは、

竜の本拠地である「竜殿」への道を開くことに成功。神神器とそれに匹敵する「封印の剣」を手にしたロイたちは、最後の戦いの舞台である竜殿へと向かう。

神神器 & 封印の剣の 所在地	No.	場所	名称
	①	オスティア郊外・マグマの谷	烈火の剣デュランダル
	②	ジョート郊外・古の洞窟	天雷の斧アルマース
	③	ナバタの星・神殿	業火の煙フォルブレイズ
	④	アクレイア近郊・聖女の塔	至高の光アーリアル
	⑤	エデッサ郊外・遺跡	氷雲の槍マルテ
	⑥	サカ草原・遺跡	疾風の弓ミルグレ
	⑦	ベルン王宮(ゼフィール所有)	エッケザックス
	⑧	ベルン郊外・封印の神殿	秘示の間ボカリプス 封印の剣



ヤアンとイドゥン

竜殿にたどり着いたエトルリア軍は、竜族の生き残りのヤアンと遭遇する。イドゥンの力を利用して、千年来の悲願である竜による大陸支配を実現しようとするヤアンに、ロイは、人と竜の共生を説く。だが、両者の意見は決して一致することなく、ついには戦うこととなる。

ヤアンを倒した一行は、魔竜イドゥンと対峙。ゼフィールの命に盲従するイドゥンに対し、ロイは“英雄”ハルトムートと同様に「封印の剣」で応戦する。すると……。



竜の復興を願う者たち

竜による大陸支配をもくろむヤアンと、人の治世を終わらせたいゼフィールの目的が一致。両者は共闘することになる。



⑤ ヤアンは、ロイたちに「人竜戦役」の真実と、魔竜イドゥンについて語る。



⑥ 自らを「目覚めた」と称するイドゥンだが、実は単にゼフィールの命令に従っているにすぎない。

ベルン女王ギネヴィアの誕生

国王ゼフィールを失ったベルン王国は、降伏を宣言。ここで、ようやく「ベルン動乱」が終結する。エトルリア王国はベルン王国を解体し、ギネヴィアを女王に戴く「新生ベルン王国」を建国する。故国を裏切ったギネヴィアへの不信任感は根強いが、彼女は、非難に耐え、麗声を響け続けながらもベルンの復興に力を尽くす。



⑦ ロイやリリーナは、女王として苦難の道を歩むギネヴィアに同情する。

フェレ領

名君とささやかれる歴代侯爵

リキア東部に位置するフェレ領は、「勇者」ローランが興した「リキア同盟」に属す。軍事大国ベルン王国との国境付近にあるにもかかわらず、治安は良好で、戦火にさらされたベルン動乱期においても、さほど大きな混乱は見られなかった。それもひとえに、エルバート、エリウッド、ロイと続く歴代侯爵の治世が優れていた証といえる。騎兵を中心に構成されるフェレ騎士団は、勇壮で誇り高いとの評判を得ている。

エリウッド

リキアの騎士

エルバートの子。正義感にあふれ、道理の通らないことには決して屈しない騎士道精神の持ち主。また、貴族としては珍しく、どんな身分のものに対しても分け隔てなく接する。失踪した父を探すべく旅立つが、父の最期を看取るという悲劇が待っていた。さらに、氷竜ニニアンを手にかけるという過ちも犯すが、それらの苦難を乗り越えた末にネルガルを打倒。エレブ新暦981年にフェレ侯爵となるが、ベルン動乱では、病のために軍の差配を嫡子のロイに一任。その間、戦死したヘクトルに代わってリキア同盟の盟主代行となり、ロイたちをバックアップする。



◎親友であるヘクトルとは2か月に一度手合わせをしており、30戦 14勝 12敗 4引き分け(エリウッド談)という戦績が示すように、剣の腕前も高い。

【烈火】



フェレ侯エルバート



エリウッドの父。オスティア侯ウーゼルの理解者でもある。膨大なエーギルを秘めているために黒い牙に拉致され、エーギルを奪われて逝去する。

侯爵夫人エレンア



エルバートの妻。父や息子エリウッドに深い愛情を抱く。侯爵夫人としての強さも持ちあわせ、夫の訃報を耳にしても気丈にふるまっていた。

フェレ侯爵家系図



エルバート



エレンア



エリウッド



ニニアン



リン



フィオーラ



ロイ



リリーナ



シャニー



スー



ララム



セシリア



ソフィーヤ

右側が黄色の
キャラクターは候補

② 意中の女性に想いを伝えるエリウッド。異性に奥手であるロイの性格は、母に似たのだろうか。

その秘密がなんだろうと、僕の気持ちは変わらない。

ロイ

エレブを救う若き獅子

フェレ侯エリウッドの息子。帝王学を学ぶために、オステリアに留学したことがあり、事物の本質を見極め眼識を有している。また、どんな相手にもものおじしない豪胆さも持ち合わせているが、女性に対しては弱い。

病床の父にかわってフェレ軍を率い、ベルン動乱に参加。リキア同盟盟主のヘクトルからリキア同盟軍を託され、後にエトルリア軍を任されるまでに成長する。ベルン動乱後、将としての手腕をかわれて各国から招聘されるが、それらを固辞し、侯爵としてフェレの地を治めたという。



④ エリウッドとオステリア侯ヘクトルは親友であり、ヘクトルの娘リリーナとロイは幼なじみの関係だ。



【封印】

ロイと特定の女性キャラクターの交際関係がAになると、エピソードで2人が結婚することになる。ちなみに、花嫁候補はリリーナ・シャニー・スー・ララム・セシリア・ソフィーヤの6名。

リリーナ いつになるかわからないけど
はくは あず リリーナを……



ロイの母親は誰？

マーカスの話によれば、ロイの母は極東の高地にしか咲かない白い花が好きだったという。エレブ大陸の極東の高地という点、まっさきに思い浮かぶのはイリア地方。エリウッドと結ばれる可能性のある3人のうち、ニニアンとフィオーラはイリア出身なので、この2人のどちらかがロイの母である可能性が高いようだ。



【烈火】

【封印】

▲ マーカス

フェレ家を支え続ける重鎮

エルバートの代からフェレ家に仕える古参騎士。エルバートを捜すエリウッドの旅に同行し、ヘルン動乱では、ロイに随伴して各地を転戦する。フェレ騎士団をまとめる厳しい將軍であり、主家はもちろんのこと、部下からも厚い信頼を寄せられる。食通という隠れた一面もあり、甘いものに一家言を持っている。

▶ ハーケン

主の敵を取るべく失脚

フェレ騎士団の一員。かつて主君である侯爵に見殺しにされたことがあり、その過去を知ったうえで迎え入れてくれたエルバートに、絶対の忠誠を誓う。エルバートが黒い牙に拉致されたことに責任を感じ、敵を討つべく黒い牙に潜入。そこでエリウッドたちと出会い、一行に加わる。騎士団の同僚イサドラは、将来を誓い合った婚約者。



ハーケンとイサドラの支援関係がAになると、エピソードで2人は結ばれる。流に出る前にかわした2人の約束が、ついに実現したのである。



【烈火】

▲ イサドラ

エレノア付きの美しき騎士

フェレ騎士団の一員で、侯爵夫人エレノア付きの近衛騎士。エレノアにエリウッドを守るように命じられ、一行に加わる。地方貴族の娘として生まれるが、騎士に憧れて聖騎士まで登りつめる。すれ違う人が振り返るほどの美人。旅のあとは近衛騎士の任にあたりつつ、ハーケンとの結婚を控え、女性らしさに磨きをかけたという。



ハーケンとの支援関係がAになると、両者はエピソードで結婚する。また、レナートとの支援関係がAになると、騎士からエリミータ教団の司祭に転身する。

【烈火】

▶ロウエン

食に対する異様なこだわり

フェレ騎士団の一員だが、叙勲は受けていない従騎士。幼少時に姫屋を教つてくれたハーケンに憧れ、騎士を志す。エルバートの父の専属料理人だった祖父の血を引くためか料理が得意で、エリウッドの食事は彼が用意する。大きな銭には、あふれんばかりの食材が詰められている。



ロウエンとレベッカの支援関係がAになると、2人は結ばれる。ロウエンは騎士として、レベッカはロイの乳母として末永くフェレ家に仕えることになる。

▶ランス

内に秘めたる闘志

フェレ騎士団の一員。冷静沈着で礼儀正しい。他の騎士団から来た新参者なので、古参騎士に引け目を感じている。だが、その武勇はライバルのアレクも認めるほどで、他家で培った経験も豊富なために周囲から頼りにされている。ベルン動乱後も、ロイやアレクとともに復興に力を注ぐ。

【封印】

▲アレク

直情径行な猛者

フェレ騎士団の一員。代々フェレ侯爵に仕える騎士の家に生まれる。勇敢で武勇にも優れ、先鋒をきって敵に突っこむ、騎士団の切りこみ隊長のような存在。直情径行の傾向があるために、仲間からたしなめられることもしばしば。戦争終結後もフェレ家に忠誠を誓い続ける。

ウィル▶

放浪する気ままな旅人

フェレ領出身の若者で、レベッカの幼なじみ。誰とでもすぐに打ちとけられる。家族に楽をさせるべく親友ダンとともに放浪を出奔するが、うまくいかずに各地を放浪。サカ地方を訪れたときにリンと出会い、そのままキアラン騎士団に仕官する。旅のあともキアラン騎士団に残った。

ウィルとレベッカの支援関係をAにすると、エピソードで両者が結ばれる。ウィルはキアラン騎士団を脱隊し、レベッカとともにフェレ領のエリウッドに仕えることになる。

【烈火】

レベッカ▶

兄を探して幾千里

フェレ領出身の村娘。同じ村の出身であるウィルとは、幼なじみの関係にある。山賊に襲われていたところをエリウッドたちに助けられ、恩返しをするために一行に加わる。また、行方不明となっている兄のダンを捜すことも、仲間に加わった理由のひとつ。旅のあとはフェレ侯爵家に仕え、ウォルトを産んだ後にロイの乳母を務める。

レベッカと特定の相手との支援関係がAになると、エピソードで両者が結ばれる。結婚相手の候補者となるのは、ロウエン、ウィル、サインの3名となる。

【烈火】

【封印】

【烈火】

【封印】



ウォルト▶

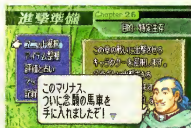
小姑じみたロイの乳兄弟

フェレ騎士団に属する弓兵。レベッカの息子であり、ロイの乳兄弟でもある。非常にまじめで、フェレ侯公子であるロイのことを第一に考えている。その思いが強すぎて、ロイからいやみを言われることもしばしば。戦場で体を張る、マークスやアレンたちに憧れている。動乱後も、忠臣としてロイおよびフェレ家を支え続ける。

◀ マリナス

行商人から貴族への立身出世

フェレ家に仕える文官。気の弱い小心者だが、大陸を旅する行商人だったために数字に強く、フェレ家の財務を任される。行商人時代、賊に襲われたところをエリウッド一行に助けられ、それを契機に一行に加わる。その後、エリウッドに仕え、念願だった爵位を得る。ベルン動乱期には、ロイをサポートすべく従軍していた。



④ マリナスは車の物品管理を任されている。愛用の馬車は、エリウッドたちとの旅で入手した逸品。

オスティア領

リキア同盟の中心地

リキア地方西部に位置する。リキアの始祖「勇者」ローランがこの地の領主だったことから、オスティア侯爵は、リキア同盟の盟主を兼任することになっている。他国との交易が盛んで諸産業も活発だが、歴代侯爵が勁健尚武を奨励していることもあり、浮々ついたところは見られない。

騎士団は重騎士を中心に編成され、オスティア城は難攻不落の名城と名高い。また、優れた密偵を多数抱えていることも諜報筋では有名で、情報収集にも注力していることがうかがえる。



オスティア侯ウーゼル

ヘクトルの兄。若年ながら、リキア同盟を統べる盟主として優れた政治手腕を発揮する。武術の腕前も第以上。ヘクトル不在時に病没する。



ヘクトル▶

豪放磊落なオスティアの雄

オスティア侯ウーゼルの弟。言動が貴族とは思えないほど粗暴で、変わり者として知られている。だが、内面は優しさで満ちあふれており、仲間や家族を傷つける者にはいっさい容赦しない。

エルバート失踪の報を受け、親友エリウッドに同行。旅の途中、部下のレイラ、そして敬愛する兄を失うが、最後まで戦い、ネルガルの野望を打ち砕く。その後、オスティア侯爵およびリキア同盟盟主となり、領地の発展に寄与。数年後には愛嬌リリーナを授かって穏やかなときを過ごす。それも長くは続かない。エレブ新暦999年に始まったベルン動乱で、敵軍の猛攻を受けて戦死する。

ヘクトルと3人の女性キャラクター、フロリーナ、フアリナ、リンの誰かとの支援関係をAにすると、回答がエピソードで結ばれる。下の画像は、リンと結ばれた場合の物語。



【封印】

【烈火】



◀ リリーナ

次代のリキアを担う美しき盟主

ヘクトルの一人娘。ロイとは幼なじみで、2人そろってセシリアのもとで学んでいた。エトルリアの「魔道軍将」セシリアに、魔道の天才と言わしめるほどの才を秘めており、部下や市井の人々の信頼も厚い。

部下のレイガンスらに裏切られ、捕囚となったところをロイ率いるフェレ軍に救出された。違反に気づけなかった自分を恥じ、次期領主となることに不安を抱いていたが、戦後は立派にオスティアの領主を務めあげた。



● 幼なじみのロイに思いを寄せている。ただ、奥手で鈍感なロイに多少やさきもきすることもある……。

【封印】

リリーナとロイの支援関係をAにすると、エヒローグで両者は結婚する。結婚を機にオスティアとフェレは1つの国となり、遂に誕生する統一国家「リキア王国」の礎となる。

バース▶

オスティア重騎兵の重鎮

オスティア重騎士団の一員。同時期に騎士宣誓を行ったボールスとは、親友でライバル。ものごとを冷静に見つめるリアリストで、部下はもちろん、主家筋のリリーナに対して厳しい言葉を浴びせることもある。だが、それも部下やリリーナに対する深い愛情があるからこそ。動乱後は、オスティア軍の指揮を任されることになる。



【封印】

【烈火】



▶ オズイン

オスティア侯の右腕

オスティア重騎士団の一員。オスティア侯爵の腹心として、ウーゼルとヘクトルに仕える。ウーゼルに命じられ、ヘクトルのお目付け役として旅に同行する。素行の悪いヘクトルをたしなめることも多く、あまりの口うるささにヘクトルから「じじい」呼ばわりされることもある。オスティア帰還後も、ヘクトルの参謀として活躍する。

オズインとセーラの支援関係をAにすると、エヒローグで両者が親しくなることがわかる。支援会話では、セーラが徐々にオズインに熱き上げていく様子が見える。

◀ ボールス

妹想いの優しい重騎士

オスティア重騎士団の一員。リリーナからロイの護衛を命じられ、ロイと行動をともにする。リリーナのよき理解者であり、実父を亡くした彼女にとっては父親のような存在。妹のウェンディを溺愛しており、常に気にかけている。動乱終結後は、オスティアの復興に尽力する。



❶ 偶然を頼み、何度もウェンディの様子を見に行くボールス。妹が心配で気が気ではないようだ。

【封印】

【封印】

【封印】

▶ ウェンディ

未来の重騎士団長

オスティア重騎士の一員。兄ボールスやバースのような立派な重騎士になることをずっと夢見ており、兄のフェレ滞在中に騎士宣誓を行う。重騎士になったばかりの新兵だが、生来のきまじめな性格で日々の研鑽を欠かさない。ヘルン動乱から数年を経て、女性初のオスティア重騎士団長となる。



❶ 重騎士とはいえ、れっきとした女の子。「太ってない」と言いほす姿はかわいらしい。

オージェ ▶

悲しき過去を持つ若き戦士

オスティア騎士団の一員。入団したばかりの新兵で、入団時期の近いウェンディと切離疎離している。貧しい家庭で育ち、家族を養うために傭兵となった。少年時代、口流らしのために、幼い妹を遠くの村に置きざりにした過去がある。ヘルン動乱のしばらく後、大陸に名を轟かす傭兵となる。



マッシュ&レイラ

闇に生きる密偵の悲哀

オスティアの密偵で、2人は恋愛関係にある。マッシュは、サカ地方で探偵活動をしたあと、ヘクトルとともに行動。普段はお調子者のようにふるまうが、裏の世界に生きる密偵にふさわしい陰鬱な一面もある。

レイラは、ウーゼルの命を受けて黒い牙に潜入するが、正体を暴かれてジャファルに殺害されてしまう。レイラ亡きあと、マッシュは恋人の敵を討つことを心に誓う。



マッシュとセーラの複雑関係をAにすると、エピソードで、レイラを亡くしたマッシュの心の傷が、天真爛漫なセーラの言動によって徐々に癒されていく様子が描かれる。

マッシュ

【烈火】

レイラ

【烈火】



アストール

オスティアに
尽くす「影」

オスティアの密偵。ヘルンで探偵活動をしていたが、ヘクトル戦死の報せを受けてオスティアに帰還。そこで、ロイたちの仲間になる。軽薄な男を装っているが、国や主への忠誠心は人一倍強く、味方の素性を探るなどの汚れた仕事もいとわない。動乱が終結すると姿を消す。失踪したイグレースの夫に、酷似しているらしい。

【封印】



【烈火】

セーラ

かましいシスター

オスティアのシスター。自己中心的な性格。常に奔放な言動で仲間を振り回している。そのため、本当に聖職者なのかと疑われることもある。修道院で厳しい生活を送っていたことが一種のトラウマとなっており、人前ではエトルリアの伯爵令嬢だと言い切る。オスティア帰還後も、騒がしい性格はそれ以前と変わらない。



セーラとオズメイン、エルク、マッシュのいざれかどの支援関係をAにすると、両者の仲が急接近する。とはいえ、セーラが下人で騒いでいるだけのようにも思えるが……

キアラン領

老侯の後継者争いが勃発

侯爵ハウゼンが治める地。ハウゼンの嫡子マデリンが囑け落ちしたので、次期侯爵は侯弟ラングレンだと目されていた。だが、マデリンの娘リンが発見されたために、後継者争いが勃発。内乱の結果、リンが公女となる。その後、ラウス侯に城を占拠されるなどの混乱もあったが、リンらの活躍により平定される。ハウゼンの死後、リンが爵位を返上したので、キアラン領はオスティア侯に統治されることとなった。



キアラン侯ハウゼン

キアランを治める侯爵。爵位を継がせるべく、一人娘マデリンの適人リンを探していた。リンが旅から戻ったあと、最愛の孫に見守られて逝く。



侯弟ラングレン

ハウゼンの弟。キアラン内乱の首謀者で、侯爵の座を奪取すべく秘策にリンを狙い、さらに兄を毒殺しようと画策。最後はリンたちに討たれる。



① ハウゼンは、家族をなくしたリンの唯一の肉親。



ラングレン



ハウゼン



マデリン



ハサル (口力カビ)



リン



エリウッド



ヘクトル



ラス



ケント

※背景が黄色のキャラクターは侯爵

キアラン侯爵家系図

【烈火】

リン

草原を愛するキアランの公女

サカのロルカ族の族長ハサルと、キアラン公女マデリンの娘。本名リンディス。父母が駆け落ちしたので、サカの草原で育つ。サカの地をこよなく愛し、サカの民であることを誇りとしている。タラビル山賊団に両親を殺されたために、恨を毛織いしている。唯一の肉親はキアラン侯ハウゼンで、とても大切に思っている。

ハウゼンを殺害して爵位を強奪しようと企むラングレンを阻止すべく、サカを旅立つ。その後、キアラン公女となり、ラウス侯に制圧されたキアラン城を奪還する際に、エリウッドの一行に参加。旅のあとで祖父の最期を知り、爵位を捨ててサカの地に戻る。



② サカの都市ブルガにある、精霊が宿るとされる小さな祭壇。リンは、そこで「宝剣マーニ・カティ」を手に入れる。



リンは、支那関係がAの相手によってその後が変化。エリウッドやヘクトルの場合は、リキアにとどまり侯爵夫人に。ラスやケントの場合は、サカに戻って結婚する。

ケント▶

キアランを守る盾

キアラン騎士隊の一員。リンの捜索のために、セインとともにブルガルを訪れる。一目でリンがキアラン公女だと気づき、以降彼女に付き従う。任務を忠実にこなすものの、度が過ぎるほどまじめ。また、密かにリンに想いを寄せている。旅から帰還後、オステア統治となった旧キアラン領の監督官となる。

⑤ ケントとセインがサカの都市ブルガルでリンを発見したことで、物語は大きく展開する。



ケントは支援関係をAにした相手により、その後が空欄。リンの場合はサカへ、フィオーラの場合はイリアへ行くと結ばれる。フィナーの場合は、イリア傭兵団に転身する。

【烈火】

【烈火】

【烈火】

セイン▶

女性のために命を賭して

キアラン騎士隊の一員。リン捜索のためにケントと一緒にブルガルを訪れ、リンを発見。以降、彼女と行動をともにする。無類の女好きで、視界に入った女性に声をかけずにいられない。キアラン領がオステア統治となったのを契機に、騎士隊を降参。その後は、自由騎士となって大陸各地を駆け回ったという。

レベッカとの支援関係をAにすると、セインは彼女と結婚してエリウッドに仕える。フィオーラとの支援関係をAにすると、イリアへ行くと彼女と結ばれる。

ワレス▶

キアラン兵の鬼教官

元キアラン騎士隊の隊長。侯弟ラングレンの命によりリンを捕らえようとするが、リンが正統な公女と確信して彼女に協力。後にベルンで再会し、一行の仲間となる。リンの父ハザルの旧友で、リンに復讐をやめさせるためにタラビル山賊団を壊滅させる。旅のあとは、イリアで開墾に精を出す。

コンウォル領

爵位を剥奪された一族

かつてはコンウォル家が治めていた地。だが、領主である侯爵がリキア同盟の資金を横領した罪で訴えられ、諸侯連合の決定により爵位を奪われる。家は取り潰され、悲願した侯爵夫妻が自死するという悲劇が起こる。その結果、リキア同盟の盟主たるオスティア侯が、コンウォル領を統べることになる。コンウォル家の廃絶をオスティアの陰謀とする噂もあるが、その事実はない。

▶プリシラ

【烈火】

離散した家族を探す令嬢

コンウォル侯爵家に生まれ、エトルリア王国のカルレオン伯爵家の養女となる。生家を取り潰されたこと知り、兄レイヴァンたちを探すべく出奔。旅先でラウス侯に最初められるが、それを拒んである村に隠れていた。そこでラウス侯と敵対するエリウッドらと出会い、彼らの仲間となる。物腰が柔らかくおとなしいが、一度決めたら絶対に意見を曲げないというがんこな一面もある。

プリシラは、エルクとギイのどちらとの支那関係をAにしたかによって、その性格が変化する。エルクの場合はエトルリアで結婚。ギイの場合は2人で駆け落ちをすることになる。

【烈火】

ルセア▶

血に汚れた聖職者

エリミナス教団の見習い修道士。コンウォル家を取り潰される前からレイヴァンに仕えており、この主従関係はネルガルを倒したあとにも続いたという。

幼少時に父が暴徒(セナート)に殺される様子を目撃し、その後も孤児院で虐待を受けるなどの悲劇に遭う。そのために心に傷を負っており、心因性の発作にも悩まされている。



▲レイヴァン

復讐を誓う元公子

どこか陰のある傭兵。正体は、リキア諸侯に取り潰されたコンウォル家の嫡男のレイモンド。取り潰しはオスティア侯の陰謀だと信じ、本名を隠して復讐を計画。キアラン城でエリウッドと行動をともにする妹のプリシラと出会い、ヘクトルに近づくために自らも仲間に加わる。

常に険しい表情をしており、「怖い顔」と指摘されることもある。困った仲間を放っておかず、つい手を貸してしまう優しさも持っている。

レイヴァンは、プリシラルセアとの支那関係がAになると、オスティアへの復讐を断念する。ルセアの場合のみ、ヘクトルにすべてを打ち明ける様子が描かれる。

リキア地方 その他

ダーツ▶

ファーガス海賊団の特攻隊長

港町バドンを根城にするファーガス海賊団の一味。レベッカの兄ダンにそっくりだが、数年前に大けがをした際に過去の記憶を失ってしまい、ダン本人なのかどうかはわからない。「ヴァロール島を見たい」と言って、エリウッド一行についてきた。その後、ファーガスをかばって海に落ちて行方不明となる。



④ ダーツは、海賊団の頭ファーガスを真父のように慕う。また、ファーガスもダーツを雇っている。

【烈火】



チャド▶

孤児院仲間の兄貴ぶん

アラフェンの孤児院で育った少年。ペルン軍の侵襲によって孤児院の院長を亡くし、ペルンに恨みを抱いている。院長の敵討ちをすべく、ロイ率いるリキア同盟軍に加わる。孤児院では、最年長だったこともあり、ルウたちの兄のような存在だった。動乱後は、盗賊から足を洗う。



④ ルウとレイの兄弟よりも年上だが、2人とは親友のような関係である。

【封印】



【封印】



【封印】

ルウ▶

理魔道の申し子

アラフェンの孤児院で育った少年。チャドと同様に、院長の敵討ちをするためにリキア同盟軍に加わる。レイは双子の弟で、どちらも二ノの息子。母から魔道の才を受け継いでおり、とくに理魔道の才に秀でている。動乱終結後、孤児院の跡地に魔道学校を開き、数々の魔道士を世に送り出す。



闇魔道の申し子

ルウは双子の兄でチャドたちと同じく孤児院で育った。魔道の修行をするために孤児院を飛び出し、独学で闇魔道を習得。西方三島でルウたちと再会し、ロイの軍に加わる。口が悪く性格もひねくれたいるが、優しい側面もある。動乱終結後は、古代魔道を極めんとし、大陸各地を放浪する。

▲レイ

エトルリア王国

華やかな文化が薫る大国

華やかで気風を持つ、エレブ大陸の西側の大国。“聖女”エリミース生誕の地としても知られ、エリミース教団の総本山も、この地にある。

ベルン王国に匹敵する軍勢力を有し、大軍将・騎士軍将・魔道軍將の“三軍將”が正規軍を率いる。ベルン動乱においては、ベルンの横暴を阻止すべく戦争介入の名目を探っていた。だが、エレブ新暦999年、宰相ロアーツらによるクーデターが勃発し、戦争どころではなくなってしまう。リキア同盟の協力のもとにクーデターを平定すると、ベルンへの連征を敢行。ベルン国王ゼフィールの打倒に協力し、戦争の終結に大きく貢献した。



国王モルドレッド

エトルリア国王。王子ミルディンが逝失したと聞き、戦意を失う。クーデター勃発時には事実上の人質となったものの、リキア同盟軍に救出される。



宰相ロアーツ

エトルリアの文官。クーデターの黒幕であり、ベルンと共謀し、エトルリアを支配しようとする。ロイたちに野望を阻止され、逃亡先で命を落とす。



西方三島総督アルカド

西方三島の総督。島民たちに労働を強いて搾取した独裁者。ロアーツの片棒を担いでクーデターを起こすも、逃亡先でロイたちに敗れて死亡する。



パント

【烈火】

ルイーズ

【烈火】

パント&ルイーズ

エトルリアのおしどり夫婦

王国名門貴族のリグレ公爵であるパントは、軍部トップの一角“魔道軍將”の地位にある。八神将アトスの弟子にして魔道の達人でもあり、魔道研究に傾倒している。

妻のルイーズは、おっとりとした貴婦人。誰もが認めるほどの美人だが、ルイーズの目には夫しか映っていない。そのため、戦場で2人だけの世界を作ることもしばしば。

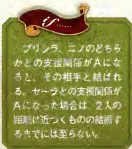
2人は、後にクレインとクラリーネの兄妹を産む。また、孤児のエルクや奴隷剣闘士ディックにも、実子と同様の愛情を注いだ。

【烈火】

エルク

魔道修行にいそむ苦勞人

パントの弟子。パントに拾われ、夫妻から実の子どものように愛される。きまじめな性格で、パントたちの期待に応えようとして無理をすることもある。修行の一環として、セーラやプリシラを護衛する。後に“魔道軍將”に推されるものの、これを固辞して魔道研究に生涯を費やした。



プリシラ、ニノのどちらかとの支援関係がAになると、その相手と結ばれる。セーラとの支援関係がAになった場合は、2人の距離は近づくものの結婚するまでには至らない。



【封印】



▲クラリーネ

怖いもの知らずのお嬢様

バントとルイズの娘でクレインの妹。父の才能を受け継いだのか、魔道の才がある。大好きな兄に会いたい、ただそれだけのために旅に出る。不審者としてラウス領で捕らえられるが、城から逃亡。たまたま近くにいたりキア同盟軍と行動をともにする。あまやかされてきたのか、我が強く自由奔放。ベルン動乱後は、おとなしく生家に戻った。



⑥自分をラウス城から逃がしてくれたルトガーに感謝しているのだが、素直に礼を言えず……。

【封印】



ディーク▶

チームを率いる名うての傭兵

ディーク傭兵団のリーダー。傭兵団の仲間を引き連れ、ロイ率いるフェレ軍に加わる。かつてエトルリアの奴隷剣闘士であり、そのころクレインの命を救う。それを機にリグレ公爵家に召し抱えられ、家族同然に愛される。だが、身分の低い自分があると恥になると考え、公爵家を飛び出す。動乱後は傭兵団を解散し、1人で傭兵稼業を続けた。



⑥ロイ率いる軍に居合わせるようになったディークとクレインは、十数年ぶりに再会を果たす。

◀クレイン

原理原則を重んじる若き將軍

エトルリアの將軍。バントとルイズの息子で、クラリーネの兄。母から弓の才能を受け継いでいる。エトルリア総督府を隣りキア同盟軍を鎮圧すべく西方三島に派遣されるが、真の敵は総督府だと悟ってロイたちの仲間となる。原理原則を重んじ、反することがあれば上官にさえもくつてかかる。ベルン動乱後、軍を除隊して文官の道を選んだ。



⑥確固たる正義感の持ち主で、雇われた傭兵の身であるティトも、彼に絶対の信頼を寄せている。

【封印】



【封印】

◀ダグラス

国王モルドレッドの忠臣

三軍将を兼ねる“大軍将”。エトルリア王家に忠誠を誓っており、国王モルドレッドを守るためにクーデター派に与する。また、王子ミルディン暗殺未遂事件でも「王子逃亡」の虚報を流し、王子を西方三島へ逃がす。動乱後に一度は退役するものの、復讐して將軍となった。



④ 戦災孤児だったララムを養女として迎える。彼女に対しては、「親バカ」といえるほどあまい。

【封印】

◀セシリア

ロイとリリーナの師&理解者

ベルン動乱期においてのエトルリア王国の“魔道軍将”。オスティアに駐屯していたころ、ロイとリリーナに武術や学問を教えた。クーデター派と内通していたベルン軍に捕らえられるが、ロイたちに救出されてそのまま仲間となる。ベルン動乱後は、エトルリアに戻って復興に尽力した。



④ 弟子筋にあたるロイからの救援要請を受けていたために、セシリアは軍を率いてオスティアに駆けつける。

【封印】

▶パーシバル

エトルリア軍中興の祖

エトルリア三軍将のひとり“騎士軍将”。王子ミルディンに絶対の忠誠を誓い、ミルディンがリキア同盟とともに行動していることを知り、ロイたちの仲間となる。戦争終結後、ダグラスから“大軍将”の座を受け継ぎ、エトルリア軍の再興に尽力した。最後は宰相にまで登りつめる。



ベルン王国

エレブ大陸一の軍事国家

“英雄”ハルトムートが興した大陸東部の軍事大国。この地にしか生息していない飛竜を用いた竜騎士団は精強で、それを束ねる“ベルン三竜将”は軍の要となっている。デズモンド王の治世は、暗殺者集団「黒い牙」が跋扈するなど、政治は腐敗していた。ゼフィールが王になって禍根は束清されるが、今度は他国への侵攻を開始してベルン動乱が勃発。戦後、敗れたベルン王国は解体され、ギネヴィアが女王となる「新生ベルン王国」が誕生する。

先代国王デズモンド



凡庸かつ狭量で正妻ヘレーネを憎み、才気あふれる嫡男ゼフィールに嫉妬する。たびたびゼフィール暗殺を試みるが失敗、逆に殺されてしまう。

先代王妃ヘレーネ



デズモンドの正妻。エトルリア出身でルイズとは旧知の仲。夫との関係は冷えきり、実子ゼフィールを王位に就かせることだけに専心していた。

ゼフィール

人の治世に絶望した王

デズモンドとヘレーネの子。幼いころから才気煥発で、臣下からの信頼も絶大。だが、そのあふれんばかりの才ゆえに父のデズモンドから疎まれ続け、たびたび暗殺されかける。ゼフィールは、その父を死に就いて殺害。王位を篡奪してベルン王となった。

その後、ゼフィールは、憎しみや妬みといった感情のために無益な争いを繰り返す人間と、その人間が支配する世界に深く絶望。かつて“英雄”ハルトムートが封印した魔竜イドゥン呼びまじし、大陸中を無数の竜で埋め尽くして人間を滅ぼすことを決意する。これが、ベルン動乱の発端となる。

だが、そんな彼の野望は、ロイ率いるエトルリア軍によって打ち砕かれ、実現することはなかった。

【烈火】

【封印】



●幼いころ、黒い牙に暗殺されかけた際には、エリウッドやヘクトルたちに救出された。



●エッケザックスの使い手でもあり、その強さは“魔道軍将”セシリアを一撃で蹴散らすほど。

ベルン王国組織相関図



ベルン近衛隊



ベルンの至宝
「ファイアーエムブレム」

ベルン王家には「ファイアーエムブレム」という宝珠が受け継がれている。これは、建国王ハルトムートが魔竜イドゥンを封じ込めるために用いた道具で、歴代国王が大切に保管してきた。継代も伝わるうちに、王子が成人の儀を迎える際には、ファイアーエムブレムを継承することが慣習となっていった。

ギネヴィア▶

国を裏切った王妹

デズモンドと彼の側室との間に生まれた娘で、ゼフィールの異母妹。母が父王に寵愛され、彼女自身も父から溺愛されて育つ。ゼフィールのことを非常に慕っている。

父の暴行によってゼフィールが約束したことを知っているの、内心では兄を痛ましく思っている。だが、罪のない民が戦争のまきざえとなることを憂い、兄の野望を阻止すべく「ファイアーエムブレム」を持ち出し、ロイ率いるフェレ軍に投降する。一度はベルン軍に囚われるものの、直属の臣下である竜騎士ミレディに救出され、以降は最後までロイたちと行動をともにする。

動乱終結後、新たに誕生することになった「新生ベルン王国」の初代女王に即位。裏切者と罵られながらも、復興に尽力する。



① ギネヴィアは父より兄になつていたので、デズモンドのゼフィールへの嫉妬に拍案がかかる。



② 陰湿なゼフィールも、ギネヴィアには温情をかける。幼いころの妹の笑顔が表面するのか。

【封印】

【封印】



エレン▶

ギネヴィアに仕えるシスター

ギネヴィア直属のシスター。主とともにベルンから出奔する。典型的な聖職者であり、穏やかで優しく、厚い信仰心の持ち主。ただし、男性と話すことをやや苦手としている。動乱終結後も、女王に即位したギネヴィアを支え続ける。



【封印】



【封印】



▶ ナーシェン

尊大な策士

“三竜将”のひとりで、リキア方面軍の指揮を担当。尊大で部下を使い捨てにするので、人望は皆無に等しい。たびかさなる失敗のせいで三竜将から降格させられそうになり、エトルリア王室の攻防戦において自ら出陣するものの、リキア同盟軍に負けて死亡した。



④ 度が過ぎるナルシストで、クラリーネから「下品だ」と言われて取り乱したこともある。

▲ マードック

ベルンの防壁

ベルン動乱期の“三竜将”筆頭格にしてイリア方面軍指揮官。デズモンドの治世からその地位にあり、先王に疎まれたゼフィールを支えた。そのため、ゼフィールはもともと部下からの信頼も厚い。ベルン王宮近郊にて、ロイ率いるエトルリア軍に敗れて死亡する。



④ エリウッドたちを助けたこともある。当時は若者らしい髪型だった。

【封印】



◀ ブルーニャ

誇り高き將軍

サカ方面軍を指揮する“三竜将”のひとりで、どんな場合も意欲も態度を崩さない。ゼフィールとともにベルン王宮で戦死することを望むが、後事を託されて王宮を脱出。その後、ベルン軍の残党を率い、正々堂々とエトルリア軍に戦いを挑んで散った。

【封印】



ゲイル▶

空かける烈士

マードック直属の竜騎士。ミレディの恋人で、敵同士となった後もその身を案ずる。その力は“三竜将”に匹敵するが、ナーシェンの中傷によって竜騎士の地位にとどまる。自分を重用してくれたマードックと国に恩義を感じ、最後までベルン軍人として戦った。



【烈火】

▲ヒース

竜騎士の誇りを抱いて

ベルン軍でヴァイダの部隊に属したが、ぬれぎぬをきせられて逃亡。ユバンス傭兵団所属の竜騎士となる。だが、弱者を団うの方針に反対し、エリウッドたちの仲間となる。戦いのあと、各地を巡る自由騎士となった。

【封印】

▶ツァイス

母国と実姉の狭間で

ナーシェン旗下の竜騎士で、ゲイルや姉のミレディを尊敬している。ナーシェンに裏切り者と呼ばれて殺されかけたところを、ゲイルにかくまわれる。その後、姉やギネヴィアが母国を捨てた真意を探るべくロイに同行。動乱後は、ベルン軍の再編に尽力する。

【烈火】

ミレディ▶

ギネヴィア親衛隊長

ギネヴィアの親衛隊長を務める竜騎士。ツァイスの姉でゲイルの恋人。国以上にギネヴィア個人に忠誠を誓っており、主の命に従ってギネヴィアをロイたちのもとへと送り、その後も随伴する。動乱終結後、女王になったギネヴィアを支えて国の復興に貢献する。

【封印】

【烈火】

ヴァイダ▶

ゼフィールの狂信者

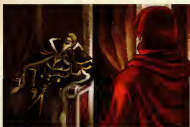
かつてベルン竜騎士団の部隊を率いていたが、市民虐殺のぬれぎぬをきせられて逃亡兵となる。ゼフィールに心酔しており、彼の近くで働きたいがために黒い牙に加担する。だが、エリウッドたちがゼフィールの窮地を救ったことを知り、その一行に加わった。

ドルカス▶

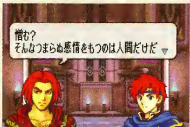
妻想いの戦士

ガヌロン山賊団に雇われた木こり。足の不自由な妻ナタリーのために金を稼ごうとするが、リンに説得され、山賊団を抜けて仲間に加わる。リンがキアランに帰還すると、エリウッドに雇われる。ネルガルを倒したあとは、妻とともにフェレ領に移り住んだ。

【封印】



④ ゼフィールの前に姿を現したヤアン。人の滅亡を望むゼフィールは、彼と手を結ぶことを即断する。



⑤ ヤアンは「生存競争に勝たれ」という本能に従うだけで、ゼフィールのような思想はない。

◀ ヤアン

「人竜戦役」を生きのびた竜族

竜族（火竜）の純血種。「人竜戦役」において人間と争った竜族の生き残り、約千年もの間竜戦で傷を癒していた。竜戦へと進軍したロイたちエトルリア軍に、人竜戦役の真実とゼフィールの真の目的について語り、その後彼らによって倒される。

人竜戦役以来の竜族の悲願である、竜による世界の支配。それは、魔竜イドゥンを復活させて人を滅ぼし、人の支配する世界を終わらせようとするゼフィールと相通じるものがあった。そのため、魔竜の復活によって力を取り戻したヤアンは、ゼフィールと結託。ゼフィールの野望と自分たちの悲願を達成すべく、彼に手を貸す。ゼフィールの死後、ヤアンがイドゥンの管理を引き継いだ。

【封印】

⑥ 昔はフードを被っているのではありませんが、色はできないが、色の異なる左右の瞳がイドゥン最大の特徴。



イドゥン ▶

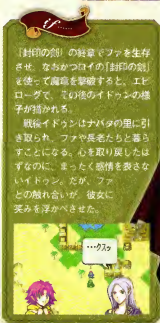
心を奪われた悲劇の神竜

ローブに身を包んだ謎の少女、「蘭蘭の巫女」と呼ばれているが、その正体は戦闘竜を無尽蔵に生み出す魔竜。人竜戦役でハルトムートによって封印されるが、ゼフィールが竜を利用して人を滅ぼすために、その封印を解いた。ゼフィールの命にのみ従い、彼の死後も竜を生み出そうとするが、ロイやファたちに倒される。

かつては神竜だったが、竜族の長に捕らえられて魔竜へと変えられる。その際、命令を拙実に遂行させるべく心を奪われ、いわば「戦闘竜を生み出す機械」と化した。



⑦ 少女から魔竜へと変化したイドゥン。その圧倒的な大きさを目にして、ロイたちは驚く。



イリア地方

騎士団が治める極寒の地

大陸北部に位置する極寒の地。“騎士の中の騎士”バリガンが生誕した地としても知られている。悪天候のせいで諸産業が育つことはなく、かわりに傭兵稼業が盛ん。イリアの傭兵はなによりも信用を重んじ、雇い主を決して裏切らない。また、ベガスはこの地にしか生息しておらず、天馬騎士はイリアの代名詞的存在である。それまでは諸騎士団が各地を治めていたが、ベルン動乱の後、イリア初の統一国家である「イリア連合王国」が発足する。

一面の雪に覆われた
白い山々……



① イリア地方の高山々々には、氷竜が住まうという伝説がある。ニニアン姉弟も、ここで生まれた。

フィオーラ

無垢なる白翼

イリア天馬騎士団の一員で第五部隊の隊長。ファリナとフロリーナの姉。バントに雇われ、ヴァーロール島の黒い牙を調査する。そこで、偶然フロリーナと出会い、エリウッドたちの仲間となる。周囲から堅物と呼ばれるほどまじめで、我を殺しても任務を遂行しようとするが、それ以上に、妹たちを大切にしている。

ネルガルを倒した後も、天馬騎士団の部隊長として各地を飛び回った。

【烈火】



ファリナ

自称“すご腕”の天馬騎士

イリア天馬騎士団の一員で第三部隊に所属する。フィオーラの妹でフロリーナの姉。“すご腕”と自称することからもわかるように、かなりの自信家。自分のせいでフィオーラに膨大な借金を背負わせてしまったために、こつこつ金を貯めており、ときには詐欺まがいの行動をとることもある。ネルガルを倒したあと、姉と同様に天馬騎士団の部隊長に就任した。

【烈火】



フィオーラには3人の恋人候補がいる。ケントまたはセインとの支那関係をもとにすると、イリアに突如としてそれぞれと結ばれる。エリウッドとの支那関係をAにすると、彼と結結してフェレ侯爵夫人となる。



ファリナは、ヘクトル、ケント、ダークの3人と支那関係をもとにしたがによって、その後が変化する。ヘクトルの場合はオスティア侯爵夫人となり、ケントやダークの場合は、そのとき傭兵稼業を続けることになる。





【烈火】

▲ フロリーナ

可憐な天馬騎士

イリア出身の見習い天馬騎士で、フィオーラとファリナの妹。引っこみ思考で口べたなので、他人との意思疎通が苦手。泣き虫で男性恐怖症で、そのうえに酒乱。これらの欠点を克服して正式な天馬騎士となるために、親友リンの旅に同行。そのままキアラン侯爵家に仕官する。ネルガルとの戦いの後はイリアへ戻った。



ヘクトルとの支援関係とAにすると、エピソードで2人が結ばれる。また、リンとの支援関係もAにすると、友情を深め合う2人の様子も垣間見ることが出来る。



【封印】

トレック▲

のんびり屋の風変わり騎士

イリア傭兵騎士団の一員。ゼロットとともにロイ率いるフェレ軍に加入。のんびりした性格で、戦場でぼーっとしたり居眠りしたりするのは日常茶飯事。そのため、たびたび上官であるゼロットから叱責される。だが、騎士としての能力は高く、“軍神”と評されるほど。動乱終結後もそのスタンスを崩さず、傭兵として各地を転戦した。

【封印】



▲ ゼロット

未来の統一イリア王

イリア傭兵騎士団を束ねる将軍であり、エデッサ城の城主。妻ユーノとの間に一人娘がいる。ヘクトルと雇用契約を結んでおり、彼の死後も盟約を守ってロイたちに加勢する。部下からの信頼も厚いよきリーダーだが、妻には頭が上がらない。ベルン動乱の後に、イリア初の統一国家であるイリア連合王国の初代国王に即位した。

【封印】

ノア

さすらいの傭兵騎士

イリア傭兵騎士団の一員。ゼロットとともにロイ率いるフェレ軍に加わる。優しい心の持ち主だが、親しい人間を失うことを恐れて他者とは距離をおく。だが、フィルに好意を抱き、自らの思いの丈を伝える。動乱終結後は騎士団を除隊し、ひとりの傭兵として各地を渡り歩いた。

ティト

自分に厳しいリアリスト

イリア天馬騎士団の部隊長。ユーノの妹でシャニーの姉。エトルリア軍のクレインに雇われ、西方三島へ赴任。そこで、雇い主の判断に従ってリキア同盟軍に加入。

家族や仲間を大切にするが、任務のためなら妹にも刃を向ける。ベルン動乱後、妹とともに壊滅状態にあったエデッサ天馬騎士団の再建に尽力した。

【封印】

ユーノ

蘇った伝説の天馬騎士

ゼロットの妻。天馬騎士団の団長だったが、結婚を機に除隊。ティトとシャニーの姉で、親がわりとなって妹たちのめんどうを見る。夫の留守中、ベルン軍の襲撃を受けて廣岡となるが、ロイたちのエトルリア軍に救出される。

その後、彼らの仲間として戦列に復帰。動乱後、天馬騎士団から“名誉団長”の称号を贈られた。

【封印】

シャニー

騎士を夢見るムードメーカー

イリア出身の見習い天馬騎士。ユーノとティトの妹。正式な天馬騎士となるべく、ディーク傭兵団の一員となる。その後、傭兵団の仲間とともにフェレ軍に加わる。経験の浅い新兵だが、持ち前の明るさで仲間を鼓舞する。動乱終結後に騎士の紋章を受け、晴れて天馬騎士となった。

シャニーは、ロイの花嫁候補のひとり。2人の支援関係をAにする。シャニーは天馬騎士として活躍する道を歩み、ロイと結ばれる。その後、ともにフェレ領で暮らすことになる。

【封印】

【封印】

ニイメ

大陸に名をはせる
“山の隠者”

カナスの母でヒュウの祖母。「魔道を志すなら知らぬ者はない」といわれる闇魔道の大家。常に山奥で研究にいそんでいるために、“山の隠者”とも呼ばれる。

伝説の魔族について調べるために、ロイ率いるエトルリア軍に同行する。動乱後は、再び山にこもって自らの研究に没頭した。

ヒュウ

一族の力を受け継ぐ
若き魔道士

エトルリアのクーデター派に雇われた魔道士。ロイから多額の金をせしめ、リキア同盟軍に接近した。カナスの息子にしてニイメの孫であり、人のよさは父に、理魔道の才能は母に、そしてバカなところは祖父に似たとはいわれる。動乱後は、仕官の誘いをすべて断って市井で暮らした。



②いわゆる守銭奴であり、手にする金額が多ければ真剣に戦う。

【烈火】



【封印】



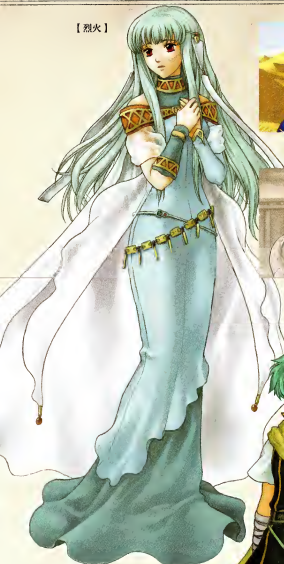
①カナスがニイメの息子だと知り、驚くバント。“魔道軍将”の地位も、“山の隠者”の名声にはかなわない。

カナス

知識を欲する魔道士

もとは学者だったという異色の魔道士。ニイメの息子でヒュウの父。港町バドンからヴァーロー島に渡る手段を探していたところ、偶然エリウッドたちに出会って彼らの仲間となる。ネルガルを倒した後に故郷イリアに戻るが、その数年後、妻とともに吹雪をくい止めようとして命を落とす。

【烈火】



④ 竜の血を引くせいかな不思議な力があり、降りかかる危険を事前に察知。



⑤ 姉弟は「人竜戦役」で異大陸へ避難するが、望郷の念は抑えられない。

ニニアン

水竜族の巫女

水竜と人の血を引くイリア出身の少女。竜族の住む異大陸とエレブ大陸を結ぶ竜の門を開ける力を持ち、弟のニルスとともに黒い牙に追われる。逃亡中は、語り子として生計を立てる。デュランダル^{デュランダル}の暴走により絶命するが、神将器^{カミヤリ}の力を利用したプラモンドによって蘇生。ネルガルを倒した後に、竜の門を閉ざすべく弟とともに異大陸へと旅立つ。



ニニアンは、エリウッドに恋心を抱いている。両者の支援関係をAにすると、彼女は水竜として生きる道を描き、念願叶いエリウッドと結ばれる。

ニルス

姉を守る健気な弟

ニニアン^{ニニアン}の弟。黒い牙に追われ、姉と2人で各地を転々とする。その間は、得意の笛を演奏して生活の糧を得る。病弱な姉の身を案じており、ニニアンが命を落とした際には悲しんでしまう。だが、最後には、エリウッドたちと協力してネルガルを打ち破る。その後、蘇生したニニアンとともに竜の門から異大陸へと旅立った。



④ エリウッドとニニアン^{ニニアン}の支援関係Aにすると、ニルスは姉と別れて、ひとりで異大陸へ向かう。



⑤ 姉の亡骸^{ハカ}を見て、ショックを受けるニルス。以降、しばらく口をきかなくなるほどふさぎこんでしまう。



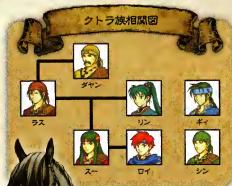
⑥ さまざまな迫害を受けたために、人間不信となったニルス。そんな折、ヘクトルに優しくされて……。

⑤ 姉の亡骸^{ハカ}を見て、ショックを受けるニルス。以降、しばらく口をきかなくなるほどふさぎこんでしまう。

サカ地方

草原を愛する遊牧民が住まう地

大陸内部に広がる大草原。クトラ族やジュテ族など、さまざまな遊牧民が暮らしており、“神騎兵”ハノンもこの地で生まれた。各部族はゲル(テント状の住居)で生活し、精霊や自然そのものを信仰する独特な習俗を持つ。そのため、他国からは奇異の目で見られており、それがいつしか蔑視へと変わっていった。エレブ新暦999年に始まったベルン軍の侵攻により、ほとんどの地域はベルンに支配されるが、動乱終結後には新たな部族が次々と勃興した。



ダヤン▶

クトラ族の伝説の騎士

クトラ族の族長。ラスの父にしてスーの祖父。大陸にその名を轟かす戦士であり、“灰色の狼”とも呼ばれる。ベルンの侵攻によってクトラ族は事実上滅亡するが、それでもベルンに抗い続けた。動乱終結後、新たな部族を立ち上げる。

【封印】

【封印】

【烈火】

▲スー

自然と共生する寡黙な少女

ダヤンの孫娘。自然を愛する寡黙な少女。ベルンの侵攻から逃れてトリア侯オルンに庇護されるが、オルンが執事のワグナーに殺害されたために、彼女も囚われの身となる。そこをロイたちに救出され、フェレ軍に加わる。動乱後は、サカに戻って静かに暮らした。

ラス▲

旅に出たダヤンの跡取り息子

ダヤンの子。幼いころに兎い節が「災いが起きる」と預言したため、それを阻止すべく物心つく前に旅に出る。リンやエリウッドたちとともにネルガルを倒したことで彼の使命は果たされ、十数年ぶりに故郷にいるダヤンのもとに戻った。

ラスは、リンの恋人候補のひとり。両者の支援関係をAにすると、別々にサカの地へと戻った2人は偶然再会し、そのまき結ばれる。そのうち、一人娘であるスーを授かることになる。

スーは、ロイの恋人候補のひとりである。2人の支援関係をAにすると、スーは故郷であるサカに戻らずに、ロイと結婚してフェレ侯夫人となる。

◀シン

サカの次代を担う若武者

クトラ族の戦士。ダヤンの命でスーを探索。西方三島でスーと再会し、以降は彼女に付き従う。話しかけることをためらわせるほどに無愛想で寡黙。動乱後はダヤンの立ち上げた部族に加わり、その後には“灰色の狼”の後継者となる。



【封印】

【烈火】



▲ギイ

草原を駆ける剣士

クトラ族の戦士。族長ダヤンに剣の才を認められ、サカの剣士になることを目指し旅に出る。マッシュに一度一振の恩があり、その恩を返すためにやむなく仲間となる。ネルガルを倒したあとも剣の修行に励み、後には“剣聖”カレルと並び称された。

【封印】

ルトガー

ベルンへの復讐に燃える剣士

サカの都市ブルガル出身で、サカとベルンの血を引く剣士。一族を滅ぼしたベルンへの復讐を誓っている。ラウス侯エリックに雇われていたが、ロイたちがベルンに敵対していることを知り、フェル軍に寝返る。動乱のあとは風のように消え、後の消息はわかっていない。



【烈火】

バートル

最強の男になるために

最強の男を目指し、修行に明け暮れる戦士。マーカスに雇われてエリウッドたちと同行する。旅の途中で後妻となるカアラと出会い、その後、一人娘のフィルを授かる。ベルン動乱期には、剣術修行の旅に出た娘を探していた。



【封印】



ギイとプリシラの支援関係はAにすると、カレルと2人が駆け落ちする。当初からプリシラを気に入っていたギイの想いが、つい実を結ぶことになる。

【封印】



④ 剣聖の名は、数多くの者を新てきた証でもある。

【烈火】

【烈火】

【封印】

フィル

“剣聖”の名を継ぐ者

バアトルとカアラの娘。母や伯父カレルのような剣士を目指し、修行の旅に。西方三島を訪れた際に顔見知りのノアと再会し、リキア同盟軍に参加。ノアに対しては、ともに戦ううちに好意を抱くようになる。戦後も修行を続け、【剣聖の名を継ぐ者】と評された。

カレル

伝説とうたわれる剣士

カアラの兄で、“剣聖”の異名を持つ剣の達人。一子相伝の剣技を習得すべく、旅に従って一族を手にかける。旅の途中でエリウッドたちと出会ったカレルは、成長した彼らと戦うことを夢見て、その力を貸す。

その後“剣聖”と呼ばれるまでになるが、戦を嫌ってベルンに隠れ住むようになる。だが、義弟バアトルや姪のフィルとの再会を機に、ロイ率いるエルリア軍に加わった。

カアラ

剣にすべてを捧げた女僕

カレルの妹。兄に会うために剣士を志し、“剣姫”と呼ばれるまでに成長する。オスティアでバアトルと出会った際に、彼らに同行すれば兄と再会できると考え、エリウッドたちの仲間となる。その後バアトルと結ばれ、フィルを産んだ後に病没する。



⑤ カアラは、西方三島でバアトルと剣を交えたことがある。そのときは、カアラが一撃で勝利を取った。

西方三島

圧政に苦しむ辺境の島々

西方三島とは、大陸の西端にある島の総称。エトルリア王国の保護下にあるが、賊やエトルリア総督府の圧政に苦しめられ、島民たちはレジスタンスを組織して抵抗を繰り返した。だが、この地にリキア同盟軍が侵入したことで、事態は一変。エトルリア本国から賊の討伐を命じられた同盟軍が、賊もろとも総督府を一蹴し、三島は平穏を取り戻す。動乱後には、この地に独立国家「西方連合」が誕生した。

エルフィン▶

素性を隠した レジスタンスの参謀

西方三島のレジスタンスの一員で、参謀としてエキドナを支える。その正体は、事故で死んだはずのエトルリア王国の王子ミルディン。表向きは事故死とされたが、実はロアツラによる暗殺未遂事件があったので、ダグラスが王子の身を案じて西方三島に逃がしたのだ。身分を隠したままロイたちと同行し、軍の参謀役を務め、動乱後はエトルリアに帰還した。



【封印】



【封印】

▲エキドナ

西方三島復興のために

西方三島のレジスタンスをまとめる首領。ロイに同行していたラムに窮地を救われ、リキア同盟軍に加わる。西方三島に新たな村を作るという夢があり、協力者を募った。生来の親分肌で、ベルン動乱後に誕生した独立国家、「西方連合」の指導者として擁立された。

◀ ララム

踊りと笑顔で仲間を鼓舞

西方三島のレジスタンスに協力する踊り子。島の窮状をロイに伝え、そのまゝ一行に加わる。ダグラスの養女であり、養父の命で王子ミルディンに仕える。料理が不得手で、彼女の手料理を食べると七日七晩うめき苦しむという。動乱後は各地を転々とし、踊りで人々を勇気づけた。



【封印】



ロイとの支援関係が人によると、エピソードで描かれる。フェレ島内では、強盗であるラムを助けることに反対する向きもあったが、ロイはそれを乗り越えて結婚したという。

ワード▶

頼りになる熱血戦士

ディーク傭兵団の一員。ディークとともにフェレ軍に加わる。西方三島の出身で、ロットとは幼なじみの関係である。常に冷静なロットとは対照的に、猪突猛進型で熱血漢。動乱終結後は故郷のフィベルニア島に戻り、荒れた土地を開墾し発展に尽くした。



◎生家は姉のメアリがおり、彼女の生活を楽にするために傭兵団に加わった。

【封印】

【封印】

▲ロット

いつもクールな戦士

ディーク傭兵団の一員。ディークとともにフェレ軍に加わる。フィベルニア島の出身。母や妹のミユウを助けるために傭兵団に入るが、その後には母は病没。理知的な性格だが、度が過ぎるほどの心配性。動乱後は故郷に戻り、ワードの姉メアリと結ばれた。

【烈火】

【封印】

▲ガイツ

己の使命を探して

ベルガー商会の御曹司でギースの兄。父が奴隷を隠匿する姿を目撃してショックを受け、出奔する。それ以来、自分のなすべきことを模索し続けている。

ベルンで顔なじみであったターツと再会し、エリウッドたちと同行することとなった。

◀ギース

海に生きる男

西方三島を拠点とする海賊。エトルリア総督府の強制労働によって部下を失い、その敵をとるためにリキア同盟軍に参加。ベルガー商会の次男坊で、かつては自社商船の船長を務めていた。動乱後は海運業に従事し、後に「海の王者」と呼ばれるようになる。

【封印】

【封印】

ゴンザレス▶

醜い顔と美しい心

醜い顔の山賊。西方三島の出身で、幼いころから容姿のために迫害される。そのためにやむなく山賊となるが、優しく繊細な心の持ち主であることをリリーナに看破され、リキア同盟軍に寝返る。動乱後は故郷に戻り、草の英雄として村人に歓迎された。

ナバタ地方

砂嵐に隠された人と竜の“理想郷”

大陸南西に位置し、その大半は砂漠。砂漠に足を踏み入れる者はほとんどいないが、その奥にナバタの里がある。里には、「人竜戦役」で人と争うことを嫌った神竜と、心清らかな人とが手を取り合って暮らしており、里の存在を知る者には「理想郷」と称されている。エレブ新暦999年にベルン軍によって襲撃されるが、ロイ率いるキア同盟軍の援護によりなんとか壊滅を免れる。動乱以後も、ナバタの里の竜と人は変わらず暮らしを続けたという。

① 砂漠に吹き荒れる砂嵐のおかげで、「理想郷」ナバタの里の位置はわかりにくくなっている。

アトス

【烈火】

ナバタ砂漠の生ける伝説

八神将のひとりにして、「篝火の理」フォルブレイズを使いこなす賢者。巷では「大賢者」と呼ばれる。強大な魔力と豊富な知識のためか、人の理を超越し、千年以上も生き続けている。ネルガルとは親しい間柄だったが、力を得るために他者の命をないがしろにするネルガルと対立し、神竜と結託して彼に深手を負わせる。エレブ新暦980年、大陸に竜を呼び出そうとするネルガルの野望を阻止すべく、エリウッドたちを導いてともに戦った。



② ネルガルの野望を阻止すると、アトスは息を引き取る。死の間際、のちのベルン動乱を予言する。



残りの八神将

勇者ローラン



「烈火の剣」デュランダルを使っていた小柄な戦士。オステアア族の援主であり、ハウトルの直系の祖先。デュランダルに自らの意識を宿していた。客死はエリウッドに似ている。

狂戦士テルバン



「天雷の斧」アルマーズを愛用した好戦的な戦士。人竜戦役の際に南方三島で最期を迎えるが、ローランと同じく美路に自分の意識を宿す。ハウトルにアルマーズを授ける。



英雄ハルトムート

八神将のリーダー的存在。人竜戦役ではエックザックスと封印の剣を使っていた。魔竜イドランを封印した後に、ベルン王国を襲す。

謎多き者ブラミモンド

魔法の達人で、闇を取りこみずで目を失う。アトスと阿修に千年以上も生き続け、各地に散らばる科博館に封印を施した。「黙示の盾」アガカリプスの使い手。

聖女エリミース

エリミース教の司教。後世の人々のためにと慈愛の心や確かな信念について記した書物を遺す「至高の光」アーリアルを使用していた。

神騎兵ハノン

サカ出身の女性戦士。「疾風の牙」ミルブレを愛用する。詳細は語られていないが、「ハノンの将軍」と呼ばれたスーに似ているらしい。

騎士の中の騎士 バリオガン

「氷雪の槍」マルテを愛用していた騎士。騎士を志す者にはおなじみの人物で、目も知っていた。イリアの出身。

ホークアイ

砂漠の守護者たる偉丈夫

イグレーヌの父。アトスに仕えて砂漠やナバタの里を守っていたが、主の命を受けてエリウッドたちに同行。「人と竜はわかり合える」というアトスの言葉を信じており、氷竜と人の血を引くニニアン姉弟を除ながら支える。

【封印】



【烈火】

イグレーヌ

守護者の任を受け継ぐ者

父ホークアイの跡を継ぎ、ナバタの里を守る戦士。ソフィーヤの予言にあった「ベルンの不言な力」の正体を探るべく、リキア同盟軍に加わる。夫（アストールに酷似）が失踪し、さらに幼い娘を亡くすという辛い過去を背負っている。

【封印】



▲ソフィーヤ

竜の血を引くナバタの巫女

人と竜の間に生まれたナバタの巫女。竜の血の影響で非常に長命であり、予知能力をはじめとする不思議な力を持つ。その力のためにベルン軍に捕らえられるが、ロイたちに救出され、以後彼らの仲間となる。動乱後はナバタの里に戻った。

ソフィーヤはロイの花嫁候補のひとつ。2人の支那関係をみると、両者は結ばれ、ソフィーヤは侯爵夫人となる。彼女の助言は、国家に大きな影響を与えたりする。

【封印】



◀ファ

神と呼ばれし唯一の竜

ナバタの里で育った神竜の純血種。強大な力を持つために外界から隔離されてきたが、外の世界に興味を抱いて里を脱走。ベルン軍に捕らえられたところを、ロイたちに救出されて仲間となる。動乱後の行方は誰も知らない。



④ ファは、神竜石を使うことで神竜としての本来の姿と力を取り戻す。

その他の地域

【烈火】

【封印】



ガレット

歴戦の狂戦士

ナバタ地方とエトルリア王国国境付近を荒らす山賊の頭目。金品こそ奪うものの、殺生はしないことをポリシーとしている。村を襲った際にリリーナと出会い、彼女の純粋さに心打たれて仲間となる。動乱終結後、山賊から足を洗って農民となった。

レナート

魔の島をさまよう聖者

ヴァロール島(通称“魔の島”)に住む聖者。かつては最強の傭兵だったが、ネルガルのモルフ開発の実験台となり、不本意ながら不老の肉体を得る。ルセアの父を殺した犯人であり、新兵時代のワレスを鍛えたのも彼。ネルガルを倒した後に姿をくらませた。



【封印】

キャス

神出鬼没の盗賊

ロイたちの行く先々で(左の地図参照)盗みを働く少女。貴族などの金持ちからしか盗まず、奪った金品を貧しい人に分け与える義賊。ベルンに対抗しようとする領主に故郷の村を焼き払われ、それ以来貴族や戦争を目的にしている。盗みを止めるようにロイに繰り返し説得され、彼の仲間に加わった。

キャスの盗宝探訪



- ① トリア
- ② オスティア
- ③ ジェト
- ④ アウレイア
- ⑤ ブルガルのエデッサ
- ⑥ ベルン

エリミーヌ教団

民衆に信奉される教団

“聖女”エリミーヌが創設した教団。教団本部はエトルリア王国にあり、同国にはエリミーヌを祭った「聖女の塔」も建設されている。大陸各地に多数の信徒を抱え、ベルンなどの大国も無視できないほどの政治力を持っている。ただし、彼らの目的はあくまでも「世界の安定と平和」。

エトルリア王国のクーデターやベルン遠征に介入したのも、その目的のためである。



“聖女”エリミーヌ

【封印】

◀ ヨーデル

伝説の大司教

エリミーヌ教団の司祭。ベルン王国による弾圧を危機し、弟子サウルをロイたちのもとへ派遣するなど、たびたびロイたちを援助する。その後、魔竜を封印すべくエトルリア軍に加わる。ニイメとは顔なじみで、両者にはなんらかの因縁があるらしい。動乱後、エリミーヌ教団の大司教となる。

◎さまざまな文獻に目を通しており、竜に関する知識は豊富。



【封印】

◀ ドロシー

心美しき弓使い

エリミーヌ教団の信徒。教団からサウルの護衛を命じられており、サウルとともにロイたちの仲間に加わる。弓の腕前は確かだが、地味な容姿のためか、自分に自信を持ってない。動乱後は故郷へと戻り、ひとりの女性として平穏に暮らした。



◎サウルの華やかである女好きには、ほとほと手を焼かされた。

【封印】

▲ サウル

野にある聖者

エリミーヌ教団の神父。ファイア-イムブルムを持ち出したギネヴィアに接触し、そのままロイたちと同行することになる。大の女好きで、美しい女性に声をかけずにはいられない。動乱後は、エリミーヌ教団本部からの誘いを断り、市井の人々のために生きた。

黒い牙

謎に包まれた暗殺者集団

ベルンに拠点を置く暗殺者集団。民衆を助ける義賊だったが、首領ブレンダンがネルガルの下僕ソーニャを後妻にめとってからは、その気風が一変。ネルガルに実権を掌握され、彼の野望のために単に私兵と化してしまう。その結果、リキアを戦乱に巻きこみ、さらにベルンの王位継承に介入するなどの工作を各地で起こした。黒幕のネルガルがエリウッドやヘクトルたちに打倒されると、残った組織も壊滅した。



④ 武勇に優れた4名には、「四牙」という称号が与えられる。彼らは、黒い牙の切り札となる存在だ。



③ ネルガルは、自ら創造した人造人間「モルブ」を黒い牙に送りこみ、組織を掌握していた。その代表格がソーニャである。



ブレンダン

【烈火】

黒い牙の首領にして創設者。ネルガルの意がかったソーニャと結婚し、素に組織を裏切られる。妻の企みに気づいたために殺害された。



ヤン

【烈火】

黒い牙の一角。ブレンダンの側近で、2人でソーニャの養女ニノの出生の秘密を探る。その後、ニノに実母の形見のペンダントを渡した。

【烈火】

ネルガル

災いを招く者

黒い牙の事実上の支配者。人の理を超えた存在で、人竜戦役から生き続けており、強力な古代魔法を使いこなす。

数百年前にアトスと出会い意気投合し、2人でナバタの里を発見。そこで竜の知識を得て、生物から「エーギル」を奪う方法を学ぶ。その後、神竜と手を結んだアトスに深手を負わされ、以来数百年間ベルンに潜伏した。

生物の「生きる力」であるエーギルを奪い、自らの力に変えることができる。効率よくエーギルを集めるべく、フェレ侯エルバートを拉致。さらに、ダウス侯ダーレンを操って、リキアに戦争を引き起こそうとする。また、膨大なエーギルを持つ竜をこの地に呼び出すために、ニニアン姉妹をつけ狙う。だが、神術師を手にしたエリウッドやアトスたちに討たれ、彼の野望は潰えた。



⑥ 右目周辺には、アトスたちに勝たれた傷跡がある。そのため、通常はターバンで隠している。

【烈火】



リムステラ▶

ネルガルの最高傑作

ネルガルの創り出したモルフ。性別は不明。ネルガルに「最高傑作」と言わしめるほどの能力を持つ。食糧したロイドやウルスラたちからエーギルを奪い、主に送り届けた。古代魔道によってさらなる強化を施され、エーギルを奪うべく、エリウッドたちの前に立ち上がるが、返り討ちにあってしまう。

◀ソーニヤ

主への歪んだ忠誠

ネルガルの創り出した女性型モルフ。主に絶対的な忠誠を誓い、主命に従って黒い牙を掌握すべくブレンダンの後妻となる。孤児のニノを養女としたのも、ネルガルに命じられてのこと。自分を人間だと思ひこみ、他のモルフを人形と呼んで侮蔑する。最後まで、自分がモルフだとは気づかなかった。



●彼女にとって、他者は「選ばれた人間」か「クズ」のどちらかしかない。

エフィデル▶

【烈火】

ラウス造反の煽動者

ネルガルの創り出した男性型モルフ。態度無礼なふるまいで他者を接する。ラウス侯ダーレンをそのかし、リキアに戦争を引き起こそうとした実行犯。フェル侯エルバートのエーギルを奪い、彼に致命傷を与える。不完全な状態で召喚された竜の暴走に巻きこまれ、消滅した。



●感情を表に出すことはなかったが、死の間際には、驚愕の念と死への恐れを露わにする。

【烈火】

ラウス侯
ダーレン

エフィデルにそののかされ、オスティアへの反乱を企てた野心家。後に正気を失い、狂気のままエリウッドたちに討たれる。

ラウス侯公子
エリック

ダーレンの嫡男で権力に飽きる日和見主義者。ラウス侯に就任するとベルンに降り、リキアを襲撃する。最後はロイたちに討たれた。

ロイド▶

信念を貫き通す義の戦士

黒い牙の一人。首領ブレンダンの長男でライナスの兄。"四牙"のひとりであり、"白狼"の名で恐れられている。古参メンバーの中核的存在で、義母ソーニャをはじめとする新顔たちに不信を抱く。だが、組織の一員としてエリウッド討伐の命に背くことはできず、エリウッドらと戦って壮絶な最期を遂げる。



● 妹のようにかわいがってきたニノと対峙するロイド。悲壮な覚悟が見てとれる。

【烈火】

【烈火】



ライナス▶

「黒い牙」の暴れん坊

黒い牙の一人。首領ブレンダンの次男でロイドの弟。非常に好戦的なことから「狂犬」との異名をとる。だが、「四牙」のひとりであることからわかるように、腕前は確か。ニノやロイドに言わせると、ヘクトルにどこか似ているらしい。組織の命でエリウッドたちと戦うが、敗北して命を落とした。



【烈火】

ウルスラ

笑顔に隠された狂気

黒い牙の一人。「四牙」の一角を占め、その風貌と陰湿な性格から「蒼蒼」とも呼ばれる。ソーニャから溺愛され、彼女もまたソーニャを妄信している。組織を裏切ったジャファルとニノを粛清しようとするが、そこに居合わせたエリウッドたちに敗北。その後、リムステラにエーギルを奪われて死亡する。



● 新参者のワイダを蔑んでおり、彼女のじゃまをするためなら敵に協力することもない。

▶ ジャファル

【烈火】

“死神”と呼ばれた男

黒い牙の一角。“四牙”のひとりで、“死神”とも称される暗殺者。戦場でネルガルに拾われ、暗殺者としての英才教育を施される。そのために感情に乏しかったが、ニノとの交流が彼を変える。ニノを守るために組織を裏切り、エリウッド一行に加わった。

ネルガルとの戦いの後、ジャファルは賞金稼ぎに変わって姿を消す。ニノとの支援関係もAにすると2人は結ばれるが、ジャファルが賞金目であることは変わらず、行方不明となる。

【烈火】

ニノ

愛を切望する少女

黒い牙の一角。養母のソーニャから離れられたために愛に飢えており、ジャファルに人を思える気持ちを受け取る。その後ジャファルとともに黒い牙を裏切り、エリウッドたちの仲間となる。実は名門魔道一族の出身で、魔道において比類なき者の持ち主。

ネルガルを倒した後に監禁してフェレ邸に仕込み、ルウとレイの双子を産む。夫となるのはエルクがジャファルのどちらかで、ニノとの支援関係をAにしたキャラクターと結ばれる。

ラガルト▶

組織を抜けて組織に尽くす

“疾風”と呼ばれた、黒い牙の脱走者。“四牙”に匹敵する力を持つが、ネルガルに掌握された組織に見切りをつけて脱退。エリウッドらに協力を求められ、彼らに助勢する。軽薄にふるまってはいるが、仲間を想う気持ちは人一倍強い。ネルガル撃破後は各地を巡り、黒い牙の残党に生きる指針を示した。



「だけどな……こんなことは許しておけねえんだよ!!」

④ロイドたち、かつての仲間がモデルとなったモルフを前にして、ラガルトの想いがこぼれる。

【烈火】

もうひとつのエレブサーガ

コミック『ファイアーエムブレム 覇者の剣』

ゲームとは異なる視点で「ベルン動乱」を描いた、『封印の剣』のアンダーストーリー。15歳でひとり旅に出たアルは、「炎の紋章」の存在を知る。仲間になったタニアの姉のティナや重騎士ガントとともに、炎の紋章を探す旅を続けるアル。やがてベルン動乱に巻きこまれたアルは、戦いの中で、自らの血に隠された宿命を知ることになる。

ファイアーエムブレム 覇者の剣

原作：井沢ひろし

漫画：山田孝太郎

ジャンプ・コミックス(全11巻)

※絶版のため購入できません。



●ベルン動乱の英雄ロイも、リキア同盟軍を率いて作中に登場する。アルとロイの夢の共闘が実現する。

リキア同盟軍やロイが登場!

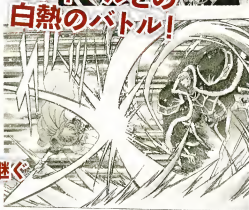
●アルは「英雄」ハルトムートと姉相模ミリザの子。両者の力を受け継ぎ、「ドラゴンロード」に覚醒。



**竜と英雄の力を受け継ぐ
ドラゴンロード**



ベルン軍やゼフィールとの白熱のバトル!



●●圧倒的な力を持つベルン軍の戦艦や、戦争の黒幕ゼフィールとの激闘。手に汗握る白熱のバトルを堪能してほしい。

【本編とのコラボレーション】

エレブ大陸の物語である『封印の剣』と『烈火の剣』には、随所に本作『覇者の剣』とのコラボレーションが見られる。

『封印の剣』では、アルたちの名を冠した武器「アルの剣」「ガントの杖」「ティナの杖」が登場し、村人からも彼らの活躍ぶりを聞ける。また『烈火の剣』では、ワールドマップにティナの出身地であるタニアの名を見ることが出来る。



●「アルの剣」を継いだロイ。アルの愛剣「覇者の剣」であれば、もっと強力だったのだが……。



●タニアはリキア同盟に属しており、キアランのちょうど東側に位置している。

©井沢ひろし、山田孝太郎/集英社
©2002 Nintendo/INTELLIGENT SYSTEMS

勇者の戦い『スマブラ』

出張編

任天堂ゲームのオールスターが登場することで知られる、人気格闘ゲームの「スマッシュブラザーズ」。
『ファイアーエムブレム』の勇者たちも、このシリーズに参戦している。

マルス & ロイ

【登場作品】

『大乱闘スマッシュブラザーズDX』
(ニンテンドーゲームキューブ用ソフト)

2001年に発売された『大乱闘スマッシュブラザーズDX (以下DX)』では、『暗黒竜と光の剣』からはマルス、『封印の剣』からロイが参戦した。ちなみに、『DX』が発売されたのは、『封印の剣』が発売される1年以上前。発売前のゲームのキャラクターで『スマブラ』に参戦したのは、あとにも先にもロイただ1人である。マルスとロイの2人は海外版にも登場し、人気を博したのだ。

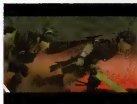


アイク & マルス

【登場作品】

『大乱闘スマッシュブラザーズX』
(Wii用ソフト)

2008年発売の『大乱闘スマッシュブラザーズX』では、マルスに加えて『蒼炎の軌跡』のアイクが参戦。破壊力満点の必殺ワザ「天空」をひっさげ、マリオたち相手に熱戦を繰り広げた。また、本作には「アシストフィギュア」と呼ばれるお助けキャラクターがあり、『烈火の剣』の主人公リンが、アシストフィギュアとして登場した。



④ 参戦キャラクターが一堂に会する「至空の使者」モードでは、マルスとアイクが夢の共演。



⑤ アイクの必殺技「天空」。「蒼炎の軌跡」でのスキル発動時のモーションが、そのまま再現されている。



World Guide

マギ・ヴァル大陸編

収録作品



マギ・ヴァル大陸



MAGIVAL SAGA

マギ・ヴァル大陸——

古より大陸にはびこっていた魔が滅び、

平穏が戻ってから約800年……。

人々は、古より伝承される「聖石」を守護石として、
国家を形成してきた。

そして、

いつしか魔の存在も古の戦いも忘れながら、

大陸はまどろみのような穏やかな平和を保っていた。

だが、大陸歴803年、

突如として大陸全土を巻きこむ異変が勃発する。

「聖石」を持つ国々の中でも最大の敵国を誇る

グラド帝国が

皇帝ヴィガルドの命のもと、

ルネス王国に侵攻を開始。

長年の同盟国であったグラド帝国の攻撃に

内陸のルネス王国は反撃もままならず、

次々と要所を落とされていった。

この戦乱の中、

折しも王都を離れていた

ルネス王子エブラムの消息もとだえる。

勢いに乗ったグラド帝国軍の侵攻は

ついに王都まで達し、

ルネス王国は、

今まさに陥落のときを迎えようとしていた……。



◆大陸歴史年表

時
代
の
マ
ギ
・
ワ
ー
ル
大
戦

- 約800年前
- ・マギ・ヴァル大陸に魔王フォデスが現れ、魔物が人を襲い始める。
 - ・英雄グラド率いる5人の勇者たち、聖石を用いて魔物と戦う。
 - ・5人の勇者、竜人族のムルヴァと共闘し、魔王を聖石に封印する。
- 801年
- ・グラド帝国皇子リオン、魔王の魂を封じた聖石の力を利用し、火傷を負った女の子を救う。
 - ・リオン、聖石の力を利用して未来を予見。数年後に発生する「地揺れ」により、グラド帝国が崩壊すると判明。
- 802年
- ・グラド帝国皇帝ヴィガルド病没。リオン、聖石から魔石を生み出してヴィガルドを蘇生。だが、このとき魔王にとりつかれ、グラドの聖石を破壊。以降、他の国の聖石を破壊すべく動き出す。
- 803年
- ・グラド帝国、ルネス王国に侵攻。
 - ・ルネス王国王子エフラム、前線にて軍を指揮していたが行方不明になる。
 - ・グラド帝国軍、ルネス王都を制圧。ルネス王国女王エイリーク、セトラとともに脱出しフレリア王国へ向かう。ルネス王国国王ファードは戦死。
 - ・グラド軍、フレリア王国ミュラン城を制圧。フレリア王国女王ターナ、グラド軍に囚われる。
 - ・エイリーク一行、フレリア東部国境守備隊と合流し、ミュラン城を奪還。ターナを解放。
 - ・エイリーク一行、フレリア王宮にてフレリア王国国王ヘイデンと会談。エイリーク、グラド領レンパール城付近にて交戦中のエフラムの救援に向かう。
 - ・エイリーク一行、境街セレフィムにてナターシャ、ヨシュアと合流。ここでグラド軍が各国の聖石を破壊しようとしていることが判明。
 - ・エフラムたち、わずかな軍勢でレンパール城を制圧。
 - ・水城レンパールにて、ルネス古参騎士オルソンの裏切りが発覚。その後、エイリーク一行、エフラムたちと合流。
 - ・エフラムとエイリーク、フレリア王宮に一時撤退。フレリアの聖石がグラド帝国將軍ケセルダとセラ、イナ率いるグラド軍に破壊される。エフラム兄妹、ヘイデン、フレリア王国王子ヒニアスらの会談により、ヒニアスは盟約を取りかわすべくジャハナ王国に、エイリークも同じく盟約をかわすべくロストン聖教国に、そしてエフラムは帝都を制圧すべくグラド城へ進軍することになる。
 - ・エフラム隊、フレリア・グラド国境付近のリグバルド要塞を制圧。
 - ・エイリーク隊、海路でロストン聖教国へ向かうべくカルチノ共和国の貿易港キリスへ。キリスにてカルチノ共和国の長老バプロの命を受けた盗賊の襲撃にあうが、これを撃破。
 - ・カルチノ共和国で内乱が勃発。バプロ、長老クリムトとヒニアスを救済すべく両者を襲撃。エイリーク隊、バプロを連れ、クブムトとヒニアスを救出。
 - ・グラド將軍デュッセル、グラド領ベスロンにて反逆罪の疑いをかけられ軍から逃亡。その後エフラム隊に合流。
 - ・エイリーク隊、カルチノ共和国との衝突を避けるべくボカラの里を経て、ジャハナ王国へ進軍。
 - ・グラド將軍グレン、討伐の命を受けエイリークに出会うも、ヴィガルドの行動に疑念を感じエイリークを見のがす。その後、グラド將軍ヴァルターによって謀殺される。
 - ・エイリーク隊、ハミル渓谷にてバプロの軍勢とグラド軍の挟撃にあう。ロストン軍と協力し、これを撃破。
 - ・セライナ、ヴィガルドおよびリオンの命により、ザールブルの街で売られていた魔石を入手。
 - ・ミルラ、失くした魔石を取り返すべくセライナと接触。エフラム隊、ザールブル温泉にてセライナとグラド軍を撃破し、魔石を奪取る。
 - ・エフラム隊、グラド帝都へ侵襲し、ヴィガルドを撃破する。
 - ・グラド軍、ジャハナ王宮を制圧。ジャハナ王国女王イシュメアがケセルダに殺害され、ジャハナの聖石も破壊される。ここでヨシュアがジャハナ王国の王子であることが判明。
 - ・ジャハナ王宮近郊にてエフラム隊とエイリーク隊が合流。その後、ケセルダとヴァルターを撃破する。
 - ・エフラム兄妹の部隊、ルネスへ帰還。オルソンを撃破しルネス城を奪還。玉座の地下でルネスの聖石を入手。
 - ・エフラム兄妹の部隊、大河ナルーベにてフレリア王国のシレーネ隊と合流。ここでリオンと再会し、彼が魔王フォデスにとりつかれていると判明。
 - ・エフラム兄妹の部隊、リオンを追って峰火山ネレラスへ。リオンの計略により、ルネスの聖石を破壊される。
 - ・エフラム兄妹の部隊、ロストン聖教国にて教皇マンセルと面会。その夜、ロストン宮殿にてアーヴ率いるグラド残党の襲撃にあうものの、これを撃退。翌日、ロストンの聖石を入手。
 - ・竜人族の長ムルヴァ、闇の樹海にてリオンと激突。敗れたムルヴァは死霊となって蘇生し、アーヴとともに魔殿護衛の任に就く。
 - ・エフラム兄妹の部隊、闇の樹海にてアーヴとムルヴァを撃破し、魔殿へ侵入。
 - ・エフラム兄妹の部隊、魔殿にてリオンと激突。リオン撃破後、魔王フォデスが覚醒。ロストンの聖石で魔王の魂を封じ、肉体を滅ぼす。
 - ・大陸南部に大規模な「地揺れ」が発生し、グラド帝国が壊滅状態になる。エフラム、グラドの民の救済に向かう。

古の時代

魔王を封印

およそ800年前、マギ・ヴァル大陸に魔王フォデスが出現し、魔物たちが人を襲い始めた。英雄グラド率いる5人の勇者たちは、魔物に対抗すべく聖なる武器「双聖器」を用い、マムクートと協力して魔王フォデスを「聖石」に封じる。

その後、英雄たちは大陸の各地に新たな国を興し、聖石と双聖器を各国の宝とした。

マムクート(竜人族)の協力

自らの方を毒石に閉じこめられた竜人族「マムクート」と呼ばれ、かつて英雄グラドとともに魔王を封じた彼らは、その後も龍の洞窟で魔物の監視を続ける。



マギ・ヴァル大戦

グラド帝国が大陸各地に侵攻

大陸歴803年、グラド帝国がルネス王国へ侵攻。ルネス王子エフラムは行方不明となり、時をおかずルネス王都も陥落する。国王ファードは戦死するが、王女エイリークはゼト将軍とともに同盟国フレリア王国に脱出。無事に逃げのびたエイリークは、グラド領レンパル城付近で戦っていたエフラムの救援に向かう。



④ 同盟国であったグラド帝国の突然の侵攻に、ルネス王国はなすすべもなく蹂躪されてしまう。

③ エイリーク一行は、フレリアへの避難行の途中にミュラン城を奪回、フレリア女王ターナを救出する。



魔王フォデスの復活

魔王の魂を封じた聖石「ファイアー・エム・ブレム」。その力で未来を予知したグラド帝国皇子リオンは、グラドが「地揺れ(大地震)」によって崩壊することを知る。国の危機を知ったリオンは、民を守るべく、魔王の力を利用しようとする。だが、リオンは魔王フォデスに憑依されてしまい、魔王にとって必要な聖石を破壊すべくルネスへの侵攻を開始した。



魔王に憑依されたリオン



魔王を復活させリオンは、その力を食うの体になりこむ。だが、これが原因で、リオンは魔王に精神を占められることになる。

フレリア軍の三方面同時侵攻作戦

エフラムと合流したエイリークたちは、フレリアにて国王ヘイデンらと御前会議を開く。グラド軍がフレリアの聖石を壊したと聞いた面々は、残りの聖石を死守すべくジャハナ王国にヒーニアスを、ロストン聖教団にエイリークを使者として送ることを決定。そして、エフラムは、皇帝ヴィガルドを討つべくグラド帝国へと進軍する。



エイリーク隊

① カルチノの内乱

カルチノ共和国では、親グラド派の長老バプロが過激派の長老クリムトを襲撃。ヒーニアスの危機を知ったエイリーク隊は、バプロを退けて両者を救う。その後、エイリーク隊はジャハナに向かったヒーニアスと合流する。

フレリア軍の進軍ルート



エフラム軍

② デュッセル造反

グラド將軍デュッセルは、港町ベスロンで反逆罪に問われて処刑されかける。だが、旧知の仲であるエフラム率いるフレリア軍に救出され、その後、変節した皇帝を救うべくエフラムに加勢する。



③ デュッセルは皇帝に疑義を持ったために、反逆者扱いされる。

エイリーク隊

③ グレン殺害

ジャハナへの途上、エイリークは、ボカラの里でグラド將軍グレンと遭遇。エイリーク抹殺を命じられたグレンだが、ヴィガルドに疑念を抱いて命令を放棄。そのためにヴァルターに殺害された。

エイリーク隊 エフラム隊

④ ジャハナ攻防戦

ジャハナ王国では、グラドに内通した勢力が王宮を占拠。女王イシュメアはケセルダに殺され、聖石も壊されてしまう。エイリーク隊も、ケセルダとヴァルター率いる軍に挟撃される。窮地に陥るエイリークたちだが、エフラム隊が救援に駆けつけ、難を逃れることができた。

エフラム隊

④ 竜石を奪取

竜石を失ったマムクートのミルラは、竜石がグラド將軍セライナの手にあると知り、彼女のもとに向かう。だが、皇帝に忠誠を誓うセライナは説得に応じず、結局彼女を倒して竜石を奪還した。

エフラム隊

⑤ 皇帝の打倒

グラド城へと攻めこんだエフラム隊は、なんとか皇帝ヴィガルドを撃破する。その後、リオンと再会したエフラムは、リオンこそが戦争の首謀者で、彼がヴィガルドを倒っていたことを知る。



⑤ 女王イシュメアは、竜石を守り切らずに命を落とす。だが、最期の瞬間、最愛の息子イシュアの再会を果たす。

ラーチェル一行の愉快な旅

ロストン聖教団の聖女でありラーチェルは、自分を導く。お供のドズンとレナックのみを引き連れて魔物退治の旅に出る。その旅の途中でエイリークやエフラムたちと出会い、最終的には目的を同じくする彼らに同行する。



⑥ 行きあたりばったりのラーチェルの行動に、運命として雇われたレナックは困惑する。

残る「聖石」を求めて

リオンの持つ魔石に対抗するには聖石が必要だと判断したエフラムたちは、故郷ルネスに戻る。城の地下室で聖石を手にするが、リオンの計略により砕かれてしまう。そこで、一行は、最後の聖石のあるロストン聖教団へ向かう。ロストンではアーヴ將軍に襲われるものの、なんとか逃げ、ついに聖石を確保する。



⑦ 反逆者オルソンを倒したエフラム一行は、エフラム兄妹の持つ断輪を使ってルネスの聖石を手に入れる。

⑧ ロストン聖教団の「正教皇」マンセルは、エフラムたちに快く聖石を探れ、双聖器をも貸し与える。



決戦 魔王フォデスとの

聖石を得た一行は、魔王の亡骸がある魔殿へ向かう。魔殿の護衛であるアーヴと死竜を撃破し、魔殿内部へ乗りこみ、激闘の末にリオンを倒す。そして、覚醒した魔王フォデスの魂を聖石に封印、さらに魔王の肉体を滅すことも成功する。これにより、魔王復活の道は完全に断たれ、戦争は終わりを迎えた。



⑨ 魔殿を守る死竜の正体は、ミルラの親がわりだったムルヴァ。リオン(魔王)に破れ、彼の後継と化した。

⑩ エフラムたちは、聖石に魔王フォデスの魂を閉じこめることに成功。あとは魔王の肉体を滅ぼせば……。



「地揺れ」によりグラドが崩壊

魔王フォデスを封印した一行は、故郷へと帰還する。エイリークとエフラムも王都ルネスへと戻るが、そこに急報がまいこむ。大陸南部で大規模な地揺れが発生し、グラド帝国は壊滅状態になったというのだ。エフラムは、親友リオンが命をかけても守ろうとしたグラドの民を救出すべく、グラドへと向かう。



⑪ エフラムは、リオンと初めて出会ったときのことを思い出していた。亡きリオンの想いに応えるべく、エフラムはグラド帝国へと向かう。

ルネス王国

グラドに蹂躪された内陸の王国

大陸東側の山間部に広がる国で、聖石を守護石とする国のひとつ。“勇王”ファードが治めていたが、大陸歴803年に同盟国だったグラド帝国の侵攻にあう。以後、グラドに降ったオルソンが統治するものの、領内の治安は悪化の一途をたどる。戦争終結後に王子エフラムが帰還し、新王に即位する。

エイリーク▶

慈愛に満ちたルネスの王女

ルネス王国の王女。ファードの娘でエフラムの双子の妹。慈愛に満ちた優しい性格の持ち主で、王女としての気品もあわせ持つ。争いを嫌うが、民を慮るグラド軍の非道なやり方を見て、戦うことを決意する。戦争終結後、エフラムとともにルネスに戻り、王に即位した兄を支えた。

エイリークは、ゼト、ヒニアス、サレフのうちの3人との関係が人になつたキャラクターと感ぜられる。ヒニアスに敵くとフレリアに、サレフに敵くとボカンの里に住まいを移す。



◀エフラム

恐れを知らない次代の“勇王”

ルネス王国の王子。ファードの息子で、エイリークの子の兄。勇猛で知られる父に似て、どんな相手をも恐れずに立ち向かう。歴戦の戦士とも唸らせるほどの植の達人でもある。いっぽう、勉強は不得手で、「本は動かないので嫌い」という“迷言”を残す。戦争終結後にルネスの王に即位し、自国はもちろん、各地の復興にも尽力した。

エフラムは、ターナ、ラーチエルとの支援関係がAになると、どちらかど感ぜられる。ミルラとの支援会話では「お兄ちゃん」と呼ばれ、どまどうエフラムを見られる。



●マギ・ヴァル大陸のキャラクターイラストは、すべて「ファイアーエムブレム 聖魔の光石」のものです。

ファード▶

ルネスを統べる「勇王」

ルネス王国の王。勇敢で武芸に秀でたことから「勇王」と呼ばれる。年老いてからも、エフラムから「俺より長生きする」と評されるほど頑強であった。最愛の子であるエフラムとエイリークをゼトに託し、陥落間近のルネス城に残って戦死する。



① グラドの侵襲を見ぬけなかった責任をとり、ファードは陥落間近の城に残った。

ゼト▶

騎士団を束ねる若き將軍

ルネス騎士団を率いる將軍のひとり。「真鍮の聖騎士」とも呼ばれ、その勇名は各国に知れ渡っている。若い身ながら王から信頼されており、ルネスの聖石にまつわる重大な秘密も知っていた。戦争後も、王に即位したエフラムや王妹エイリークを支えた。

ゼトは、エイリークまたはオタージャとの支援関係がAになると、エピソードで結ばれる。どちらか結婚した場合も、変わらずルネスに尽くしたという。

フォルデ▶

自由を好む奔放な騎士

ルネス騎士団の一員。エフラム直属の騎士。明るく飄々とした性格で、戦場で絵を描いたり昼寝をしたりすることもしばしば。だが、実力は確かで、武道大会で優勝したこともある。同じ騎士団員のフランツは実弟。戦争終結後は、宮廷画家としても活躍する。

フォルデは、ヴァネッサとの支援関係をAにすると、エピソードで結ばれる。彼はルネス騎士団を解散してヴァネッサのいるブレリアに向かったという。

カイル

きまじめな熱血漢

ルネス騎士団の一員で、エフラム直属の騎士。とにかくきまじめで、幼なじみで同僚でもあるフォルデとは、対照的な性格。とはいえ、そんなフォルデのことを認めていないかというところ、そうでもないようだ。戦争後も、以前と変わらずにルネス王国を支え続ける。

カイルは、ルーテもしくはシレーネとの支援関係をAにするとどちらかと結ばれる。結婚しても彼のルネスへの忠誠心は揺るがず、騎士として働き続ける。



▶ フランツ

ルネス史上 最年少の騎士

ルネス騎士団の一員。將軍ゼトや実兄のフォルデに憧れて騎士を目指し、最年少で騎士団の一員となる。父親もかつてはルネスの騎士であり、ゼト曰く、10年前に亡くなった父にそっくりらしい。戦争終結後も、ルネスで騎士として活躍した。

自分たちも
あると一緒に道を歩かせてくれぬか？



フランツとアメリカの支援関係をもAにすると、2人は結ばれる。新米騎士と見習い騎士といった似た境遇の者同士で、意気投合したのだろうか。

オルソン▶

悪魔に魂を売った造反者

ルネス騎士団の一員で、愛妻家として知られている。妻モニカを病で亡くし、彼女を蘇生させるために、祖国を裏切ってグラド帝国に寝返る。その後、魔石の力で蘇った妻とともにルネス城で生活していたが、帰還したエフラムたちに敗れて命を落とした。



▶ ロス

受け継がれし豪腕

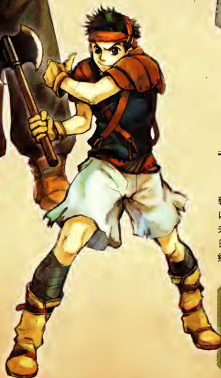
イムの村出身の少年。父ガルシアのような戦士になることを目指しており、父とともにエイリークの仲間に加わる。戦士としては未熟だが、父やジストに稽古をつけてもらい、日々精進する。戦争が終わると、いったん故郷に戻って修行の旅に出た。

ロスとアメリカの支援関係をAにすると2人は結婚する。ちなみに、ガルシアとの支援関係をAにした場合は、別の女性(詳細は不明)と結ばれる。

ガルシア▶

豪腕を誇る戦士

ルネス王国にあるイムの村出身の戦士。十数年前までルネス軍の部隊長を務めていたが、亡き妻や息子ロスを読みなかったことを悔い、軍を離脱。だが、ロスに叱咤されて再び戦うことを決意する。戦争終結後、ルネス軍に復帰して再び部隊長を務めた。



◀ コーマ

心も身体も身軽な盗賊

ルネス王国ラクの村出身の少年。手癖が悪く、エイリークの腕輪を盗んだこともある。だが、弱者を助ける優しい性格で、腕輪の騒動の後、ネイミーと2人でエイリークたちの仲間になる。戦争後にルネス軍から誘われるが固辞し、義賊として貧しい人々を支えた。

◀ ネイミー

祖父譲りの弓の使い手

ラクの村出身の少女。極度の泣き虫で、しばしば幼なじみのコーマを困惑させる。“一本矢のゼルツァ”と呼ばれた弓の達人を祖父に持ち、彼女自身の弓の腕前も非常に高い。戦争終結後はその手腕をかわれ、ルネス軍の弓術の指導者となった。

アスレイ▶

心清らかな聖者

ルネス王国出身の修道士で、ルーテの幼なじみ。神殿の命を受け、魔物たちを浄化していた。ザッハの古森で魔物と戦うエイリークたちに出くわし、彼女たちと同行する。純粋で心優しく、聖職者にふさわしい性格の持ち主。戦争終結後はルネス王都に移住し、たくさんの人々を勇気づけた。

▶ ルーテ

奇知なる魔道

ルネスにある小さな村の出身の魔道士。自称“天才”で、なにかにつけて「私、優秀ですから」とつぶやく。発言に見合う力を持っており、普段から身のまわりのものの研究にも余念がない。アスレイとともにエイリークたちの仲間となる。戦争後は故郷に戻り、“神出鬼没の大魔道士”と呼ばれた。



アスレイとルーテの支援関係をAにすると、2人は結婚して男の子を授かる。支援会話では、いつも冷静なルーテが愛を注いでいる様子が描かれている。

ルーテは、カイルとアスレイのうち支援関係をAにしたほうが怒られる。結婚後は子どもを出産、生まれた息子の生態観察に没頭したという……

フレリア王国

豊かな自然に囲まれた国

大陸の北西に位置する国。守護石である聖石は、ヴェルニの塔に祭られている。豊かな自然に囲まれた風光明媚な地であり、名産品はフレリア大魚。大陸歴803年、グラド軍にヴェルニの塔を占拠されて聖石を破壊される。聖石を失った「賢王」ヘイデンは、娘男ヒーニアスや、フレリアに身を寄せていたエフラム兄妹を大陸各地へと派遣。グラドに対して全面対決を挑む。戦争で勝利を取ったフレリアは、その後も変わらぬ繁栄を続けたという。



①フレリア王国天馬騎士団は、女性だけで構成されている。女王ターナも天馬騎士のひとり。

ヒーニアス▶

策謀の王子

フレリア王国の王子。ヘイデンの嫡男でありターナの兄。弓の名手であると同時に、策略家としても知られる。口は悪いが根は優しい。カルチノの内乱に巻きこまれた際に、エイリークたちに救われ、以降彼女らと行動をとる。戦争終結後、父の跡を継いで国王に即位した。

エイゾーラ、ヴァネッサ、ラーチェルのうち、支援関係をAにした人物と結ばれる。エイリークは素、ヴァネッサは愛妾となるが、ラーチェルの場合は単なる恋仲止まりに……。

◀ターナ

天かける女王

フレリア王国の女王。彼女の身を案じた父ヘイデンや兄ヒーニアスから外出を禁じられるが、親友のエフラム兄妹を助けるべく城を脱け出す。敵に捕まることも多く、その点では家族の心配は妥当だった。非常に気さくで、誰にでも分け隔てなく接する。戦争終結後は母国で平和に暮らした。

ターナとエフラムの支援関係をAにすると、2人は結婚する。エフラムをライバル視しているヒーニアスの胸中は、複雑だったようだ。

ヘイデン▶

フレリアの「賢王」

フレリア王国の王。優れた政治手腕から「賢王」と呼ばれている。ルネス国王ファードは無二の親友で、その忘れ形見であるエフラム兄妹がフレリアに避難してきた際には、両者を温かく迎え入れた。ターナのことを溺愛する、親バカ的一面もある。



◀ ギリアム

フレリアの強固な壁

フレリア王国騎士団の一員で、東部国境守備隊の隊長を務める重騎士。ヘイデンの命を受け、エイリークたちと同行する。寡黙で他者を寄せつけないところがあるが、後輩の相談に乗ったり、アドバイスしたりと意外に世話好き。戦争が終わったあとも、騎士として王家に尽くした。

ギリアムとシレーネの支援関係をAにするとは、エピソードで両者は結婚する。支援会話では、口べたなギリアムがシレーネに対して懸命にフロボースをする場面もある。

▶ モルダ

心優しい神官

フレリア王国に仕える神官。国王ヘイデンのご意見番だが、王の命でエイリークたちと同行することとなる。穏やかな人柄と豊富な知識を持ち合わせ、いつも仲間のことを気にかけられている。戦争終結後は、新たに国王となったヒーニアスの相談役となる。

シレーネ▶

天馬騎士団の頼れる隊長

フレリア王国天馬騎士団の一員で、第3部隊を率いる隊長。非常にめんどろウ見がよく、実妹ヴァネッサや、護衛役として仕えるターナのことを常に気にかけている。いわゆる、仲間うちの“お母さん”的な存在。戦争後は、天馬騎士団の団長に任命された。

ギリアム、またはカイルとの支援関係をAにすると、その相手と結婚する。なお、カイルと結ばれた場合は、天馬騎士団を退団することになる。

◀ ヴァネッサ

王子を慕う気丈な天馬騎士

フレリア王国天馬騎士団の一員。きまじめで任務に忠実だが、上司にして実姉でもあるシレーネをいつも「隊長」と呼ぶなど、融通のきかない面もある。ヒーニアスに想いを寄せているが、自分の気持ちを素直に伝えられずにいる。戦争終結後も、以前と変わらずに天馬騎士として活躍した。

ヒーニアスとフォルテの2人のうち、支援関係をAにした場合と結ばれる。ちなみに、ヒーニアスが相手の場合は子どもも授かる。

グラド帝国

「地揺れ」という天災が招いた悲劇

大陸南部一帯を領土とする大國で、魔王を封じた聖石「ファイアーエムブレム」を守護石としている。皇帝ヴィガルドが治めていたが、大陸歴802年に病没。そこで、皇子リオンは魔王を用いて父帝を蘇らせ、自らの傀儡として帝國を掌握。翌803年のルネス王国への侵攻を皮切りに、各地へ攻めこんだ。ヴィガルドやリオンがフレリア軍に倒されると、降伏を宣言。だが、その直後に大陸南部に大規模な「地揺れ」が発生し、帝國は事実上壊滅してしまう。



⑥ 飛竜は、グラド帝國にのみ生息している。そのため、必然的に竜騎士もグラド軍にしか存在しない。

リオン▶

民を救うべく魔の力を欲した皇子

グラド帝國の皇子。心優しい性格であり、民衆のために聖石の力を有効活用する方法を探る。そんな中、近い将来、グラドが「地揺れ」によって崩壊することを知り、皆を救うために聖石に封じられた魔王の力を利用することを思いつく。最後は魔王に支配され、親友であるエフラム兄妹たちに討たれる。



③ リオンは魔の力を得た代償として、魔王フォデスに体を乗っ取られてしまう。

ヴィガルド▶

「穩健帝」と称された名君

グラド帝國を治める皇帝。温和で優しい人柄から「穩健帝」と呼ばれ、民や臣下から厚い信頼を寄せられていた。だが、大陸歴802年に病で帰らぬ人となる。それを嘆いた皇子リオンが魔の力を使って蘇生。だが、蘇ったヴィガルドにはいっさいの感情がなく、ただリオンの命に従うだけの操り人形と化した。



④ エフラムたちに敗れると、ヴィガルドの身体は灰となって崩れ落ちる。





④ かつての“帝国三騎”、現在の“帝国六将”ともに筆頭格にあたる。

◀ デュッセル

“黒曜石”と呼ばれる大將軍

グラドが誇る“帝国六将”にして、かつての“帝国三騎”、“黒曜石”という二つ名を持つ。エフラムの機術の師でもある。反逆者の汚名をきせられ、処刑されかけたところを、エフラム率いるフレリア軍に救出される。戦後はグラドに戻り、国の復興に心血を注いだ。

◀ セライナ

皇帝に忠誠を誓う“蜚石”

グラド“帝国六将”にして、かつての“帝国三騎”のひとり。“蜚石”の異名を持つ。皇帝ヴィガルドに、恋愛感情にも似た絶対的な忠誠を誓う。そのため、皇帝は生ける屍であると知りながら、ヴィガルドの命令を守るべくエフラムたちと戦い、生命に殉じて散った。

◀ クーガー

母国と兄への誇りを抱いて

グラド帝国の竜騎士。副官として実兄グレンを支える。兄の敵を討つべく、数回デュッセルを信じてフレリア軍に寝返る。普段は温厚だが、戦場では鬼神のような奮闘ぶりを見せる。戦争終結後は各地を流浪し、そのうちグラド軍の一兵士となった。

▶ グレン

無益な争いを嫌う將軍

彼もグラド“帝国六将”にして、かつての“帝国三騎”のひとり。“日長石”という二つ名を持つ竜騎士で、副官クーガーは実弟。戦いを好まず、かつて民を虐殺したヴァルターを国外追放にした。エイリーク殺害の命に従わなかったため、ヴァルターに謀殺される。

ターナとの支援関係をAにする。戦争終結後にクーガーはフレリア王国の騎士となる。やがてターナの仙逝となり、彼女の厚い信頼を得たという。

◀ ケセルダ

王座を夢見る野心家

グラド“帝国六将”のひとり。戦功を上げて新たに將軍となり、“虎目石”の二つ名を授かる。かなりの野心家であり、ゆくゆくはグラド皇帝の座を狙っていたが、ジャハナ攻防戦で、エフラム兄妹率いるフレリア軍に破れて戦死する。



④ ジャハナ攻防戦において、ケセルダは傭兵時代の相棒であったヨシュアとの再会を果たす。

アーヴ ▶

魔王を信奉する異端者

グラド“帝国六将”のひとり。ケセルダと同様、新たに將軍に任じられて“血鎧石”の名を授かる。かつてはロストンの教えに従っていたが、“正教皇”マンセルにより破門される。その後、人間でありながら魔王に忠誠を誓い、魔物を操る力を獲得した。

グラド帝国軍の再編

かつてグラド帝国軍は“帝国三騎”と呼ばれたデュッセル、セライナ、グレンの三將軍が総括していた。大陸版809年のルネス侵襲後、ケセルダ、ヴェルター、アーヴの3名が新たに將軍に任命されたことで、彼ら“帝国六将”を中心とする軍備の再編が行われることになった。

ちなみに、グラドの將軍には二つ名が与えられ、同時に皇帝がら同じ名の宝石を贈ることが慣例となっている。

「貴族だった君を將軍にすえたのは、君の実力に期待してるからだ。♪」



③ 新たに將軍に任命された3名は、皇帝によって統括されている。

▲ ヴェルター

奸智に長けた戦闘狂

グラド“帝国六将”のひとり。追放されていたが、リオンに呼び戻されて將軍となり“月長石”の名を授かる。デュッセルの「魔性の槍」をかけて使った際、槍の狂気にあてられ、以来強者との戦いに喜びを覚える戦闘狂となってしまう。ジャハナ攻防戦で、フレリア軍に敗れて戦死した。

ノール▶

リオン腹心の宮廷魔道士

グランド帝国の宮廷魔道士。リオン腹心の闇魔道士として、彼の聖石研究に協力してきた。リオンが魔石を生み出し、魔王を復活させた経緯を知る唯一の人物である。魔王に憑依されたリオンに口封じのために処刑されかけが、エフラムたちに救出され、以降は彼らと行動をともにすることになる。戦争終結後は、亡きリオンの理想を追い求め、国の再建に尽力した。



我々闇魔道士は、人に快く思われぬものです。▼

④ 闇の力を使う闇魔道士であるために、民から改められたノール。そのためかどこか内向的。



グランドの大地がさしみ、多くの人々が死んでいく……▼

⑥ ノールとデュッセル、ノールとナターシャの支援会話でリオンと聖石の関連が語られる。



アメリカ▶

強くなりたくて願う新人兵士

グランド帝国シルバの村出身の少女。幼少時に、母が山賊に連れ去られるという経験をした彼女は、大事な人を守る強さを得るために軍に入隊する。グランド軍のやり方に疑問を感じていた折、エフラム兄妹やフランツに説得されて彼らの側に寝返る。いつもやる気に満ちているが、少し間の抜けたところもある。戦後はグランドに戻り、国の再建に尽力した。

アメリカは、フランツ、ロズ、ユアンのうち支那関係をAにしたキャラクターと結婚。デュッセルとの支援関係をAにすると母と再会する。

▲ナターシャ

グランドから逃亡したシスター

グランド帝国出身のシスター。グランド軍が聖石を破壊しようとしていることを知り、その情報を各国に伝えようとして反逆者になされてしまう。窮地をエイリークたちに救われ、以降は仲間に加わる。その美貌と優しさ、そして癒しの力から、“戦場に現れる癒しの精”と呼ばれている。戦争終結後はグランドに戻り、国の復興に努めた。

ナターシャのパートナーとなるのは、ユシヤとゼットの2人。彼らのどちらかと支援関係をAにすると、エビローグで結婚することになる。



ジャハナ王国

傭兵稼業が盛んな灼熱の国

領地の大半が広大な砂漠である、灼熱の国。聖石を守護石としている。過酷な環境のために諸産業がなかなか育たず、傭兵稼業で糊口をしのぐ者が多い。「白沙の女王」と呼ばれるイシュメアが国を治めてきたが、大陸歴803年にジャハナ軍団長カーライルがグラド帝国と通じ、クーデターを起こす。その際、イシュメアは討たれ、聖石も砕かれてしまう。戦争終結後、それまで行方不明になっていた王子ヨシュアが帰還し、新たな王となった。



● ジャハナ王国には、数えきれないほどの傭兵団がある。こちらは、ジスト傭兵団とその協力者たち。

ヨシュア▶

大陸をさすらう風来の王子

「傭兵稼業と賭けごとにつつまれ抜かす剣士」というのは表の顔で、正体はジャハナ王国の王子。10年ほど前に国を出奔し、立派な王となるべく、見識を養うために各地を放浪する。グラドの傭兵として雇われていたが、ナターシャとの賭けに敗れて彼女の仲間となる。戦争終結後は故郷に戻り、ジャハナの国王に即位した。



このコインの裏が表か、どっちが出るか…
お祈りの好きはうを述べ。▼

● 賭けごとが大好きで、仲間とコイントスに興じる。ヨシュア曰く「自分のツキを試す」ためらしいが……。

ヨシュアは、ナターシャとの支援関係をAにするとエピソードが結ばれる。ナターシャにプロポーズをするときも、やっぱり賭けて勝負をしていた。

イシュメア▶

ジャハナを治める「白沙の女王」

ジャハナ王国の女王でヨシュアの母。前王であった夫を亡くし、玉座に就く。彼女の美貌に魅せられたカーライルがクーデターを起こした際、グラドの將軍ケセルダに殺される。まさに「都城娘の美女」であった。政事のために息子のめんどろをみられなかったことを悔むが、息子に奪取られながら最期のときを迎えた。



ヨシュア…
私の…愛しい子… ▼

● ジャハナの人々と「双駆器」を愛する息子のヨシュアに託して、イシュメアは息を引き取る。



ジスト ▶

傭兵団を率いる歴戦の戦士

“砂漠の虎”の名で知られる屈強な戦士。自分の名を冠した傭兵団の隊長を務めている。常に仲間のことを気にかけており、部下からの信頼も厚い“頼れる兄貴ぶ”である。戦争終結後も傭兵として働いていたものの、依頼が殺到したために休業し、気ままな旅に出たという。

ディティスとマリカのいずれかと支援関係をAにした場合、エピソードでその人物と結ばれる。また、ヨシュアとの支援関係をAにすると、主となった後の片断として活躍する。

ディティス▶

仲間を鼓舞する妖艶な舞

ジスト傭兵団の一人。得意の踊りで仲間を勇気づけるほか、情報収集や兵站の管理など部隊の裏方としても活躍する。幼いころ、実弟ユアンと2人で親に捨てられ、踊りを披露して生活の糧を得ていたという苦勞人。戦争後も、踊り子として活躍した。

かねてより隊長のジストに好意を抱いていたディティス。2人の支援関係をAにすると、エピソードで両者は婚れて結ばれて最高のパートナーとなる。

マリカ▶

“緋閃”と呼ばれる寡黙な剣士

ジスト傭兵団の一人。寡黙で無愛想な剣士。部隊の切りこみ隊長のような存在であり、“緋閃”と呼ばれて恐れられている。傭兵だった父に、幼少時からさまざまな訓練を課せられてきたために、剣の腕前は非常に高い。戦争終結後もジスト傭兵団で活躍した。

ジストとの支援関係をAにすると、エピソードで彼と結ばれる。ヨシュアとの支援関係をAにした場合は、ジャハナ王となったヨシュアに仕えることになる。



ユアン

あどけなき魔道士

ディティスの弟。賢者サレフの一番弟子であり、魔法の才能は師が認めるほど高い。とはいえ、まだまだ未熟で修行中の身。姉の所属するジスト傭兵団の面々とは顔見知り、手伝いをすることもある。戦争後もサレフのもとで修行を続け、その後は世界を巡る旅に出た。

アメリカとの支援関係をAにすると、彼女と結ばれる。また、サレフとの支援関係をAにすると、ユアンが偉大な魔道士となる様子が描かれる。

ロストン聖教国

始祖ラトナの教えを伝える国

大陸北東に位置し、開祖ラトナの教えを現在に伝える宗教国家。ラトナは、かつて魔王を封印した英雄のひとりであり、そのためロストンには魔物や魔王の伝承が数多く残されている。代々教皇が国の代表を務め、守護石である聖石を守ってきた。大陸歴803年、グラド軍のアーヴ將軍によって宮殿を襲撃されるが、フレリア軍の協力により敵を退けることに成功。その後、フレリア軍に聖石を貸し与え、魔王討伐に貢献した。



① マンセルの経ラーチェルは、ドズラやレナックを引き連れて魔物征伐の旅に出る。

▶ ラーチェル

ちょっとわがままな聖王女

ロストン聖教国の聖王女。教皇マンセルの姪にあたる。吟遊詩人のサーガに憧れ、魔物を退治する旅に出た。旅の途中でエフラム兄妹と出会い、彼らの仲間となる。自己中心的な性格であり、常にお供のドズラやレナックを振り回している。戦後は、叔父の跡を継いで国の指導者となった。

エフラムとヒーニアスのうち、支援関係を人にしたほうと語られる。ちなみに、ヒーニアスとの支援会議では、両者が遠地の知り合いをしている姿を見ることができるとのこと。

ドズラ▶

ラーチェル付きの戦士

ラーチェルの従者。幼いころから彼女に仕えており、両親を早くに亡くしたラーチェルにとっては保護者のような存在。子どもを大切にする好漢だが、難しい話は苦手。戦争後も、以前と変わらずにラーチェルの傍らに居続けた。



ラーチェルの保護者を見ないと、それだけの生活の楽しみが、

① ラーチェルの保護者を自覚するドズラの夢は、彼女の笑顔を見ること。



▶ マンセル

ロストンの「正教皇」

ロストン聖教国の教皇。「正教皇」とも呼ばれている。魔物征伐の旅に出た姪のラーチェルのことを心配しており、彼女の仲間であるエフラム兄妹にも援助を惜しまない。かつて自分の部下であったアーヴを破門し、国外へと追放した。

カルチノ共和国

商業が盛んな新興共和制国家

守護石を持たない新興国家。複数の長老たちによる合議制を採用しており、豪商たちが力を握っているといわれる。大陸歴803年、グラドに共感する長老パブロたちの急進派が、主流派で親フレリア派の長老クリムトラを襲撃。内乱に発展するが、フレリア軍の活躍により鎮圧された。



長老クリムト

カルチノ共和国の長老のひとり。主流派（親フレリア派）の代表。パブロたちに命を狙われていたために、隠れていた。内乱後もフレリアとの同盟を固持した。



長老パブロ

カルチノ共和国の長老のひとり。急進派（親グラド派）の代表であり、内乱の首謀者。クリムトたちの被害に失敗して国を追われ、フレリア軍に討たれた。

レナック

主に振り回される盗賊

カルチノ共和国出身の盗賊。豪商の家に生まれたために、金にはうろさ。仕事でラーチェルの護衛を引き受け、それ以降、ずっと彼女に振り回されることになる。戦争後に帰郷するものの、ラーチェルの命により、強制的にロストンに移住させられる。



ポカラの里

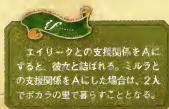
竜族を崇める高地の秘境

大陸の中央には、険しい山々がそびえ立つ。その山頂にほど近い場所に、ポカラの里がある。ここには、マムクートを“竜人さま”と崇める人々が生活している。里の人々は、暗騒を避けるためにできるだけ人と交わらず、自然とともに静かに生きることを望んでいる。



大婆ダラ

ポカラの里の長。サレフの祖母にあたる。古の時代、マムクートが英雄グラドたちに協力して魔王と戦ったという事実を、エイリークたちに伝えた。



エイリークとの支援関係をAにすると、彼女と結ばれる。ミルラとの支援関係をAにした場合は、2人でポカラの里で暮らすことになる。



サレフ

ミルラを守る若き賢者

ポカラの里出身の賢者で、大婆ダラの孫。ユアンの前導の前住でもある。マムクートであるミルラを守ることを使命とし、彼女のお供で旅に出る。途中ミルラとはぐれ、その後はエイリーク隊に加わる。戦争後は、ポカラの里に戻ってミルラに仕えた。

人外の者たち

伝説の竜人族と魔王フォデス

マギ・ヴァル大陸には、人間以外にもマムクート(竜人族)や魔物が生息している。マムクートは古くから人に協力的であり、魔王を封印した際にも人に力を貸した。これに対し魔物は、人に仇なす存在である。両者はともに闇の樹海をすみかとするが、魔王の復活により魔物が各地に出没するようになった。

私にできることは
魔を滅ぼすことだけ。▼



ミルラ▶

幼き竜人族

幼いマムクート。少女のような姿をしているが、年齢はおよそ1200歳。人見知りをする性格で、なかなか他者とうちとけることができない。

父がわりのムルヴァと闇の樹海で生活していたが、グラドからまがましい気配を感じ、その正体をつきとめようと旅に出る。その途中、従者のサレフとはぐれ、1人でいたところをエフラムと出会う行動をともにするようになる。

戦争後は闇の樹海に戻り、ボカラの里の者たちと暮らした。



①心を通わせた敵将セライナが死んだことを知り、ミルラは戦争の悲惨さを目のあたりにする。



サレフとの支那関係をAにすると、戦争後にはボカラの里で暮らす。エフラムとの支那関係をAにすると、後にルネスに誘われるが、結局闇の樹海に残ることになる。



ムルヴァ▶

樹海を守る竜人族の長

竜人族の長。かつて魔王の封印に協力した竜のひとりであり、闇の樹海に出現する魔物を追いつけている。両難を亡くしたミルラを引き取り、彼女の養父となった。

魔王に憑依されたリオンを倒そうとするが、返り討ちにされる。その後、死竜と化し、魔王の美兵として魔殿の警護についた。



④光竜の正体が養父と知ったミルラは、断崖の想いで死竜を倒す。



▲フォデス

聖石から解き放たれた魔王

かつて大陸に現れた魔王。英雄グラドやマムクートらによって聖石に封じられる。リオンの良心を利用して彼に憑依し、完全復活を果たそうとするが、エフラムたちによって滅ぼされた。



World Guide

テリウス大陸編

収録作品



テリウス大陸



TERIUS SAGA

女神に祝福されし大地、テリウス。
そこには神に近い姿をしたベオク、
神と獣のはざまの姿をしたラグズ、
2つの種族がいた。

彼らは長い歴史の中で争いと和解を繰り返しながら、
それぞれの国を創り、生を営んできた。
そして現在、テリウスには7つの国衆が割拠し、
微妙な均衡のもとで安定した時期に
入りつつあるかと思われた。
だが、人々の気づかないところで、
動乱の影は忍び寄りつつあった……

そして、ベグニオン歴645年。
狂王アシュナード率いるデイン王国が、
隣国クリミア向け、進軍を開始する。



・時の女神アスタテューヌが世界を創造。
・ベオクとラグズの先祖である「マンナズ」が誕生。
・アスタテューヌの起こした大洪水により、テリウス大陸を除くすべての大陸が水没。
・正の女神アスタルテの加護を受けたオルティナ、ソーン、デギンハンザーが負の女神ユンヌの軍勢を撃退。
・ユンヌをメダリオンへ封印する。

前155年頃

伝説の時代

前131年頃
前95年頃
元年

帝国成立

・ベグニオン王国建国。初代国王は三歳のひとり、オルティナ。
・オルティナの孫ヨラムが初代神使となる。
・ベグニオン帝国成立。ゴルドアを除く、すべての勢力を支配下におく。
・初代皇帝はオルティナの子孫である神使メシュア。

ベオクとラグズの対立

320年頃
350年頃
352年頃
355年
360年
385年
390年
395年
400年
405年
410年
420年
425年
428年
432年
470年
478年
595年
624年
625年
627年
640年

・新天地を求め、ラグズが大移動を開始。
・ガリアに逃れた獣牙族に対し、帝国元老院が討伐隊を派遣。第一次ガリア戦役勃発。
・ベグニオン国内でラグズ奴隷解放運動が起こる。
・ガリア王国建国。初代国王はソウハルト。
・第二次ガリア戦役勃発。
・フェニクス王国建国。初代国王はホルス。
・元老院が分裂。カドックを中心とするラグズ協賛派が独立し、クリミア王国を建国。
・ベグニオン帝国とガリア王国の間に和平協定が結ばれる。
・クリミア・ガリア・フェニクスの三国が正式に国家として認められる。
・元老院からヘンギストを中心とする反ラグズ派が独立。ディン王国を建国する。
・ディンが隣国クリミアに侵襲。第一次ディン＝クリミア戦争勃発。
・キルヴァス王国建国。
・第一次ディン＝クリミア戦争終結。ベグニオンがディン、キルヴァスに侵襲を開始。
・キルヴァス王国降伏。
・クリミア、ベグニオンに宣戦布告。以降数十年に渡り、テリウス大陸は戦国時代。
・セリノス王国建国。
・ゴルドアの仲介により、ベグニオンとディン・キルヴァスとの間に和平が成立。
・ミサハがベグニオン皇帝に即位。
・ベグニオン国内でラグズ奴隷の自由を認める「奴隷解放宣言」が出される。
・神使ミサハが暗殺。これによって起こった「セリノスの虐殺」により、セリノス王国が滅亡。
・アシュナードがディン国王に即位。
・サナキがベグニオン皇帝に即位。

ディン・クリミア戦争

645年

・ディンがクリミアに侵襲。第二次ディン＝クリミア戦争勃発。
・グレイル傭兵団が落ちのびたクリミアの姫エリンシアを保護。姫の依頼を受け、クリミアの同盟国であるガリア王国へと向かう。
・エリンシア姫、ガリア国王カイネギスに謁見。カイネギス、グレイル傭兵団にベグニオン帝国までの姫の護衛を依頼。
・グレイル傭兵団、ベグニオン帝国に入国。
・神使サナキ、エリンシア姫にクリミア再興への協力を約束。アイクが爵位を得て、クリミア再興軍の総司令官に就任。ディンへの進軍を開始する。
・クリミア再興軍、ディン王国首都ネヴァサを陥落。
・デルブレー城にてクリミア遺臣たちと合流を果たす。
・クリミア再興軍、アシュナードを討ち、王都メリオルを奪還。
・エリンシアがクリミア国王に即位。
・クリミアがディンの統治権を放棄。ディンはベグニオンの統治下に置かれることになる。

ラグズ・ベグニオン戦争

648年

・旧ディン領内で、先王アシュナードの遺児ベラスを旗頭に解放軍が暴発。
・義賊集団「時の団」がディン解放軍に参加。
・ディン解放軍が国内のベグニオン駐屯軍の押討に成功。神使サナキにより、ディン再興が承認され、ベラスが国王に即位。
・クリミア王国でフェリーレ公ルドベックによる反乱が勃発するが、失敗に終わる。
・ガリア・フェニクス・キルヴァスの三国がベグニオン帝国に宣戦を布告。ラグズ＝ベグニオン戦争勃発。
・元老院により幽閉されていた神使サナキが王都より脱出し、元老院の打倒を宣言。クリミア・ガリア・フェニクスの連合軍を率い、王都に向け進軍を開始する。総司令官にはアイクが就任。
・正の女神アスタルテ復活。人類を絶滅せんとしたが、アイクたちの活躍により阻止される。
・ミカヤがディン国王に即位。
・スクリミルがガリア国王に即位。
・フェニクス・キルヴァス・セリノスが統一。初代国王にティバーンが即位。

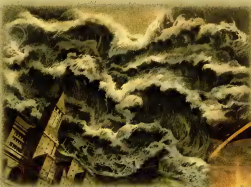
はるか昔、晩の女神アスタテューヌは、大地と生き物を造り出した。やがて、女神が生んだ獣の中から、ベオクとラグズの祖先である「マンナズ」が生まれた。

時を経て、マンナズは争い合うようになり、その戦いはベオクとラグズに分かれたあとも続く。そのことに心を痛めたアスタテューヌは、争いを止めようとするが、暴走した力は大洪水という悲劇を引き起こしてしまう。

この悲劇の後、アスタテューヌは、正の女神アスタルテと負の女神ユニヌに分かれる。2人に分かれた女神は、人間を扶んで対立するようになり、ついには大陸全土を巻きこんで戦いを繰り広げることになる。



●アスタテューヌとマンナズたち。マンナズは、その後、知恵に優れた「ベオク」と獣に化身する能力を持った「ラグズ」に分かれる。



世界を襲った大洪水

アスタテューヌが起こした大洪水は世界中を飲み込み、テリウス以外のすべての大陸を沈めてしまう。後にこの大洪水は、邪神が起こしたものであると伝えられるようになる。

女神ユニヌを倒した勇者・三雄

ベオクの女剣士オルティナ、獣牙族の獅子戦士ゾーン、そして竜城族のデギンハンザー。アスタルテのもと、女神ユニヌを倒した彼ら3人は、「三雄」と呼ばれた。



戦いの後、ユニヌを消滅させようとするアスタルテに対し、ユニヌを不憫に思った三雄と鷲の民のエルランは、彼女の助命を女神に願う。そして、その代償として、「千年間、大陸を巻きこむような大乱を起こさない」という誓いを立てる。アスタルテは彼らの願いを聞き入れ、ユニヌをメダリオンに封印し、千年の眠りについた。



●ユニヌがメダリオンに封印された後、アスタルテも満月の塔で眠りにつく。千年後の平和な世界を夢見ながら……。



蒼炎の紋章メダリオン

メダリオンは、負の氣に反応して青い光を放つことから、蒼炎の紋章（ファイアーエムブレム）と呼ばれる。普通の人間が持つと、メダリオンの放つ氣に負けて暴走してしまう。

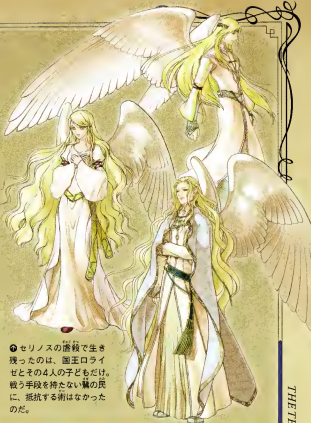
ベオクとラグズの対立

セリノスの虐殺

ベグニオン歴625年、ベグニオン帝国を震撼させる事件が起こった。皇帝でもある神使ミサハが、何者かに暗殺されたのである。暗殺直後、「神使はセリノスの翼の民に殺された」という噂が流れ、それを信じた民衆が暴徒化。翼の民を虐殺し、セリノス王国は一夜にして滅ぶ。この事件は、後に「セリノスの虐殺」と呼ばれるようになる。

実はミサハの暗殺は、帝国元老院の手によるものだった。ミサハが、帝国最大のタブーである「歴代神使が印付き」という事実を公表しようとしたために、神使の権威が失墜することを恐れた元老院議員のルカンが彼女を暗殺し、その罪をセリノスの民になすりつけたのだ。事件のあとセリノスの冤罪は晴れるが、真犯人は謎のままだった。

そして、この事件はひとりの男にある決断をさせる。エルランである。ミサハと多くの同胞を失ったエルランは、女神アスタルテによる人類の康正を願い、女神復活のために行動を開始する。彼の計画、それは大陸中に大乱の種をまくことだった……。



① セリノスの虐殺で生き残ったのは、国王ロライゼとその4人の子どもだけ。戦う手段を持たない翼の民に、抵抗する術はなかったのだ。

悲しき宿命の子「印付き」

ベオクとラグズの間に生まれた子は、ベオクからは「印付き」と、ラグズからは「無縁」と呼ばれ、差別されてきた。見かけはベオクと変わらないが、ミカヤのように特殊な能力を持つ者もいる。ベオクに比べて年をとりにくく、正体がばれるのを恐れ、各地を転々として暮らす者も多かった。



② 印付きには、体に流血の跡である「印」が現れる。精霊を契約した際に現れる「精霊の烙印」と呼ばれるために、間違われることもあった。

デイン・クリミア戦争

デイン、クリミアへ侵攻

ベグニオン歴645年、アシュナード率いるデイン王国が、突如隣国クリミアへ侵攻を開始。圧倒的戦力を誇るデイン軍に対し、クリミア軍はなす術もなく、王都メリオルは陥落して国王夫妻も殺された。唯一生き残ったエリンシア姫は、わずかな兵に守られて同盟国であるガリアへと向かった。



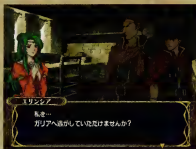
デイン侵攻前の勢力分布図

国土としては、クリミアとデインはほとんど変わらない。ただ、クリミアが文化の発展に力を注いできたのに対し、デインは武力の向上に力を入れてきた。とくに、アシュナードの治世となつてからは、その傾向が強くなっていった。

アイクと
エリンシアの出会い

ディーン侵襲の報せを聞いたグレイル傭兵団の団長グレイルは、息子アイクを偵察に向かわせる。仲間とともに王都へ向かったアイクは、途中ディーン軍と遭遇。そして、森の中で倒れているエリンシアを発見し、暮へと連れ帰る。

アイクたちが傭兵団と知ったエリンシアは、ガリアまでの護衛を依頼。グレイルは依頼を引き受け、一行はガリアへと向かう。



③ エリンシアは、自らがクリミア女王ラモン娘であることを明かし、グレイルにガリアまでの護衛を依頼する。

ガリアから
ベグニオンへ

追っ手を逃れて無事エリンシアをガリア入りさせるが、漆黒の騎士の襲撃を受け、グレイルが命を落としてしまう。

父の意志を継いで新団長となったアイクは、残った仲間とともにガリアへ向かう。ガリア国王カインギス、宗主国であるベグニオン帝国に、クリミア再興の後ろ盾となってもらうことを提案。アイクに、帝国までのエリンシアの護衛を依頼する。



④ 漆黒の騎士との戦いに敗れたグレイルはアイクにあとを託し、「ガリアで平和に暮らせ」と言い残して息を引き取る。

クリミア再興軍、立つ

帝国へ向かう途中、困らずも神使サナキを助けたアイクたちは、帝都シエネに招かれる。エリンシア、そしてアイクの人格を認めたサナキは、帝国がクリミア再興の後ろ盾となることを約束。エリンシアによって爵位を与えられたアイクが総司令官となり、クリミア再興軍が結成される。

ガリア王カインギス、フェニクス王ティバーンの協力を得たクリミア再興軍は破竹の勢いで進軍し、ディーンの王都ネヴァッサを陥落させることに成功。

そして、旧王都メリオルでの最終決戦で、ついにディーン王アッシュナードを倒す。大陸中に戦火を広げ、その負の気によってメダリオン^{メダリオン}の邪神（アッシュナードはユンヌのことを邪神だと考えていた）を解放するという狂王の野望は、アイクたちの活躍によって潰えた。こうして、1年に及ぶディーン＝クリミア戦争は、その幕を閉じることになる。



⑤ 再興軍の活躍を聞きつけ、各地に散らばっていたクリミアの追放者たちもエリンシアのもとに集まる。その中には、ルキノ・ジョフレ^{ルキノ・ジョフレ}防衛や筆頭文官クリミアの要もあった。



⑥ エリンシアから爵位を与えられ、将軍となったアイク。苦しい戦いを勝ちぬき、兵たちの信頼を得ていく。

クリミア再興軍・進軍ルート



ラグズIIベグニオン戦争

狂王の遺児現る

戦勝国となったクリミアは、デインの統治権を放棄。デインは帝国の統治下に置かれる。そして、戦争終結から3年、圧政を敷く帝国駐屯軍に対する民衆の不満が高まり、解放軍が蜂起。アシュナードの遺児ベレアス率いる解放軍は、副大将の「魂の巫女」ミカヤのカリスマ性もあって、国内の駐屯軍を一掃することに成功。神使サナキの承認を受けて王国再興を果たす。



④ 解放軍の参謀イズカは、ミカヤを仲間引き入れ、その名声を利用して企む。ミカヤはそんなイズカの恩恵を知りつつも、デインのために解放軍に入る決意をする。

ルドベック公の反乱

いっぽう、再興を遂げたクリミアも、平和な時代は長くは続かない。有力貴族であるフェリーレ公ルドベックが、エリンシアに対して反乱を起こしたのだ。

自分こそが王位にふさわしいと信じるルドベックは、エリンシアに不満を抱く貴族を味方につけ、女王の退陣を要求。だが、この反乱は、王宮騎士団とグレイル傭兵団の活躍により、あえなく失敗に終わる。



⑤ ルキノを人質にとり、自分に王位を譲るよう迫るルドベック。だが、エリンシアは、彼の要求を断って王としての覚悟を示す。

ラグズIIベグニオン戦争勃発

帰還したラフィエルの口から、「セリノスの虐殺」の黒幕が帝国元老院であることを知ったガリア、フェュスキス、キルツアスの三国は、元老院に対して事件の詳細に関する説明を要求。だが、元老院は三国からの使者を切り捨ててしまう。これに怒った三国は、ラグズ連合を組んで帝国に対して宣戦を布告。すぐさま、帝国に向けて進軍を開始する。その中には、アイク率いるグレイル傭兵団の姿もあった。

元老院はゼルギウスを総司令官に据え、徹底抗戦に出る。さらに、復興したばかりのデインに、ラグズ連合と戦うことを命じる。こうして、大陸全土を巻きこむ大乱の幕が上がった……。



⑥ 「血の誓約」を前に、ベレアスに服従を迫るルカン。国民の命を人質にとらえたベレアスは、ラグズ討伐をミカヤに命じるのだった。



⑦ 元老院は混乱に乗じ、神使サナキと宰相セフェランを幽閉して帝国を掌握。だが、脱出したサナキはラグズ連合と合流。これにより、サナキを支持するクリミアも戦いに加わり、戦火はさらに拡大することになる。

女神アスタルテの復活

ラグズ連合と帝国の戦いによって大陸に負の気が満ち、ついにメダリオンに封じられていた女神エヌが目覚めてしまう。そして、時を同じくして目覚めた女神アスタルテは、誓約が破られたことを知り、人間に対して裁きを下すことを決める。

女神の裁きを止めるために、アイクたちは、エヌとともにアスタルテの待つ導きの塔へと向かう。そして、激しい戦いの末、アスタルテを倒すことに成功。人間は、消滅の危機を免れたのであった。



⑧ 復活したアスタルテに、三雄が立てた誓約が破られたことを報告するエルラン。彼の話を聞いたアスタルテは、全人類の存続を判断する。

グレイル傭兵団

英雄を生んだ傭兵団

グレイルが、デインを抜けた後に創設した傭兵団。グレイルの死後は、その息子であるアイクが団長を引き継ぐ。人助けを重んじ、わずかな報酬で働くことも少なくない。落ちのびたエリンシアを偶然助けたことから、デイン軍に追われる。その後はクリミア復興軍の中核となり、デイン打倒に力を貸す。

【蒼炎】

【暁】



▲アイク

そして少年は蒼炎の勇者へ

以前はグレイル傭兵団の一傭兵だったが、グレイル亡き後、父の跡を継いで新団長となる。無愛想で口数は少ないが、熱血漢であるために、思ったことを口にしずにはいられない。だが、それこそがアイクの最大の魅力であり、種族の壁を超えて多くの仲間が集まるのも、この性格ゆえである。

クリミア復興軍の総司令官を務めるにあたり、エリンシアから爵位を授けられる。しかし、貴族暮らしが性に合わなかったのか、クリミア復興後に爵位を返上し、再び傭兵家業に戻る。

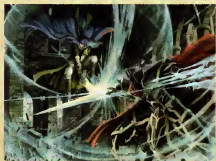
父の敵である漆黒の騎士は、アイクにとって敵であると同時に目標でもあった。彼との出会いがなければ、アイクが“蒼炎の勇者”と呼ばれるまでに成長することはなかっただろう。



●アイクは亡き父の墓前で団長となり、団を守ることを誓う。これが“蒼炎の勇者”の伝説の始まりであった。



●女神ユニスの力を借りたアイクは、アスタルテを倒して世界を危機から救う。



●父グレイルの命を奪った漆黒の騎士。この男との戦いが、アイクを戦士として大きく成長させる。

◀ ミスト

紋章(メダリオン)の守り手

アイクの妹。傭兵団では団員の身のまわりの世話などをしていたが、父グレイルの死後、杖使いとして自らも戦場に出るようになる。母の形見であるメダリオンを、肌身離さず持ち歩いている。

母エルナの血によるものか、生来正の気が強い。そのため、メダリオンを身につけていても、負の気に負けて暴走することにはなかった。

【若炎】



ダーレとの支援関係
をAにすると、エビ
ローブでダーレと結ば
れる。結婚式では大泣
きし、アイクを困らせ
たとか……

【蒼炎】



▲ エルナ

凶刃に倒れた母

グレイルの妻で、アイクたち兄妹の母親。バルメー神殿の神官を務めていた折、さらわれてきた**霧の民**の王女リーリアの世話係を任せられ、メダリオンと「解放」の呪歌を託される。暴走したグレイルを止めるために、その身を投げ出して命を落とした。

●メダリオンの負の気に負けて暴走したグレイルは、愛する妻をその手にかけてしまう。



▲ グレイル

傭兵団の創設者

グレイル傭兵団の創始者で本名はガウェイン。もとはデイン王国の軍人だったが、メダリオンをアシュナードの手から守るために、妻エルナとともにデインを去り、一介の傭兵となる。

一度メダリオンの力に負けて暴走したことがあり、その後悔から自らの利き腕を傷つけて力を封じ、二度と剣を持たないことを己に誓った。

【蒼炎】



【晩】

【蒼炎】



セネリオ

傭兵団の若き参謀

傭兵団の参謀で、その知略は一国の軍師にも引けをとらない。アイクに対する絶対の忠誠を誓っており、彼以外に本心を見せることはない。

実は、ティン国王アシュナードとその寵姫アマリタ（竜騎族）の息子なのだが、セネリオ本人は、そのことを知らない。



アイクとの支那関係をみよると、エビロックでアイクと2人で物に出る。セネリオにとっては、アイクのそばこそが自分の居場所だったということだ。

ティアマト

グレイルの片腕にして頼れる副長

傭兵団の副長で団員の信頼も厚い。もとはクリミア王室騎士団に所属していたが、交換武官として派遣されたガリアでグレイルと出会い、騎士団を降参。傭兵団の一員となる。ひとりの女性としてグレイルを想い続けるが、彼女がその想いを口にすることは決してなかった。

【晩】

【蒼炎】



【晩】

【蒼炎】

キルロイ

心優しき杖使い

癒しの杖の使い手。幼いころから身体が弱く、傭兵の叔父に憧れていた。山賊との戦いで傷を負ったティアマトを治療したのが縁で、グレイル傭兵団に入団。

温厚な性格で、血を見るのは苦手。女神アスタルテとの戦いが終わると、若のかたすみに建てた教会で子どもたちを教えた。



ボーレとヨファの兄。クリミア王宮騎士団に所属していたが、父の死後、まだ幼かった弟たちのめんどうを見るために騎士団を除隊。グレイル傭兵団の一員として働きながら、弟たちを育てた。

女神アスタルテとの戦いの後、エリンシアの要請によって王宮騎士団に復帰した。



◎ 弟の食事を作っていたためか、オスカーの料理はなかなかのもの。腕前は、ラグズたちも認めるほどだ。

【蒼炎】



【暁】



オスカーの弟でヨファの兄。歳が近いせいかアイクとは気が合うらしく、よく頼口を叩き合っている。考える前に行動するタイプで、ヨファから「筋肉バカ」呼ばわりされることもある。

ミストとはお互いに憎みあう思っているが、つきあうまでには至っていないようだ。

【蒼炎】



【暁】



【暁】



【蒼炎】



オスカーとボーレの弟。2人とは母親が異なるが、オスカーたちのことを兄として慕う。母親が会いにきた際は、母と暮らすことより、兄たちと一緒に戦うことを選んだ。

シノンの弟子で、彼から密かに弓と弓作りを学んでおり、その腕前はなかなかのもの。



◎ ヨファの母親。オスカーたちの父が死ぬと、ヨファを捨てて家を出た。

シノン▶

ニヒルな狙撃手

弓の名手でかなりの自信家。ヨファの弓の師匠でもある。グレイルを尊敬しており、彼の死後、アイクがグレイルの跡を継ぐことに納得できずに団を抜ける。その後、トレガレン長城戦でデイン軍に与してグレイル傭兵団と戦うが、アイクの説得に応じて再び団に戻った。



【暁】

【蒼炎】

【蒼炎】



【暁】

▲ガトリー

傭兵団一恋多き男

シノンのことを慕っており、いつも悶えている。一度はシノンとともに団を抜けるが、その後復帰。とにかく女性に惚れっぽく、女性の詐欺師に有り金をだまし取られたこともある。ちなみに、恋愛対象としてはラグズであってもかまわないらしい。

【暁】



【蒼炎】

ワユ▶

目指すは最強剣士!

デインの捕虜収容所に送られそうになったところを、グレイルに助けられて傭兵団の一員となる。強くなることに貪欲で、強そうな相手を見つくと、誰彼かまわず稽古を申しこむ。女神との戦いが終わると、まだ見ぬ強敵を求めて修行の旅に出た。

クリミア王国

親ラグズを掲げる王国

武よりも文の発展を目指して築えた国。親ラグズを掲げ、ラグズ国家であるガリアとも同盟を結ぶ。645年に隣国デインの奇襲を受け、王都メリオルが陥落。国王ラモンをはじめとする王族も、殺されてしまう。その後、ラモンの遺児であるエリンシア姫がデイン王アッシュナードを討ち、王国の再興を果たす。



エリンシア

亡国の姫君

クリミア国王ラモンの娘。次期国王にレニングが決定したあとに生まれたので、その存在は公にはされなかった。城から脱出したところをアイクたちに保護され、彼らとともにガリアへ亡命。その後、王族の生き残りとして再興軍を結成。王国再興後は、ラモンの跡を継いで国王に即位した。

優しい心の持ち主で、争いごとを避ける傾向が強く、そこをルドベックにつけこまれた。だが、ルドベックの申し出を断ったことにより、彼女は王としての強さを手に入れることができた。



④ デインとの決戦では、亡き祖母の戦装束を身にまとい戦いに臨んだ。



⑤ 親友の命と国の命運。苦渋の選択を強いられた彼女が選んだものは……。

【蒼炎】

【暁】

【蒼炎】

レニング

クリミアの王弟

先王ラモンの弟。メリオル陥落の際に死んだと思われていたが、密かにデイン本国に連れ去られ、薬による洗脳を受けていた。ユリシーズによって救出されたレニングは、リュシオンの呪歌によって洗脳から解放され、自分を取り戻すことができた。

【晩】

【蒼炎】

◀ ジョフレ

女王の忠実なる剣

クリミア王宮騎士団所属の騎士で、エリンシアの乳兄弟。他の遺臣とともにディンへの抵抗活動が続いていたが、エリンシアと再会して再興軍に参加。クリミア再興後は、エリンシアに任ぜられて将軍となる。エリンシアをひとりの女性として愛しているが、その想いを口に出せずにいる。



エリンシアとの支那関係をAにすると、エピソードでエリンシアと結ばれる。余談だが、エリンシアがジョフレの思っている人であることば、周囲には知られていたようだ……。

【晩】

【蒼炎】

ルキノ▶

エリンシアのよき理解者

ジョフレの姉。弟とともにクリミア再興軍に参加し、再興後はエリンシアの護衛隊長に任ぜられる。剣だけでなく、策士としての才能もある。

乳兄弟のエリンシアのことをなにより大切に思っており、フェリーレ公に捕まったときは、彼女のために自らの命を投げ出そうとした。



エリンシアとの支那関係をAにすると、エピソードで彼との仲が深まっていることが判明する。ただし、結婚するまでには至っていないらしい。

【晩】

【蒼炎】

ユリシーズ▶

クリミアの策士

ディン侵攻以前は、王弟レニングの筆頭文官を務める。ルキノ、ジョフレの姉弟とともにクリミア再興軍に参加。復興後は宰相となってエリンシアを輔佐。知略に優れ、「クリミアの策士」として広く知られている。他人に本心をさとらせないため、常に適化のような話し方をする。

ケビン▶

オスカーの永遠のライバル

クリミア王宮騎士団に所属の騎士で、うっとうしいほどの熱血漢。カントゥス城で捕まっていたところをアイクたちに助けられ、行動をとめるようになる。クリミア再興後は、王宮騎士団副団長を任される。以前からオスカーのことをライバル視しており、再会後にもなにかと張り合う。



【晩】



【蒼炎】



【晩】

【蒼炎】



▲チャップ

最強の農夫

クリミアの田舎に住む農夫。デイン侵攻の折、民兵としてクリミア軍に参加。その後、デインの捕虜となったところをアイクたちに助けられる。クリミア再興後は故郷のオマ村に戻っていたが、フェーレ公が反乱を企んでいることを知り、再びエリンシアのもとへ馳せ参じる。

ネフェニー▶

純朴な戦乙女

チャップと同様にオマ村出身の民兵。チャップとともにアイクたちに助けられ、仲間に加わる。クリミア再興後はオマ村に戻っていたが、フェーレ公の反乱を阻止するために再び戦を取る。以前はなまりを気にして無口になりがちだったが、カリルのおかげで普通に話せるようになった。

◀メグ

婿探しの旅へ

チャップの娘。父の「ツイハークという男に娘をやる約束をした」という言葉を真に受け、婿探しの旅に出る（ちなみに、この約束はツイハークのあずかり知らぬこと）。旅の途中でミカヤたちと出会い、曉の団に加わる。女神との戦いが終わると、故郷に戻って平凡な結婚をした。

【晩】



【晩】



【蒼炎】





【晩】

【蒼炎】



【蒼炎】



【晩】

◀ マージャ

兄思いの天馬騎士

もとはベグニオン天馬騎士団所属の天馬騎士。兄マカロフの借金取りが賞金にまで押しかけるようになり、いづらくなって脱隊。兄を捜す旅に出る。クリミア再興後は、エリンシアのすすめでクリミア王宮騎士団に入隊する。お人好しでたまされやすいが、兄の嘘だけはすばりと見ぬく。

◀ マカロフ

ギャンブル好きのダメ兄貴

マージャの兄。ギャンブルがらみの借金が原因でベグニオンを逃亡。その後あちこちを転々としていたが、マージャに見つかり、グレイル傭兵団で働くことになる。

クリミア再興後は、クリミア王宮騎士団の一員となる。だが、ギャンブル好きとぐうたらな性格が直ることはなかった。

◀ ステラ

世間知らずのお嬢様

ベグニオンの貴族、ディアメル伯爵家の令嬢。親が決めたルカンとの結婚を拒んで、騎士団に志願。その後アイクと出会い、グレイル傭兵団の一員となる。お嬢様育ちで男性に免疫がなく、マカロフに一目惚れしてしまう。クリミア再興後は、マカロフを追って王宮騎士団に入隊する。



【晩】

【蒼炎】



マカロフとの支援関係を人にする。エビローグでマカロフと結婚する。周囲は反対はしたいが、相手がマカロフとなればそれも当然か……

デイン王国

狂王が支配する反ラグズ国家

ラグズ強硬派が建国した国家で、反ラグズ志向が強い。645年に隣国クリミアに侵攻。だが、この戦いはデインの敗北に終わり、その後クリミアが支配権を放棄したことで、バグニオン帝国の統治下に置かれる。648年、先王アシュナードの遺児ベレアスが蜂起。駐屯軍との戦いの末に独立を勝ち取った。



③ アシュナードにとって興味があるのは、世界の変革のみ。彼にとっては、己の国の運命さえどうでもよいことだったのだ。

【蒼炎】



父子殺しの真相

王位から遠い位置にいたアシュナードが国王にされたのは、父王と他の王位継承者が次々と流行病に倒れたためとされているが、真相はそうではない。

アシュナードは父王をだまして旅の賢者と「血の誓約」を結ばせ、その戦いによって他の王位継承者の命を奪う。そして、最後に父王を殺して王位に就いたのである。



▲ アシュナード

邪神復活をもくろんだ狂王

「狂王」の異名を持つ、デイン第13代国王。武芸に秀で、「デインに猛将あり。アシュナードの前では聖騎士一兵団でも懼む」といわれた。力による支配を好み、「弱者は滅び強者は生き残る」が信条。

力がすべてとなる世界を実現させるために、大陸に大乱を巻き起こし、その負の気により、メダリオンに封じられた邪神を解放しようと企んだ。

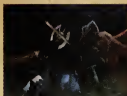
漆黒の騎士▶

デイン最強の剣士

アシュナードの配下で、「凶魔」のひとり。常に漆黒の鎧を身につけ、人前に素顔をさらすことはない。正体はベグニオン騎士ゼルクウス。

メダリオン奪取のために、グレイルと戦ってその命を奪う。ナドゥス城でアイクに倒されて死んだと思われていたが、クリミアーデイン戦争から3年後、再びその姿を現した。

武器は2本の神剣、ラグネルとエタルド。鎧も女神の祝福を受けており、神剣以外の攻撃を受けつけない。



① かつての力を封じたグレイルでは、漆黒の騎士にはかなわない。



② ナドゥス城で倒されたのは、彼の精神を移した鎧だったのだ。



【蒼炎】

ベウフォレス▶

仮面の死に神

デインの将軍で凶魔のひとり。幽鬼のような雰囲気漂わせており、兵士からは「古代の亡霊」あるいは「異界の魔物」と呼ばれ、恐れられている。

その正体は、死んだと思われていたクリミアの王弟レニング。イズカの作った薬で精神を破壊され、ベウフォレスという偽の人格を植えつけられていた。



【蒼炎】

【蒼炎】

プラハ

冷酷な女将軍

凶魔の中で唯一の女将軍。その性格は残忍冷酷で、部下に対しても容赦がない。また、「印付き」として生まれたために、ラグズをひどく憎んでいる。彼女がアシュナードに心酔していたのは、彼が印付きでも差別しない主だったからかもしれない。



【蒼炎】

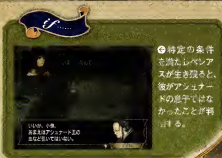
ブライス

凶魔のひとり。アシュナードの父王の時代から王家に仕える。アシュナードの奮闘に疑問を抱きつつ、最後まで忠義を尽くした。

ペレアス

狂王の遺児

市井で暮らしていたところを、イズカに見出されてディン解放軍の旗頭となる。ペグニオン駐屯軍の討伐に成功し、父アシュナードの跡を継いでディン第14代国王に即位するが、ルカンにだまされて「血の誓約」を結ぶ。最後は、誓約を破棄してディンを救うためにその命を捧げた。



◎ 特定の条件を満たしペレアスが生き残ると、彼がアシュナードの息子ではなかったことが判明する。

【 晩 】

アムリタ

悲劇の王妃

アシュナードの寵姫。黒竜王デギンハンザーの娘で、竜騎族の掟を嫌って国を飛び出した。その後アシュナードと出会い、子をもうける。だが、その際に竜騎族としての力を失い、生まれた子どもとも引き離されて精神を病んでしまう。



【 晩 】

イズカ

狂気の人オ

アシュナードの下でラグズを生体兵器に変える研究をしていたが、敗戦間際に逃走。その後、ルカンの命を受け、ディンに元老院の傀儡政権を立てるためにペレアスを招き出し、ディン解放軍を組織する。



【 晩 】



「血の誓約」とは?

「血の誓約」とは、相手を縛る一種の呪いである。相手の意に添わない行動をとると、誓約を結んだ人間の周囲の人々が次々と死ぬ。

元老院は、この誓約を、他国を支配するために利用してきたのだ。キルヴァスが元老院に逆らえなかったのも、昔キルヴァスの王が元老院とこの誓約を結んだためである。



◎ 「血の誓約」に用いられる誓約書。これを燃やすなどして処分すれば、誓約は破棄される。



◎ 誓約を結ぶと、証として体に印が現れる。国王が誓約を結んだ場合は、次の王に印が受け継がれる。

【蒼炎】

フリーダ

高潔な女領主

マラドの領主ランビーガの娘。領民を守るためにベグニオン帝国に従う道を選ぶが、帝国駐留軍のあまりの非道ぶりに帝国との決別を決意。デイン解放軍に加わり、ミカヤたちとともにデイン再興のために戦った。

【暁】

▲ ツイハーク

義に厚き剣士

デイン生まれの剣士。ラグズを守るためにラグズ狩りを行う自警団に潜入した際に、アイクたちと知り合う。敵牙族の恋人と死に別れており、ラグズに味方するのはそのため。デイン＝クリミア戦争終結後は、デイン解放軍の一員として戦った。

【暁】

タウロニオ

“不動の四駿”と謳われた猛将

デインの將軍でガウエインの旧友。アイクがガウエインの息子と知ると、親友の剣技が失われることを惜しみ、剣を捨て投降。デイン＝クリミア戦争終結後はデイン解放軍に加わり、祖国の解放に尽力する。女神との戦いが終わったあともデイン軍に残り、軍の要として国を支えた。

【暁】

不動の四駿

デイン軍の中で最強の戦士に与えられる称号。それが“四駿”である。中でもブライス、ガウエイン、タウロニオ、ランビーガの4人は、そのすばめけた強さと高潔な人柄から“不動の四駿”と呼ばれた。



ブライス



ガウエイン



タウロニオ



ランビーガ

No Image

【蒼炎】

ジル

若き竜騎士

ダルレカ領主シハラムの娘で、ハール竜騎士隊所属の竜騎士。手柄をあせるあまり、単身アイク一行を追跡。その後、なりゆきから彼らと行動をともにする。最初は、ラグズに偏見を持っていたが、やがてそれが誤りだと気づく。デイン＝クリミア戦争終結後は、デイン解放軍に参加した。

ハールとの交際関係をAにすると、エピソードでハールと結ばれる。しかし、ジルのこと「尊敬する上官の娘」としか見ていなかったハールを振り向かせるとは……



【暁】

【蒼炎】

【暁】

【蒼炎】

【蒼炎】

ハール

飄々たる偉丈夫

デイン所属の竜騎士。もとはベグニオン竜騎士団の一員だったが、上官であるシハラムとともにデインに亡命。普段は飄々としているが、シハラムに対する侮辱だけは決して許さない。デインが敗戦した後は、相棒の騎竜とともに荷運び屋をしていた。

シハラム

ジルの父。ベグニオンの軍人だったが、元老院の腐敗ぶりに嫌気がさし、部下たちとともにデインへ亡命した。

ベグニオン帝国

大陸を統べる超大国

女神アスタルテを信奉する宗教国家で、大陸最大の勢力を誇る。クリミア、デインにとっては宗主国にあたる。初代女王は、“三雄”のひとりであるオルティナ。歴代皇帝は、全員彼女の子孫の中から選ばれてきた。彼女たちは“神使”と呼ばれ、女神の声を聞くことができるとされている。



【若衆】

【晩】



●セフェランに抱かれて民衆に手を振るサナキ。幼い神使と美しい宰相という組み合わせは、国民から絶大な支持を得た。

暗殺された悲劇の神使・ミサハ

サナキの祖母で、先代の神使であるミサハ。エルラン（セフェラン）から過去のいきさつを聞き、“印付き”が決して呪われた存在ではないことを知った彼女は、歴代の神使が印付きである事実を公表しようとするのだが、それを阻止しようとする元老院により暗殺されてしまう（このときサナキの姉であるミカヤも行方不明）。この彼女の死がエルランを深く絶望させ、彼が女神の復活を望む一因となった。



●ミサハの存在は、エルランにとって希望の光とならずに暗黒の影となっていた……

▲ サナキ

第37代ベグニオン皇帝

祖母ミサハの跡を継ぎ、わずか8歳で神使の座に就く。かつて起きた「セリノスの虐殺」に心をいためており、その贖罪の念から国内のラグズの力になろうとする。

神使になって以来、一度も女神の声が聞こえないことを気にかけていた。女神アスタルテとの戦いで、ルカンから自分が偽りの神使だと知らされ、自分は民を裏切っているのではと悩む。だが、シグルーンたちの励ましを受けて、再び皇帝として生きる決心をする。

セフェラン

女神による蘭正を望んだ男

帝国の宰相にして元老院議長。その正体は穢の民で、本名はエルラン。帝国の初代女王にして、「三雄」のひとりであるオルティナの夫だった男である。

オルティナとの間に子をもうけるが、それにより化身の能力と呪歌謡いの力を失ってしまう。女神との橋渡し役ができなくなったエルランは、絶望して一時は自殺まで考えるが、ミサハとの出会いにより救われる。だが、そのミサハが暗殺され、さらにセリノスの虚説で同胞の死を目のあたりにして人間に深く絶望する。そして、人間には女神による蘭正が必要だ、という考えにとりつかれるようになる。

セフェランと名を変えた彼は、手始めとしてアシュナードに接触。彼の王位継承に協力し、メダリオンの存在と邪神復活の方法を教える。アシュナードが倒されると、ベレアスによるディン再興を画策。相次ぐ戦いによって大陸中に負の気を充満させ、女神アスタルテを目覚めさせようとする。最後はアイクたちに敗れ、サナキの腕の中で息を引き取った。

【蒼炎】

セフェラン



セフェラン生存ルートに落ちると、エピソードで、蘇った「穢の女神」アスタルテと衝突する本物の姿が見られる。アイクたちと出会う前から数百年を経て、彼げやど真のやすらぎを得ることができたのだ。

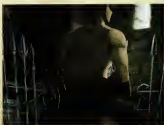


⑨セフェランの暗殺者は、ゼルギウスただひとり。2人の絆はなによりも固い。

ゼルギウス

ベグニオンが誇る英雄

ベグニオン帝国の将軍。実は「印付き」で、見た目より長い年月を生きている。もとは、ディンの軍人だったが、セフェランに仕えるためにベグニオンに渡る。その後は、帝国軍人として武功を上げつつ、漆黒の騎士としてセフェランのために働く。ディン時代にガウウィンから剣を学んでおり、彼を超えることを生涯の目標としていた。最後は、一騎打ちの末にアイクに倒される。



⑨印付きに生まれ、長い間孤独に耐えてきたゼルギウス。ミカヤに味方したのも、彼女が同じ印付きだったからだろう。

【蒼炎】





◀ シグルーン

神使を守る美しき剣

神使親衛隊隊長。幼いながらも元老院の言いなりとならず、常に民のたを思っ
て行動するサナキに絶対の忠誠を誓う。そ
して、その忠誠は、サナキが偽りの神使であ
るとわかって、いさかとも揺らぐことは
なかった。

【蒼炎】

【蒼炎】

●ルカンの言葉に動
揺するサナキを、2人
は「自分たちの忠誠は
サナキ個人にある」と
断ずる。



私たちの忠誠は
サナキ個人にあるのではなく、我々にあります。
それとどうにか断れよう。

タニス▶

部下思いの副隊長

シグルーンの部下で神使親衛隊の副隊長を務める
天馬騎士。シグルーンと同様、サナキ個人に絶対の
忠誠を誓う。部下思いで、隊を離れたマーシャのこ
とをずっと気にかけていた。



ルカン

元老院副議長。サナキを時勢
し、帝国を形から支配しようと思
う。先代の神使であるミサハの面
貌を指示したのも、この男である。

【晩】

【晩】

元老院有力七議員

ベグニオン帝国において、絶大な影響力を持っている元老院。そ
の中でも、とくに大きな力を持つのが、「七議員」と呼ばれる議員た
ちである。議長であるセフェランもこの七議員のひとつだが、神使
よりの立場をとるために、他の議員からは敬視されている。



スミダ



マルティン



セフェラン

オリヴァー

自称「美の守護者」。もとは有力
議員のひとりだったが、議の反
対するリオンを擁護しよう
としたことがばれて失職する。

ティン駐屯軍総督。
私欲をこすためにデ
インに王政を敷く。小
心者で、ルカンの言い
なりとなっている。

性格は非常に残忍。
ベグニオン軍総司令官
に就任する際、自分の
軍に率わめセルクウス
を処刑しようとした。
奴隷商人からラフィ
エルを救った恩人。セ
リナスの暗殺を止めら
れなかったことを、ず
っと後悔している。



ラグズ奴隷解放軍

目的はラグズの解放

帝国内のラグズ奴隷の解放を目的とする組織。貴族の屋敷に忍びこみ、その家の奴隷たちを逃がしていたが、彼らをじゃま者と思った元老院によって、盗賊の汚名をきせられてしまう。アイクの協力によって無実が明らかとなり、サナキという後ろ盾を得ることができた。

トバック▶

解放軍のリーダー

奴隷解放軍の若き首領。トバック自身はベオクだが、ラグズ奴隷に疑問を持ち、奴隷解放のために戦っている。サナキの協力をとりつけるきっかけを作ってくれたアイクに感謝し、デイン＝クリミア戦争ではクリミア再興軍に参加。歳の近いサザとは仲がよく、デインの再興にも一役かう。



【蒼炎】



【暁】

【蒼炎】

▲ムワリム

首領の守り役

奴隷解放軍の副首領。トバックの親がわりで、「坊ちゃん」と呼んでいる。ラグズ奴隷の子として生まれたために、ベオクの文化に詳しい。女神との戦いの後に帝国史上初のラグズ高官となり、トバックを補佐した。



【暁】



【暁】

◀ビーゼ

解放軍の紅一点

解放軍に所属する鳥翼族の女性。トバックたちとともにデイン解放軍に参加し、駐屯軍と戦う。出会った当初、ミカヤを避けていたのは、彼女が「印付き」であることを、ラグズとしての本能で感じ取っていたためかもしれない。

ガリア王国

獅子が治める獣牙族の国

獣牙族の王国で、獅子をはじめ、虎、猫などのさまざまな種族が住んでいる。クリミアと同盟を結んでおり、デイン＝クリミア戦争の折には、エリンシアを助けてクリミアの奪還に手を貸した。



カインギス▶

ガリアの獅子王

「獅子王」の異名を持つガリアの王。クリミアのラモン王と王弟レニング、そしてアイクの父であるクレイルとは旧知の仲である。とくにラモン王とは、ラグズとベオクの共存を実現するために力を合わせてきた。女神との戦いが終わると、王位をスクリミルに譲る。

【晩】



【晩】

◀ スクリミル

次代の獅子王

カインギスの甥。ラグズ＝ベグニオン戦争では、カインギスのかわりにガリア軍の総大将を務める。最初は力押しだけの強硬なタイプだったが、初めての敗北を経験し、戦士としても、また人間としても大きく成長する。女神の戦いの後、カインギスの跡を継いで新たな獅子王となった。



【晩】

ジフカ▶

獅子王の影

若いころからカインギスの影武者を務めており、自らの役目に誇りを持っている。戦士としても非常に優れており、兵士たちからも一目おかれている。



④ ノゼ峠でのゼルギウスとの一騎打ち。この戦いで、スクリミルは生涯初の敗北を経験することになる。

ライ

王の片腕

ガリアの戦士。カイネグスの信任も厚く、ラグズ＝ベグニオン戦争では、スクリミルの補佐役を任される。アイクとは、種族を越えた固い友情で結ばれている。ガリアの戦士には珍しく、どんなときも冷静さを失わない。女神との戦いの後に、新王となったスクリミルの補佐として彼を助けた。

アイクとの支援関係がAになると、カイネグスの即位を見届けたあとでガリアから姿を消す。「世界は広く、己の知らぬものは、まだ無限にある」と言い残して……。

【蒼炎】

レテ

気高き女戦士

ガリアの女戦士。アイクたちと出会った当初は、同族を差別してきたベオクを毛嫌いしていたが、アイクたちと行動をともにするうちに、次第に心を開く。

双子の妹であるリイレに対しては、心配するあまり、ついついきつい言葉を言ってしまい、けんかが絶えない。

【蒼炎】

【蒼炎】

キサ

体は男、心は女？

普段は模範的な兵士なのだが、興奮するとなぜかオカマ口調になる。リイレとは、隊長であるライを巡ってライバル関係にある（もちろんライにその気はない）。

【暁】

リイレ

姉を追いかけて戦場へ

レテの双子の妹。大好きな姉と一緒にいたいという思いから、戦士になった。性格的にまだ幼いところがあり、かっとなってケンカをすることもしばしば。

【暁】

モウディ

心優しい獣

ディーン＝クリミア戦争の折、ガリア王の命を受け、レテとともにアイクたちの仲間に加わる。無骨だが心優しく、戦いをあまり好まない。ラグズに対しても分け隔てなく接するアイクに、一目おいている。女神の戦いが終わると戦いからは退き、ガリアの森で穏やかな日々を送った。

フェニクス王国

鷹の民が暮らす南の小国

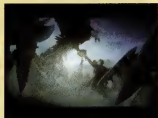
南方に浮かぶ鳥翼族・鷹の民の国。過去に「セリノスの虐殺」を起こし、同族である鷹の民を虐殺したベグニオン帝国を敵視しており、帝国の船に対して海賊行為を働いている。その身体能力を活かし、船を使わずに襲うことから、「船を持たぬ海賊」と呼ばれて恐れられている。



ティバーン▶

大空の覇者

「鷹王」の名で知られるフェニキスの王。高いカリスマ性と、大陸屈指の戦闘力を持つ。セリノスの虐殺後、国を失ったセリノス王族の後継人となる。女神との戦いの後、統一された鳥翼三国の初代国王に就任した。



④ ガリアの戦士の中でも屈指の実力を誇り、ゼルギウスとさえ互角以上の戦いをする。

【蒼炎】



【暁】

◀ウルキ

王の耳

ティバーンの側近で、鷹王からの信頼も厚い。千里先の音も聞き取る「順風耳」という能力を持っていることから、「王の耳」と呼ばれている。普段はもの静かで、あまり自己主張することはない。

ヤナフ▶

王の目

ティバーンの側近。千里先を見通す特殊能力「千里眼」を持つことから、「王の目」と呼ばれている。ティバーン、ウルキとは幼いころからのつきあいで、3人だけのときは、ティバーンのことを呼び捨てにしている。

【暁】



キルヴァス王国

鴉王が治める海賊国家

鳥翼族である鴉の民の国。フェニクス同様、「船を持たぬ海賊」として恐れられているが、こちらは略奪が目的。金次第でベオクの仕事も引き受けるので、他の鳥翼族からはよく思われていない。



【戦】

ネサラ▶

裏切りの王

キルヴァスの王で「鴉王」の異名を持つ。自国の民をなにより大切に思い、そのために手を汚すこともいとわない。ラグズ=ベグニオン戦争で連合を裏切ったのも、民を守るためだった。リュシオン、リアネとは昔なじみで、今も頭が上がらない。

▲ニアルチ

ネサラに仕える侍従。ネサラを幼いころから知っており、いまだに「ぼっちゃん」と呼ぶ癖が抜けない。



【蒼炎】

セリノス王国

一夜にして滅びた悲劇の王国

鳥翼族である鶯の民の国。平和を愛する国だったが、「セリノスの虐殺」により一夜にして滅亡。以来、国のあった森は帝国が管理していたが、後に神使サナキによってセリノス王族に返還される。

リアーネ▶

麗しの歌姫

リュシオンの妹。セリノスの虐殺で死んだと思われていたが、事件から20年後、森での眠りから目覚めて兄との再会を果たす。長い間眠っていたためか、精神的に幼いところがある。

【蒼炎】



ネサラとの支援関係をAにすると、エピソードでネサラと結ばれる。仲むつまじく暮らし、悲願の男児と白翼の女児の2人の子をもうける。



【蒼炎】

▲リュシオン

白の王子

セリノスの第二王子で、虐殺の数少ない生き残り。憎しみにかられ、「禁呪」を発動させてベオクを滅ぼそうとするが、リアーネとの再会が彼を思いとどまらせる。体が弱く、優れた戦士であるティバーンに憧れている。

ゴルドア王国

閉ざされた竜鱗族の国

ラグズ最強の種族である竜鱗族の王国。建国以来他国との国交を絶っており、鎖国状態にある。国王デギンハンザーの意志により、絶対中立の立場をとっており、ラグズ=ベグニオン戦争でもラグズ連合に与することはなかった。



【蒼炎】

◀ デギンハンザー

“三雄”の生き残り

“黒竜王”の異名を持つゴルドアの王。女神ユンヌと戦った三雄のうち、ただひとりの生き残りである。ユンヌとの戦いの後、人間たちにアスタルテとの誓約を守らせるために、メダリオンに封じられたユンヌを「邪神」と偽り、自らは絶対的中立を貫く。

オルティナに子が産まれたとき、友であるエルランがラグズとしての力を失ったことを知った彼は、ベオクとラグズが交わることを禁忌とした。だが、それが、後に印付きに対する差別を生んでしまい、深く後悔する。最後は女神アスタルテの側についてアイクたちと戦い、クルトナーガにあとを託して逝った。

【蒼炎】



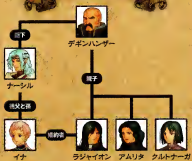
◎化身したクルトナーガ。そのブレスは、滔々な城壁すらも一撃で破壊してしまう。

◀ クルトナーガ

若き黒竜

デギンハンザーの息子。姉のアムリタを助けるために、一族の掟を破って国を出てディンヘ向かう。ミカヤたちは、そのときに知り合った。デギンハンザー亡きあと、ゴルドアの新国王として生き残った竜鱗族を率い、女神アスタルテと戦った。

ゴルドア王家系図



【蒼炎】

イナ

掟より愛を選んだ女

婚約者のラジャイオンを探してデインにやってきたイナを待っていたのは、アシュナードによって“なりそこない”にされた恋人の姿だった。イナは、彼のそばにいたために一族の掟を破り、アシュナードの軍師となる。女神との戦いの後に国に戻り、亡き婚約者の子を出産。その子をラジャイオンと名づける。



● 狂王がイナに下した最後の命令。それは、王都ネヴァサでアイクたちを迎え撃つことだった。

【暁】

ゴート

王子の従者

クルトナーガの従者。デギンハンザーに従い、一度はクルトナーガの敵に回るものの、女神との最終決戦では、新国王となった主人とともに戦う。戦いが終わって国に帰ったあとは、イナの息子の侍従となった。

【蒼炎】

ナーシル

悲しき二重スパイ

イナの祖父。カイネギスへの報告役としてアイクたちに同行するが、それとともにデインの密偵も務める。もちろん、すべてはアシュナードに仕える孫娘のためであった。デイン＝クリミア戦争が集結すると、イナとともに故郷のゴルドアへ戻った。

ラジャイオン

妹のため 我が身を犠牲に

ゴルドアの第一王子で、アムリタたちの兄。アムリタの息子を入贅にとられ、アシュナードの軍門に下る。イズカの策によって自我を奪われ、アシュナードの騎竜にされるが、死の間際、リュシオンたちの呪歌によって自分を取り戻すことができた。

【蒼炎】



④ 呪歌によって自我を取り戻したラジャイオンは、愛するイナに抱かれてその生涯を終える。

暁の団

民衆を守る義賊集団

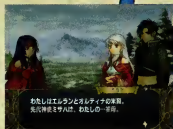
ディンの首都ネヴァサを中心に活動する義賊集団。ベグニオン駐留軍から物資を奪い、それをディンの民に分け与えていた。新統治官として赴任したジェルドによってネヴァサを追われた後は、ディン再興のためにベレアス率いるディン解放軍に参加。以後は軍の中核を担うようになる。

ミカヤ

暁の巫女

癒しの力をはじめ、予知能力や他人の心を読む力を持つ。以前は、その銀髪から“銀の髪乙女”と呼ばれたが、ディンの副大将となってからは、“暁の巫女”の名で呼ばれる。ディン再興後は、帝国の手先となることに悩みながらも、国のために戦った。

印付きのため、以前は1か所に長くどまることが避けてきたが、最後は、愛するディンに残ることを選び、ベレアスの跡を継いでディン第15代国王となる。



わたしはエルランとオルティナの再會。
先代神使ミカヤは、わたしの一室。

④実はミカヤは、セリノスの産婦で死んだと思われていたサナキの姉。ミカヤの不思議な力は、彼女が神使である証だった。

【蒼炎】



【暁】



⑥まだ幼かったサザは、路地裏でミカヤに拾われ、家族として暮らすようになる。



【暁】

サザ

ミカヤの守護者

ミカヤの弟と名乗るが、血のつながりはない。ディン＝クリミア戦争の最中にミカヤとはぐれてしまい、行方を探していたときにアイクたちと出会う。戦争終結後にディンに戻り、ミカヤとの再会を果たす。

ミカヤのことをなにより大切に思っており、彼女のために尊敬するアイクと戦うこともいとわれない。ミカヤがディン国王に即位すると、その側近となって彼女を支えた。



ミカヤとの支援関係がAになると、エピソードでミカヤと結ばれる。サザとの結婚は、ミカヤにとっても最高のハッピーエンドではないだろうか。

エディ▶

路地裏育ちの少年剣士

ディンの路地裏育ちで、親の顔も知らない。ディン＝クリミア戦争の折、胸に覚えがあれば兵に取り立てられると聞き、剣の修行を始める。だが軍に入る前に戦争は終わり、その後脱の団の一員となる。下町暮らしが性に合うのか、ミカヤが国王となった後も、特別な地位に就くことはなかった。



【晩】

レオナルド▶

クールな弓使い

地方貴族の子息として生まれるが、ディン＝クリミア戦争で天涯孤独の身となる。ディン敗戦後、駐屯軍に捕まりそうになったところを、エディに助けられて親友となる。女神との戦いのあとも軍に残り、国の復興に尽くした。



【晩】

【晩】



ノイズ▶

頼れる年長者

とくにリーダーというわけではなく、若者しかいない晩の団ではなにかと頼りにされている。

友に裏切られてすべてを失い、浮浪者として暮らしていたが、帝国防衛軍の暴挙に義憤を覚え、同胞を救うために立ち上がる。



【晩】

ローラ▶

とぼけた聖女

ディンに住むシスター。世話になっていた老司祭の業を入手するために晩の団を頼ったことから、彼らと行動をともにするようになる。少々天然な性格の面があり、晩の団のことをずっと山賊だと思っていたらしい。

【晩】



ブラッド▶

気のいい幼なじみ

ローラの幼なじみ。もとはディンの生まれだが、ベグニオンの商家に引き取られ、その後帝王国軍に入る。監獄の警備についていたが、そこに送られてきたローラたちを助けたことがきっかけで、晩の団に加わった。

ハタリ王国

砂漠の彼方に広がる幻の国

デインのはるか東にある王国で、獣牙族である狼の民が住んでいる。デインとハタリの間には「死の砂漠」と呼ばれる広大な砂漠が広がり、これまでその存在は幻とされてきた。また、ハタリ自身も、女王ニケの一行が砂漠を越えるまでの800年間、他国の存在を知らずにいた。



ニケ

邪眼の女王

ハタリの女王。ラフィエルと同行し、死の砂漠を越えてやってきた。立ち寄った砂漠の遺跡でミカヤたちと出会い、なりゆきから彼らに力を貸すことになる。戦いが終わると、ラフィエルたちとともにハタリへと帰っていった。

●化身状態でラフィエルの歌に聞き入る、ニケとオルグ。

【晩】

【晩】

【晩】

ラフィエル

折れた翼

セリノスの第一王子で、リュシオンたちの兄。セリノスの虐殺が起きたあと、死の砂漠をさまよっていたところをニケに助けられ、その後彼女の伴侶となる。謎の声（実は女神ユンヌの声）に導かれ、死の砂漠の遺跡を訪れた。

▲オルグ

寡黙な戦士

ニケの従者。ニケとラフィエルがリュシオンたちに会いにガリアへ向かうと、ミカヤを護衛するためにひとり解放軍に残る。とにかく寡黙で、口をきくことがほとんどない。古代語しか話すことができず、共通語は苦手のような。

組織に属さぬ者たち

【蒼炎】



◀ イレース

大食漢の魔道士

ひとり旅の途中、空腹で倒れていたところを行商団に拾われ、以来彼らと旅を続けている。見た目に似合わぬ大食いで、いつもお腹を空かしている。人の顔を覚えるのは苦手だが、食べ物をめぐってくれた相手は決して忘れない。

【暁】



【蒼炎】



【暁】

フォルカ▶

裏世界のプロフェッショナル

“火消し”の異名を持つ渡前ワタマエの暗殺者で、長い間グレイルの影を移してきた。彼がグレイルから受けた依頼は2つ。ひとつは、グレイルが暴走した際にその命を絶つこと。もうひとつは、グレイルが逃っ手に討たれたとき、彼の秘密を息子アイクに伝えることだった。

【暁】

ソーンバルケ▶

三雄の末裔

グラヌマ砂漠で隠者のような生活を送っている。実は“三雄”であるソーンの末裔。印付きとしてラグズに差別されてきたために、彼らをこころよく思っていない。女神との戦いの後、同じ境遇の者を集めて小さな村落を作り、国へと発展させた。

【暁】



◀ ヘザー

流しの女盗賊

盗みを働いている最中に、革命騒ぎに遭遇。その際にネフェニーに声をかけられ、押しかけ同然に仲間に加わる。本人曰く「女の子にはとびきり優しくしたい性質」らしい。女神との戦いのあと、盗賊稼業からは足を洗う。

カリル▶

姉御肌の女傭兵

炎魔法を得意とする女魔道士。クリミア＝デイン戦争の折、自らクリミア再興軍に売りこみやってきた。クリミア再興後は酒場の女将におさまっていたが、フェリーレ公の反乱が起こると、エリシアを助けるために再び戦場へと舞い戻る。



④ カリル夫妻の養女、エイミ。周囲は気づいていないが、実は彼女も印付き。

【蒼炎】



【蒼炎】

ラルゴ▼

傭兵から酒場の親父へ

流れの狂戦士。カリルとは古いつきあいで、彼女を追ってクリミア再興軍に加わる。デイン＝クリミア戦争のあとカリルと結婚。王都メリオルに、2人の夢であった酒場を開く。利き腕をけがしたために、戦争後は二度と武器を取ることはなかった。

【蒼炎】



◀ウハラダ

他人のそら似?

ラルゴの友人。フェリーレ公の反乱の折、傭兵としてジョフレたちに加勢する。姿といい話し方といい、どこから見てもダラハウなのだが、本人は、かたくなに同一人物説を否定する。女神との戦いの後、槍を捨てて大道芸人になった。



④ ダラハウが使っていた魔術術の人形の名前がウハラダ。もしかして人形の名前を偽名に。

ダラハウ▲

花と笑顔愛する男

屋敷の庭に入りこんだ罰として、オリヴァーに1年間ただ働きをさせられる。その際、屋敷の捜索にやってきたアイクと出会い、仲間に加わる。花が大好きで、屋敷に入りこんだのも、庭があまりにきれいだっただけ。人を笑わせるのが好きで魔術術も得意。

【暁】



女神

【戦】



◀ アスタルテ

人類に審判を下す裁定者

正の女神。かつては「暁の女神」アスタテュヌと呼ばれていた。大洪水を起こしたあと、二度と同じ過ちを繰り返さないために、負の感情(ユンヌ)を切り離す。ユンヌとの戦いに勝利した後、三雄と「千年の間、大きな争いを起こさない」という誓約を結び、眠りにつく。ユンヌの解放により眠りから目覚めたアスタルテは、戦いを続ける人間に失望し、世界を脅かす存在として滅ぼそうとする。



④復活したアスタルテは、その力を使い、大陸中の人間を石にしてしまう。そして、一部の人間を「正の使徒」として蘇らせ、ユンヌ討伐へと向かわせる。



⑤神と呼ばれるにふさわしい力を持つアスタルテだったが、最後はユンヌの加護を受けたアイクの一撃によって倒される。

ユンヌ▶

紋章に封じられた女神

負の女神。アスタルテとの戦いで、彼女の加護を受けた三雄に敗れ、メダリオンに封印される。その後は、蘇の民の呪歌によって長い眠りについていた。

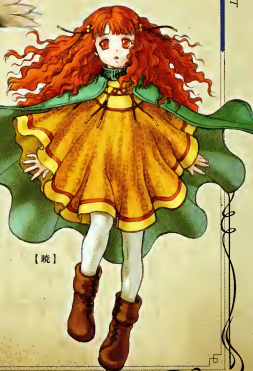
人間を愛しており、ミカヤたちに呼びかけ、「解放の呪歌」によって自らを解放させたのも、戦乱で生じた負の気によって目覚めるのを防ぎ、アスタルテの審判から人間たちを守るためだった。アスタルテが倒されると、彼女と一心同体であるユンヌも消失する。



……また「邪神」って言った！
もういい、あなたは嫌い！
あなたになんて、何も教えてあげない。



⑥⑥実体のないユンヌは、ミカヤの体を借りなければ他人と話せない。だが、最期のときだけは、本当の姿でアイクと言葉をかわすことができた。



【戦】

『蒼炎の軌跡』ムービー用設定イラスト

『蒼炎の軌跡』の魅力のひとつにあげられるのが、その迫力あるムービーシーン。

ここでは、ムービー制作のために描き起こされた、アイクたちの設定イラストを紹介しよう。

【アイク服装】

④アイクのコスチュームに関する設定イラスト。太股につけている短剣や小物入れなど、よく見ないとわからない部分まで、細かく設定されている。



【セネリオ】

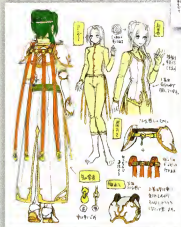
【ミスト】

【アイク上級戦】

④セネリオの設定イラスト。右下に描かれている、いじけたセネリオがとってもキュート。アイクに叱られてもしたのか……。



【エリンシア】



【獣牙族・サイズ対比図】





Gallery & Interview

ギャラリー & インタビュー

FIRE EMBLEM

TRADING CARD GAME

Illustrations Collection

『ファイアーエムブレムTCG』用に描き起こされたキャラクターイラストを公開。
ゲーム登場時とは異なるイメージで描かれているキャラクターもあって興味深い。

ファイアーエムブレム トレーディングカードゲーム

『ファイアーエムブレムTCG』は、NTT出版から発売されたトレーディングカードゲームで、2001年に第1弾が発売された。プレイヤーは、60枚のカードでデッキを構築。それを使って3×4のマップで戦い、勝利条件の達成を目指す。イラストレーターは山田章博氏や漫画家の藤原カムイ氏がイラストを手がけたカードも発表されて話題を呼んだが、2004年の追加パック第6弾『アカネシアの英雄』を最後に、シリーズは終了した。





オグマ①



オグマ②



オグマ③



ガーナ①



ガーナ②



カイン①



カイン②



カイン③



カシム①



カシム②



カチュア①



カチュア②



カチュア③



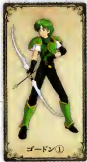
ガトー



カミ①



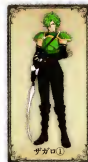
カミ②



ゴードン①



ゴードン②



ザガロ①



ザガロ②



タジ



サムソン



サム①



サム②



シーダ①



シーダ②



シーダ③



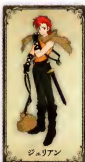
シーダ④



シーダ⑤



シーダ⑥





パオア①



パオア②



パオア③



バスト



ブラック①



ブラック②



フィーナ①



フィーナ②



ベック



ゴア



マジ



マツ①



マツ②



マリア①



マリア②



マリーシア①



マリーシア②



マリク①



マリク②



マリク③



マルス①



マルス②



マルス③



マルス④



ミシェイル①



ミシェイル②



ミシェラン①



ミシェラン②



ミディア



メルバ①



エノラバ②



メディウス



モービス



モドロ



ユベロ①



ユベロ②



ユミナ①



ユミナ②



ライアン①



ライアン②



ラダイ①



ラダイ②



ラング



リカード



リフ



リュッケ



リンダ①



リンダ②



リンダ③



ルーク①



ルーク②



レナ①



レナ②



ロシェ①



ロシェ②



ロジャー



ラダイ①



ラダイ②



ロレンス

聖戦の系譜



アーサー①



アーサー②



アーダ①



アーダ②



アイラ①



アイラ②



アサエロ①



アサエロ②



アズル①



アズル②



アミッド①



アミッド②



アリオン



アルヴィス



アルタナ①



アルタナ②



アルタナ③



アルク①



アルク②



アレス①



アレス②



アンドレイ



イシュタル



エーディン①



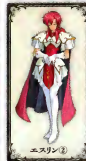
エーディン②



エーディン③



エスリン①



エスリン②



オイフェ



キューン



クロゾウ



クロード



コブール①



コブール②



ナンディマ



シグルド①



シグルド②



シャガル



シャナン



ジャムカ①



ジャムカ②



シルロー①



シルロー②



ジャンス①



ジャンス②



シルヴィア



スカサハ①



スカサハ②



スコピオ



セティ



セリス①



セリス②



ディアドラ



ダイロー①



ダイロー②



タイニー①



タイニー②



ディムナ①



ディムナ②



タイランム①



タイランム②



デュー①



デュー②



デルムッド①



デルムッド②



トライアント



トリスタン①



トリスタン②



ナンナ①



ナンナ②



ナンナ③



ノッシュ



パイロン



パティ①



パティ②



ハンニバル



ヒルダ



ファミル①



ファミル②



フィー①



フィー②



フィン①



フィン②



フェミナ①



フェミナ②



フエリー①



フエリー②



ブリギッド①



ブリギッド②



ブルーム



ベオウルフ①



ベオウルフ②



ホーク



ホラン①



ホラン②



マーニャ



マナ①



マナ②



マンフロイ



ミデュール①



ミデュール②



ユリア①



ユリア②



ユリウス①



ユリウス②



ロハルヴァ①



ロハルヴァ②



ロハルヴァ③



ヨハン①



ヨハン②



ラクシュ①



ラクシュ②



ラクシュ③



ラクシュ④



ラドネイ①



ラドネイ②



ラナ①



ラナ②



ラーブ①



リーフ②



ラーン①



ラーン②



リンダ①



リンダ②



レイリア



レヴィン①



レヴィン②



レスター



レックス①



レックス②



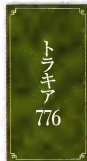
レプトール



ロドルバン①



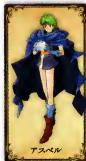
ロドルバン②



トラキア
776



アダグスト



アスベル



アマルダ



アルバ



イリオス



ユージュエル



エダ



オーシン



オルエン



カリオン



カリン





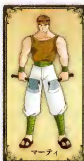
フネッド



ベルド



ホメロス



マーティ



マチュ



マリーダ



ミーシャ



ミランダ



ラフ



ラインハルト



ラルフ



リーフ



リノアン



リフィス



レイドワック



ロナン

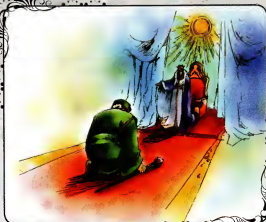


ロベルト

『アカネイア戦記』 イラストギャラリー

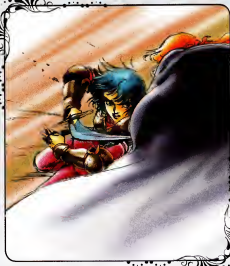
『BS ファイアーエムブレム アカネイア戦記』で、物語を盛り上げるのにひと役かったイベントシーン。
そのイベントシーンで使われた幻のイラストを、まとめて公開!

【 第一話 】 パレス 陥落



③ ドルーアの手がそこまで迫っていることを感じたパレス王は、司祭のボアに娘ニーナを連れて脱出するように命じる。

④ スリーブで蔽らせたニーナを抱きかかえ、脱出経路を探すボア。メディアらと合流できたが、攻め寄せた敵兵に囲まれてしまい……。



⑤ 突然のカミュの登場に、我を忘れて断りかかるメディア。だが、その一撃は、カミュに届かずにつけることはなかった。

私の命でよければ、
いつでも差し上げる。
それで気がすむならたやすい事だ。

⑥ 泣き崩れるニーナに、自分を助け、アイネイア復興に協力してほしいと頼むカミュ。ニーナは、祖国のためにその申し出を受ける。



【 第二話 】 赤い竜騎士



④ 狼藉を働いていたマケドニアの脱走兵を、一瞬のうちに倒した謎の男。その場面を目撃したミネルバは、男の剣技に目を見張る。

貴公、たいした腕だな
名は何と？

⑤ 男の正体に興味を持ったミネルバは、バオラに援軍を連れてくるよう命じ、自分は部下のエスト、カチュアとともに男の後を追う。



⑥ 謎の男とともに、岩に巣くっていた脱走兵の首領を打ち倒したミネルバ。そこに、バオラ率いる援軍が現れ……。



噂は本当だったな。
赤い竜騎士は知勇兼備の名将だった。
はっははははは！
次は戦場で会いたいものだな！

⑦ 自分をオレルアンの“草原の狼”と知りながら見送ったミネルバの懐の深さに、感じ入るハーディン。彼女との次の出合いが戦場であることを期待し、その場をあとにする。

【 第三話 】 正義の盗賊団



④ バレス城に盗みに入ろうとするリカード。シスターであるレナは、なんとかいさめようとするが、リカードは聞く耳を持たない。

⑤ ひょんなことから豪腕の傭兵ナバール、ハンターのカシムと知り合ったレナとリカード。なぜか4人で城に盗みに入ることになり……。



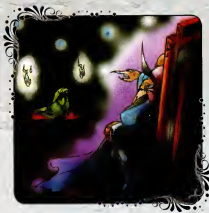
⑥ 駆けつけたカシムによって一行は囚われの身に。レナは、ドルーアに協力するカシムを刺す……。

では、お元気で!

⑦ ニーナの口添えもあり、無事に解放された一行。レナたちは、見送りに出たカシムに別れを告げ、次なる目的地を目指す。



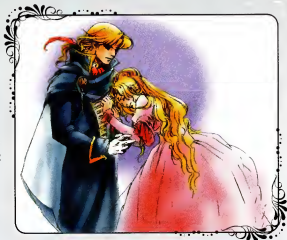
【 第四話 】 始まりのとき



● 預としてニーナを引き渡さないカミュに業を煮やしたメディウスは、部下のブルザークにニーナの奪取を命じる。

● 「自分のために全てを捨てる」というカミュの想いを聞き、泣き崩れるニーナ。彼女も、カミュのことを愛していたのだ。

あなたがいたから頑張れたの…！
あなたがいたから……生きてきたの…！



● カミュの活躍により、ドルーアの追っ手を逃れたニーナは、駆けつけたハーディンによって救出される。



● ニーナを逃がして力尽きたカミュ。役目を終えたカミュは、戦いで捕まった部下たちの命を助けるために、ドルーアに降伏する。

ニーナ、
臆病な私を許してくれ



『新・紋章の謎 ～光と影の英雄～』 キャラクターイラスト集



シリーズ最新作、ニンテンドーDS用『ファイアーエムブレム 新・紋章の謎 ～光と影の英雄～』のイラストを掲載。
成長したマルスや暗黒皇帝となったハーディン、さらに本作初登場のオリジナルキャラクターにも注目！



Marth

マルス



Sheeda

シーダ



Player

プレイヤーキャラ

「新・紋章の謎」では、プレイヤーの分身となるキャラクターの作成が可能。性別、髪型や髪の色、目もとなどを複数パターンから選べ、右のイメージイラストとまったく異なるキャラクターを作成することも可能だ。



Hardin

ハーディン



Sirius

シリウス



Rody

ロディ



Ruke

ルーク



New Characters

ここで紹介する3人は、『新・紋章の謎』で新たに追加されたキャラクターだ。
兵種や素性など、彼らの詳しいプロフィールは不明だが、きっとマルスたちの心強い味方になってくれることだろう。



Maris
マリス



Katarina
カタリナ



Roro
ローロー

Special Interview 辻横由佳

シリーズ全作品の音楽を手がけた辻横由佳氏のスペシャルインタビュー!!
制作時の秘エピソードなども含めて、お話をうかがった。

つじよこ ゆか ●作曲家。ゲーム音楽を中心に活動している。「ファイアーエムブレム」シリーズの音楽を担当。シリーズ全作品にかかわった、唯一のスタッフである。他の代表作に「ペーパーマリオRPG」「ヨッシャーのバネガン」等がある。

「FE」シリーズが20周年を迎えましたが

20年と聞くと、もうそんなに経ったのかと思います。ひとつ作り終えるごとに、実現できなかったこと（やりたかったこと）や反省点が山のように残り、次回作でそれを実現できたとしても次にまた新たなやりたいこと、反省点が出てくるの繰り返しで、気がつけば20年の月日が流れていた……という感じです。

でも、なによりもFシリーズを楽しんでくださるユーザー、ファンのみさまが温かく見守ってくださっていたから続いてきたのだと思います。

どのような経緯で、シリーズにかかわることになったのですか？

インテリジェントシステムズで1作目の開発を始めたときは、まだ音楽を専門とするスタッフがなくて、音楽好きなプログラマーが試行錯誤しながら作成していました。ところが1つのゲームに曲数や色々な曲調が必要となり、効果音の数も増えサウンドスタッフの必要性が増してきたときに、本当に偶然なのですが、「前にいた会社に音楽をやっている人（私のことです）がいるので声をかけてみよう」と開発スタッフのひとりが言った一言で、私はFEと出会いました。

オーダーは「とにかく作ってみて」といったと思います。私は初めて目にする耳にすることばかりで、開発スタッフもサウンドをすべて自社でというのが初めてだったので、「とにかくやってみようか」でした。

シリーズの音楽を手がけるうえで、心がけている点を教えてください。

歌えること、人に優しくあること、テーマは「愛」です。

「いちばん苦労した曲」「会心の出来だった曲」を教えてください。

おおざっぱですが、マップ曲の作成はいつも他の曲と比べて時間がかかります。GBAあたりから、複数の作曲者で開発していますが、お互いに刺激あってユニークな曲ができました。

さうと鼻歌で作ってあとあと苦労している曲は、タイトル曲です。短時間であり苦勞なく作った曲で慕われている曲は、「仲間入り」です。「聖戦」はとりつかれたように作り続けていました（苦勞なのか、会心のか……）。

この仕事をして作曲者の作りこみ度（？）とユーザーの方の人気度は相反していることが多い、と悟りました。

シリーズ全作にかかわられてきて、印象的だった思い出などはありますか？

開発スタッフの熱い戦い（熱意）ですか。モノ作りにはかせない戦いですが、みんながいいものを作りたい一心で意見をかわすのですが、時には衝突したりします。意見を聞いてもらえなくて納得できなかったときに、同意見の人が集まって「嘆願書」なるものを書いて、リーダーに持っていくこともありました。ファミコン版「暗黒竜と光の剣」の、出荷前夜の梱包された山積みダンボール箱の前で記念写真を撮ったことも、懐かしい、いい思い出です。

20年前と今を比べ、変化したと感じる点などはありますか？

開発機材の進化でしょうか。パソコンの進化とともにゲームも発展してきました。当時はパソコンが普及し始めたころで、記憶メディアもソフト記録（知っています？）のようなベラベラの媒体の8インチや5インチのフロッピーディスクでバックアップをとりました。懐かしいです。

音符を直接プログラムに数値の打ちこみで表現したり、音源（波形）を手打ちで作成したりと手作業的なことが、時代とともに便利なツールができ、コンピュータも処理能力がアップしていき、頭の中にある音が実現しやすくなってきました。環境は大きく変化しましたが、根本的なところは不変です。そこは変化していない部分ですね。「五線紙と鉛筆とピアノ鼻歌」、これはずっと変わっていません。

“プレイヤー”としての思い出は？

せっかちな性格が高じて、FEは苦手のゲームに属します（笑）。真っ先に浮かぶのは、「紋章の謎」序盤でナバルに襲殺され、戦意をなくしたことでですね（涙）。

どのシリーズもそれぞれに個性があって楽しめました（エンディングは他の人ののを見ましたが……）。

もっとも好きなキャラクターは誰？

ダロス、ミシェイル、トラバント、アリオーン、美形飛行系が好きです。なので、テーマ曲作成にはいつも力が入っています。ダロスは海賊ですが、開発スタッフにお誕生日カードをいただいたことがあります。ダロスが花束を持っている絵で、今でも大事に持っています！

最後にシリーズのファンにメッセージをお願いします

FEシリーズが長く続いているのは、楽しんでくださるユーザーが多くいてくださるからです。感謝ハガキに励まされたことも多々あります。

FEは開発スタッフだけでなく、ユーザーのみさんと一緒に作っているゲームだと思っています。そして、FEはFEらしく進化していければいいなと思っています。これからも、みなさんと一緒に作り続けられることを願っています。

●辻横さんが開発スタッフからもらったお誕生日カード。「花束とダロス」という、意外な組み合わせがGood!!



BOOK GUIDE

『ファイアーエムブレム』シリーズをより深く楽しむためにおすすめしたいのが、攻略本をはじめとする関連書籍。小学館よりこれまでに刊行された攻略本と小説を、まとめて紹介しておこう。

★印の書籍は絶版となっており、販売しておりません。

ファイアーエムブレム百科



★
機種
ファミリー
コンピュータ
発売日
1990/04/25
判型
B6判

ファイアーエムブレム外伝



★
機種
ファミリー
コンピュータ
発売日
1992/03/14
判型
B6判

ファイアーエムブレム 紋章の謎



★
機種
スーパーファミコン
発売日
1994/01/21
判型
B6判

ファイアーエムブレム 紋章の謎 プロアクション



★
機種
スーパーファミコン
発売日
1994/04/30
判型
B6判

ファイアーエムブレム 聖戦の系譜



★
機種
スーパーファミコン
発売日
1996/06/14
判型
B5判

ファイアーエムブレム トラキア776



★
機種
スーパーファミコン
発売日
1999/10/01
判型
A5判

ファイアーエムブレム 封印の剣



★
機種
ゲームボーイ
アドバンス
発売日
2002/04/30
判型
A5判

ファイアーエムブレム 烈火の剣



★
機種
ゲームボーイ
アドバンス
発売日
2003/06/18
判型
A5判

ファイアーエムブレム 聖魔の光石



★
機種
ゲームボーイ
アドバンス
発売日
2004/11/17
判型
A5判

ファイアーエムブレム 蒼炎の軌跡



★
機種
ニンテンドー
ゲームキューブ
発売日
2005/06/13
判型
A5判

ファイアーエムブレム 曉の女神



★
機種
Wii
発売日
2007/04/12
判型
A5判

ファイアーエムブレム 新・暗黒竜と光の剣



★
機種
ニンテンドーDS
発売日
2008/10/03
判型
A5判

小説版 Fire Emblem

ファイアーエムブレム
紋章の謎1~4

【スーパークエスト文庫】 著者:高屋敷英夫 イラスト:おちよしひこ 判型:A6判

「紋章の謎」第2部、「英雄戦争」を描いた小説。マルスたちはもちろんのこと、ゲーム中ではあまり脚光を浴びなかったキャラクターの雄姿も描かれている。小説オリジナルキャラクターも多数登場する。残念ながらすでに絶版。

著者の高屋敷英夫氏は、本作のほかにも、アニメやドラマの脚本・シリーズ構成を多数手がけている。代表作にアニメ「めぞん一刻」「逆境無頼カバジ」「蒼天航路」「RAINBOW-二舎六房の七人-」など。



ワンダーライフスペシャル

[任天堂公式ガイドブック]

20th Anniversary

ファイアー エムブレム 大全

- 監修 ————— 任天堂株式会社
株式会社インテリジェントシステムズ
- 企画・編集 ————— 土田章晴 (副編集)
開田大輔 ()
加藤康之 ()
清水耕司 ()
福田純子
高山邦雄 (小学館)
- カバー・本文デザイン ————— 戸部明美 (ad)
- SPECIAL THANKS TO ————— 北 千里
金田榮路
こがわみさき
おがきちか
山田孝太郎
辻横由佳
成広 通 (インテリジェントシステムズ)
山上仁志 (任天堂)

ファイアーエムブレム 権限者との戦い ©1990 Nintendo/INTELLIGENT SYSTEMS
 ファイアーエムブレム 外伝 ©1992 Nintendo/INTELLIGENT SYSTEMS
 ファイアーエムブレム 継承の証 ©1994 Nintendo/INTELLIGENT SYSTEMS
 ファイアーエムブレム 聖戦の系図 ©1995 Nintendo/INTELLIGENT SYSTEMS
 ファイアーエムブレム ドラゴンリール ©1999 Nintendo/INTELLIGENT SYSTEMS
 ファイアーエムブレム 神の紋章 ©2002 Nintendo/INTELLIGENT SYSTEMS
 ファイアーエムブレム 皇たる者 ©2003 Nintendo/INTELLIGENT SYSTEMS
 ファイアーエムブレム 聖なる者 ©2004 Nintendo/INTELLIGENT SYSTEMS
 ファイアーエムブレム 聖なる者 ©2005 Nintendo/INTELLIGENT SYSTEMS
 ファイアーエムブレム 神の紋章 ©2007 Nintendo/INTELLIGENT SYSTEMS
 ファイアーエムブレム 神・龍の戦い ©2008 Nintendo/INTELLIGENT SYSTEMS
 ファイアーエムブレム 神・龍の戦い 一光と五の戦い ©2010 Nintendo/INTELLIGENT SYSTEMS

Licensed by NINTENDO

2010年7月5日 初版第一刷発行

2010年7月31日 第二刷発行

- 発行人 ————— 坂谷雅彦
- 印刷所 ————— 三晃印刷株式会社
Printed in Japan
- 製本所 ————— 株式会社若林製本工場
- 発行所 ————— 〒101-8001
東京都千代田区一ツ橋2-3-1
電話 編集03-3230-5409
販売03-5281-3555
株式会社小学館

●ゲームの内容などに関する電話でのお問い合わせにはお答えできません。

●過本には十分注意しておりますが、万が一、落丁・風丁などの不具合がありましたら、制作センター（電話0120-336-3401）にご連絡ください。送料・送料負担にてお取り替えいたします（電話受付は土・日・祝日は除く9:30～17:30）。

●図（日本経済新聞センター委託出版物）本書を無断で複製・複製（コピー）することは、著作権法上の権利を侵害して行われています。本書をコピーされる場合は、事前に日本経済新聞センター（JREC）の許可を受けてください。

JREC 0120/336-3401 www.jrec.or.jp eメール: info@jrec.or.jp 電話: 03-3401-2382

©SHOGAKUKAN 2010 ISBN978-4-09-106467-7

[任天堂公式ガイドブック]



20th Anniversary ファイアーエムブレム大全

ファイアーエムブレム 世界地図と矢の印 ©1990 Nintendo/INTELLIGENT SYSTEMS
ファイアーエムブレム 内伝 ©1992 Nintendo/INTELLIGENT SYSTEMS
ファイアーエムブレム 伝説の英雄 ©1994 Nintendo/INTELLIGENT SYSTEMS
ファイアーエムブレム 英雄の伝説 ©1996 Nintendo/INTELLIGENT SYSTEMS
ファイアーエムブレム トウキョウ776 ©1999 Nintendo/INTELLIGENT SYSTEMS
ファイアーエムブレム 継承の剣 ©2002 Nintendo/INTELLIGENT SYSTEMS
ファイアーエムブレム 伝説の英雄 ©2003 Nintendo/INTELLIGENT SYSTEMS
ファイアーエムブレム 英雄の伝説 ©2004 Nintendo/INTELLIGENT SYSTEMS
ファイアーエムブレム 英雄の伝説 ©2005 Nintendo/INTELLIGENT SYSTEMS
ファイアーエムブレム 英雄の伝説 ©2007 Nintendo/INTELLIGENT SYSTEMS
ファイアーエムブレム 英雄の伝説 ©2008 Nintendo/INTELLIGENT SYSTEMS
ファイアーエムブレム 英雄の伝説 ©2010 Nintendo/INTELLIGENT SYSTEMS

小学館

Licensed by NINTENDO

[任天堂公式ガイドブック]



ファイアーエムブレム大全

ファイアーエムブレム 初代版と追加版 ©1990 Nintendo/INTELLIGENT SYSTEMS
ファイアーエムブレム 外伝 ©1992 Nintendo/INTELLIGENT SYSTEMS
ファイアーエムブレム 紋章の謎 ©1994 Nintendo/INTELLIGENT SYSTEMS
ファイアーエムブレム 竜の巻 ©1996 Nintendo/INTELLIGENT SYSTEMS
ファイアーエムブレム ドラゴンリール ©1999 Nintendo/INTELLIGENT SYSTEMS
ファイアーエムブレム 神羅の巻 ©2002 Nintendo/INTELLIGENT SYSTEMS
ファイアーエムブレム 力への巻 ©2003 Nintendo/INTELLIGENT SYSTEMS
ファイアーエムブレム 聖魔の巻 ©2004 Nintendo/INTELLIGENT SYSTEMS
ファイアーエムブレム 蒼空の巻 ©2005 Nintendo/INTELLIGENT SYSTEMS
ファイアーエムブレム 暁の巻 ©2007 Nintendo/INTELLIGENT SYSTEMS
ファイアーエムブレム 闇・龍皇編と光の巻 ©2008 Nintendo/INTELLIGENT SYSTEMS
ファイアーエムブレム 絆・龍皇編 一と二の巻 ©2010 Nintendo/INTELLIGENT SYSTEMS

小学館

Licensed by NINTENDO

ISBN978-4-09-106467-7

C9476 ¥2667E

定価：本体2,667円＋税

雑誌 69905-67

小学館



9784091064677



1929476026675